

1998年度

# 英語学科シラバス

獨協大学

# 英語学科シラバスについて

英語学科長

島田 啓一

獨協大学の全学部学科にわたって新カリキュラムが施行されて5年目をむかえた。授業内容も大きく様変わりしてきたが、英語学科においては特にその感が強い。そもそも学問は時代と共に変わらなければならない部分と古代ギリシャから滔々と変わらずにその基礎を保ち続けている部分とがある。このような学問の世界は今尚時代と共に幾多の矛盾をはらみつつ、弁証法的止揚によって発展していることは言うまでもないことであろう。現代の国際社会の民族的複雑さを知るとき、果たして大学の学問がその時代のニーズに対応しきれるものだろうかとふと心配になることがある。しかしわれわれ大学で教鞭を取っている者は高感度のアンテナを張り巡らせながら国際社会のニーズを見極めていかなければならない。したがってカリキュラムもこれからさらに幾多の新陳代謝を繰り返すことになるだろうが、今われわれの出来ることに積極的に取り組む姿勢がさらに新たな世紀に向かって始動する上で最も必要なことではないかと思う。

このシラバスは授業科目の骨組みに肉付けをするものである。「基礎科目」、「共通科目」、「専門科目」という3科目群と「文学文化」、「言語情報」、「国際コミュニケーション」という3専門分野を横軸にすえ、その専門分野をコース制にして縦軸とし、相互に系統的に関連を持たせて組み合わせることによって、より幅広い履修ができると共に、専門性をも一層高めつつ、文字通り縦横に選択をしながら、目標とする学問を極める道を発見することができるように工夫されている。したがって学生は自ら希望する専門を中心に自主的にカリキュラムを編成していくことになる。この自主的なカリキュラムの編成に当たってこのシラバスが大切な役割を果たしてくれることは言うまでもないことであろう。

さてこのシラバスの作成にはその他に三つの目的がある。その一つは教員が自らの授業に関して週単位の授業内容を公表することによって授業の進み具合をチェックし、その質的向上を計り、自己評価に資することができること、二つ目は学生がこのシラバスによって自分の興味を確認し、講義の内容を事前に適確に把握し、予習をして授業に主体的に参加することができること、そして三つ目は獨協大学がどんな授業をしているのか、どんな責任ある教育を行っているのかということを知ってもらい、それによって一層獨協大学を理解してもらえる機会にして戴けるのではないかという期待である。学生諸君がわれわれ教員の授業に対してもっと深い理解と関心を持ってあくまでも主体的に参加し、貪欲に学んでくれるように、この有意義な冊子を効果的に利用してくれることを強く期待したいと思う。

---

---

## 目次の見方

- ① この冊子では、目次が1994年度以降入学者用と、1993年度入学者用および、1992年度以前入学者用とに分かれています。
  - ② 目次では、部門ごとに科目名、指導教員名、掲載ページが記載されています。
  - ③ 科目名の表記について  
入学年度によって、科目名の異なる科目があります。  
該当する入学年度は、科目名末尾のカッコ内に表示されています。表示がない場合は、入学年度による科目名の区別はありません。  
正しい科目名で履修するよう、注意してください。自分の入学年度を対象としていない科目名での履修登録はできません。
-

# 目 次

## 1994年度以降入学者対象

### 「英語」部門

英語Ⅰ	(講読)	-----	各担当教員	-----	1
英語Ⅰ	(Reading)	-----	各担当教員	-----	2
英語Ⅱ	(講読)	-----	各担当教員	-----	3
英語Ⅲ					
(BC)		-----	各担当教員	-----	4
(IC)		-----	各担当教員	-----	5
(AC)		-----	各担当教員	-----	6
英語Ⅳ					
(文法・作文)		-----	各担当教員	-----	7
(パラグラフ・ライティング)		-----	各担当教員	-----	8
英語学概論					
1		-----	神尾昭雄	-----	9
2		-----	児玉仁士	-----	11
3		-----	清水由理子	-----	13
4		-----	長谷川欣佑	-----	14
英米文学概論					
1		-----	(前期) 島田啓一	-----	16
			(後期) 林節雄		
2		-----	(前期) 林節雄	-----	18
			(後期) 島田啓一		
3		-----	(前期) 原成吉	-----	20
			(後期) 富士川和男		
4		-----	(前期) 富士川和男	-----	22
			(後期) 原成吉		
国際コミュニケーション概論					
1		-----	(前期) 佐々木輝美	-----	24
			(後期) 永野隆行		
2		-----	(前期) 永野隆行	-----	26
			(後期) 町田喜義		
英語音声学					
1,4		-----	(半期完結) 大竹孝司	-----	28
2,3,5		-----	(半期完結) 大西雅行	-----	29
スピーチ・クリニック					
1,2,4,5		-----	(半期完結) 津田望	-----	30
3		-----	(半期完結) 大西雅行	-----	31



## 学科共通科目

### 「英語」部門

#### 専門講読

(英語学)

1	-----	阿部 一	-----	32
2	-----	大竹 孝司	-----	34
3	-----	大西 雅行	-----	36
4	-----	川崎 潔	-----	37
5	-----	清水 由理子	-----	39
6	-----	須賀川 誠三	-----	40
7	-----	府川 謹也	-----	42
8	-----	安井 美代子	-----	43
9	-----	T. Hill	-----	45

(イギリス文学)

10	-----	北澤 滋久	-----	47
11	-----	児嶋 一男	-----	48
12	-----	近藤 ヒカル	-----	49
13	-----	珍田 弥一郎	-----	51
14	-----	長谷部 加寿子	-----	52
15	-----	林 節雄	-----	53
16	-----	藤田 永祐	-----	55
17	-----	三好 健	-----	56
18	-----	山田 修	-----	57
19	-----	山田 玲子	-----	58

(英・米文学)

(アメリカ文学)

20	-----	E. Carney	-----	60
21	-----	秋山 武夫	-----	61
22	-----	岡田 誠一	-----	63
23	-----	香取 豊	-----	65
24	-----	島田 啓一	-----	66
25	-----	原 成吉	-----	67
26	-----	升水 一三	-----	68
27	-----	村松 美映子	-----	70
28	-----	吉元 清彦	-----	72

(英米文化)

29	-----	M. A. Schible	-----	73
30	-----	阿部 純一	-----	74
31	-----	加賀爪 優	-----	76
32	-----	佐藤 唯行	-----	77
33	-----	佐藤 真千子	-----	78
34	-----	杉山 晴信	-----	80
35	-----	中村 粲	-----	82
36	-----	鍋倉 健悦	-----	83
37	-----	福井 嘉彦	-----	84
38	-----	町田 喜義	-----	86

専門講読

(英米文化) 39	-----	宮川 淑	-----	8 8
40	-----	W. J. Benfield	-----	8 9

英作文

1,2	-----	青柳 明	-----	9 1
3,4	-----	伊藤 隆男	-----	9 2
5	-----	四宮 満	-----	9 3
6	-----	島田 啓一	-----	9 4
7,8	-----	中村 繁	-----	9 6
9	-----	藤田 永祐	-----	9 7
10	-----	三好 健	-----	9 9
11	-----	渡邊 美代子	-----	1 0 1

エッセイ・ライティング

1	-----	佐藤 勉	-----	1 0 3
2	-----	飛田 ルミ	-----	1 0 4
3	-----	K. R. Bayne	-----	1 0 6
4,5	-----	E. Carney	-----	1 0 7
6	-----	R. M. Homan	-----	1 0 9
7	-----	D. R. Kogge	-----	1 1 1
8	-----	C. J. Poel	-----	1 1 2

翻訳 I

1	-----	北澤 滋久	-----	1 1 4
2	-----	林 節雄	-----	1 1 5

翻訳 II

	-----	藤田 永祐	-----	1 1 7
--	-------	-------	-------	-------

Conversation I

1	-----	P. Apps	-----	1 1 9
2	-----	K. R. Bayne	-----	1 2 1
3	-----	P. Beland	-----	1 2 3
4	-----	W. J. Benfield	-----	1 2 4
5	-----	D. Bradley	-----	1 2 5
6	-----	R. J. Burrows	-----	1 2 7
7	-----	E. Carney	-----	1 2 9
8	-----	R. Durham	-----	1 3 1
9	-----	A. R. Falvo	-----	1 3 3
10	-----	F. Fearn	-----	1 3 5
11	-----	T. J. Fotos	-----	1 3 7
12	-----	T. Hill	-----	1 3 9
13,14	-----	R. M. Homan	-----	1 4 1
15	-----	C. B. 池口	-----	1 4 3
16	-----	R. Jones	-----	1 4 5
17	-----	N. H. Jost	-----	1 4 7
18	-----	D. R. Kogge	-----	1 4 9
19,20	-----	R. M. Payne	-----	1 5 0
21	-----	M. A. Schible	-----	1 5 2

Conversation I			
22	-----	G. Sweeney	----- 1 5 4
23,24	-----	L. Villeneuve	----- 1 5 5
25	-----	J. J. Waldman	----- 1 5 7
Conversation II			
1	-----	K. R. Bayne	----- 1 5 9
2	-----	W. J. Benfield	----- 1 6 1
3	-----	D. Bradley	----- 1 6 3
4	-----	J. J. Duggan	----- 1 6 5
5	-----	A. R. Falvo	----- 1 6 7
6	-----	F. Fearn	----- 1 6 8
7	-----	T. Hill	----- 1 7 0
8	-----	C. B. 池口	----- 1 7 2
9	-----	N. H. Jost	----- 1 7 4
10	-----	D. R. Kogge	----- 1 7 6
11	-----	P. McEvilly	----- 1 7 8
12	-----	C. J. Poel	----- 1 7 9
Discussion			
1	-----	W. J. Benfield	----- 1 8 1
2	-----	T. Hill	----- 1 8 3
3	-----	N. H. Jost	----- 1 8 5
スピーチ			
1	-----	J. J. Duggan	----- 1 8 7
2	-----	A. R. Falvo	----- 1 8 9
ディベート			
	-----	T. Hill	----- 1 9 1
通訳 I			
	-----	阿 部 一	----- 1 9 3
通訳 II			
	-----	鍋 倉 健 悦	----- 1 9 5
英文法			
1	-----	児 玉 仁 士	----- 1 9 7
2	-----	近 藤 ヒカル	----- 1 9 9
3	-----	須賀川 誠 三	----- 2 0 1
4	-----	府 川 謹 也	----- 2 0 3
5	-----	三 好 健	----- 2 0 4
ビジネス英語 I			
1	-----	海老沢 達 郎	----- 2 0 6
2	-----	海老沢 達 郎	----- 2 0 8
3	-----	杉 山 晴 信	----- 2 1 0
4	-----	杉 山 晴 信	----- 2 1 2
5,6	-----	信 達 郎	----- 2 1 4
7	-----	山 本 孝 夫	----- 2 1 6
ビジネス英語 II			
	-----	杉 山 晴 信	----- 2 1 8
時事英語 I			
1,2	-----	新 井 妥 門	----- 2 2 0
3	-----	金 子 節 也	----- 2 2 1

時事英語 I

4,5	-----	工藤政司	-----	223
6	-----	佐藤真千子	-----	225
7	-----	信達郎	-----	227
8	-----	野村展子	-----	229
9	-----	森永京一	-----	231
10	-----	W. J. Benfield	-----	232

時事英語 II

1	-----	新井妥門	-----	234
2	-----	佐藤真千子	-----	236

「第2外国語」部門

ドイツ語Ⅲ	-----	山本 淳	-----	238
フランス語Ⅲ	-----	井上スズ	-----	239
スペイン語Ⅲ				
1	-----	假名垣 宏	-----	240
2	-----	野々山 ミチコ	-----	242
ドイツ語会話 I				
1	-----	U. J. 川村	-----	244
2	-----	J. Kluempers	(最初の授業で説明)	
フランス語会話 I				
1	-----	R. Floirac	-----	245
2	-----	L. Lattanzio	-----	246
スペイン語会話 I				
(総合) 1	-----	野々山 ミチコ	-----	248
(総合) 2	-----	J. L. Velasco	-----	250
(LL) 3	-----	佐藤 勘治	-----	252
スペイン語会話 II	-----	霞 洋子	-----	253

学科専門科目

「言語情報」部門

言語情報処理 I a-1・I b-1, I a-2・I b-2	-----	高柳 敏子	-----	254
言語情報処理 II a・b	-----	前田 功雄	-----	256
統語論 a・b	-----	安井 美代子	-----	258
意味論 a・b	-----	神尾 昭雄	-----	260
音声・音韻論 a・b	-----	大竹 孝司	-----	262
英語史 a・b	-----	近藤 ヒカル	-----	264
英語学特殊講義 a・b	-----	川崎 潔	-----	266
英語学文献研究 a・b	-----	四宮 満	-----	268

## 「文学文化」部門

英米文学史 a (英) —1	佐藤 勉	269
"    b (英) —1	富士川 和男	269
"    a (米) —2・b (米) —2	秋山 武夫	271
英米の小説 a—1・b—1	北澤 滋久	273
"    a—2・b—2	吉元 清彦	275
英米の詩 a	白鳥 正孝	277
"    b	原 成吉	277
英米の演劇 a	長谷部 加寿子	279
"    b	児嶋 一男	279
英米文学文献研究 a・b	富士川 和男	281
英米の社会と思想 a・b	荻間 寅男	282
英米の政治と経済 a・b	宮川 淑	284
英米の歴史 a・b	佐藤 唯行	286
英米事情 a—1	E. Carney	288
"    b—1	M. A. Schible	288
"    a—2	M. A. Schible	290
"    b—2	E. Carney	290
英語圏文化特殊講義 a・b	福井 嘉彦	292
英米文化文献研究 a・b	町田 喜義	294

## 「国際コミュニケーション」部門

国際政治論 a—1	有賀 貞	295
"    b—1	竹田 いさみ	297
"    a—2	竹田 いさみ	297
"    b—2	有賀 貞	295
国際関係史 a・b	有賀 貞	299
国際開発協力論 a・b	加賀爪 優	301
国際関係論特殊講義 a・b	加賀爪 優	303
国際関係論文献研究 a・b	阿部 純一	305
異文化間コミュニケーション論 a—1・b—1	石井 敏	307
"                    a—2・b—2	町田 喜義	309
マス・コミュニケーション論 a・b	佐々木 輝美	311
スピーチ・コミュニケーション論 a・b	石井 敏	313
コミュニケーション論特殊講義 a・b	鍋倉 健悦	315
コミュニケーション論文献研究 a・b	佐々木 輝美	317

# 目 次

## 1993年度入学者対象

科目の端番号について：1993年度カリキュラムにあっては、科目名の末尾にあるアラビア数字はシラバス上での整理番号です。時間割表にはありません。

### 「英語」部門

#### 専門講読

(英語学)

1	阿 部 一	3 2
2	大 竹 孝 司	3 4
3	大 西 雅 行	3 6
4	川 崎 潔	3 7
5	清 水 由理子	3 9
6	須賀川 誠 三	4 0
7	府 川 謹 也	4 2
8	安 井 美代子	4 3
9	T. Hill	4 5

(イギリス文学)

10	北 澤 滋 久	4 7
11	児 嶋 一 男	4 8
12	近 藤 ヒカル	4 9
13	珍 田 弥一郎	5 1
14	長谷部 加寿子	5 2
15	林 節 雄	5 3
16	藤 田 永 祐	5 5
17	三 好 健	5 6
18	山 田 修	5 7
19	山 田 玲 子	5 8

(英・米文学)

(アメリカ文学)

20	E. Carney	6 0
21	秋 山 武 夫	6 1
22	岡 田 誠 一	6 3
23	香 取 豊	6 5
24	島 田 啓 一	6 6
25	原 成 吉	6 7
26	升 水 一 三	6 8
27	村 松 美映子	7 0
28	吉 元 清 彦	7 2
29	M. A. Schible	7 3

(英米文化)

30	阿 部 純 一	7 4
31	加賀爪 優	7 6

専門講読

(英米文化)	32	.....	佐藤唯行	.....	77
	33	.....	佐藤真千子	.....	78
	34	.....	杉山晴信	.....	80
	35	.....	中村  粲	.....	82
	36	.....	鍋倉健悦	.....	83
	37	.....	福井嘉彦	.....	84
	38	.....	町田喜義	.....	86
	39	.....	宮川  淑	.....	88
	40	.....	W. J. Benfield	.....	89

英作文

1,2	.....	青柳  明	.....	91
3,4	.....	伊藤隆男	.....	92
5	.....	四宮  満	.....	93
6	.....	島田啓一	.....	94
7,8	.....	中村  粲	.....	96
9	.....	藤田永祐	.....	97
10	.....	三好  健	.....	99
11	.....	渡邊美代子	.....	101

エッセイ・ライティング

1	.....	佐藤  勉	.....	103
2	.....	飛田ルミ	.....	104
3	.....	K. R. Bayne	.....	106
4,5	.....	E. Carney	.....	107
6	.....	R. M. Homan	.....	109
7	.....	D. R. Kogge	.....	111
8	.....	C. J. Poel	.....	112

翻訳 I

1	.....	北澤滋久	.....	114
2	.....	林  節雄	.....	115

翻訳 II

.....	.....	藤田永祐	.....	117
-------	-------	------	-------	-----

Conversation I

1	.....	P. Apps	.....	119
2	.....	K. R. Bayne	.....	121
3	.....	P. Beland	.....	123
4	.....	W. J. Benfield	.....	124
5	.....	D. Bradley	.....	125
6	.....	R. J. Burrows	.....	127
7	.....	E. Carney	.....	129
8	.....	R. Durham	.....	131
9	.....	A. R. Falvo	.....	133
10	.....	F. Fearn	.....	135
11	.....	T. J. Fotos	.....	137
12	.....	T. Hill	.....	139

---



---

Conversation I

13,14	R. M. Homan	1 4 1
15	C. B. 池口	1 4 3
16	R. Jones	1 4 5
17	N. H. Jost	1 4 7
18	D. R. Kogge	1 4 9
19,20	R. M. Payne	1 5 0
21	M. A. Schible	1 5 2
22	G. Sweeney	1 5 4
23,24	L. Villeneuve	1 5 5
25	J. J. Waldman	1 5 7

Conversation II

1	K. R. Bayne	1 5 9
2	W. J. Benfield	1 6 1
3	D. Bradley	1 6 3
4	J. J. Duggan	1 6 5
5	A. R. Falvo	1 6 7
6	F. Fearn	1 6 8
7	T. Hill	1 7 0
8	C. B. 池口	1 7 2
9	N. H. Jost	1 7 4
10	D. R. Kogge	1 7 6
11	P. McEvilly	1 7 8
12	C. J. Poel	1 7 9

Discussion

1	W. J. Benfield	1 8 1
2	T. Hill	1 8 3
3	N. H. Jost	1 8 5

スピーチ

1	J. J. Duggan	1 8 7
2	A. R. Falvo	1 8 9

ディベート

	T. Hill	1 9 1
--	---------	-------

通訳 I

	阿 部 一	1 9 3
--	-------	-------

通訳 II

	鍋 倉 健 悦	1 9 5
--	---------	-------

英文法

1	児 玉 仁 士	1 9 7
2	近 藤 ヒカル	1 9 9
3	須賀川 誠 三	2 0 1
4	府 川 謹 也	2 0 3
5	三 好 健	2 0 4

ビジネス英語 I

1	海老沢 達 郎	2 0 6
2	海老沢 達 郎	2 0 8
3	杉 山 晴 信	2 1 0

---



ビジネス英語 I

4	杉山晴信	212
5,6	信達郎	214
7	山本孝夫	216

時事英語 I

1,2	新井妥門	220
3	金子節也	221
4,5	工藤政司	223
6	佐藤真千子	225
7	信達郎	227
8	野村展子	229
9	森永京一	231
10	W. J. Benfield	232

ビジネス英語 II

時事英語 II

1	新井妥門	234
2	佐藤真千子	236

「英語学」部門

英語学概論

1	神尾昭雄	9
2	児玉仁士	11
3	清水由理子	13
4	長谷川欣佑	14
言語情報処理	高柳敏子	254
〃	前田功雄	256
統語論	安井美代子	258
意味論	神尾昭雄	260
音声・音韻論	大竹孝司	262
英語史	近藤ヒカル	264
英語学特殊講義	川崎 潔	266

「英米文学」部門

英米文学概論

1	(前期) 島田啓一	16
	(後期) 林節雄	
2	(前期) 林節雄	18
	(後期) 島田啓一	
3	(前期) 原成吉	20
	(後期) 富士川和男	
4	(前期) 富士川和男	22
	(後期) 原成吉	

英米文学史	秋山武夫	271
"	(前期) 佐藤勉	269
	(後期) 富士川和男	
英米の小説	北澤滋久	273
"	吉元清彦	275
英米の詩	(前期) 白鳥正孝	277
	(後期) 原成吉	
英米の戯曲	(前期) 長谷部加寿子	279
	(後期) 児嶋一男	

### 「英米文化」部門

英米の社会と思想	荻間寅男	282
英米の歴史	佐藤唯行	286
英米の政治と経済	宮川淑	284
英米事情	(前期) E. Carney	288
	(後期) M. A. Schible	
"	(前期) M. A. Schible	290
	(後期) E. Carney	
英語圏文化特殊講義	福井嘉彦	292
国際政治論	(前期) 有賀貞	295
	(後期) 竹田いさみ	297
"	(前期) 竹田いさみ	297
	(後期) 有賀貞	295
国際関係史	有賀貞	299
国際開発協力論	加賀爪優	301
国際関係論特殊講義	加賀爪優	303
国際コミュニケーション概論 1	(前期) 佐々木輝美	24
	(後期) 永野隆行	
国際コミュニケーション概論 2	(前期) 永野隆行	26
	(後期) 町田喜義	
異文化間コミュニケーション論	石井敏	307
"	町田喜義	309
マスコミュニケーション論	佐々木輝美	311
スピーチ・コミュニケーション論	石井敏	313
コミュニケーション論特殊講義	鍋倉健悦	315

### 「第二外国語」部門

ドイツ語Ⅲ	山本淳	238
フランス語Ⅲ	井上スズ	239
スペイン語Ⅲ		
1	假名垣宏	240
2	野々山ミチコ	242

---

ドイツ語会話 I		
1	U. J. 川村	2 4 4
2	J. Kluempers	(最初の授業で説明)
フランス語会話 I		
1	R. Floirac	2 4 5
2	L. Lattanzio	2 4 6
スペイン語会話 I	野々山 ミチコ	2 4 8
"	J. L. Velasco	2 5 0
スペイン語会話 II (会話)	霞 洋子	2 5 3
" (LL)	佐藤 勘治	2 5 2

---

# 目 次

## 1992年度以前入学者対象

科目の端番号について：1992年度以前のカリキュラムにあつては、科目名の末尾にあるアラビア数字はシラバス上での整理番号です。時間割表にはありません。

### 「英語」部門

英語講読

(英語学)

(イギリス文学)

(英・米文学)

(アメリカ文学)

(英米文化)

.....	阿 部 一	.....	3 2
.....	大 竹 孝 司	.....	3 4
.....	大 西 雅 行	.....	3 6
.....	川 崎 潔	.....	3 7
.....	清 水 由理子	.....	3 9
.....	須賀川 誠 三	.....	4 0
.....	府 川 謹 也	.....	4 2
.....	安 井 美代子	.....	4 3
.....	T. Hill	.....	4 5
.....	北 澤 滋 久	.....	4 7
.....	児 嶋 一 男	.....	4 8
.....	近 藤 ヒカル	.....	4 9
.....	珍 田 弥一郎	.....	5 1
.....	長谷部 加寿子	.....	5 2
.....	林 節 雄	.....	5 3
.....	藤 田 永 祐	.....	5 5
.....	三 好 健	.....	5 6
.....	山 田 修	.....	5 7
.....	山 田 玲 子	.....	5 8
.....	E. Carney	.....	6 0
.....	秋 山 武 夫	.....	6 1
.....	岡 田 誠 一	.....	6 3
.....	香 取 豊	.....	6 5
.....	島 田 啓 一	.....	6 6
.....	原 成 吉	.....	6 7
.....	升 水 一 三	.....	6 8
.....	村 松 美映子	.....	7 0
.....	吉 元 清 彦	.....	7 2
.....	M. A. Schible	.....	7 3
.....	阿 部 純 一	.....	7 4
.....	加賀爪 優	.....	7 6

英語講読

(英米文化)

.....	佐藤唯行	77
.....	佐藤真千子	78
.....	杉山晴信	80
.....	中村  繁	82
.....	鍋倉健悦	83
.....	福井嘉彦	84
.....	町田喜義	86
.....	宮川  淑	88
.....	W. J. Benfield	89

英作文

1,2 .....	青柳  明	91
3,4 .....	伊藤隆男	92
5 .....	四宮  満	93
6 .....	島田啓一	94
7,8 .....	中村  繁	96
9 .....	藤田永祐	97
10 .....	三好  健	99
11 .....	渡邊美代子	101
(エッセイ・ライティング) .....	佐藤  勉	103
(エッセイ・ライティング) .....	飛田ルミ	104
(エッセイ・ライティング) .....	K. R. Bayne	106
(エッセイ・ライティング) .....	E. Carney	107
(エッセイ・ライティング) .....	R. M. Homan	109
(エッセイ・ライティング) .....	D. R. Kogge	111
(エッセイ・ライティング) .....	C. J. Poel	112
(翻訳Ⅰ) .....	北澤滋久	114
(翻訳Ⅰ) .....	林  節雄	115
(翻訳Ⅱ) .....	藤田永祐	117

英会話

(Intermediate)

.....	P. Apps	119
.....	K. R. Bayne	121
.....	P. Beland	123
.....	W. J. Benfield	124
.....	D. Bradley	125
.....	R. J. Burrows	127
.....	E. Carney	129
.....	R. Durham	131
.....	A. R. Falvo	133
.....	F. Fearn	135
.....	T. J. Fotos	137
.....	T. Hill	139
.....	R. M. Homan	141
.....	C. B. 池口	143

英会話

(Intermediate)	.....	R. Jones	.....	1 4 5
	.....	N. H. Jost	.....	1 4 7
	.....	D. R. Kogge	.....	1 4 9
	.....	R. M. Payne	.....	1 5 0
	.....	M. A. Schible	.....	1 5 2
	.....	G. Sweeney	.....	1 5 4
	.....	L. Villeneuve	.....	1 5 5
	.....	J. J. Waldman	.....	1 5 7
(Advanced)	.....	K. R. Bayne	.....	1 5 9
	.....	W. J. Benfield	.....	1 6 1
	.....	D. Bradley	.....	1 6 3
	.....	J. J. Duggan	.....	1 6 5
	.....	A. R. Falvo	.....	1 6 7
	.....	F. Fearn	.....	1 6 8
	.....	T. Hill	.....	1 7 0
	.....	C. B. 池口	.....	1 7 2
	.....	N. H. Jost	.....	1 7 4
	.....	D. R. Kogge	.....	1 7 6
	.....	P. McEvelly	.....	1 7 8
	.....	C. J. Poel	.....	1 7 9
(Highly Advanced : Discussion)	.....	W. J. Benfield	.....	1 8 1
	.....	T. Hill	.....	1 8 3
	.....	N. H. Jost	.....	1 8 5
(Highly Advanced : スピーチ)	.....	J. J. Duggan	.....	1 8 7
	.....	A. R. Falvo	.....	1 8 9
(Highly Advanced : ディベート)	.....	T. Hill	.....	1 9 1
(Highly Advanced : 通訳)	.....	阿 部	一	1 9 3
	.....	鍋 倉 健 悦		1 9 5

英文法

1	.....	児 玉 仁 士	.....	1 9 7
2	.....	近 藤 ヒカル	.....	1 9 9
3	.....	須賀川 誠 三	.....	2 0 1
4	.....	府 川 謹 也	.....	2 0 3
5	.....	三 好 健	.....	2 0 4

時事英語 I

1,2	.....	新 井 妥 門	.....	2 2 0
3	.....	金 子 節 也	.....	2 2 1
4,5	.....	工 藤 政 司	.....	2 2 3
6	.....	佐 藤 真千子	.....	2 2 5
7	.....	信 達 郎	.....	2 2 7
8	.....	野 村 展 子	.....	2 2 9
9	.....	森 永 京 一	.....	2 3 1
10	.....	W. J. Benfield	.....	2 3 2

商業英語Ⅰ	海老沢 達 郎	206
	海老沢 達 郎	208
	杉 山 晴 信	210
	杉 山 晴 信	212
	信 達 郎	214
	山 本 孝 夫	216
時事英語Ⅱ		
1	新 井 妥 門	234
2	佐 藤 真 千 子	236
商業英語Ⅱ	杉 山 晴 信	218

### 「英語学」部門

#### 英語学概論

1	神 尾 昭 雄	9
2	児 玉 仁 士	11
3	清 水 由 理 子	13
4	長 谷 川 欣 佑	14
英語史概説	近 藤 ヒ カ ル	264
英語文法論	安 井 美 代 子	258
英語学特殊講義		
(意味論)	神 尾 昭 雄	260
(音声・音韻論)	大 竹 孝 司	262
(統語論)	川 崎 潔	266

### 「英米文学」部門

イギリス文学概論	(前期) 佐 藤 勉	269
	(後期) 富 士 川 和 男	
アメリカ文学概論	秋 山 武 夫	271
イギリス文学各論		
(小説)	北 澤 滋 久	273
(小説)	吉 元 清 彦	275
(戯曲)	(前期) 長 谷 部 加 寿 子	279
	(後期) 児 嶋 一 男	
英米文学特殊講義 (英米の詩)	(前期) 白 鳥 正 孝	277
	(後期) 原 成 吉	

### 「英米文化」部門

英米の哲学	萩 間 寅 男	282
英米の歴史	佐 藤 唯 行	286
英米事情	(前期) E. Carney	288
	(後期) M. A. Schible	

英米事情	(前期) M. A. Schible	290
	(後期) E. Carney	
英米の経済	宮川 淑	284
英米文化特殊講義	福井 嘉彦	292
コミュニケーション論特殊講義		
(異文化間コミュニケーション論)	石井 敏	307
(スピーチ・コミュニケーション論)	石井 敏	313
(マス・コミュニケーション論)	佐々木 輝美	311
(異文化間コミュニケーション)	鍋倉 健悦	315
(異文化間コミュニケーション論)	町田 喜義	309
国際関係論特殊講義		
(国際関係史)	有賀 貞	299
(国際政治論)	(前期) 有賀 貞	295
	(後期) 竹田 いさみ	297
(国際政治論)	(前期) 竹田 いさみ	297
	(後期) 有賀 貞	295
(国際開発協力論)	加賀爪 優	301
(国際貿易論)	加賀爪 優	303

### 「第二外国語」部門

ドイツ語Ⅲ	山本 淳	238
ドイツ語会話Ⅰ		
1	U. J. 川村	244
2	J. Kluempers	(最初の授業で説明)
フランス語Ⅲ	井上 スズ	239
フランス語会話Ⅰ		
1	R. Floirac	245
2	L. Lattanzio	246
スペイン語Ⅲ		
1	假名垣 宏	240
2	野々山 ミチコ	242
スペイン語会話Ⅰ	野々山 ミチコ	248
"	J. L. Velasco	250
スペイン語会話Ⅱ		
(会話)	霞 洋子	253
(LL)	佐藤 勘治	252



科目名	英語 I (講読) (94年度以降)	担当者名	各担当教員
-----	--------------------	------	-------

講義の目標	<p>講読の方法にはいろいろあるが、大きく分けると、ことば遣いや内容をじっくり味わい検討していく読み方と大量のページ数を速く読みその概要をつかむ読み方がある。英語 I では、読む目的に応じて読み方を変えることが出来るようになること、語彙を増やしていくこと、行間を読みとることなど、さまざまな形の「読む」という言話活動をとおして、現代英語で書かれた英文を読む基礎的な力を育成する。</p>		
講義概要	<p>授業内容と進め方については、各担当教員より最初の授業時に詳しい説明がある。</p>		
使用教材	テキスト	各担当教員が指示する。	
	参考文献		
評価方法	各担当教員が授業時に説明する。		
受講者に対する要望など			

科目名	英語 I (Reading) (94年度以降)	担当者名	各担当教員
-----	-------------------------	------	-------

講義の目標	Objectives of this program : 1) to develop good reading skills, i.e. inferring, guessing the meaning of a word from context, getting into the habit of using an English-English dictionary 2) to build passive vocabulary, including some slang and "culture-bound" vocabulary 3) to develop extensive, as well as intensive, reading skills 4) to encourage students to think deeply enough about a selection to give their own opinion or comments 5) to introduce students to taking responsibility for their own reading (outside readers) 6) to give students the chance to see that English reading can also be an enjoyable and interesting, as well as an informative experience.
講義概要	Teaching Program : Texts: The texts will form the core of the course. There are two types: the 'in-class text' and the 'outside readers.' The in-class text will be the main text of the class. There will be two outside readers: one for the first term, and one for the second term. How each instructor handles the actual week to week classroom instruction is up to the discretion of that instructor. This may include, but is not limited to, student reading, explanation of lexical or content points, supplementary reading, lectures, video, homework and in-class assignments, quizzes, etc. It is suggested that two class periods be spent on each main text selection, one class to cover the basics, such as reading, vocabulary, and comprehension, and the other on the reading skills related to the selection.
使用教材	テ キ ス ト <p>Issues for Today (U. S. edition). L. C. Smith &amp; N. N. Mare (1990) Heinle and Heinle Publishers</p> <p>The Wonderful Story of Henry Sugar. Roald Dahl (1977) Shinozaki Shorin</p> <p>Island of the Blue Dolphins. Scott O'Dell (1987) Houghton Muffin Company</p>
評価方法	Scoring & Grading System : As the core of this program is based not just on vocabulary and comprehension, but also on developing good reading skills, the following guidelines are recommended in determining grades: committee-prepared midyear and final tests (40%); reading skills tests (40%); attendance & participation (20%).
受講者に対する要望など	

科目名	英語Ⅱ（講読）（94年度以降）	担当者名	各担当教員
-----	-----------------	------	-------

講義の目標	読解力を身につけるためには、出来るだけ量を多く読むことが必要とされる。英語Ⅱでは、英語Ⅰに引き続き、現代のさまざまな英文を読み、基礎的な読解力をさらに伸ばしていく。	
講義概要	授業内容と進め方については、各担当教員より最初の授業時に詳しい説明がある。	
使用教材	テキスト	各担当教員が指示する。
	参考文献	
評価方法	各担当教員が授業時に説明する。	
受講者に対する要望など		

科目名	英語Ⅲ (Basic Conversation) (94年度以降)	担当者名	各担当教員
-----	-----------------------------------	------	-------

講義の目標	<p>Overall Goals of the Program :</p> <p>To bring students up to a level of communicative competence in accordance with the overall goals of the four-year English language program. Specifically for this one-year course, this would entail achieving a level of competence sufficient enough to competently pursue and take part in the more advanced English conversation courses offered in the following years.</p>		
講義概要	<p>Students will make use of a listening program complemented by production (conversation) relevant to the material at hand.</p>		
使用教材	テキスト	<p><i>Listen for It</i> (new edition). J. C. Richards et. al. (1995). Oxford University Press.</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>The following guidelines are recommended in determining grades: examinations (40%); quizzes and assignments (20%); attendance and participation (40%).</p>		
受講者に対する要望など			

科目名	英語Ⅲ (Intermediate Conversation) (94年度以降)	担当者名	各担当教員
-----	--	------	-------

講義の目標	<p>Overall Goals of the Program :</p> <p>To bring students up to a level of communicative competence in accordance with the overall goals of the four-year English language program. Specifically for this one-year course, this would entail achieving a level of competence sufficient enough to competently pursue and take part in the more advanced English conversation courses offered in the following years.</p>		
講義概要	<p>Two video courses have been approved for use with this program. They are the <i>Mystery Tour</i> course and the <i>Jericho Conspiracy</i> course. Instructors may use one of these, or use their own material, in accordance with course goals and guidelines. The two approved courses work around a three-part system that consists of <i>text</i>, <i>activity</i> and <i>topic</i>. The text consists of a video and student activity book of eight to ten episodes. The activity refers to those complementary exercises or activities relating to a linguistic or topical point being covered in a certain episode of the text. The topic is a weekly pre-lesson (homework) writing exercise related to a linguistic or topical point being covered in the lesson. It emphasizes the building of communication skills (speaking &amp; listening), as well as cultural and affective targets (getting to know your classmates better and taking into account the opinions of others).</p>		
使用教材	テキスト	<p>The Jericho Conspiracy. V. Hollett &amp; R. Baldwin. (1992). OUP. Mystery Tour. P. Viney &amp; K. Viney. (1988). OUP</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>Scoring &amp; Grading System (esp. for Mystery Tour &amp; Jericho Conspiracy Courses): attendance &amp; participation (40%); tests &amp; quizzes (40%); topics (20%).</p> <p>For classes not using the available courses, grading will be up to the discretion of each individual instructor.</p>		
受講者に対する要望など			

科目名	英語Ⅲ (Advanced Conversation) (94年度以降)	担当者名	各担当教員
-----	--------------------------------------	------	-------

講義の目標	<p>Overall Goals of the Program :</p> <p>To bring students up to a level of communicative competence in accordance with the overall goals of the four-year English language program. Specifically for this one-year course, this would entail achieving a level of competence sufficient enough to competently pursue and take part in the more advanced English conversation courses offered in the following years.</p>		
講義概要	<p>Based on the results of a placement test, freshmen students will be placed in the most appropriate course for their competence level. Students who score above average on the placement test would find themselves in the Advanced Conversation course. The great majority of students in this course will most likely be made up of returnees, and as such will already be competent in listening skills. More time should therefore be spent on advanced oral production using video and reading materials through discussion, debate, etc.</p> <p>As the native English-speaking staff teaching here are considered to be professionals with expertise in teaching, particularly in the area of English conversation, it has been decided to give the instructors in this program the freedom to teach as they see best, but with regard to the course goals.</p>		
使用教材	テキスト	Up to the discretion of each individual instructor	
	参考文献		
評価方法	Up to the discretion of each individual instructor		
受講者に対する要望など			

科目名	英語Ⅳ（文法・作文）（94年度以降）	担当者名	各担当教員
-----	--------------------	------	-------

講義の目標	<p>文法知識を単に知識としてではなく、生きた「ことば」を表現する手段として活用し、与えられた状況にふさわしい英文が書けるようにする。また、日本語と英語の表現や発想の違いにも注意を払い、より良い表現が出来るようにする。</p> <p>学科共通科目の「英作文」を履修するための前提となる科目である。</p>	
講義概要	<p>実際に英文を多く書くことによって、表現法や文体を習得していくことになるが、授業の内容と進め方については、各担当教員より最初の授業時に詳しい説明がある。</p>	
使用教材	テキスト	各担当教員が指示する。
	参考文献	
評価方法	各担当教員が授業時に説明する。	
受講者に対する要望など	<p>原則として、受講希望者は全員受講できるが、英語Ⅳ（パラグラフ・ライティング）の最初の授業に出席して英作文のテストを受け、自分の英作文能力に合ったレベルの授業を受講することを希望する。</p>	

科目名	英語Ⅳ（パラグラフ・ライティング）（94年度以降）	担当者名	各担当教員
-----	---------------------------	------	-------

講義の目標	<p>和文英訳ではなく、英語で考えて英語で書くことを目的とする。しかし、書くと言っても、ただ英文で書けばよいのではない。断片的な文を書くのではなく、いくつかの文を内容的に関連づけながら、論理性のある文章を書くことが求められる。</p> <p>その第一段階として、ある一つの中心となる考え（main idea）について、いくつかの英文で表現し、まとめてみることから始める。英語で文章を書く際に基本となるパラグラフの構成の仕方について学ぶ。</p> <p>学科共通科目の「エッセイ・ライティング」を履修するための前提となる科目である。</p>		
講義概要	<p>実際にパラグラフを数多く書くことが要求されるが、授業の内容と進め方については、各担当教員より最初の授業時に説明がある。</p>		
使用教材	テキスト	各担当教員が指示する。	
	参考文献	各担当教員が授業時に説明する。	
評価方法			
受講者に対する要望など	<p>最初の授業で、簡単な英作文能力を測るテストを行い、その結果により受講許可を決定する。受講許可をもらえなかった場合は、英語Ⅳ（文法・作文）を受講すること。</p>		



科目名	英語学概論 1	担当者名	神尾 昭雄
-----	---------	------	-------

講義の目標	<p>言語の科学的研究に対する理解と関心を学生が持つように促すこと、特に英語という言語について、その構造、使用、歴史などについて基本的な知識と理解が得られるように務めること。</p>		
講義概要	<p>下記の教科書を使用して、1章ごとに概要を説明し、解説を加える。学生の多くは、言語を科学的に研究することおよびその成果について無関心な者であるのがこれまでの通例であるので、まず学生が言語の科学的研究に知的好奇心を持つように務める。また英語学科の学生として最低限の英語に関する知識を持たせるように務める。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ George Yule 著 <i>The Study of Language</i> (2nd ed.)</li> <li>・ Cambridge University Press 教室で配布する。</li> </ul>	
	参考文献	<p>教室で指示する。</p>	
評価方法	<p>前・後期末試験の他に、前・後期にそれぞれ中間試験を行う。 これら4回の試験の成績に基づき評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>学問的好奇心に1日も早く目覚め、知的関心を以って授業に出席してもらいたい。</p>		

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 授業の進め方、教科書の販売、教科書の使い方、参考書とその使い方、などについて
2. 1. The Origin of Language
3. 2. The Development of Writing
4. 3. The Properties of Language
5. 4. Animals and Human Language
6. 5. The Sounds of Language
7. 6. The Sound Patterns of Language
8. 中間試験
9. 7. Words and Word-formation Processes  
(中間試験の返却とコメント)
10. 8. Morphology
11. 9. Phrases and Sentences: Grammar
12. 10. Syntax
13. 11. Semantics
14. 12. Pragmatics
15. 13. Discourse Analysis
16. 14. Language and Machines
17. 15. Language and the Brain
18. 16. First Language
19. 17. Second Language Acquisition/Learning
20. 中間試験
21. 18. Sign Language  
(中間試験の返却とコメント)
22. 19. Language History and Change
23. 20. Language Varieties
24. 21. Language, Society and Culture

科 目 名	英語学概論 2	担当者名	児 玉 仁 士
-------	---------	------	---------

講義の目標	<p>まず、英語自体についての理解を深める前に、われわれが日常用いている言語そのものの実態をある程度明らかにしておく必要がある。この言語学的な理解・知識を基礎にして、英語がもっている言語的特性を概説するのがこの講義の目標である。</p>		
講義概要	<p>英語学が1つの独立した学問体系をなすかどうかはともかくとして、英語を専攻する者が基本的・必須的知識として、当然修めなければならない英語全般に関する学問領域である。それには、英語が1つの言語として有する言語的諸相とそれに関する学問的業績すべてが包括される。ただし、この領域はあまりにも広範にわたり、限られた年間の授業数でそれをカバーすることは到底不可能である。したがって、この講義では、その中で最も中心となる課題に焦点を絞って解説することになるだろう。言語行為、音声学・音韻論、意味論、文法論、英語史が主なトピックである。</p>		
使用教材	テキスト	E. M. Heatherington : <i>How Language Works</i> (英語学入門)、金星堂	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石黒昭博・他著『現代の英語学』 金星堂</li> <li>・島岡丘・他著『最新の音声学・音韻論』 研究社</li> <li>・今井邦彦 編『英語変形文法』 大修館</li> <li>・ジノ・ソング著『言語学への招待』 南雲堂</li> </ul>	
評価方法	<p>評価は、基本的には、前期・後期の定期試験の成績に基づく。なお、随時、出席をとり、それも総合評価に加味したい。</p>		
受講者に対する要望など			

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 序論：言語の実態：言語が人・社会・文化という構図の中でどのような機能をもっているのかを、概観したい。
2. 第1章：言語および言語行為 1)伝達手段：言語・非言語、動物・人間の伝達手段 2)言語の特性
3. 3)言語記号の2面性・恣意性・線状性 4)言語研究の分野・方法
4. 第2章：英語の音声 1)言語音声 2)言語音声の記述：音声学・音韻論
5. 3)音声表記・音素表記：万国表音文字、精密表記・簡略表記 4)発音器官：どのような器官を用いて言語音は発せられるのか 5)音声の分類：母音と子音、有声音・無声音
6. 6)母音の分類と種類 7)子音の分類と種類
7. 8)音節・強勢／弱勢・アクセント・音調 9)音連続における音声変化：推移音・音連結・同化・異化
8. 10)リズム：散文・韻文のリズム、頭韻・脚韻、詩型
9. 第3章：英語の意味 1)「意味」とは？ 2)意味論：一般意味論・哲学的意味論・言語学的意味論
10. 3)言語学的意味論：指示的・辞書的・形式的・構造的・文脈の意味 4)意味の分析：Osgoodの「意味微分法」とKatz/Forderの「意義素性分析」
11. 5)意味の同一性：外延的・内包の意味 6)意味の多義性：辞書の語義
12. 7)意味の具象性と抽象性：Hayakawaの「抽象の過程」 8)意味と文化・意味の変化：縮小・拡大・墮落・向上
13. 第4章：英語の文法 1)「文法」の概念・その変遷 2)文法の研究の方法・その種類
14. 3)文法の記述の対象：形態論・統語論 4)規範文法：規範性・単語・品詞分類・文、文の正用・誤用の基準
15. 5)科学文法：科学性・形態・機能・文法範疇：Sweet/Jespersenの文法
16. 6)構造主義文法：構造的・音素・形態素・語類・統語分析
17. 7)変形生成文法：Chomskyの理論とその変遷
18. 第5章：英語の歴史 1)インド・ヨーロッパ語族・ゲルマン語派の位置：Grimmの音韻法則
19. 2)西ゲルマン諸語（フリジア語・オランダ語・ドイツ語）と英語との比較：第2次子音推移 3)英語とフリジア語の類似性
20. 4)英語史の時代区分とイギリスの歴史（特に、アングロ・サクソン期および中期）
21. 5)英語の階級方言・社会方言 6)古期英語：文字・綴り・発音・文法（形態・統語）
22. 7)中期英語：文字・綴り・発音・文法（形態・統語）：Chaucerの英語、大母音推移
23. 8)近代英語：綴り・発音・文法；聖書の英語、Shakespeareの英語
24. 9)アメリカ英語 10)英語の辞書：編纂とその歴史

科目名	英語学概論 3	担当者名	清水 由理子
-----	---------	------	--------

講義の目標	英語という言葉がどのような視点から研究されてきたか、また、現在研究されているのかを知ることにより、英語のみならず私たちが毎日使っている「ことば」に、より深い理解と関心を持ってもらいたいと思っている。		
講義概要	数ある言語の中の一つである英語とは、どのような特徴を持った言語であるのか紹介する。具体的なテーマについては下記の授業計画表を参照のこと。		
使用教材	テキスト	石黒昭博他編『現代の英語学』金星堂	
	参考文献	テーマごとに必要に応じて紹介する。また、テキスト巻末の参考文献も活用してほしい。	
評価方法	Take-home quiz と前期・後期の定期試験により評価を出す。		
受講者に対する要望など	必ず前もってテキストの関連した章を読んだ上で講義に出ること。		
年間授業計画	1.	英語学とは、どのようなことを研究する分野か。	(テキストの第1章参照)
	2.	「ことば」とは、どのようなものか。人間のことばの特徴。	
	3.	英語の音構造 音声学 ① 音声素について	
		英語音の特徴①	(第3章の1)
	4.	音声学 ② 英語音の特徴②	( " )
	5.	音韻論 ① 音素について	(第3章の2)
	6.	音韻論 ② 超文節音素について	( " )
	7.	英語の語構造 形態論 ① 形態素について	(第4章の1)
	8.	形態論 ② 語の形成	(第4章の2)
	9.	英語の文構造 統語論 ① 科学的伝統文法での考え方	(第5章の1)
	10.	統語論 ② 構造主義文法での考え方	(第5章の2)
	11.	統語論 ③ 生成文法での考え方	(第6章)
	12.	統語論 ④ 文法と意味	(第7章)
	13.	英語の意味構造 意味論 ① 意味とは。語の意味	(第8章の1と2)
	14.	意味論 ② 文の意味	(第8章の3)
	15.	語用論 語用論について	(第8章の4)
	16.	英語の歴史 ① ブリテン島の歴史と言語	(第9章の1と2)
	17.	② 古期英語の文字と発音	( " )
	18.	③ 古期英語の語彙と文法	( " )
	19.	④ 中期英語の時代的背景	(第9章の3)
	20.	⑤ 中期英語の綴りと発音	( " )
	21.	⑥ 中期英語の語彙と文法	( " )
	22.	⑦ 近代英語の特徴	(第10章)
	23.	⑧ アメリカの英語	(第11章)
	24.	まとめ	

科目名	英語学概論 4	担当者名	長谷川 欣 佑
-----	---------	------	---------

講義の目標	<p>英語の多様な言語事象の分析を通して言語研究の面白さを伝えたい。具体的にはデータに基いて仮説を立て、それをより広汎なデータに照らして検証していくなかで、文法構造の規則性や一般的原理を発見していく統語分析の方法に重点を置いて述べる。この興味ある発見の過程と、着実な論証の仕方を理解することは、英語の学習に役立つだけでなく、ことば（更には自然、社会）の問題を自分の頭で考え、自主的に判断する能力を養う上でも役に立つと思う。</p>		
講義概要	<p>人間の言語使用は「創造的」（いくらでも新しい文を創りそれを理解することができる）であり、そのために思考・感情の自由な表現が可能になる。これを可能にしている「ことばの仕組」を明らかにすることを目標とする（生成）文法理論の基本的な考え方と方法を概説し、それに基づいて英語の主要な統語現象の背後にあるさまざまな規則性を明らかにする。</p>		
使用教材	テキスト	<p>特に指定しないが下記の参考書（のいずれか）を読んでおくことが望ましい。講義の主要な内容はプリントして配布する。</p>	
	参考文献	<p>Akmajian-Heny (1975), <i>An Introduction to the Principles of Transformational Syrtax</i> (MIT Press); Akmajian-Demers-Farmer-Harnish (1995), <i>Linguistics</i> (MIT Press); L. Haegeman (1994<sup>2</sup>), <i>Introduction to Government and Binding Theory</i> (Blackwell)</p>	
評価方法	<p>前・後期一回づつのテストと授業への参加度</p>		
受講者に対する要望など	<p>連続した体系をなすので毎回出席すること。</p>		

年  
間  
授  
業  
計  
画

- 1~3. 前期は「序論」と「第1部：文の組み立て方についての一般原理」について述べる。まず序論として人間の言語の基本的性質である、言語使用の創造性をデータに基いて例証し、文法研究の目標を設定する。ここで英語の代名詞や再帰代名詞の用法について簡単な原則を提示する。
- 4・5. 「文の組み立て方」に関する第1の原理としての「句構造規制」の必要性とその説明。文法上の単位（文法カテゴリー）を立てる根拠について「動詞句」などを例にとりやや詳しく解説。
- 6~11. 「文の組み立て方」に関する第2の原理としての「変形」の概念を導入。典型的な例に基いてこの仕組の必要性をわかりやすく解説。さらに英語のいくつかの構文を取り挙げ、それらの説明のために変形が必要であることを示し、同時にこれらの構文自体の構文分析によって文法解析の方法を理解してもらう。取り挙げる事象は、wh-句移動変形、外置変形（以上6-7週）、Tough 構文移動変形（8週）、繰り上げ変形（Raising）（9週）、助動詞成分の分析（10-11週）、など。
- 12. 試験
- 13. 後期「第2部：英語統語構造の概要」 前期の講義に立脚し、主要な文法単位（カテゴリー）の内部構造と、それらに関連する構文分析の典型例について述べる。
- 14・15. 「動詞句」の内部構造。補語（Complement）と副詞的要素（Adjunct）の区別の根拠・重要性について do so テストなどを用いて解説。
- 16~18. 「動詞+小辞」、「動詞+前置詞」などの複合動詞の分析。小辞（Particle）移動変形、間接目的語・直接目的語構文の構造と意味。VNP to VP 形の構造分析、表層フィルターの必要性など。
- 19・20. 受動構文の分析。文法分析の一典型例として、古典的分析から比較的妥当な分析へ至る過程をデータに基いて解説し、受動文の構造と意味を明らかにする。
- 21. 名詞句の内部構造
- 22・23. Wh-句移動変形などへの「一般的制約」
- 24. 試験

科目名	英米文学概論 1 (93年度以降)	担当者名	(前期)島田啓一 (後期)林 節雄
-----	-------------------	------	----------------------

前期

講義の目標	アメリカ文学の概略を知り、「主要な」作家、詩人たちの作品にできるだけ直接触れる(小説、短編小説、詩などの抜粋を実際に読んでもらう)ことで学生諸君にアメリカ文学の魅力を発見してもらう。		
講義概要	米文学史の概略をなぞるが、19世紀のホーソンやメルヴィルの時代の小説と詩、米小説のリアリズムからモダニズムへの発展、60年代以降顕著になってきたマルチカルチャリズム(文化多元主義)に焦点をあて、プリントなどで作品の一部を読み鑑賞してもらう。但し、通常とは逆に現在から過去に向かって、講義を進める予定。		
使用教材	テキスト	・板橋好枝・高田賢一編著『はじめて学ぶアメリカ文学史』(ミネルヴァ書房、1989)	
	参考文献	福田陸太郎・岩本巖・酒本雅之編『アメリカ文学研究必携』〈増補版〉(中京出版、1985)	
評価方法	定期試験90%、不定期試験に課す課題10%の予定。		
受講者に対する要望など	島田ゼミホームページ ( <a href="http://www.dokkyo.ac.jp/~skzemi/index.htm">http://www.dokkyo.ac.jp/~skzemi/index.htm</a> ) に「英米文学概論」のページを作成しましたので参照して下さい。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アメリカ文学概説(授業のやり方、注意事項などの説明を含む): 必ず出席すること。</li> <li>2. Multiculturalism (1): 概説。Multiculturalism の背景(以下、( ) 内は授業で読む予定の作品名)</li> <li>3. Multiculturalism (2): African American Writers と Jewish Writers (Bernard Malamud, "The First Seven Years")</li> <li>4. Multiculturalism (3): Jewish Writers ("The First Seven Years")</li> <li>5. Modernism (1): Post Modernism と Modernism の作家たち: John Barth, Thomas Pynchon, Anderson, Hemingway, Fitzgerald, etc.</li> <li>6. Modernism (2): William Faulkner と Yoknapatawpha County ("That Evening Sun")</li> <li>7. Modernism (3): William Faulkner と Yoknapatawpha County (<i>The Sound and the Fury</i>)</li> <li>8. Realism (1): Mark Twain, William Dean Howells, Henry James, Stephen Crane, Frank Norris, Theodore Dreiser</li> <li>9. Realism (2): "gender/class/race"-Mark Twain の場合 (<i>The Adventures of Huckleberry Finn</i>)</li> <li>10. American Renaissance (1): Emerson, Thoreau, E. A. Poe, Walt Whitman, Emily Dickinson, etc. (詩を数編)</li> <li>11. American Renaissance (2): Nathaniel Hawthorne, Herman Melville, etc.</li> <li>12. 創世記のアメリカ文学: Benjamin Franklin, Charles Brockden Brown, Washington Irving, James Fenimore Cooper, etc.</li> </ol>		



後 期

講義の目標	文学は言葉を武器として人間と人間が生きる世界を研究し、表現するアートである。「英」文学は英語という言葉の芸術である。英国史と英文学史の常識を講義し、その姿を明らかにし、ひいては英語がなぜ今のような形をしているかにつき理解を深める。	
講義概要	アメリカと並び英語文化の大きな中心である、イングランドを主としたイギリスの歴史の分かりやすいイメージを提供する。ついでそのベースの上に多くの作品を生産してきたイギリス文学の歴史について、同様になるべく分かりやすいイメージを示す。	
使用教材	テキスト	特に使用しない。講義ノートによる。
	参考文献	授業中、必要に応じ紹介する。
評価方法	毎回の小クイズ（出席カードの裏に回答）と、定期筆記試験による。	
受講者に対する要望など	『ハムレット』『若き日の芸術家の肖像』村上春樹など文学に親しむこと。	
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イギリスの始まりから清教徒革命までの歴史の流れを解説する。</li> <li>2. 王政復古から20世紀初めまでの流れを解説する。</li> <li>3. イギリス文学史の始まりから、18世紀の小説家 Henry Fielding までを解説する。</li> <li>4. 18世紀の批評家 Samuel Johnson から20世紀初めまでを解説する。</li> <li>5. 20世紀初めの作家たちが何を考えていたかを説明し、H. G. Wells の古典的 SF, <i>The Time Machine</i> を解説する。</li> <li>6. H. G. Wells の SF, <i>The Island of Doctor Moreau</i> を解説する。</li> <li>7. ポーランド出身の英作家 Joseph Conrad の小説 <i>Lord Jim</i> を解説する。</li> <li>8. <i>Lord Jim</i> の続きを解説する。</li> <li>9. Conrad の小説 "Heart of Darkness" を解説する。</li> <li>10. 劇作家・ベストセラー作家 W. Somerset Maugham の小説 <i>Of Human Bondage</i> を解説する。</li> <li>11. <i>Of Human Bondage</i> の解説。</li> <li>12. <i>Of Human Bondage</i> の解説。</li> </ol>	

科目名	英米文学概論 2 (93年度以降)	担当者名	(前期)林 節雄 (後期)島田啓一
-----	-------------------	------	----------------------

前期

講義の目標	文学は言葉を武器として人間と人間が生きる世界を研究し、表現するアートである。「英」文学は英語という言葉の芸術である。英国史と英文学史の常識を講義し、その姿を明らかにし、ひいては英語がなぜ今のような形をしているかにつき理解を深める。		
講義概要	アメリカと並び英語文化の大きな中心である、イングランドを主としたイギリスの歴史の分かりやすいイメージを提供する。ついでそのベースの上に多くの作品を生産してきたイギリス文学の歴史について、同様になるべく分かりやすいイメージを示す。		
使用教材	テキスト	特に使用しない。講義ノートによる。	
	参考文献	授業中、必要に応じ紹介する。	
評価方法	毎回の小クイズ（出席カードの裏に回答）と、定期筆記試験による。		
受講者に対する要望など	『ハムレット』『若き日の芸術家の肖像』村上春樹など文学に親しむこと。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イギリスの始まりから清教徒革命までの歴史の流れを解説する。</li> <li>2. 王政復古から20世紀初めまでの流れを解説する。</li> <li>3. イギリス文学史の始まりから、18世紀の小説家 Henry Fielding までを解説する。</li> <li>4. 18世紀の批評家 Samuel Johnson から20世紀初めまでを解説する。</li> <li>5. 20世紀初めの作家たちが何を考えていたかを説明し、H. G. Wells の古典的 SF, <i>The Time Machine</i> を解説する。</li> <li>6. H. G. Wells の SF, <i>The Island of Doctor Moreau</i> を解説する。</li> <li>7. ポーランド出身の英作家 Joseph Conrad の小説 <i>Lord Jim</i> を解説する。</li> <li>8. <i>Lord Jim</i> の続きを解説する。</li> <li>9. Conrad の小説 "Heart of Darkness" を解説する。</li> <li>10. 劇作家・ベストセラー作家 W. Somerset Maugham の小説 <i>Of Human Bondage</i> を解説する。</li> <li>11. <i>Of Human Bondage</i> の解説。</li> <li>12. <i>Of Human Bondage</i> の解説。</li> </ol>		

後 期

講義の目標	アメリカ文学の概略を知り、「主要な」作家、詩人たちの作品にできるだけ直接触れる（小説、短編小説、詩などの抜粋を実際に読んでもらう）ことで学生諸君にアメリカ文学の魅力を発見してもらう。	
講義概要	米文学史の概略をなぞるが、19世紀のホーソンやメルヴィルの時代の小説と詩、米小説のリアリズムからモダニズムへの発展、60年代以降顕著になってきたマルチカルチャリズム（文化多元主義）に焦点をあて、プリントなどで作品の一部を読み鑑賞してもらう。但し、通常とは逆に現在から過去に向かって、講義を進める予定。	
使用教材	テキスト	・板橋好枝・高田賢一編著『はじめて学ぶアメリカ文学史』（ミネルヴァ書房、1989）
	参考文献	福田陸太郎・岩本巖・酒本雅之編『アメリカ文学研究必携』〈増補版〉（中京出版、1985）
評価方法	定期試験90%、不定期試験に課す課題10%の予定。	
受講者に対する要望など	島田ゼミホームページ ( <a href="http://www.dokkyo.ac.jp/~skzemi/index.htm">http://www.dokkyo.ac.jp/~skzemi/index.htm</a> ) に「英米文学概論」のページを作成しましたので参照して下さい。	
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アメリカ文学概説（授業のやり方、注意事項などの説明を含む）：必ず出席すること。</li> <li>2. Multiculturalism (1)：概説。Multiculturalism の背景〈以下、( ) 内は授業で読む予定の作品名〉</li> <li>3. Multiculturalism (2)：African American Writers と Jewish Writers (Bernard Malamud, "The First Seven Years")</li> <li>4. Multiculturalism (3)：Jewish Writers ("The First Seven Years")</li> <li>5. Modernism (1)：Post Modernism と Modernism の作家たち：John Barth, Thomas Pynchon, Anderson, Hemingway, Fitzgerald, etc.</li> <li>6. Modernism (2)：William Faulkner と Yoknapatawpha County ("That Evening Sun")</li> <li>7. Modernism (3)：William Faulkner と Yoknapatawpha County (<i>The Sound and the Fury</i>)</li> <li>8. Realism (1)：Mark Twain, William Dean Howells, Henry James, Stephen Crane, Frank Norris, Theodore Dreiser</li> <li>9. Realism (2)："gender/class/race"-Mark Twain の場合 (<i>The Adventures of Huckleberry Finn</i>)</li> <li>10. American Renaissance (1)：Emerson, Thoreau, E. A. Poe, Walt Whitman, Emily Dickinson, etc. (詩を数編)</li> <li>11. American Renaissance (2)：Nathaniel Hawthorne, Herman Melville, etc.</li> <li>12. 創世記のアメリカ文学：Benjamin Franklin, Charles Brockden Brown, Washington Irving, James Fenimore Cooper, etc.</li> </ol>	

科目名	英米文学概論 3 (93年度以降)	担当者名	(前期)原 成吉 (後期)富士川和男
-----	-------------------	------	-----------------------

前期

講義の目標	アメリカ文学とは何か、文学を学ぶとはどういうことか、という問題をテーマごとに論じながら、アメリカ文学の魅力を伝える。		
講義概要	このクラスでは、現在アメリカが抱えているさまざまな問題 (Native American, Feminism, Multiculturalism...etc.) を文学を通して考えてゆく。教室では、具体的な作品を読みながら、「ここそしていま」の視点からアメリカの (異) 文化を紹介する。		
使用教材	テキスト	板橋好枝/高田賢一 編著『はじめて学ぶアメリカ文学史』ミネルヴァ書房	
	参考文献	各テーマごとに紹介する。	
評価方法	前期・後期の定期試験と授業中の課題で決める。		
受講者に対する要望など	教室へ来る前に、翻訳でもよいから Mark Twain, <i>Adventures of Huckleberry Finn</i> —『ハックルベリー・フィンの冒険』(講談社文庫) と Jack Kerouac, <i>On the Road</i> —『路上』(河出文庫) を読んでおくことが望ましい。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アメリカ文学の特徴について (序論)</li> <li>2. ネイティブ・アメリカンの文学</li> <li>3. 土地が作る文学</li> <li>4. デモクラシーと文学</li> <li>5. 戦争と文学</li> <li>6. マルチ・カルチャリズムと文学(1)</li> <li>7. マルチ・カルチャリズムと文学(2)</li> <li>8. マルチ・カルチャリズムと文学(3)</li> <li>9. カウンター・カルチャと文学</li> <li>10. フェミニズムと文学</li> <li>11. 現代詩を読む</li> <li>12. 作品研究の方法</li> </ol>		

後 期

講義の目標	イギリス文学を歴史的に概論することによって、その特質を探ぐる。文学と接するとはどうということなのかを考えていく。	
講義概要	講義形式で行なう。設定した主題にそって、具体的な作家や作品を例にとり、文学と時代背景、作家と想像力の問題に触れながら、現代人の意識との関連において考察する。	
使用教材	テキスト	使用せず
	参考文献	特に指定しない。個人的に何か「英文学史」関係の本を読めば、講義内容の理解には役に立つと思う。
評価方法	前後期各1回の試験	
受講者に対する要望など	なぜ文学は作品を生み続けているのかという根源的問いを、自分の中に持つこと。この半期間に少なくとも1冊英文学作品を読むこと。	
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イギリス文学の成立——ノルマン征服と中世文学</li> <li>2. 中世から近世へ——チョウサーとマロリー</li> <li>3. エリザベス朝文学とイギリス・ルネッサンス概説——文学表現の媒体</li> <li>4. シェイクスピアの喜劇——「お気に召すまま」、「夏の夜の夢」</li> <li>5. シェイクスピアの史劇と悲劇——「リチャード2世」、「マクベス」</li> <li>6. シェイクスピア以後ミルトンまで——「あらし」、「モルフィ侯爵夫人」、「失楽園」</li> <li>7. ロマン主義——理性と感情</li> <li>8. オースチンの小説——「説得されて」</li> <li>9. ヴィクトリア朝小説——社会と進歩</li> <li>10. 伝統と革新——アーノルド、ワイルド、T. S. エリオット</li> <li>11. 現代小説——ウルフ、ジョイス、50年代の作家たち</li> <li>12. イギリス文学と20世紀——現実と虚構</li> </ol>	

科目名	英米文学概論 4 (93年度以降)	担当者名	(前期)富士川和男 (後期)原 成吉
-----	-------------------	------	-----------------------

前期

講義の目標	イギリス文学を歴史的に概論することによって、その特質を探ぐる。文学と接するとはどういうことなのかを考えていく。		
講義概要	講義形式で行なう。設定した主題にそって、具体的な作家や作品を例にとり、文学と時代背景、作家と想像力の問題に触れながら、現代人の意識の関連において考察する。		
使用教材	テキスト	使用せず	
	参考文献	特に指定しない。個人的に何か「英米文学」関係の本を読めば、講義内容の理解には役に立つと思う。	
評価方法	前後期各1回の試験		
受講者に対する要望など	なぜ文学は作品を生を続けているのかという根源的問いを、自分の中に持つこと。この半期間に少なくとも1冊英文学作品を読むこと。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イギリス文学の成立——ノルマン征服と中世文学</li> <li>2. 中世から近世へ——チョウサーとマロリー</li> <li>3. エリザベス朝文学とイギリス・ルネッサンス概説——文学表現の媒体</li> <li>4. シェイクスピアの喜劇——「お気に召すまま」、「夏の夜の夢」</li> <li>5. シェイクスピアの史劇と悲劇——「リチャード2世」、「マクベス」</li> <li>6. シェイクスピア以後ミルトンまで——「あらし」、「モルフィ侯爵夫人」、「失楽園」</li> <li>7. ロマン主義——理性と感情</li> <li>8. オースチンの小説——「説得されて」</li> <li>9. ヴィクトリア朝小説——社会と進歩</li> <li>10. 伝統と革新——アーノルド、ワイルド、T. S. エリオット</li> <li>11. 現代小説——ウルフ、ジョイス、50年代の再家たち</li> <li>12. イギリス文学と20世紀——現実と虚構</li> </ol>		

後 期

講義の目標	アメリカ文学とは何か、文学を学ぶとはどういうことか、という問題をテーマごとに論じながら、アメリカ文学の魅力を伝える。	
講義概要	このクラスでは、現在アメリカが抱えているさまざまな問題（Native American, Feminism, Multiculturalism…etc.）を文学を通して考えてゆく。教室では、具体的な作品を読みながら、「ここそしていま」の視点からアメリカの（異）文化を紹介する。	
使用教材	テキスト	板橋好枝／高田賢一 編著『はじめて学ぶアメリカ文学史』ミネルヴァ書房
	参考文献	各テーマごとに紹介する。
評価方法	前期・後期の定期試験と授業中の課題で決める。	
受講者に対する要望など	教室へ来る前に、翻訳でもよいから Mark Twain, <i>Adventures of Huckleberry Finn</i> —『ハックルベリー・フィンの冒険』（講談社文庫）と Jack Kerouac, <i>On the Road</i> —『路上』（河出文庫）を読んでおくことが望ましい。	
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アメリカ文学の特徴について（序論）</li> <li>2. ネイティブ・アメリカンの文学</li> <li>3. 土地が作る文学</li> <li>4. デモクラシーと文学</li> <li>5. 戦争と文学</li> <li>6. マルチ・カルチャリズムと文学(1)</li> <li>7. マルチ・カルチャリズムと文学(2)</li> <li>8. マルチ・カルチャリズムと文学(3)</li> <li>9. カウンター・カルチャと文学</li> <li>10. フェミニズムと文学</li> <li>11. 現代詩を読む</li> <li>12. 作品研究の方法</li> </ol>	

科目名	国際コミュニケーション概論1 (93年度以降)	担当者名	(前期)佐々木輝美 (後期)永野 隆行
-----	-------------------------	------	------------------------

前期

講義の目標	インターパーソナル・コミュニケーション、スピーチ・コミュニケーション、マス・コミュニケーション、そして異文化コミュニケーションに関する基本用語を説明することができ、かつ具体的なコミュニケーション現象を分析できるようになることを目標とする。		
講義概要	先ず最初の数週間でコミュニケーションの初歩的なことについて説明する。その後、インターパーソナル・コミュニケーション、スピーチ・コミュニケーション、マス・コミュニケーションそして異文化コミュニケーションについて講義する。		
使用教材	テキスト	・プリント配布予定	
	参考文献	橋本満弘、石井敏編著『コミュニケーション論入門』桐原書店、1993.	
評価方法	定期試験、レポート、平常点の総合評価を行う。		

受講者に対する要望など

年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「何故言葉が使えても誤解が生じるのか？」と言う疑問に答えながら、コミュニケーション学の必要性について説明する。</li> <li>2. コミュニケーションモデル (1)：基本的なコミュニケーション・モデルを引用しながら、モデルの落とし穴について説明を行う。</li> <li>3. コミュニケーション (2)：モデルから読み取れるコミュニケーションの要素について。</li> <li>4. コミュニケーションに関する諸研究領域と相互の関係について。——マイクロレベルからマクロレベルまで——</li> <li>5. インターパーソナル・コミュニケーションについての基本用語・理論について。(レポート課題発表：レポートは約千字程度にまとめる)</li> <li>6. スピーチ・コミュニケーションについての基本用語・理論について。</li> <li>7. ビデオ視聴 (スピーチ・コミュニケーションについて) &amp; 解説。(レポート提出締切り)</li> <li>8. マス・コミュニケーション (1) ——マスコミの影響について (送り手の視点から) ——</li> <li>9. マス・コミュニケーション (2) ——利用と満足の研究について (受け手の視点から) ——</li> <li>10. 異文化コミュニケーション (1) ——カルチャーショック、ステレオタイプ、偏見、差別について——</li> <li>11. 異文化コミュニケーション (2) ——ノンバーバル・コミュニケーションについて——</li> <li>12. まとめ (良いコミュニケーターになるために)</li> </ol>
--------	---



後 期

講義の目標	第二次扇界大戦後の国際関係の歴史を概観しながら、国際関係を見る際に重要な「視点・視角」を身に付ける。同時に国際関係に関する基本的な理論の理解と用語の習得を目指す。最終的には、学生諸君それぞれに、国際関係論とはどのような学問なのか、そして今後どのように国際関係論を学んでいったらよいのかについて、何らかのイメージを持ってもらいたい。	
講義概要	基本的に下記に示すテキストに沿って講義を進める。第一段階として、第二次世界大戦後の世界がどのようなものであったかを、「冷戦」、「覇権」、「相互依存」という三つのキーワードをもちいて解説し、その上で、第二段階として、冷戦が終焉し、現在に至るいわゆる「ポスト冷戦時代」をどのように捉えたらよいのかを考えていく。なお講義スケジュールについては、学生諸君の反応を見て、随時修正・変更していく。	
使用教材	テキスト	田中明彦『新しい中世』日本経済新聞社、1996年。
	参考文献	有賀貞他編『講座国際政治』全5巻、東大出版会、1989年。 岡部達味『国際政治の分析枠組』東大出版会、1992年。 高坂正堯『国際政治』、中央公論社、1996年。 蟻山道雄『激動期の国際政治を読み解く本』、学陽書房、1992年。 ☆なお第一回目の講義に詳しい参考文献リストを配布する予定。
評価方法	学期中に行う筆記試験と学期末のエッセイ（4000字）による総合評価。	
受講者に対する要望など		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入：講義の進め方や評価方法についての説明／国際関係論という学問はどのようなものかについて講義／小テストの実施</li> <li>2. 冷戦①／冷戦とはどのように始まったのか～戦後世界秩序の形成（テキスト第1章）</li> <li>3. 冷戦②二極対立としての冷戦：核兵器の登場、欧州と米ソ冷戦、第三世界への波及（テキスト第1章）</li> <li>4. 冷戦③イデオロギー対立としての冷戦：政治的・経済自由主義とマルクス・レーニン主義（テキスト第1章）</li> <li>5. パックス・アメリカーナの時代①国際政治における覇権・大国とは何か（テキスト第3章）</li> <li>6. パックス・アメリカーナの時代②アメリカによる平和（テキスト第3章）</li> <li>7. 相互依存の時代：国際関係の質的变化～問題の複雑化・多元化（テキスト第5章）</li> <li>8. 質疑応答（前半）、学期中間試験（後半）</li> <li>9. ポスト冷戦：冷戦はどのようにして終結したのか。勝者はいったい誰なのか。（テキスト第2章）</li> <li>10. ポスト覇権：超大国アメリカの衰退？覇権後の国際関係、誰が世界秩序を維持するのか。（テキスト第4章）</li> <li>11. 相互依存の深化（テキスト第6章）</li> <li>12. 総括：「新しい中世」～現代の国際関係をどう見るか？経済と安全保障のリンケージ（テキスト第7、8章）／質疑応答</li> </ol>	

科目名	国際コミュニケーション概論2 (93年度以降)	担当者名	(前期) 永野隆行 (後期) 町田喜義
-----	-------------------------	------	------------------------

前期

講義の目標	第二次世界大戦後の国際関係の歴史を概観しながら、国際関係を見る際に重要な「視点・視角」を身に付ける。同時に国際関係に関する基本的な理論の理解と用語の習得を目指す。最終的には、学生諸君それぞれに、国際関係論とはどのような学問なのか、そして今後どのように国際関係論を学んでいったらよいのかについて、何らかのイメージを持ってもらいたい。		
講義概要	基本的に下記に示すテキストに沿って講義を進める。第一段階として、第二次世界大戦後の世界がどのようなものであったかを、「冷戦」、「覇権」、「相互依存」という三つのキーワードをもちいて解説し、その上で、第二段階として、冷戦が終焉し、現在に至るいわゆる「ポスト冷戦時代」をどのように捉えたらよいのかを考えていく。なお講義スケジュールについては、学生諸君の反応を見て、随時修正・変更していく。		
使用教材	テキスト	田中明彦『新しい中世』日本経済新聞社、1996年。	
	参考文献	有賀貞他編『講座国際政治』全5巻、東大出版会、1989年。 岡部達味『国際政治の分析枠組』、東大出版会、1992年。 高坂正堯『国際政治』、中央公論社、1996年。 蟬山道雄『激動期の国際政治を読み解く本』、学陽書房、1992年。 ☆なお第一回目の講義の際に詳しい参考文献リストを配布する予定。	
評価方法	学期中に行う筆記試験と学期末のエッセイ（4000字）による総合評価。		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入：講義の進め方や評価方法についての説明／国際関係論という学問はどのようなものかについて講義／小テストの実施</li> <li>2. 冷戦①冷戦とはどのように始まったのか～戦後世界秩序の形成（テキスト第1章）</li> <li>3. 冷戦②二極対立としての冷戦：核兵器の登場、欧州と米ソ冷戦、第三世界への波及（テキスト第1章）</li> <li>4. 冷戦③イデオロギー対立としての冷戦：政治的・経済自由主義とマルクス・レーニン主義（テキスト第1章）</li> <li>5. パックス・アメリカーナの時代①国際政治における覇権・大国とは何か（テキスト第3章）</li> <li>6. パックス・アメリカーナの時代②アメリカによる平和（テキスト第3章）</li> <li>7. 相互依存の時代：国際関係の質的变化～問題の複雑化・多元化（テキスト第5章）</li> <li>8. 質疑応答（前半）、学期中間試験（後半）</li> <li>9. ポスト冷戦：冷戦はどのようにして終結したのか。勝者はいったい誰なのか。（テキスト第2章）</li> <li>10. ポスト覇権：超大国アメリカの衰退？覇権後の国際関係、誰が世界秩序を維持するのか。（テキスト第4章）</li> <li>11. 相互依存の深化（テキスト第6章）</li> <li>12. 総括：「新しい中世」～現代の国際関係をどう見るか？経済と安全保障のリンケージ（テキスト第7、8章）／質疑応答</li> </ol>		

後 期

講義の目標	ベター・コミュニケーター (better communicator) になる。	
講義概要	本講義は、'Introduction to Communication Study' とする。主な内容は、「コミュニケーションの領域と目的」、「コミュニケーション・プロセスに含まれる要因」、「人間行動における言語と非言語の役割」そして「異文化間コミュニケーションへの誘い」など。	
使用教材	テキスト	プリント (英文)、ビデオ、その他を使用する。
	参考文献	開講時に別紙配布する。
評価方法	筆記試験	
受講者に対する要望など	遅刻は認めない (担当者の入室と同時にドアの鍵をかける) 毎時限キーワードを挙げるので、それらをより広く・深く図書館で調べること	
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. プロローグ：講義概要の説明、「国際コミュニケーション」の概念について</li> <li>2. コミュニケーション：日常語として、専門用語として</li> <li>3. コミュニケーション：その領域と目的、送り手と受け手について</li> <li>4. コミュニケーション・プロセスのモデル：プロセスの概念やコミュニケーションの構成要素について</li> <li>5. コミュニケーションの精度：「効果」の概念、効果の決定要因</li> <li>6. 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション：「言語学」および「非言語学？」の知見から</li> <li>7. 学習：個人的状況におけるコミュニケーション</li> <li>8. 相互作用：対人コミュニケーションの目標</li> <li>9. 社会システム：コミュニケーションのマトリックス</li> <li>10. 意味とコミュニケーション：言語と意味</li> <li>11. 意味の次元：いろいろな種類の意味</li> <li>12. エピローグ：異文化間コミュニケーションへの誘い</li> </ol> <p>※ 講義内容および順序は必要に応じて変更する場合がある。</p>	

科目名	英語音声学1, 4 (94年度以降)	担当者名	大竹孝司
-----	--------------------	------	------

(半期完結)

講義の目標	<p>本講義は、アメリカ英語の発音に焦点を当てながら、英語音声学の基礎知識を得ることを目的とする。今日の国際化社会とインターネット社会では、文字と音声を媒介とした英語を総合的に使えることが期待されている。2003年から始まる我国の初等教育での英語教育では、音声言語としての英語に特に力を入れることが謳われており、今後の英語を専攻とする学生は英語音声の知識を持つことが不可欠になってきた点を前提に講義を行う。</p>		
講義概要	<p>音声学という科目は、他の科目とは異なり本を読めばすむものではなく、基本的な知識を得ながら実際に音声を聞いたり、発音したりする作業が伴うものである。英語音声学は12回の半期科目であるため、授業では主として英語音声学の知識の側面を中心に講義を進め、授業外にテープを聞く作業を進めてもらうことにしたい。講義では、英語音声を学ぶ上で重要と思われるものを中心に取り上げる予定である。なお、外国語の音声を理解することができるようになるためには、音声をどのように認識するかという問題と密接な関係があるので、様々な音声の実験を通して理解を深めてもらう予定である。</p>		
使用教材	テキスト	<p>“Accurate English: A Complete Course in Pronunciation” Rebecca, M. Dauer</p>	
	参考文献	<p>授業時に随時紹介する。</p>	
評価方法	<p>期末試験、課題、実験の参加の三つを総合して評価をする。</p>		
受講者に対する要望など	<p>英語の音声を理解するためには日本語と英語の音声の正しい知識と絶え間ない練習が不可欠であるので、両者のバランスをとりながら学習して欲しい。</p>		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業全体について説明を行う。</li> <li>2. 発音記号と音とつづりについて</li> <li>3. 英語の音声と発音器官</li> <li>4. 英語の母音Ⅰ</li> <li>5. 英語の母音Ⅱ</li> <li>6. 英語の母音Ⅲ</li> <li>7. 英語の子音Ⅰ</li> <li>8. 英語の子音Ⅱ</li> <li>9. 英語の子音Ⅲ</li> <li>10. 英語の強勢と英語音</li> <li>11. 英語のリズム</li> <li>12. 英語のイントネーション</li> </ol>		

科目名	英語音声学 2, 3, 5 (94年度以降)	担当者名	大西雅行
-----	------------------------	------	------

(半期完結)

講義の目標	英語音が日本語音と違うのは英語には英語独自の音声が使われ、音声変化を起すからです。英語の音声の一般的な現象、特徴的な変化、音声の規則性を解説し、英語を聞く、話すに必要な実際音への応用、あるいは、音声研究、言語教育、言語研究を進めていく上での基礎知識を与えます。	
講義概要	音声を形成する仕組み、音声表記、母音と子音の分類、英語音の各論、日英米音の差異、英語の音律特徴など通常の発話に必要な現象を講義します。映像と音声（オーディオテープ）を利用し、理論と実際音との両面から習得しやすく進めます。	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	
評価方法	期末テスト	
受講者に対する要望など		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語の標準音</li> <li>2. 発音器官</li> <li>3. 音声の表記法</li> <li>4. 母音の分類</li> <li>5. 英語の母音－1</li> <li>6. 英語の母音－2</li> <li>7. 子音の分類</li> <li>8. 英語の子音－1</li> <li>9. 英語の子音－2</li> <li>10. 連音中の変化</li> <li>11. ストレス</li> <li>12. イントネーション</li> </ol>	

科目名	スピーチ・クリニック1,2,4,5 (94年度以降)	担当者名	津田 望
-----	----------------------------	------	------

(半期完結)

講義の目標	①アメリカ音の発話メカニズムを理解し、習得する。 ②dictation 課題により、聴取能力の改善を目指す。		
講義概要	本講義は、LLとVTRを使用し、視聴覚フィードバックを繰り返しながら、アメリカ音の調音について学習する。ここでは、音声学の理論的な説明はほとんどしないので、前期にこの授業をとる学生は、英語音声学の概要は知っておくこと。またその授業で目標にした調音の獲得が難しい学生で希望者には、時間がとれる限りtutorialをするつもりなので、その中で個別チェックを受けることを勧める。		
使用教材	テキスト	授業開始時に配布。	
	参考文献		
評価方法	授業への参加・貢献度と、欠席と遅刻の頻度。		
受講者に対する要望など	毎授業、オーディオテープ2本と鏡を持参すること。		
年間授業計画	1. 序—英語音を発音するために。breathing, intonation, pitch など。 2. 子音(1) : [p][t][k][b][d][g] 3. 母音(1) : [i][ɪ] 4. 子音(2) : [s][z][ʃ][ʒ] 5. 母音(2) : [æ][a][ʌ] 6. 子音(3) : [f][v] 7. 母音(3) : [e][e'] 8. 子音(4) : [θ][ð] 9. 母音(4) : [ɔ][o][ə] 10. 子音(5) : [l][r] 11. 母音(5) : [u][ʊ] 12. 音声分析 (パソコン使用)		

科目名	スピーチ・クリニック3 (94年度以降)	担当者名	大西雅行
-----	----------------------	------	------

(半期完結)

講義の目標	英語音に慣れ、英語らしい英語発音を身につけるように訓練します。		
講義概要	前期に英語音声学のクラスで理論的な説明は終えているので、実際の音を聞き、映像で発話者の口形を観察しながら発音練習をします。LL教室の視聴覚機器を使い、小人数のクラスですから、個人の発音訓練、矯正を主とします。 毎回ディクテーションの宿題を課します。		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献		
評価方法	特に試験はしません。平常点、宿題、出席状況などで評価します。		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語の音声と腹式呼吸。英語の韻律法</li> <li>2. 単母音と二重母音</li> <li>3. 前母音</li> <li>4. 後母音</li> <li>5. 中母音</li> <li>6. 破裂音</li> <li>7. 破擦音</li> <li>8. 鼻音</li> <li>9. 側音</li> <li>10. 摩擦音</li> <li>11. 半母音</li> <li>12. リズム、ストレス</li> </ol>		

科目名	専門講読1 (英語学) (93年度以降) 英語講読 (英語学) (92年度以前)	担当者名	阿部 一
-----	---	------	------

講義の目標	この講義は英米 (特に米) の日常生活の場で話されたり、書かれた広範な英語コーパスを基に、英語の単語や文法あるいは機能のみならず文化社会的な背景まで研究するものである。合わせて、生みの自然な英語に適応できる英語力を養成する。		
講義概要	まず最初に基本的な単語・文法・機能あるいは談話などの分析方法を解説した上で、現実のコーパスを使って興味と関心に応じたグループ単位での調査・分析を行なってみる。なお、文献を含めてかなりの英文を読むのである程度の英語力が必要である。したがって、最初の授業で英語力のチェックテストを行なう。このテストを受けない者の受講は認めない。インターネットも多用するので、こちらも使えることが条件となる。		
使用教材	テキスト	未定 (最初の授業で発表)	
	参考文献	未定 (最初の授業で発表)	
評価方法	前・後期レポート (各々25%)、クラスでの発表 (30%)、出席及びディスカッション参加度 (10%)		
受講者に対する要望など	グループでの発表が重要となるので、キチンと出席し他のメンバーに迷惑をかけない人が望ましい。		



年  
間  
授  
業  
計  
画

1. はじめに：「自然な英語」の特徴とその攻略・分析の仕方〈ビデオ〉
2. 「自然な英語」と単語レベルの分析——その1  
基本語彙を攻略する
3. 「自然な英語」と単語レベルの分析——その2  
基本語彙を攻略する
4. 「自然な英語」と単語レベルの分析——その3  
応用語彙を攻略する
5. 「自然な英語」と単語レベルの分析——その4  
応用語彙を攻略する
6. 「自然な英語」と文レベルの分析——その1  
特に文構造を攻略する
7. 「自然な英語」と文レベルの分析——その2  
特に文機能・意味を攻略する
8. 「自然な英語」と談話レベルの分析——その1  
特に書き言葉を攻略する
9. 「自然な英語」と談話レベルの分析——その2  
特に話し言葉を攻略する〈ビデオ〉
10. コーパスの作り方と使い方  
書き言葉（新聞・雑誌・ペーパーバックなど）
11. コーパスの作り方と使い方  
話し言葉（日常会話・映画・劇など）〈ビデオ〉
12. インターネットを使った実習 〈コンピュータ室〉  
収集と分析そしてハンドアウト作り
13. 発表・ディスカッション  
日常生活全般——基本動作／概念／カテゴリー
14. 発表・ディスカッション  
日常生活——食事／仕事／ドライブなど
15. 発表・ディスカッション  
応用分野——学校／町／衣料品／住宅など
16. 発表・ディスカッション  
応用分野——医療／警察など
17. 発表・ディスカッション  
応用分野——航空／交通など
18. 発表・ディスカッション  
応用分野——軍事／法律など
19. 発表・ディスカッション  
応用分野——風俗／習慣など
20. 発表・ディスカッション  
応用分野——暗号／略号など
21. 発表・ディスカッション  
応用分野——歴史事情／文化背景など
22. 実際にシュミレーション化してみよう 〈コンピュータ室〉  
——海外旅行篇
23. 実際にシュミレーション化してみよう 〈コンピュータ室〉  
——海外留学篇
24. 「自然な英語」を踏まえた英語学習と英語教育の可能性〈ビデオ〉

科目名	専門講読2 (英語学) (93年度以降) 英語講読 (英語学) (92年度以前)	担当者名	大竹孝司
-----	---	------	------

講義の目標	<p>本講義は現代の音声学で最も知られた音声学者の1人である Ladefoged が書いた世界標準とみなされている教科書を通じて音声学の基礎知識を学ぶと共に各自が興味を持ったテーマを掘り下げてプロジェクトを企画することができるようになることを目指す。従来の音声研究は発音の研究というイメージが強かったが、今日の音声研究は言語学、心理学、工学など多くの研究領域で活発に展開されている。この授業では、人間が発話する音声の特性を調音音声学、音響音声学などの観点から科学的に研究する手法を身につけることを目指す。</p>		
講義概要	<p>本書は、調音音声学、音声記号、子音、母音、英語の単語或いは文レベルでの音声の特性、発音の基本的な仕組み、音響音声学、音声学と音韻論との違い、音節と超分節素などの内容を扱っている。通常の授業では、各自に割り当てた内容(約10頁程度)をワープロで纏めた上で発表し、その後討論の形式で進行させる。これにより精読、要約のまとめ方、口頭発表の仕方などを学ぶ。本書には多くの音声分析の問題が用意されており、一年間の学習を真面目に行えば、世界標準の音声学の基礎知識が得られるはずである。なお、この授業では受講者の人数にもよるがコンピュータによる音声分析を実際に学ぶことも予定している。</p>		
使用教材	テキスト	<p>"A Course in Phonetics" Third edition, Peter Ladefoged</p>	
	参考文献	<p>授業時に随時紹介する。</p>	
評価方法	<p>各自に割り当てた発表内容の質、授業への参加度、前後期各1回のプロジェクトの質の三点により評価をする。プロジェクトの内容は授業の中で各自が興味を持ったテーマを深めたものとし、教員と相談しながら進めて行く。</p>		
受講者に対する要望など	<p>音声学の基本的な考え方を理解しながら自らのテーマを見つけてプロジェクトを企画し、論文に仕上げるプロセスを身につけることを目指しているため積極的に学ぶ意欲のある学生に受講して欲しい。</p>		

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 授業全般の説明を行う。
2. 第1章 調音音声学Ⅰ
3. 第1章 調音音声学Ⅱ
4. 第2章 音声記号と音韻論Ⅰ
5. 第2章 音声記号と音韻論Ⅱ
6. 第3章 英語の子音Ⅰ
7. 第3章 英語の子音Ⅱ
8. 第4章 英語の母音Ⅰ
9. 第4章 英語の母音Ⅱ
10. 前期のプロジェクト
11. 第5章 英語の単語と文章の音声の特性
12. 第5章 英語の単語と文章の音声の特性
13. 第6章 音声の生成の仕組みⅠ
14. 第6章 音声の生成の仕組みⅡ
15. 第7章 音声の調音についてⅠ
16. 第7章 音声の調音についてⅡ
17. 第8章 音響音声学Ⅰ
18. 第8章 音響音声学Ⅱ
19. 第8章 音響音声学Ⅲ
20. 第9章 母音と半母音Ⅰ
21. 第9章 母音と半母音Ⅱ
22. 後期のプロジェクトについて
23. 第10章 音節と超分節素Ⅰ
24. 第10章 音節と超分節素Ⅱ

科目名	専門講読3 (英語学) (93年度以降) 英語講読 (英語学) (92年度以前)	担当者名	大西雅行
-----	---	------	------

講義の目標	音声学と音韻論の基礎を得る。		
講義概要	テキストは音声学と音韻論に関する入門書で、音に関する基本理論と実際に役立つ情報を読みやすい英語で書かれている。授業は輪読で進める。		
使用教材	テキスト	Peter Roach, "English Phonetics and Phonology", Cambridge University Press	
	参考文献		
評価方法	期末のテスト (2回)		
受講者に対する要望など	遅刻、欠席の多い者は遠慮願う。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. The syllable-1</li> <li>2. The syllable-2</li> <li>3. Strong and weak-1</li> <li>4. Strong and weak-2</li> <li>5. Syllabic consonants</li> <li>6. Stress in simple words-1</li> <li>7. Stress in simple words-2</li> <li>8. Complex word stress-1</li> <li>9. Complex word stress-2</li> <li>10. Weak forms</li> <li>11. Problems in Phonemic analysis-1</li> <li>12. Problems in Phonemic analysis-2</li> <li>13. Aspects of connected speech-Rhythm</li> <li>14. Assimilation</li> <li>15. Elision</li> <li>16. Linking</li> <li>17. Intonation-1</li> <li>18. Intonation-2</li> <li>19. The tone unit-1</li> <li>20. The tone unit-2</li> <li>21. Fall-rise and rise-fall tone</li> <li>22. Function of intonation</li> <li>23. Accentual functions</li> <li>24. Distinctive features</li> </ol>		

科目名	専門講読4 (英語学) (93年度以降) 英語講読 (英語学) (92年度以前)	担当者名	川崎 潔
-----	---	------	------

講義の目標	英語英文学を学ぶ者にとって、英訳聖書、特に The Authorized Version (1611年出版) は W. Shakespeare の戯曲と共に必読書と言えよう。AV は先行する英訳聖書の粹を集大成したものであり、それ以後信仰の書として読み続けられ、英米の文化と文学にも広く深い影響を与え、英語史家達からは「英語散文の金字塔」と言われるに至ったからである。授業ではその The Authorized Version からの抜粋を精読する。	
講義概要	テキストを語学的に精読することに重点をおきたいと思う。1611年出版ではあるが、その英語は概ね16世紀前半の英語を表わしていると言われる。これを現代英語訳聖書、例えば Revised Standard Version (新約1946、新旧両訳1952、外典1957) や New English Bible (新約1961、新旧両訳・外典1970) と読み比べることによって、両者の英語の違いを具体的に知ることができ、また RSV は AV の改訂訳なので、一種の注釈書としても役立つであろう。	
使用教材	テキスト	舟橋雄注解：“Readings From The Bible” (英訳聖書抄)、研究社、¥2200
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寺沢芳雄ほか『英語の聖書』富山房、1969</li> <li>・市河三喜『聖書の英語』研究社、1937</li> <li>・齋藤勇『文学としての聖書』研究社、1944</li> <li>・荒木一雄・宇賀治正朋『英語史Ⅲ A』、英語学大系第10巻、大修館、1984</li> <li>・井上良雄『山上の説教』新教出版社、1994</li> </ul>
評価方法	前期末と後期末にテストを行なう。	
受講者に対する要望など	授業に出席し、予習と復習を実行してもらいたい。	

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 授業への導入
2. Chapter I The Creation
3. Chapter I The Creation
4. Chapter II The Garden of Eden
5. Chapter II The Garden of Eden
6. Chapter XXVIII The Word Become Flesh
7. Chapter III Abraham, the Patriarch
8. Chapter III Abraham, the Patriarch
9. Chapter IV Joseph the Dreamer-I
10. Chapter V Joseph the Dreamer-II
11. Chapter VI Joseph the Ruler
12. 予備日
13. Chapter XXIV Psalms xix, xxiii
14. Chapter XXIV Psalms xlii, cxxxvii
15. Chapter XXXI The Sermon on the Mount
16. Chapter XXXI The Sermon on the Mount
17. Chapter XXXI The Sermon on the Mount
18. Chapter XXXII The Good Samaritan  
Chapter XXXIII The Prodigal Son
19. Chapter XXXVII The Garden of Gethsemane
20. Chapter XL The Greatest Thing
21. Chapter XXIX The Birth of Jesus
22. Chapter XXIX The Birth of Jesus
23. Chapter XXIX The Birth of Jesus
24. 予備日

科目名	専門講読5（英語学）（93年度以降） 英語講読（英語学）（92年度以前）	担当者名	清水 由理子
-----	---	------	--------

講義の目標	読解とはどのような言語活動なのかを論文を読んで学び、同時に実践をとおして効果的な読み方を身につけることを目的とする。		
講義概要	<p>授業時間の前半では、あらかじめ読んできた論文の内容について討論をし、後半では、それに関連した読解の活動を実際に行う。</p> <p>なお、量を多く読むためには、速く読むことが必要になるので、そのための基本的な速読訓練を前期に含める。そのほか、英語での読書の楽しさをも味わってほしいと思っているので、課外に易し目の本を何冊か読む予定である。</p>		
使用教材	テキスト	<p>プリントおよび下記の本を使用する。</p> <p>1) P. Carrell, J. Devine and D. Eskey: <i>Interactive Approaches to Second Language Reading</i>, CUP 2) <i>Timed Reading</i>, Jamestown</p>	
	参考文献	課外に読む本については授業中に指示する。	
評価方法	平常点（出席状況とレポートなど）と前期・後期の期末試験により評価を出す。		
受講者に対する要望など	<p>★第一回目の授業に必ず出席すること。</p> <p>★書籍代がかかると思っいてほしい。</p> <p>★授業内容は、毎回その前の授業内容の上に成り立っていくため、無断欠席をしないこと。</p>		

科目名	専門講読6 (英語学) (93年度以降) 英語講読 (英語学) (92年度以前)	担当者名	須賀川 誠 三
-----	---	------	---------

講義の目標	英語学・言語に関する評論文を読み、読解力・読書力を養うと共に、英語学・英文法などの基本的知識を身につけることを主要な目標とする。また、各種英語辞典・英語学辞典類を随時紹介し、これらの特色などに触れ、実際に使いこなせるようにする。		
講義概要	<p>本講義では、原著から今日の英語の運用に役立つ数章を選び読んでいく予定。これらの章を精読し、問題点を指摘していきたい。</p> <p>第1章 Our ever-changing language 変容する現代英語の諸相を描いたもの。</p> <p>第3章 The power and complexity of words 豊かな時代とことば、若者の影響、米語の影響を扱い、意味論的考察を加えたもの。</p> <p>第5章 Where usage is a problem 英語の慣用法の問題を論じたもの。 (各章の順序を入れかえて講義することもある。)</p>		
使用教材	テキスト	R. Quirk & Stein: <i>English in Use (An Introduction to Standard English)</i> (桐原書店版使用)	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ H. W. Fowler, rev. by E. Gowers: <i>A Dictionary of Modern Usage</i>. 2nd. ed. Clarendon Press, 1968.</li> <li>・ ジーン・エイチソン著/田中春美・田中幸子訳『入門言語学』金星堂</li> </ul>	
評価方法	評価は、前期・後期の試験と平常点による。出席は重視する。出席回数が著しく少ない場合には、試験の点数に拘わらず「不可」の評価になるので注意。		
受講者に対する要望など	順次発表していただくが、当たった人は責任を持って自分の分担を果たすこと。辞書・辞典類をよく引くこと。受講者は、第1回目の授業に必ず出席し学習上の指示を受けること。		



1. 受講承認の決定。授業内容方法の説明、参考書などの紹介。
2. Chap. 1. Our ever-changing language—Introduction pp. 7-8
3. Twentieth-century changes pp. 9-11
4. Standard of living, The impact of youth (前半) pp. 11-13
5. The impact of youth (後半) pp. 13-15
6. The influence of America (前半) pp. 15-17
7. The influence of America (後半) pp. 16-18
8. New sensibilities (前半) pp. 18-20
9. New sensibilities (後半) pp. 20-22
10. Tolerance with frankness pp. 22-24
11. Chap. 3. The power and complexity of words—Name and referent (前半) pp. 41-43
12. Name and referent pp. 43-45
13. Reality shaped by words pp. 45-46
14. Lexicalisation (前半) pp. 47-49
15. Lexicalisation (前半) pp. 49-51
16. The dynamic nature of meaning pp. 51-53
17. The dynamic nature of meaning pp. 53-55
18. The dynamic nature of meaning pp. 55-56
19. Chap. 5. Where usage is a problem pp. 83-85
20. Where usage is a problem pp. 85-88
21. Where usage is a problem—Shibboteths pp. 88-90
22. Where usage is a problem—Shibboteths pp. 90-92
23. Where usage is a problem—Our duty to our addressee pp. 92-95
24. Where usage is a problem—Avoiding ambiguity pp. 95-98

科目名	専門講読7 (英語学) (93年度以降) 英語講読 (英語学) (92年度以前)	担当者名	府川 謹也
-----	---	------	-------

講義の目標	言語学において比較的新しい認知言語学の基本的姿勢と方法論について平易な英語で解説した入門書を読む。		
講義概要	<p>ことばは恣意的で自律的な存在ではなく、人間の認知の営みによって動機づけられていて、その関わりの中でことばの有り様が説明されるという考え方およびその具体的な説明方法について説く。テキストの裏表紙の紹介を次に引用する。</p> <p><i>An Introduction to Cognitive Linguistics</i> explains the central concepts and the assumptions on which they are based in a clear and logical style, tracing their historical roots in linguistics and psychology. Chapters consider the mental process of categorization and its result, the cognitive categories which influence our use of words, the role of metaphor for understanding abstract concepts, and analyse attempts to define clause patterns, word classes and other aspects of syntax based on general cognitive principles. This text also brings together issues which have not originated in cognitive linguistic research, but have benefited from being put on a cognitive basis, namely iconicity, grammaticalization, lexical change and language teaching.</p>		
使用教材	テキスト	F. Ungerer & H. J. Schmid <i>An Introduction to Cognitive Linguistics</i> , Longman. 1996.	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川上誓作 (編) 『認知言語学の基礎』 研究社出版</li> <li>・山梨正明 『認知文法論』 ひつじ書房</li> <li>・吉村公宏 『認知意味論の方法：経験と動機の言語学』</li> <li>・巻下吉夫・瀬戸賢一 『文化と発想のレトリック』 研究社出版</li> <li>・John Taylor. <i>Linguistic Categorization</i>. Clarendon Press.</li> </ul>	
評価方法	2回の試験と平常点。		
受講者に対する要望など	4年生でも欠席については厳しいので注意すること。		

科目名	専門講読 8 (英語学) (93年度以降) 英語講読 (英語学) (92年度以前)	担当者名	安井美代子
-----	--	------	-------

講義の目標	生成文法の創始者である N. Chomsky のオリジナル論文を読むことにより、統語論の考え方、特に80年代の理論的枠組みを学ぶ。		
講義概要	150ページ程の論文を読む。比較的分かり易い部分は受講者に内容をまとめて発表してもらう。また、論文を読むだけでなく、具体的な統語分析も行なう。時間が許せば日英語比較統語論の論文もいくつか読む予定である。		
使用教材	テキスト	"Knowledge of Language" Chapter 3, N. Chomsky	
	参考文献	"Government and Binding Theory", L. Haegeman	
評価方法	授業時の発表、出席、及び前後期定期試験による。		
受講者に対する要望など	統語論 a, b の既習が望ましい。		

1. 講義の進め方、評価方法などについて
2. 3.1 A Model of Explanation
3. 3.2 Rule Systems
4. 3.3 Restricting the Variety of Rule Systems
  - 3.3.1 The Transformational Component
  - 3.3.2 The Phrase Structure Component
  - 3.3.3 General Principles of UG
5. 3.3.2 The Phrase Structure Component
6. 3.3.3 General Principles of UG
7. 3.3.3 General Principles of UG
8. 3.4 Explanation in a principles-and-Parameters Theory of UG
  - 3.4.1 Some Sample Cases
  - 3.4.2 Further Considerations on Empty Categories
9. 3.4.2 Further Considerations on Empty Categories
10. 3.4.2 Further Considerations on Empty Categories
11. 3.4.3 On the Abstract Representation of Arguments
12. 3.4.3 On the Abstract Representation of Arguments
13. 3.5 UG as a System of Principles and Parameters
  - 3.5.1 Some Problems Peconsidered
  - 3.5.1 Some Problems Peconsidered
  - 3.5.2 Modules of Grammar
    - 3.5.2.1 X-bar Theory
    - 3.5.2.2 C-command and Government
    - 3.5.2.3 Binding Theory
    - 3.5.2.3 Binding Theory
    - 3.5.2.4 Theta Theory
    - 3.5.2.5 Case Theory
    - 3.5.2.5 Case Theory
16. 3.5.2.3 Binding Theory
17. 3.5.2.3 Binding Theory
18. 3.5.2.4 Theta Theory
19. 3.5.2.5 Case Theory
20. 3.5.2.5 Case Theory
21. Paper on Comparative Syntax 1
22. Paper on Comparative Syntax 2
23. Paper on Comparative Syntax 3
24. Review

科目名	専門講読9 (英語学) (93年度以降) 英語講読 (英語学) (92年度以前)	担当者名	T. Hill
-----	---	------	---------

講義の目標	The purpose of this course is to provide an introduction to Second Language Acquisition theory (SLA). SLA is the study of the way in which people learn a language other than their mother tongue.		
講義概要	In this course we will read together the basic textbook, and students will engage in small group discussion on some of the leading issues in SLA.		
使用教材	テキスト	Second Language Aquisition (Introduction) Rod Ellis Oxford University Press	
	参考文献		
評価方法	Grades will be based on attendance, class participation and the writing of a number of papers.		
受講者に対する要望など	An intermediate to advanced level of English proficiency is required for this course.		

1. What is Second Language Acquisition?
2. Two case studies of SLA
3. Methodological issues
4. Error analysis
5. Developmental patterns
6. Variability in learner language
7. Interlanguage
8. Interlanguage as a stylistic continuum
9. The Acculturation Model
10. Discourse aspects of Interlanguage
11. First semester examination
12. The role of input and interaction
13. The role of output
14. Language transfer
15. The role of consciousness
16. Processing operations
17. Communication strategies
18. Typological universals and SLA
19. Universal grammar and SLA
20. The critical period hypothesis
21. Markedness
22. Individual differences
23. Classroom instruction and SLA
24. Final examination

科目名	専門講読 10 (イギリス文学) (93年度以降) 英語講読 (イギリス文学) (92年度以前)	担当者名	北澤 滋 久
-----	---	------	--------

講義の目標	<p>従来からこの授業の目標を、文学作品をどう読みいかに理解して、自己の感性に照らして心の糧とするかという点に置いている。言語芸術としての文学の表現の妙を味わい、象徴的意味を把握して、作家がそこに注ぎこんだテーマを吟味、解明、思考するのである。従って単に英文を日本文に読み替えて、それでこと足りるというわけにはゆかない。</p>		
講義概要	<p>今回のテキストは、D.H. Lawrence (1885-1930) の中期の傑作中編小説である。現代文明の崩壊を糾弾し、そこからの再生への道を模索する作品であるが、ギリシャ神話、さらにはエジプト神話を巧みに駆使しているので、登録にあたってはこの点をとくに注意されたい。ニーチェの区分する、アポロ的精神とディオニソスの精神の概念ぐらひは、予め把握していることが必要であろう。覚悟の上で味読すれば、現代にも密接な作家独自の思想が美しい構成のなかからひしひしと伝わってきて、興味の尽きぬ感銘を得られることであろう。</p>		
使用教材	テキスト	D. H. Lawrence, "The Ladybird"	
	参考文献	<p>北澤滋久、『『てんとう虫』購読 序説』及び『『てんとう虫』購読』、『獨協大学英語研究』第46号～第48号</p> <p>北澤滋久、『D. H. ロレンス：その文学と人生』、墨水書房</p>	
評価方法	平常点・前後期の試験・夏休みの小論文において評価する。		
受講者に対する要望など	<p>文字どおりの「専門」購読である。上記の趣旨に賛同・納得の学生のみ参加を切に求めている。単に単位取得だけを目的とすることはこの授業では無理であるばかりではなく、真面目な受講者の邪魔ともなるのでご遠慮願いたい。開講初日の欠席者は、理由のいかんを問わず絶対に受講を認めないことは当然である。なお、参考文献を予め垣間見てのちの登録が望ましい。</p>		

科目名	専門講読 11 (イギリス文学) (93年度以降) 英語講読 (イギリス文学) (92年度以前)	担当者名	児嶋 一男
-----	---	------	-------

講義の目標	英文を精読すること。戯曲テキストから会話の英語表現を学ぶこと。舞台上で交わされる話し言葉を意識して、訳の日本語表現を考えること。一回に約10ページずつ進んで、英文を読む量を増やすこと。作品の普遍性を考えながら戯曲というひとつの文学作品を解釈すること。		
講義概要	『ブラッド・ブラザーズ』は、日本では柴田恭兵が7歳から20代の青年までを演じて話題となり、過去に繰り返し再演された作品。『オペラ座の怪人』は全世界で大ヒットしている作品。共に1997年12月現在、ロンドンにおいてロングランを続けているミュージカル。両作品が世界で受け入れられる理由を考えながら、ロール・プレイ形式で読み続けていきます。		
使用教材	テキスト	<i>Blood Brothers</i> (新水社)、 <i>The Phantom of the Opera</i> (未定)	
	参考文献	授業中に話す。	
評価方法	毎回の簡単な vocabulary テスト。前期・後期の定期試験。前期・後期の観劇レポート。		
受講者に対する要望など	第一回目の授業で <i>Blood Brothers</i> の最初の 5 ページを読んで、簡単な vocabulary テストを行うので、予習して出席すること。		



科目名	専門講読 12 (イギリス文学) (93年度以降) 英語講読 (イギリス文学) (92年度以前)	担当者名	近藤 ヒカル
-----	---	------	--------

講義の目標	ウィリアム・シェイクスピアの「あらし」は、彼の死後1623年に出版された最初の戯曲全集ファースト・フォリオ版で初めて版になった。その全集の冒頭に置かれたものだが、これがシェイクスピアの事実上の最後の戯曲となったのである。「私は魔法の杖を折り、魔術書を海に沈めよう」—シェイクスピアの分身であるプロスペロウの言葉を味わってみる。		
講義概要	最近の日本のシェイクスピア劇はいずれも奇矯に変形されて演じられているが、シェイクスピア本来の台詞だけはそのままである。それ程シェイクスピアの言葉は戯曲の生命そのものなのである。とくに初期近代英語という古語で書かれているので、授業では原文の精読と文法的な解釈をする。		
使用教材	テキスト	William Shakespeare: <i>The Tempest</i> (Arden 版)	
	参考文献	E. A. Abbott: <i>A Shakespearian Grammar</i> その他注釈書がシェイクスピア研究の最良の手引書である。	
評価方法	前・後期の定期試験により評価する。出席を絶対条件とする。		
受講者に対する要望など			

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 1幕1場 嵐の海上の船中
2. 1幕2場 孤島の Prospero 親子
3. 1幕2場 孤島の Prospero 親子
4. 1幕2場 孤島の Prospero 親子
5. 1幕2場 孤島の Prospero 親子
6. 1幕2場 孤島の Prospero 親子
7. 1幕2場 孤島の Prospero 親子
8. 1幕2場 孤島の Prospero 親子
9. 1幕2場 孤島の Prospero 親子
10. 1幕2場 孤島の Prospero 親子
11. 1幕2場 孤島の Prospero 親子
12. 2幕2場 島の Caliban
13. 2幕2場 島の Caliban
14. 2幕2場 島の Caliban
15. 3幕1場 Ferdinand と Miranda
16. 3幕1場 Ferdinand と Miranda
17. 3幕3場 Naples 王の一行
18. 3幕3場 Naples 王の一行
19. 5幕1場 Prospero の岩屋の前
20. 5幕1場 Prospero の岩屋の前
21. 5幕1場 Prospero の岩屋の前
22. 5幕1場 Prospero の岩屋の前
23. 5幕1場 Prospero の岩屋の前
24. 5幕1場 Prospero の岩屋の前および Prospero の Epilogue

科目名	専門講読 13 (イギリス文学) (93年度以降) 英語講読 (イギリス文学) (92年度以前)	担当者名	珍 田 弥一郎
-----	---	------	---------

講義の目標	詩とことばの観念をくつがえすこと。詩は〈詩〉ではなく、ことばは〈言葉〉でないこと、およびなぜそうなるのかについて。	
講義概要	上に述べたことを実行するためには足掛かりがなければならない。それがテキストである。一編の詩の一語から、それを読むわれわれから、詩とことばの問題ははじまる。その快楽と地獄の入口へ案内すること。	
使用教材	テキスト	『英米抒情詩の珠玉』(改訂版) 佐藤・徳永編 英潮社
	参考文献	
評価方法	授業における発言と議論、それに年2回の定期試験による。	
受講者に対する要望など	自分の考えを明確に述べよ。	

科目名	専門講読 14 (イギリス文学) (93年度以降) 英語講読 (イギリス文学) (92年度以前)	担当者名	長谷部 加寿子
-----	---	------	---------

講義の目標	シェイクスピアの劇作品を、立体的に劇として研究する。		
講義概要	<p>4 大悲劇の最初の作品で喜劇時代から悲劇時代への移行の特徴を兼ね備え、いつの時代にもポピュラーな作品である。人間の原型とも言える人物がハムレットであり、時代を映す鏡としてこの作品は常に新しい。</p> <p>授業の進め方は、グループ毎に短いシーンを演じて、原文の解釈、演技について研究発表し、クラス討論する。</p>		
使用教材	テキスト	William Shakespeare: <i>Hamlet</i>	
	参考文献	テキストは、どの版でも可。各自購入の事。辞典、参考書等は最初の授業の時に話す。	
評価方法	年2回原文での演技を行い、その演出論と批評論を提出する。及び年1回の「『ハムレット』論」を発表し、その論文提出を評価の対象とする。		
受講者に対する要望など			

科目名	専門講読 15 (イギリス文学) (93年度以降) 英語講読 (イギリス文学) (92年度以前)	担当者名	林 節 雄
-----	---	------	-------

講義の目標	英会話初・中級のレベルを超えた人は、しっかりした内容のある、洗練されたスタイルの文章を研究するとよい。イギリスの高校で「国語」のテキストに使用された本を用い、その中の現代英・米の才能ある作家たちのストーリーの文章を研究し、そこに表現されている現代人の心—大人や子供の—を考え、ひいては我々自身の英語表現力を豊かにすることを目的とする。		
講義概要	毎回5頁程度を読むこととし、前もって指名された学生数名が発音、意味、表現の問題点を指摘し、質問を受け、私が解説する。なるべく多くの学生に意見を聞く。特に現代人の微妙な心の表現の仕方に注意したい。		
使用教材	テキスト	D. R. Barnes ed., <i>Short Stories of Our Time</i> (Nelson/Harrap) (入手困難なのでコピーを配布する。)	
	参考文献	必要に応じ授業中に紹介する。	
評価方法	前後期の定期試験と授業への参加度により評価する。		
受講者に対する要望など	<i>Time</i> , <i>Newsweek</i> , 英字新聞などを自分でいつも読み、読解力を身につけておくことが望ましい。		

1. 上記「講義概要」に述べた手続きで、テキストの最初から Bernard Malamud, Katherine Mansfield と順を追って読んでいく。

- 2. 同上
- 3. 同上
- 4. 同上
- 5. 同上
- 6. 同上
- 7. 同上
- 8. 同上
- 9. 同上
- 10. 同上
- 11. 同上
- 12. 同上
- 13. 同上
- 14. 同上
- 15. 同上
- 16. 同上
- 17. 同上
- 18. 同上
- 19. 同上
- 20. 同上
- 21. 同上
- 22. 同上
- 23. 同上
- 24. 同上

科目名	専門講読 16 (イギリス文学) (93年度以降) 英語講読 (イギリス文学) (92年度以前)	担当者名	藤田永祐
-----	---	------	------

講義の目標	<p>昨年度用いたところ好評でした(?)ので、今回は後半部、夏、秋篇を使います。自然鑑賞にしても、社会や人生の回顧にしても、しみじみと深くこくのある文章で、くり返し読んでも決してあきることがありません。</p> <p>鑑賞を通しての読解力と英語を駆使する能力の養成が授業の眼目。</p>	
講義概要	<p>形式は単なる講読。単語・語句・文章の把握の深さを要求する点が慣習的な講読と異なると思います。単語・文章のほかの表現による言い換え、文章の技巧の分析をとり入れます。</p>	
使用教材	テキスト	G. ギッシング『ヘンリー・ライクロフトの私記』
	参考文献	授業中に指摘する
評価方法	平常点と二回のテスト	
受講者に対する要望など	積極性、予習と復習	

科目名	専門講読 17 (イギリス文学) (93年度以降) 英語講読 (イギリス文学) (92年度以前)	担当者名	三好 健
-----	---	------	------

講義の目標	<p>言わずとした名探偵、ご存知シャーロック・ホームズ。推理小説の原点とも言うべき彼の物語は、謎解きの論理性はさておいても、その品の良さと物語の簡潔さと主人公達の愛すべき人柄の点で、一世紀を隔てた今日でもなお、読者を魅了してやみません。この冒険物語の傑作を読むことによって、まづ英語を楽しんで読むことをおすすめしたいのです。そして作者 Conan Doyle (1859~1930) の達意の文章を通して、表現力の養成にも役立てられたら、と考えています。</p>		
講義概要	<p>英語の表現に注意を払い、正確に読むことを心がけて精読し、途中味わうべき点や表現力養成に役立つような箇所を、指示します。1回に7ページぐらいのスピードで進みますが、随時学生諸君に発言を求めするので、下調べが必須となります。</p>		
使用教材	テキスト	Sir Arthur Conan Doyle: The Adventures of Sherlock Holmes (英光社)	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シャーロック・ホームズ解説百科 (河出書房)</li> <li>・名探偵ホームズの世界 (国土社)</li> <li>・真説シャーロック・ホームズ (講談社) など</li> </ul>	
評価方法	<p>平常の成績と前・後期の2回の試験による。</p>		
受講者に対する要望など	<p>遅刻・欠席の好きな学生はおことわり。 受講希望者は1回目の授業に必ず出席して名前を届けること。</p>		



科目名	専門講読 18 (イギリス文学) (93年度以降) 英語講読 (イギリス文学) (92年度以前)	担当者名	山田 修
-----	---	------	------

講義の目標	普段読んだことのないスコットランドの作家を読み、何気なく手にした作品についてひきこまれて、終わりまで読んでしまうような読書エンジョイしてもらえればよい。		
講義概要	スコットランド作家の短篇を数編読む。諸君にとっては知らない作家ばかりかもしれない。		
使用教材	テキスト	・プリント	
	参考文献		
評価方法	前・後期の試験及び平常点にて評価する。		
受講者に対する要望など	受講希望者は最初の時間に出席して、受講許可を必ずとること。プリントはその時配布する。		
年間授業計画	1. 毎回 3～4 ページ 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24.		

科目名	専門講読 19 (イギリス文学) (93年度以降) 英語講読 (イギリス文学) (92年度以前)	担当者名	山田 玲子
-----	---	------	-------

講義の目標	<p>シェイクスピアの悲喜劇のジャンルに属する秀作を読みながら、シェイクスピア劇がもっている特質を、学生たちが感取出来るようになること、その事を目標とする。</p> <p>語を正確に読みとること、それを抜いて鑑賞はあり得ない。その事を実践する。</p>	
講義概要	<p>テープを聞き、学生各自がパートを採って訳読するが、台本というものをテキストにしていることを常に忘れず、そこに書かれていない側面にまで気づき得るような目を育てられれば、それは戯曲を読むということの意味が半ば達成された事かもしれない。</p> <p>1610年から11年、シェイクスピアが46歳の頃に書かれた『冬物語』は、人工と自然のテーマをかかえている。自然に手を加えること〈人工〉を、大きな意味での〈自然〉とみなす主題は、言葉をかえれば、劇が志向する〈愛の調和〉にも重なるだろう。年度末にこの事に気づいていただければ嬉しい。</p>	
使用教材	テキスト	William Shakespeare: <i>The Winter's Tale</i> (The Kenkyusha Shakespeare)
	参考文献	<p>テキストの注は詳しい。しかし語、或は、文法にこだわる時には、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1. A. Schmidt, <i>Shakespeare-Lexicon</i>, 2 vols., Reimer, rep. Maruzen</li> <li>・2. C. T. Onions, <i>A Shakespeare Glossary</i>, Oxford U. P., rep. Kinokuniya</li> <li>・1. E. A. Abbott, <i>A Shakespearian Grammar</i>, Macmillan, rep. Senjo</li> <li>・2. 大塚高信『シェイクスピアの文法』研究社</li> </ul> <p>他に参考図書については教室で述べる。OEDについても述べる。</p>
評価方法	年に二度の試験と、一度の観劇レポートの提出、及び、平常の授業への参加の態度による。	
受講者に対する要望など	精読に耐えうる根気と、努力を惜しまぬ態度が望まれる。	

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. オリエンテーション
2. I幕i場～I幕ii場
3. I幕ii場
4. I幕ii場
5. I幕ii場
6. II幕i場
7. II幕i場～II幕ii場
8. II幕iii場
9. II幕iii場～III幕i場
10. III幕ii場
11. III幕ii場～III幕iii場
12. III幕iii場～IV幕ii場
13. IV幕iii場
14. IV幕iii場～IV幕iv場
15. IV幕iv場
16. IV幕iv場
17. IV幕iv場
18. IV幕iv場
19. V幕i場
20. V幕i場～V幕ii場
21. V幕ii場
22. V幕iii場
23. V幕iii場
24. まとめ

科目名	専門講読 20 (英・米文学) (93年度以降) 英語講読 (英・米文学) (92年度以前)	担当者名	E. Carney
-----	---	------	-----------

講義の目標	This course aims to encourage students read good short stories for study, vocabulary learning, and for sheer pleasure.		
講義概要	The stories are chosen for their active ingredients: thought-provoking, stimulating, and educational. Students will be encouraged to discuss the material and should be able to meet a challenge quizon each story. We are also concerned with the writer's style, technique, and reader appeal.		
使用教材	テキスト	・ Short story prints: Roald Dahl, Stephen King, Ray Bradbury, and others.	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Dahl's "The Visitor", "Bitch", "The Great Grammatizator, etc."</li> <li>・ King's "Quitters", "Mrs. Todd's Shortcut", "The Ledge", etc.</li> <li>・ Bradbury's "The Martian Chronicles", etc.</li> </ul>	
評価方法	(There will be a short quiz and essay to select applicants.) Tests are accumulative results of story quizzes		
受講者に対する要望など	The stories used are not simplified and are not in any way "treated" for student readers.		

科目名	専門講読 21 (アメリカ文学) (93年度以降) 英語講読 (アメリカ文学) (92年度以前)	担当者名	秋山武夫
-----	---	------	------

講義の目標	アメリカを文学を通して比較文化の立場から現代のアメリカを概観してみたい。	
講義概要	移民の国アメリカのかかえている葛藤を考え、論じあいたい。原住民インディアンの現状、黒人の苦悩、日本、中国、イギリス、ドイツなどさまざまな国から移民した人々の異文化体験、一世と二世の葛藤、日系アメリカ人の太平洋戦争時の苦難等の文章（短編小説、詩、エッセイ）を読んでいく。	
使用教材	テキスト	・ <i>Crossing Cultures</i> by Henry and Myra Knepler (ed.) のプリントを使用する。
	参考文献	
評価方法	出席、提出レポート、及びテスト	
受講者に対する要望など		

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. Henry Mark Petrakis, "Barba Nikos"
2. Marcus Mabry, "Living in Two Worlds"
3. Alfred Kazin, "The Kitchen"
4. Malcolm X, "Hair"
5. Jeanne and James Houston, "Arrival at Manzanar"
6. Dwight Okita, "In Responce to Executive Order 9066"
7. Michel St. Jean de Crivecoeur  
"What Is an American?"
8. Alistair Cooke, "The Huddled Masses"
9. Joseph Bruchac, "Ellis Island"
10. Mark Salzman, "Teacher Mark"
11. George Orwell, "Shooting an Elephant"
12. Ian Buruma, "Conformity & Individuality in Japan"
13. Laura Bohannon, "Shakespeare in the Bush"
14. Robin Lakoff, "You Are What You Say"
15. Jack Shabean, "The Media's Image of Arabs"
16. Donna Cross, "Sin, Suffer and Repent"
17. Bernard Malamud, "The German Refugee"
18. Alan Devenish, "After the Beep"
19. Christopher Columbus, "Journal of Discovery"
20. Michael Dorris, "For the Indians, No Thanksgiving"
21. Piri Thomas, "Alien Turf"
22. Bette Lord, "Walking in Lucky Shoes"
23. Brent Staples, "Night Walker"
24. Walter White, "I Learn What I Am"

科目名	専門講読 22 (アメリカ文学) (93年度以降) 英語講読 (アメリカ文学) (92年度以前)	担当者名	岡田 誠一
-----	---	------	-------

講義の目標	アメリカ黒人文学の背景となっている。黒人文化の流れを学ぶのが、この講義の目標である。絵、諷刺画、写真、新聞雑誌記事などが豊富に掲載されている本をテキストとして使う予定。毎週、細かいところまで、英文をじっくり読んでいく。将来役立つ様な英語力を培うことを目指す授業でもある。		
講義概要	19世紀から20世紀初頭にかけて南部で盛んに行われたリンチの様子、かの有名なジョン・ブラウンとはどういう人だったのか、ヨーロッパで第一次大戦に参加した黒人たちは精神的にどう変わったか。その他、アメリカ黒人の文化には、我々日本人に知られていないことがたくさんある。そして、これらを知らなければ、アメリカ黒人文学を十分に理解することはできない。昨年度に引き続き今年度も、このような文学の背景を学んでいく予定、なお、アメリカ文学を知るための一助として、年間数本の米文学・文化に関する映画を鑑賞する計画である。		
使用教材	テキスト	プリントを使用する予定。	
	参考文献	最初の授業に教室にて指示。	
評価方法	評価は前後期の試験と出席状況、及び、どの程度予習して授業に臨んだか、などによって決定される。		
受講者に対する要望など	毎回当たるものと考え、必ず予習をして授業に出ること。 前年度からの継続であるが、初めて聴講することも十分可能である。		

1. デュボイス博士のナイヤガラ運動と新しい黒人解放運動
2. 黒人がミュージカル劇場に初めて出演
3. 黒人自身による黒人史の研究
4. 20世紀初頭の南部における黒人暴動とリンチ
5. 1906年デュボイス博士らがナイヤガラで会合を開く
6. イリノイ州スプリングフィールドで起こったリンチ事件に抗議しN. A. A. C. P. 誕生す
7. 第一次大戦で黒人兵が受けた差別
8. 第369連隊がヨーロッパに初めてジャズを紹介
9. 1915年、3K団が再び活発な動きを示し始める。彼らの的は黒人だけではなかった
10. 北部の大学が生んだ黒人の学者たち
11. Last Hired, First Fired. とはどのような意味か。1929年の大不況と黒人
12. 政府の救済策に依存する黒人たち。ファーザー・ディヴァインの活躍
13. フランクリン・ルーズヴェルトが大統領に選ばれる。黒人も政府機関で要職に
14. 連邦政府の計画によって、若い黒人が熟練を要する職に就く
15. ヘビー級チャンピオンのジョー・ルイスは、偉大なボクサーだったばかりではない
16. 黒人街で白人の経営する店に対して不買運動が
17. 第二次大戦では百万人以上の黒人兵が
18. 第二次大戦で活躍した黒人兵
19. 南部の黒人が北部や西部の都会に移住す。彼らに移り住んでくるのを嫌う白人たち
20. ジム・クロウとは何か。南部における様々な場所での差別
21. アメリカの紳士録には沢山の黒人の名前が
22. 再建時代以来、南部では黒人に投票権は与えられなかった。だが、新しい動きが
23. 高等学校で黒人差別待遇廃止が行われる
24. ディープ・サウス（深南部）は恐ろしい。次々に残虐な殺人



科目名	専門講読 23 (アメリカ文学) (93年度以降) 英語講読 (アメリカ文学) (92年度以前)	担当者名	香 取 豊
-----	---	------	-------

講義の目標	小説を通して情感を養う事ができ、また対話を通して人の世の複雑さを感じ得ることが出来ればと、思います。		
講義概要	一つの小説を語学を中心に読みますが、結局は一つの文学作品として扱うこととなります。		
使用教材	テキスト	未定ですが20世紀のアメリカ小説。	
	参考文献		
評価方法	学生が訳読をあてられた時の状況、出席状況、及び試験の結果などを総合して評価します。		
受講者に対する要望など	出来る限り多く出席することと、授業の予習を望んでいます。		
年間授業計画	テキストの小説を中心に、一定の範囲を学生にあてて訳させ、加えるべき説明をしていきます。同じ形式の進め方で学生の能力に応じて随時判断していきます。		

科目名	専門講読 24 (アメリカ文学) (93年度以降) 英語講読 (アメリカ文学) (92年度以前)	担当者名	島田啓一
-----	---	------	------

講義の目標	この小説は1950年当時のアメリカでマッカーシズムが吹き荒れた時代の北西部の州立大学を舞台に繰り広げられる。閉鎖的で学問的に墮落した英文科に東部 (New York) から赴任してきた30歳のユダヤ系の英作文講師 Seymour Levin が主人公である。彼の Cascadia College (作者が英作文講師として10年あまり働いた Oregon State University がモデルとなっている) での1年間の生活を通して、停滞した英文科の改革への挑戦、同僚の妻との不倫の顛末などが描かれている。この悲喜劇的小説の技巧や主題を質問表に基づく討論を通じて考えていく。		
講義概要	本書は300ページ以上あるので、毎週15ページ弱のペースで読んでいきたい。授業は前の週までに配布する各章の内容に関する質問表をもとに進めていく。授業の前までにその週の範囲を読み、質問表に答えられるよう予習をすることが義務づけられる。授業では質問表をもとに質疑応答・討論を進めていくが、積極的に討論に参加することが望まれる。作品に関するミニ・レポートを数回提出してもらってもいいかも知れない。詳細は島田ゼミホームページ ( <a href="http://www.dokkyo.a.c.jp/~skzemi/">http://www.dokkyo.a.c.jp/~skzemi/</a> ) にこの授業のページを作成するので参照すること。		
使用教材	テキスト	Bernard Malamud, <i>A New Life</i> (Penguin Books, 1961)	
	参考文献	岩本巖、『マラッド：芸術と生活を求めて』(冬樹社、1979) Leslie and Joyce Field, eds., <i>Bernard Malamud and the Critics</i> (New York Univ. Press, 1970) Jeffrey Helterman, <i>Understanding Bernard Malamud</i> (Univ. of South Carolina Press, 1985)	
評価方法	前期・後期の定期試験 (80%)、ミニ・レポートや討論への貢献度 (20%) の予定。		
受講者に対する要望など	テキストは duo に10部程度発注するが、売り切れの場合は洋書店で各自が購入すること。		

科目名	専門講読 25 (アメリカ文学) (93年度以降) 英語講読 (アメリカ文学) (92年度以前)	担当者名	原 成 吉
-----	---	------	-------

講義の目標	英語によって書かれた現代詩をとおして日本を含めた環太平洋文化圏を考える。		
講義概要	アメリカの現代詩を代表する詩人ゲーリー・スナイダー (b. 1930) の長篇詩『終わりなき山河』(1997年度ポリゲン賞受賞)をとおして、地域生態主義 (Bioregionalism) の可能性や禅、チベット仏教、そしてネイティブ・アメリカの自然観を考える。エコロジーが日常レベルの問題となったいま、自然と人間の関係を、ヨーロッパ=ユダヤ・キリスト教=男性中心の視点からではなく、「多文化主義」(multiculturalism) の立場から検討する。あるイタンヴェューで「いまいちはん差し迫った環境問題は何か?」という問いに対してスナイダーは、「まず、心と魂の喪失だろうね。いまこの世界の中で生きているという感覚の欠如、本当に豊かであると、地球とはガイア (生命ある惑星) であり、女神であるという認識の欠如こそ、最大の問題」と答えている。このクラスでは、ガイアとの触れ合いから生まれた彼の詩を読み、レポーターを中心にディスカッション形式で進める。		
使用教材	テキスト	Gary Snyder, <i>Mountains and Rivers</i> (Washington D. C.: Counterpoint, 1996)	
	参考文献	Patrick Murphy, <i>Understanding Gary Snyder</i> (Columbia; S. C.: Univ. of South Carolina Press, 1992), 『スナイダー詩集』(思潮社), 『野性の実践』(東京書籍)	
評価方法	授業への参加度と年2回のレポート (ワープロで4,000字程度の作品論、または詩人論) で決める。欠席は授業回数の4分の1 (6回を限度とする。)		
受講者に対する要望など	英語力と想像力のマッサージのつもりで授業に参加してほしい。		

科目名	専門講読 26 (アメリカ文学) (93年度以降) 英語講読 (アメリカ文学) (92年度以前)	担当者名	升 水 一 三
-----	---	------	---------

講義の目標	Fitzgerald, Dos Passos など20世紀前半のアメリカ文学に目立つ「失われた世代」の作家たち。とりわけ Earnest Hemingway は machismo が許容され称揚された時代への郷愁もあってか、今日なお話題にされることが多い。第一次大戦後の社会背景を概観しながら、いま Hemingway を読む意味を探ってみたい。		
講義概要	Hemingway の代表作「日はまた昇る」「武器よさらば」「誰がために鐘は鳴る」「老人と海」などからの抜粋、および数多くの短篇の中から数篇を選んで読む。 教材、資料はなるべくプリントで用意する予定。		
使用教材	テキスト	年度頭初に指示する。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Carlos H. Baker Hemingway; <i>the writer as Artist</i> Princeton</li> <li>・ Malcolm Cowley Hemingway Viking</li> <li>・ James R. Mellow Hemingway; <i>A Life Without Consequences</i></li> <li>・ Kenneth S. Lynn Hemingway Harvard</li> <li>・ 佐伯彰一編 E. HEMINGWAY 研究社</li> </ul>	
評価方法	授業への積極性。小テスト、および前期・後期のテストなどによる。		
受講者に対する要望など			

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 講義の概要、および教材の説明。プリント資料の配布。
2. アメリカ文学概観Ⅰ。教材のプリントによる。(以下同様)
3. アメリカ文学概観Ⅱ。
4. アメリカ文学概観Ⅲ。
5. Hemingway の作品の訳読、解説。
6. Hemingway の作品の訳読、解説。
7. Hemingway の作品の訳読、解説。
8. Hemingway の作品の訳読、解説。
9. Hemingway の作品の訳読、解説。
10. Hemingway の作品の訳読、解説。
11. Hemingway の作品の訳読、解説。
12. Hemingway の作品の訳読、解説。前期テストの説明。
13. 前期テストの反省と講評。後期の授業計画。教材プリントの配布。
14. Hemingway の作品の訳読、解説。
15. Hemingway の作品の訳読、解説。
16. Hemingway の作品の訳読、解説。
17. Hemingway の作品の訳読、解説。
18. Hemingway の作品の訳読、解説。
19. Hemingway の作品の訳読、解説。
20. Hemingway の作品の訳読、解説。
21. Hemingway の作品の訳読、解説。
22. Hemingway の作品の訳読、解説。
23. Hemingway の作品の訳読、解説。
24. 今年度の講義の反省。後期テストの説明。

科目名	専門講読 27 (アメリカ文学) (93年度以降) 英語講読 (アメリカ文学) (92年度以前)	担当者名	村松美映子
-----	---	------	-------

講義の目標	Raymond Carverはわずか28年間の作家生活に、数十篇の短編小説を残した。そして、アメリカだけでなく世界各国の現在活躍中の作家や芸術家に影響を与え続けている。作品の共通した特徴として、ありふれた設定、断片的なあたり、結論を与えない終わり方が挙げられるため、Raymond Carverは、「ミニマリズム作家」の旗手と評されている。また、彼の卓越した情景描写力に注目すれば、「フォトリアリスト」と考えることもできるであろう。本講義の前半は、晩年の集大成ともいべきCathedralを扱い、Raymond Carverの鋭い観察眼と描写力を考えていく。後半は評論の読み、作品の理解を深める。		
講義概要	毎回、作品の読み方やポイントを記した Study Guide を配布する。講義と作品の精読に加え、グループ・ディスカッションとプレゼンテーションを中心に授業を進行する。		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Raymond Carver <i>Cathedral</i> (New York: Vintage Contemporaries, 1989)</li> <li>・ Raymond Carver <i>Fires</i> (New York: Vintage Contemporaries, 1989)</li> </ul>	
	参考文献	関連の書評や論文は授業中に配布予定。	
評価方法	前期後期試験（持ち込み自由 エッセイタイプ）に加え、授業の貢献度を総合的に評価する。		
受講者に対する要望など	読みやすい作品なので、基本的に各作品は授業前に読んできてほしい。		

年 間 授 業 計 画	1. Raymond Carv について
	2. "Feathers" (講読形式)
	3. "Feathers" (講読形式)
	4. "Feathers" (講読形式)
	5. "Chefs House" (グループ・ディスカッション)
	6. "Chefs House" (プレゼンテーション)
	7. "Preservation" (グループ・ディスカッション)
	8. "Preservation" (プレゼンテーション)
	9. "The Compartment" (グループ・ディスカッション)
	10. "The Compartment" (プレゼンテーション)
	11. "A Small, Good Thing" "The Bath (プリント教材)" (グループ・ディスカッション)
	12. "A Small, Good Thing" "The Bath (プリント教材)" (プレゼンテーション)
	13. "Vitamins" (グループ・ディスカッション)
	14. "Vitamins" (プレゼンテーション)
	15. "Fever" (グループ・ディスカッション)
	16. "Fever" (プレゼンテーション)
	17. "Cathedral" (グループ・ディスカッション)
	18. "Cathedral" (プレゼンテーション)
	19. "My Father's life" (講読形式)
	20. "On Writing" (講読形式)
	21. "On Writing" (講読形式)
	22. "Fires" (グループ・ディスカッション)
	23. "Fires" (プレゼンテーション)
	24. "John Gardner: The Writer as teacher" (講読形式)

科目名	専門講読 28 (アメリカ文学) (93年度以降) 英語講読 (アメリカ文学) (92年度以前)	担当者名	吉元清彦
-----	---	------	------

講義の目標および概要	<p>今日、われわれは「戦術的」「戦略的」につくりだされるさまざまな音声や映像によるいわゆる「文化現象的風俗」の只なかにあって、昼夜を問わず絶えずもろもろの情報伝達メディアを通して送り出されてくるおびただしい数・量の有益・無益・無害・有害なメッセージ群の洪水に対して明るく暗い、楽しく苦しい悪戦苦闘を強いられながら「退屈しない」一日一日を「生きている」(?) ののであろうか? そして一方で、たとえば、あいかわらずこの地球上から「戦争」という悲惨な愚行もなくなるということはなく、あいかわらずわれわれはいつでもどこでも殺しあい傷つけあう。(——なぜ? ナゼって?)</p> <p>そういった苛酷な現代の状況からけっしてひとりまぬがれた例外的な存在として許されるはずのない「大学」というシステムの時間・空間の中で、われわれは人間の言葉による表現芸術としての「文学」作品に対する。文学テクストを読む(読み解く)のである。</p> <p>だが、「読む」とはどういうことなのか? 「作品」と、メッセージとしてのその作品の発し手たる作者と、そしてそれを受けとる側の読者であるわれわれの関係とは、それははたしてどのようなものであるのか。そしてまたどのような関係であるべきなのだろうか。</p> <p>文学テクストから何を読みとり、何を感じとり、そしてそれらをどのように受けとめるのか。そしてそれらの考察・検証の過程や結果を、発見や感動(喜怒哀楽)を、もしくは疑問なり問題なり反論なりを、言葉で表現(討論・論文)し、つまり「批評」行為というある域にまで高めていくことが当然のごとく求められてくるだろう。</p> <p>けっきょく、読み手の「読む」という行為がいかに意志的・主体的なものであり、どれだけの切実性を内包しているのかが問われるのであろう。</p> <p>すなわち、読む(もしくは、書く)ということの意味と「生きる」ということのそれとの関係性(表裏一体性)がきびしく問われることになる。したがって、ここまでの到達(認識)過程において、もしなんらかの不一致・欠落部分があるとすれば、そのときはお互いにただちに出発点に立ちかえり、もう一度最初から出なおすほかに方法はないのである。</p>		
使用教材	テキスト	<p>John Updike: <i>Rabbit at Rest</i> (1990)</p> <p>(どの edition でも可)</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ John Updike: <i>Rabbit, Run</i> (1960)</li> <li>・ John Updike: <i>Rabbit Redux</i> (1971)</li> <li>・ John Updike: <i>Rabbit is Rich</i> (1981)</li> <li>・ Donald J. Greiner: <i>John Updike's Novels</i>, Ohio University Press, Athens, Ohio London, 1984.</li> <li>・ Marcus Cunliffe: <i>The Literature of the United States</i>, Fourth Edition, Penguin Books, 1954, 1991. etc.</li> </ul>	
評価方法	<p>平常点(授業時間内の発表および前・後期各1、2回のテスト)と、前期はレポート提出(締切日夏休み明け)、後期は筆記試験、による総合評価方式。</p>		
受講者に対する要望など	<p>1回目の授業でいろいろ説明したいとおもっています。また授業は毎回どんどん誰でも手を挙げてやってもらいます。(尚、毎時間冒頭にいろいろな名作のテープを聴く予定でいます。)</p>		



科目名	専門講読 29 (アメリカ文学) (93度以降) 英語講読 (アメリカ文学) (92度以前)	担当者名	M. A. Schible
-----	---	------	---------------

講義の目標	The course is intended for students with a serious interest in literature and the basic skills to read and discuss a work of fiction in English. The goal is to help them improve their vocabulary and other reading skills and also gain a deeper insight into American culture and values.	
講義概要	Discussions of the text which one respected critic considers "...the most perfectly crafted work of fiction to come out of America." Students are expected to carefully study the assigned text and be prepared each week to discuss the contents and background of the reading.	
使用教材	テキスト	・ F. Scott Fitzgerald, <i>The Great Gatsby</i> , Penguin Twentieth-Century Classics (London, 1990). ・ Please buy this edition of the novel since it has very good notes.
	参考文献	・ Glossary and discussion questions provided by instructor. ・ Students should bring to class a good paperback edition of a dictionary designed for native adults such as <i>The Merriam Webster Dictionary</i> , <i>The American Heritage College Dictionary</i> or <i>The Random House Dictionary of the English Language</i> .
評価方法	Grades will be based on attendance, active participation during weekly discussions, quizzes and the mid-term and final reports.	
受講者に対する要望など		

科目名	専門講読 30 (英米文化) (93年度以降) 英語講読 (英米文化) (92年度以前)	担当者名	阿部純一
-----	---	------	------

講義の目標	アメリカの東アジア外交の現状分析をおこなう。		
講義概要	クリントン政権は、ヨーロッパにおいてはNATOの東方拡大をはかり、東アジアにおいては日米同盟を基盤に軍事プレゼンスを確保することによって、冷戦後の国際秩序の安定をめざすうえで中心的な役割を担う態勢を整えてきた。今年を含め、残る任期3年のうちにアメリカ主導の安定した国際秩序を形成できるかどうか、クリントン大統領の歴史的評価を決めることになる。東アジアにおいては、朝鮮半島4者協議、中国との「建設的かつ戦略的パートナーシップ」の構築、拡大するASEANへの対応などを通して、アメリカ関与が地域秩序にあたえる影響はきわめて大きい。こうした問題意識に関連した文献を選択し、アメリカの東アジア外交の実際について分析する。		
使用教材	テキスト	インターネットからアメリカの公式外交文書、政府高官の議会証言など最新のテキストを入手し、毎回配付する。	
	参考文献		
評価方法	成績は授業時の学生による報告（詳細なレジュメを必ず用意すること）と討議参加すなわち「授業への貢献」が評価の基準となる。そのためには授業への出席が最低条件となる。		
受講者に対する要望など	現代国際関係、とくに最近の東アジア情勢について基礎的な知識を持っていることが履修の最低条件。		

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. その時々的情勢により取り上げるトピックスが変わるため未定。
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.
- 16.
- 17.
- 18.
- 19.
- 20.
- 21.
- 22.
- 23.
- 24.

科目名	専門講読 31 (英米文化) (93年度以降) 英語講読 (英米文化) (92年度以前)	担当者名	加賀爪 優
-----	---	------	-------

講義の目標	英文ジャーナルや短篇のエッセイ論文を通じて、現代の国際関係および通商・経済関係の動向を考察する。受講者に対して望むことは単に英文を直訳するのではなく、全体としての内容の流れを文脈中心に速読し、それをもとに議論に参加できるようになることである。		
講義概要	現代の国際関係・経済の動向は、アメリカやヨーロッパを中心とする環大西洋地域により規定された以前の状況とは異なり、アジア・太平洋地域を中心とする環太平洋地域により大きくリードされるようになった。この過程で、特にイギリスの影響力の凋落と EC への加盟による旧英連邦諸国の連携の崩壊、日本や NIES 諸国の工業化による高度経済成長の達成が大きな役割を担った。また後者への食料・資源輸出の拡大を通じてオセアニア地域の一次産品部門が競争力を拡大した。本講義では、こうした長期的傾向が今後どう展開するかについて、受講者との議論を通じて考察する。		
使用教材	テキスト	テキストは、講義中にコピーを配布する。	
	参考文献		
評価方法	授業への出席や発言を重視し、レポート提出により評価する。		
受講者に対する要望など			

科目名	専門講読 32 (英米文化) (93年度以降) 英語講読 (英米文化) (92年度以前)	担当者名	佐藤唯行
-----	---	------	------

講義の目標	<p>平均的な大学生の中には、英文の和訳が一応出来ても、意味が理解出来ていなかったり、内容を要約し、結論をひとことで表現する力が不足している者が少なくありません。英文の学術書を読み進む場合、パラグラフ毎、各章毎の内容要約能力が常に求められます。そのため、本授業では、学生側のそうした弱点を補強するために、各パラグラフ毎に内容の要旨をひとことで要約する能力を養う事を、授業の目標といたします。</p>		
講義概要	<p>使用するテキストは英国ユダヤ人史の概説書です。また、そこに書かれた文章は平易な内容です。11世紀末以後、第二次大戦を期に至る英国社会とユダヤとの関係が、叙述の中心となります。</p>		
使用教材	テキスト	<p>Beth-Zion Abrahames, <i>The Jews in England</i> (London, 1990) テキストはコピーを配布します。</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>評価は試験結果60%、平常点40%、欠席が授業回数の1/3を超えた場合、試験結果が合格点に達していても単位を与えません。遅刻は3回で欠席1回分に換算します。</p>		
受講者に対する要望など			

科目名	専門講読 33 (英米文化) (93年度以降) 英語講読 (英米文化) (92年度以前)	担当者名	佐藤 真千子
-----	---	------	--------

講義の目標	<p>本講義では、20世紀のアジア太平洋地域における、特にアメリカとアジア諸国の国際関係について、欧米およびアジアの研究者による分析をもとに歴史的な考察を試みることを目的とします。同地域には朝鮮半島、中台問題、米中関係、日米関係など様々な問題が存在しますが、こうした問題をめぐるアメリカとアジア諸国の外交関係や人物交流を論じている論文を精読し、21世紀に向かうアジア太平洋地域の問題を考えていきます。</p>		
講義概要	<p>アジア太平洋地域における国際関係をアメリカ、アジアの双方の視点から考察していきます。戦前、戦後の米中関係、日米関係、米比関係、米韓関係などについて概観し、アメリカとアジア諸国の外交関係を分析する視点を養うこととなります。政治・軍事面の現象に限らず、社会・文化の側面に焦点を当てた研究論文から、同地域の国際関係史を包括的に捉えていきます。</p>		
使用教材	テキスト	Cohen, Warren I. (Edt) Pacific Passage: <i>The Study of American-East Asian Relations on the Eve of the Twenty-First Century.</i>	
	参考文献		
評価方法	<p>平常点、試験およびレポートによる総合的に評価します。詳細については初回授業にて説明します。</p>		
受講者に対する要望など			

1. Introduction By Warren I. Cohen.
2.        "
3. Ch. 1. Sino-American Relations Studies in China By Chen Jian.
4.        "
5. Ch. 2. Japanese Scholarship in the History of U. S. -East Asian Relations By Aruga Tadashi.
6.        "
7. Ch. 3. Geopolitics and Ideology in the Mirror of Russian Historiography By Constantine V. Pleshakov.
8. Ch. 4. Asian Immigrants and American Foreign Relations By Gordon Chang.
9.        "
10. Ch. 5. Still Strangers at the Gate : Recent Scholarship on pre-1900 Sino-American Relations By Eileen P. Scully.
11. Ch. 6. The Open Door Raj : Chinese-American Cultural Relations, 1900-1945 By Charles W. Hayford.
12. Ch. 7. Sino-American Relations in Comparative Perspective, 1900-1949 By William C. Kirby.
13. Ch. 8. Driven by Domestics : American Relations with Japan and Korea, 1900-1945 By Michael A. Barnhart.
14. Ch. 9. Continuing Controversies in the Literature of U. S. -China Relations 1945 By Nancy Bernkopf Tucker.
15.        "
16. Ch. 10. Recovery through Dependency : American-Japanese Relations, 1945-1970 By Marc Gallicchio.
17.        "
18. Ch. 11. The Unfathomable Other : Historical Studies of U. S. -Phillippine Relations By Glenn Anthony May.
19.        "
20. Ch. 12. U. S. -Vietnamese Relations : A Historiographical Survey By Robert J. McMahon.
21.        "
22. Ch. 13. Bringing Korea Back In : Structured Absence, Glaring Presence, and Invisibility By Bruce Cumings.
23.        "
24. Epilogue : American-East Asian Relations in the 21 st Century By Ernest R. May.

科目名	専門講読 34 (英米文化) (93年度以降) 英語講読 (英米文化) (92年度以前)	担当者名	杉山晴信
-----	---	------	------

講義の目標	<p>ビジネス通信文 (Business Correspondence) のみを扱う狭義のビジネス英語から脱却し、他の領域の英文ビジネス文書にまで学習範囲を拡大して、国際ビジネスに従事する者にとって不可欠な実務能力とリーガルマインドの早期涵養を目指します。具体的には、法律文書 (契約書、定款等) と英文決算書の「現物」をテキストとして読み、当該分野に用いられる英語を言語的知識として学ぶと同時に、ビジネスに関する実務的知識を習得することを目標とします。</p>		
講義概要	<p>今年度は、前期に技術援助契約の英文契約書とニューヨーク州法に基づく株式会社の設立定款を、後期に日本企業が作成した英文決算書をそれぞれ教材として扱います。前期の授業では、法律英語の文体や語法、英文契約書の構造、定款の記載事項などについて若干の説明を行った後、履修者に担当箇所を順次発表していただく予定です。後期の授業では、貸借対照表と損益計算書の意義、表示区分と読み方、各種の分析指標などについて十分な講義を行ってから、実在の企業の直近の決算書を読み、業績を検討します。</p>		
使用教材	テキスト	<p>プリントを当方で用意します。また、必要な資料も随時配布します。</p>	
	参考文献	<p>①小中信幸監修・仲谷栄一郎著『契約の英語』(荒竹出版、1994) ②長谷川俊明『法律英語のカギ』(正・続)(東京布井出版、1985、1988) ③菊地義明『英和契約・法律基本用語辞典』(洋販出版、1997) ④本郷孔洋・永峰潤『よくわかる英文会計』(税務経理協会、1997) ⑤小川冽・鎌田信夫『現代英和会計用語辞典』(同文館、1991)</p>	
評価方法	<p>出席や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、前期と後期の定期試験 (またはレポート) の結果を加味して決定します。</p>		
受講者に対する要望など	<p>コンスタントな出席と十分な予習・復習を強く要望します。特に、就職活動に時間をとられる4年生は注意して下さい。</p>		



年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 1年間の授業計画と学習内容について詳しく説明し、履修上の注意事項を伝達します。
2. 「契約」の概念、英米契約法における主要原則、代表的な国際契約類型の概要と特色等について講義します。
3. 英文契約書の標準的構成と用語法について、実例を用いて説明します。
4. 技術援助契約について全体的な説明を行った後、実施権の付与、技術情報、技術指導、および技術訓練の各条項を読みます。
5. 技術援助契約について、実施料（ロイヤルティ）の種類と決め方を詳しく説明した後、当該条項を読みます。
6. 技術援助契約について、支払い、会計と監査、工業所有権および改良技術の各条項を読むとともに、後二者に関して詳しく説明します。
7. 技術援助契約について、秘密情報と商標の条項を読むとともに、後者に関して詳しく説明します。
8. 技術援助契約について、その他の一般条項を読みます。
9. 技術援助契約について、その他の一般条項を読みます。
10. 米国における株式会社の設立手順と定款の記載事項について、日本の場合と比較して詳しく講義します。
11. ニューヨーク州法を設立準拠法とする実在の企業の設立定款を読みます。
12. ニューヨーク州法を設立準拠法とする実在の企業の設立定款を読みます。
13. 決算書（特に貸借対照表と損益計算書）の意義について詳しく講義します。
14. 英文決算書の表示区分と表み方、および主要な勘定科目について、日本語版のそれらと比較しながら詳しく説明します。
15. 英文決算書の表示区分と表み方、および主要な勘定科目について、日本語版のそれらと比較しながら詳しく説明します。
16. 実在の日本企業の英文版の決算書をテキストとして、実務知識を習得しながら読みます。
17. 実在の日本企業の英文版の決算書をテキストとして、実務知識を習得しながら読みます。
18. 実在の日本企業の英文版の決算書をテキストとして、実務知識を習得しながら読みます。
19. 実在の日本企業の英文版の決算書をテキストとして、実務知識を習得しながら読みます。
20. 実在の日本企業の英文版の決算書をテキストとして、実務知識を習得しながら読みます。
21. 財務分析について講義し、流動性・健全性・収益性・効率性・成長性の各々に関する主要な分析指標を紹介しします。
22. テキストとして扱った企業の業績を上記の分析指標を用いて検討します。
23. テキストとして扱った企業の業績を上記の分析指標を用いて検討します。
24. 1年間の授業を総括し、質疑応答と討議を行います。

科目名	専門講読 35 (英米文化) (93年度以降) 英語講読 (英米文化) (92年度以前)	担当者名	中村 榮
-----	---	------	------

講義の目標	英文を明確に音読し、正しく内容を把握する練習。 英米人の日本観及び日本人観を通して祖国日本の姿を見つめ直す。
-------	---

講義概要	予め数名を指名して音読・訳読させる。内容に沿って私の日本観や時局論を述べる。
------	--

使用教材	テキスト	・未定 (但し比較文化論的な教材を選定したいと考へてゐる)。
	参考文献	

評価方法	平素の勤怠・意欲と定期試験。
------	----------------

受講者に対する要望など	初回授業出席者の中、最前列から60名に限り受講を認める。初回欠席者は、さほど強き希望なきものとして、いかなる理由あるも受講を認めない。
-------------	---

年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 訳読。</li> <li>2. 訳読。</li> <li>3. 訳読。</li> <li>4. 訳読。</li> <li>5. 訳読。</li> <li>6. 訳読。</li> <li>7. 訳読。</li> <li>8. 訳読。</li> <li>9. 訳読。</li> <li>10. 訳読。</li> <li>11. 訳読。</li> <li>12. 訳読。</li> <li>13. 訳読。</li> <li>14. 訳読。</li> <li>15. 訳読。</li> <li>16. 訳読。</li> <li>17. 訳読。</li> <li>18. 訳読。</li> <li>19. 訳読。</li> <li>20. 訳読。</li> <li>21. 訳読。</li> <li>22. 訳読。</li> <li>23. 訳読。</li> <li>24. 訳読。</li> </ol>
--------	---

科目名	専門講読 36 (英米文化) (93年度以降) 英語講読 (英米文化) (92年度以前)	担当者名	鍋倉健悦
-----	---	------	------

講義の目標	英語で書かれた“内容”を理解していくこと。単に英文を日本語に訳すことではない。		
講義概要	異なる文化的背景の人々との相互理解を深めていくにはどうしたらよいか、ということが中心テーマとなる。		
使用教材	テキスト	『異文化へのアプローチ』(朝日出版社)	
	参考文献	『異文化間コミュニケーション入門』(丸善ライブラリー)	
評価方法	通常の授業によって決定。		
受講者に対する要望など	ただ英文を日本語に訳すのではなく、内容について考えることのできる学生。文化とコミュニケーションの関係について興味を持っている学生。		
年間授業計画	<p>1～6. Culture and Communication.文化とは何か、そしてコミュニケーションとどうつながっているのか、というテーマをあつかう。</p> <p>7～12. Verbal Messages.人間言語の本質と、異文化間コミュニケーションにおける言葉の問題がテーマ。</p> <p>13～18. Nonverbal Communication.非言語行動における普遍性と文化的相対性がテーマ。</p> <p>19～24. Becoming More Effective.異文化理解を深めるためのいろいろな方法を考える。</p>		

科目名	専門講読 37 (英米文化) (93年度以降) 英語講読 (英米文化) (92年度以前)	担当者名	福井嘉彦
-----	---	------	------

講義の目標	一定水準に達した内容の英文を読んで理解する。		
講義概要	受講学生による輪読。		
使用教材	テキスト	Karen Armstrong: <i>In the Beginning. A New Interpretation of Genesis</i>	
	参考文献		
評価方法	授業中での発表と試験。一定以上の欠席は不合格。最初の授業には必ず出席し、履修承認を受けること。		
受講者に対する要望など	第一回目と第二回目の授業を欠席した場合履修者と認めない。履修希望者多数の場合、試験等によって定める。履修者は第一回目の授業で必ず聖書を持参すること。		

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 概要説明と注意等
2. 第一章 Wrestling with God and Scripture 購読開始
3. 第一章 購読続
4. 第二章 Beginning 購読
5. 第三章 Creation 購読
6. 第三章 購読続
7. 第四章 An Initial Complexity 購読
8. 第四章 購読続
- 第五章 Blessing 購読
9. 第五章 購読続
10. Genesis 購読と Interpretation ①
11. Genesis 購読と Interpretation ②
12. Genesis 購読と Interpretation ③
13. Genesis 購読と Interpretation ④
14. 第六章 Fact or Fiction ? 購読
15. 第六章 購読続
16. 第七章 Separation 購読
17. 第七章 購読続
18. 第八章 Knowledge 購読
19. 第九章 The Possibility of Evil 購読
20. 第九章 購読続
- 第十章 Sin and Curse 購読
21. 第十章 購読続
22. 第十章 購読続
23. 第十一章 Cain and Abel 購読
24. 第十一章 購読続

科目名	専門講読 38 (英米文化) (93年度以降) 英語講読 (英米文化) (92年度以前)	担当者名	町田喜義
-----	---	------	------

講義の目標	「赤穂事件」(歴史的事実)を知り、現代の日本の行き過ぎた個人主義、多元主義、相対主義、自由さなどを考える。		
講義概要	Through based on an actual incident, many details have been lost to history, and, as a result, several versions of the forty-seven ronin story have been told. But the fact remains that they were given the death penalty for their deed, which, at the time, so embodied the Japanese's ideals of the noble samurai's devotion to his lord that the forty-seven ronin were enshrined at Sengakuji Temple beside their beloved master. Thus came to a dramatic close the final chapter of what has been acclaimed the most famous vendetta in the annals of Japan.		
使用教材	テキスト	・ Allyn, John "THE 47 RONIN STORY" Charles E. Tuttle Company, 1970 (240 ページ)	
	参考文献	開講時に別紙配布する。	
評価方法	各章 (20章) の要約 : 60% クラスでの貢献 : 40%		
受講者に対する要望など	毎週のレポートを覚悟して登録すること。		

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 赤穂事件とは？
2. ビデオ
3. 第1章
4. 第2章
5. 第3章
6. 第4章
7. 第5章
8. 第6章
9. 第7章
10. 第8章
11. 第9章
12. 第10章
13. 第11章
14. 第12章
15. 第13章
16. 第14章
17. 第15章
18. 第16章
19. 第17章
20. 第18章
21. 第19章
22. 第20章
23. まとめ
24. 高輪泉岳寺参り

科目名	専門講読 39 (英米文化) (93年度以降) 英語講読 (英米文化) (92年度以前)	担当者名	宮川 淑
-----	---	------	------

講義の目標	イギリスの議会制民主主義の歴史および現代の選挙制度についての最新の解説書を読み、英文の読解力を向上させるとともに、イギリスの議会や政治について学ぶ。		
講義概要	下記のテキストのⅠの2 The growth of the democratic ideal in Britain とⅢの5 Electoral systems を訳読し、内容についても調査研究を行う。		
使用教材	テキスト	C. Pilkington, Representative Democracy in Britain Today (1997). テキストは当方で用意する。	
	参考文献	中村英勝『イギリス議会史』有斐閣他	
評価方法	前・後期の2度の試験、日常の授業参加等による。		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 上記のテキスト17頁からの The growth of the democratic ideal in Britain から1回数頁の速度で訳読に入る。</li> <li>2. 上記の訳読継続</li> <li>3. 上記の訳読継続</li> <li>4. 上記の訳読継続</li> <li>5. 上記の訳読継続</li> <li>6. 上記の訳読継続</li> <li>7. 上記の訳読継続</li> <li>8. 上記の訳読継続</li> <li>9. 上記の訳読継続</li> <li>10. 上記の訳読継続</li> <li>11. 上記の訳読継続</li> <li>12. 上記の訳読継続</li> <li>13. テキスト85頁からの Electoral systems から1回数頁の速度で訳読を行う。</li> <li>14. 上記の訳読継続</li> <li>15. 上記の訳読継続</li> <li>16. 上記の訳読継続</li> <li>17. 上記の訳読継続</li> <li>18. 上記の訳読継続</li> <li>19. 上記の訳読継続</li> <li>20. 上記の訳読継続</li> <li>21. 上記の訳読継続</li> <li>22. 上記の訳読継続</li> <li>23. 上記の訳読継続</li> <li>24. 上記の訳読継続</li> </ol>		



科目名	専門講読 40 (英米文化) (93年度以降) 英語講読 (英米文化) (92年度以前)	担当者名	W. J. Benfield
-----	---	------	----------------

講義の目標	<p>The main topic of the prescribed text for this course is cross-cultural analysis.</p> <p>Misunderstandings between cultures come about not only because of differences in language but often because we fail to understand the non-verbal aspects of other cultures expressed through habits, customs, and attitudes toward subjects like space and time. In the book, the author, distinguished American anthropologist Edward T. Hall, looks at how we can learn to become more sensitive toward other cultures wherever or whatever they may be.</p>	
講義概要	<p>In general we will look at one chapter of the text every two weeks. This will average out to around ten pages per week. There will be a questionnaire given for each chapter to be done for homework. Any difficult language or concepts will be explained in this questionnaire. In class we will go through the answers to the questions and look more closely at the author's main ideas.</p>	
使用教材	テキスト	The Silent Language—Edward T. Hall (Anchor Books)
	参考文献	
評価方法	Assessment will be based on attendance and test results.	
受講者に対する要望など		

1. Introduction to the course.
2. Chapter 1: The Voices Of Time
3. Chapter 1 contd.
4. Chapter 2: What Is Culture ?
5. Chapter 2 contd.
6. Chapter 3: The Vocabulary Of Culture
7. Chapter 3 contd.
8. Chapter 4: The Major Triad
9. Chapter 4 contd.
10. Chapter 4 contd.
11. Chapter 5: Culture Is Communication
12. Mid-term examination
13. Review of Chapters 1-5
14. Chapter 6: The Pervasive Set
15. Chapter 6 contd.
16. Chapter 7: The Illusive Isolate
17. Chapter 7 contd.
18. Chapter 8: The Organizing Pattern
19. Chapter 8 contd.
20. Chapter 9: Time Talks—American Accents
21. Chapter 9 contd.
22. Chapter 10: Space Speaks
23. Chapter 10 contd.
24. Final examination

科目名	英作文1, 2	担当者名	青柳 明
-----	---------	------	------

講義の目標	むだな表現のない、簡潔な英文を書く練習をする。このために練習問題をやりながら、基本的文法事項の再チェックをし、できるだけ自然な英語らしい表現を学ぶ。		
講義概要			
使用教材	テキスト	『英文構成法』成美堂	
	参考文献	授業時に指示する	
評価方法	前・後期試験及び平常点を総合的に判断して行う。特にクラスでの参加を重要視するので、積極的に参加すること。		
受講者に対する要望など	授業をスムーズに進めるため、必ず予習をしてくること。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文</li> <li>2. 句および節</li> <li>3. 名詞</li> <li>4. 冠詞</li> <li>5. 形容詞</li> <li>6. 副詞</li> <li>7. 比較</li> <li>8. 代名詞</li> <li>9. 関係代名詞及び関係副詞</li> <li>10. 助動詞</li> <li>11. 他動詞と自動詞</li> <li>12. 時制(1)</li> <li>13. 時制(2)</li> <li>14. 態</li> <li>15. 仮定法</li> <li>16. 準動詞</li> <li>17. 話法</li> <li>18. 前置詞</li> <li>19. 接続詞</li> <li>20. 応用問題(1)</li> <li>21. 応用問題(2)</li> <li>22. 応用問題(3)</li> <li>23. 応用問題(4)</li> <li>24. 応用問題(5)</li> </ol>		

科目名	英作文3, 4	担当者名	伊藤隆男
-----	---------	------	------

講義の目標	和文英訳のテクニックを習得すると共に、普遍性の有る文章を構築する能力を養う。普遍性の有る文章とは、英語が正確で、論旨が明瞭で、論理が一貫していて、且つ説得力の有る文章を指す。		
講義概要	日本語で書かれた文章を受講生に英訳して提出してもらい、それについて講義する。また、米国のジャーナリズムから取った記事を購読し、それを論評する英文を受講生に書いて提出してもらい、それについて、講評・討論を行う。		
使用教材	テキスト	和文英訳及び英作文の課題は、「年間授業計画」欄に記載の記事を配布。	
	参考文献	<i>The New York Times, Weekly Review</i> (『朝日新聞』販売店で購読申し込み可)。	
評価方法	各学期末の試験結果(50点満点)に平常点を加減して成績を決める。平常点とは、宿題提出(+4.17)、同末提出(-0.1)、質問/発言(+0.1)、欠席(-1)の次第。		
受講者に対する要望など	積極的態度と粘り強さ。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. "EX-EAST GERMAN CHIEF GETS 6 YEARS FOR DEATHS AT BERLIN WALL," <i>The New York Times</i>, Web, 8/26/97.</li> <li>2. 「ぬぐえぬ疑念と不安——日米防衛協力の新指針」『朝日新聞』9/24/97.</li> <li>3. Zbigniew Brzezinski, "A Geostrategy for Eurasia," <i>Foreign Affairs</i> (September/October/97).</li> <li>4. 「ぬぐえぬ疑念と不安——日米防衛協力の新指針」『朝日新聞』9/24/97.</li> <li>5. "U. S., Japan Expand Pact On Security," <i>The Washington Post</i>, 9/24/97:A01.</li> <li>6. 「地球人の世紀へ——文明のフェイルセーフ」『朝日新聞』7/4/97.</li> <li>7. "CIGARETTE MAKERS REACH \$368 BILLIOM ACCORD," <i>The New York Times</i>, Web, 6/21/97.</li> <li>8. 「地球人の世紀へ——文明のフェイルセーフ」『朝日新聞』7/4/97.</li> <li>9. "Greenhouse Forecasting Still Cloudy," <i>Science</i> 276 (5/16/97).</li> <li>10. 「G7が投げかけた課題」『朝日新聞』2/11/97.</li> <li>11. "The Worker Backlash," <i>The New York Times, Weekly Review</i>, 8/24/97:7.</li> <li>12. 「G7が投げかけた課題」『朝日新聞』2/11/97.</li> <li>13. "Lieutenant Mom," <i>The Washington Times</i>, 2/11/97.</li> <li>14. 「会社と向き合う個人に/憲法50年と日本の改革(上)」『朝日新聞』4/30/97.</li> <li>15. "Son of CCRI," <i>The Washington times</i>, 4/1/97.</li> <li>16. 「やればできるのだ」『朝日新聞』10/23/97.</li> <li>17. "Don't buy a treaty in a poke," <i>The Washington times</i>, 2/6/96.</li> <li>18. 「やればできるのだ」『朝日新聞』10/23/97.</li> <li>19. "How We Lost the Kurdish Game," <i>The Washington Post</i>, 9/15/96:C1.</li> <li>20. 「アフリカの負の遺産と日本」『朝日新聞』10/1/97.</li> <li>21. "U. N. Inaction Cited in Rwanda Slaughter," <i>The Washington Post</i>, 9/25/97: A 01.</li> <li>22. 「アフリカの負の遺産と日本」『朝日新聞』10/1/97.</li> <li>23. "Bribe-Scandal Figure Resigns in Japan After Public Uproar," <i>The Washington Post</i>, 9/23/97:A11.</li> <li>24. 「佐藤氏の更迭で過ちを正せ」『朝日新聞』9/18/97.</li> </ol>		

科目名	英作文5	担当者名	四宮 満
-----	------	------	------

講義の目標	日本文を英語らしい表現に翻訳するための基本的な知識（対照言語学的）理解させ、作文の作業をとおして全体的な能力をたかめる。		
講義概要	英語の発想、日本語の発想の違いなどに留意しながら英文を書く訓練をする。そのために『日本文の翻訳』—安西—サイデンスティックカーをテキストと使用し、原理面の理解を深める。		
使用教材	テキスト	・日本文の翻訳 EG・サイデンスティックカー 安西徹雄 ・Introducing Stylistics 著者 Jhon Haynes	
	参考文献		
評価方法	テストとレポートによる		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. テキストを中心とした講義</li> <li>2. テキストを中心とした講義</li> <li>3. テキストを中心とした講義</li> <li>4. テキストを中心とした講義、作文の課題</li> <li>5. ①課題の作文提出、②解説、③課題</li> <li>6. ①課題の作文提出、②解説、③課題</li> <li>7. ①課題の作文提出、②解説、③課題</li> <li>8. ①課題の作文提出、②解説、③課題</li> <li>9. ①課題の作文提出、②解説、③課題</li> <li>10. ①課題の作文提出、②解説、③課題</li> <li>11. ①課題の作文提出、②解説、③課題</li> <li>12. ①課題の作文提出、②解説、③課題</li> <li>13. 英語のジャンルと文体について資料による説明 I</li> <li>14. 英語のジャンルと文体について資料による説明 II</li> <li>15. 英語のジャンルと文体について資料による説明 III</li> <li>16. ①課題の作文提出、②解説、③課題</li> <li>17. ①課題の作文提出、②解説、③課題</li> <li>18. ①課題の作文提出、②解説、③課題</li> <li>19. ①課題の作文提出、②解説、③課題</li> <li>20. ①課題の作文提出、②解説、③課題</li> <li>21. ①課題の作文提出、②解説、③課題</li> <li>22. ①課題の作文提出、②解説、③課題</li> <li>23. 翻訳に関わる問題について説明</li> <li>24. 上記のまとめ</li> </ol>		

科目名	英作文6	担当者名	島田啓一
-----	------	------	------

講義の目標	<p>英語らしい英語を書けるようになるには、とにかく自分の意志を伝える英語を書き、それをコミュニケーションの過程で英米人が書いた英語と比較、分析して、英語らしい表現方法を「盗んでいく」ことが最も必要と考える。この授業ではコンピュータ教室を使いe-mailを利用して国内、海外の人々と英語の文通を年間を通して行い、その成果をホームページで発表する。またインターネットを利用して各々がテーマを決めてリサーチを行い、その結果を英文のホームページとして発表する。</p>	
講義概要	<p>上記の目標を達成するため、前期前半はワープロ、e-mail、エディタ、ブラウザなどのソフトの使い方とファイル管理の仕方を学ぶ。同時にkey palを探して、e-mailの文通を開始する。後半は簡単なHTMLを学び、文通結果の発表を行い、英文を批評しあう。後期はネットサーフィンによるリサーチを試み、ハイパーリンクを効果的に使った英文ホームページ作成に挑戦する。(パソコン操作はできなくても構わないが、ブラインド・タッチのタイピングを前期前半中に出来るようになることを受講要件とする。)</p>	
使用教材	テキスト	Web上のホームページなどをその都度指定する。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・獨協大学情報センター編『コンピュータ入門』(獨協大学情報センター) Duoで購入できます。</li> <li>・島田ゼミホームページ (<a href="http://www.dokkyo.ac.jp/~skzemi/index.htm">http://www.dokkyo.ac.jp/~skzemi/index.htm</a>) に昨年度の「英作文」のページがありますので参照してください。</li> </ul>
評価方法	<p>前期・後期のレポート(60%)と、出席点、不定期に科する宿題・課題(40%)の予定。(出席を重視します。)</p>	
受講者に対する要望など	<p>受講希望者は最初の授業に3.5インチ2HDフロッピーを一枚持参すること。授業時間外のコンピュータによる作業にかなりの時間がとられることを覚悟すること。</p>	

年 間 授 業 計 画	前期
	1. 授業の内容と進め方の説明。パソコンの基本操作説明①：Eudora と Netscape 入門。Dave's ESL Cafe への登録。
	2. パソコンの基本操作説明②：Word のスペルチェック機能、ファイルの保存の仕方。Eudora と Netscape の操作。英文 e-mail の作成。
	3. パソコンの基本操作説明③：Eudora と Netscape の操作。エディタの操作。ファイル管理の仕方。
	4. パソコンの基本操作説明④：Eudora と Netscape の操作。エディタの操作。ファイル管理の仕方。簡単な HTML ファイルの作成。
	5. パソコンの基本操作説明⑤：エディタの操作。ファイル管理の仕方。HTML による e-mail 交換の中間報告①など。
	6. パソコンの基本操作説明⑥：エディタの操作。ファイル管理の仕方。e-mail の交換と英文の批評など。簡単な HTML ファイルの作成。
	7. e-mail の交換と英文の批評など。簡単な HTML ファイルの作成。
	8. e-mail の交換と英文の批評など。簡単な HTML ファイルの作成。HTML による e-mail 公刊の中間報告②など
	9. e-mail の交換と英文の批評など。簡単な HTML ファイルの作成。
	10. e-mail の交換と英文の批評など。簡単な HTML ファイルの作成。
	11. e-mail の交換と英文の批評など。HTML による e-mail 交換の前期報告レポートの作成、提出など。
	12. e-mail の交換と英文の批評など。HTML による e-mail 交換の前期報告レポートの改訂更新、提出など。
	後期
	13. 前期報告レポートの批評と最終評価。Netscape の操作（Bookmark, Cache、ファイルや画像の保存など）。e-mail による文通の再開。
	14. Netscape（検索エンジンなど）、エディタの操作と HTML 入門。後期プロジェクトのテーマを決めてのネットサーフィンの開始。
	15. Netscape（検索エンジンなど）、エディタの操作と HTML 入門。ネットサーフィン。
	16. Netscape（検索エンジンなど）、エディタの操作と HTML 入門。後期プロジェクトの中間報告①。
	17. 後期プロジェクトの中間報告①。の批評と評価。
	18. 少し高度な HTML 入門。後期の e-mail 交換の中間報告。
	19. 少し高度な HTML 入門。後期の e-mail 交換の中間報告の批評、評価。
	20. 少し高度な HTML 入門。
	21. 少し高度な HTML 入門。後期プロジェクトの中間報告②の提出。
	22. 後期プロジェクトの中間報告②の批評と提出。
23. 後期プロジェクトの最終報告（e-mail 交換の後期報告レポートを含む）の提出。	
24. 後期プロジェクトの最終報告の批評と評価。最終報告の改訂更新版の提出。	

科目名	英作文7, 8	担当者名	中村 粂
-----	---------	------	------

講義の目標	既習文法事項の作文への応用力を養ふと共に、和文英訳のコツを会得してもらふ。		
講義概要	文法応用の和文英訳実作練習。問題は基本的なものの中程度のものの両方から構成されてゐる。		
使用教材	テキスト	・プリント	
	参考文献		
評価方法	平素の勤怠・意欲と試験成績。		
受講者に対する要望など	初回授業出席者の中、最前列から50名に限り受講を認める。 初回欠席者は、さほど強き希望なきものとして受講を認めない。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業概要説明。教材配布。</li> <li>2. 文・基本時制 (1)。</li> <li>3. 文・基本時制 (2)。</li> <li>4. It の用法 (1)。</li> <li>5. It の用法 (2)。</li> <li>6. 否定の用法 (1)。</li> <li>7. 否定の用法 (2)。</li> <li>8. 完了 (1)。</li> <li>9. 不定詞 (1)。</li> <li>10. 不定詞 (2)。</li> <li>11. 動名詞。</li> <li>12. 分詞。</li> <li>13. 比較。</li> <li>14. 仮定法。</li> <li>15. 物主構文。</li> <li>16. 和文英訳実作演習 (1)。</li> <li>17. 和文英訳実作演習 (2)。</li> <li>18. 和文英訳実作演習 (3)。</li> <li>19. 和文英訳実作演習 (4)。</li> <li>20. 和文英訳実作演習 (5)。</li> <li>21. 和文英訳実作演習 (6)。</li> <li>22. 和文英訳実作演習 (7)。</li> <li>23. 和文英訳実作演習 (8)。</li> <li>24. 和文英訳実作演習 (9)。</li> </ol>		



科目名	英作文9	担当者名	藤田永祐
-----	------	------	------

講義の目標	<p>英文を記す能力は総合的なものだと思います。適切な単語や語句や文章を場合に応じて使うには、それなりの蓄積が要求されます。文の組み立て方、文と文のつなげ方には、文法の基本的な知識の習得と、英文を読んだり聴いたりしている際、その要領を学ぶことが大切です。日本語と同じく英文も創意工夫をこらす方が面白く、実力も伸びます。自分の弱点と長所を自覚して、勤勉に努力する習慣を身につけること。</p>		
講義概要	<p>テキストにそった実習が中心。時おりエッセイに取り組み、生の能力を別の角度からためてみます。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・検討中</p>	
	参考文献	<p>授業中に指摘する。</p>	
評価方法	<p>年二回のテストと平常点</p>		
受講者に対する要望など	<p>積極性、出席率は熱意のバロメーターとみなします。</p>		

1. 和文のセッセイの辞書を使用したの英訳
2. テキストの実習。名詞構文が多用される理由について
3. 先々週のエッセイの英訳についてのコメント
4. テキストの実習
5. テキストの実習、日本語と英語それぞれの柔軟性について
6. テキストの実習
7. テキストの実習
8. テキストの実習
9. テキストの実習
10. テキストの実習
11. テキストの実習
12. テキストの実習、休み中の課題について
13. テキストの実習
14. テキストの実習
15. ネイティブ・スピーカーの英文と日本人の英文に見られる相違について
16. 和文のエッセイの辞書を使ったの英訳
17. テキストの実習
18. 先々週の英訳についてのコメント
19. テキストの実習
20. テキストの実習
21. テキストの実習
22. テキストの実習
23. テキストの実習
24. 今までの総括

科目名	英作文10	担当者名	三好 健
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>日本語と英語は発想の仕方が大きく違うので、英語を書くときには、その違いを知っていることが、読むとき以上に大切です。一見して易しく思える英語も、自分がいざ書くとなると容易ではありません。英語で発表するという観点から英語の語法を研究し、さらに和文英訳の形で、基本的な英語の表現形式を習得するのが、この授業のねらいです。</p>	
講義概要	<p>テキストにそって、まず語法と表現形式を調べ、あとに続く文法と和文英訳の練習問題を口で答えたりして勉強します。一回の授業で一課ずつ進みますが、毎回受講者の1人ひとりに発言を求めるので、下調べが必要となります。そのかわり、マジメにやれば力がつくこと請けあいです。</p>	
使用教材	テキスト	Building Better English Sentences (英文構成法) [成美堂]
	参考文献	各種英和・和英辞書
評価方法	<p>平常の成績と年2回の試験によります。</p>	
受講者に対する要望など	<p>遅刻や欠席が好きで、下調べが嫌いな学生には適しません。受講希望者は第1回目の授業に必ず出席して名前を届けること。</p>	

1. テキストの紹介と、一年間の授業予定と勉強の仕方についての説明。
2. テキスト Chapter 1 Sentences
3. テキスト Chapter 2 Phrases and Clauses
4. テキスト Chapter 3 Nouns
5. テキスト Chapter 4 Articles
6. テキスト Chapter 5 Adjectives
7. テキスト Chapter 6 Adverbials
8. テキスト Chapter 7 Comparison
9. テキスト Chapter 8 Pronouns
10. テキスト Chapter 9 Relative Pronouns and Relative Adverbs
11. テキスト Chapter 10 Auxiliary Verbs
12. テキスト Chapter 11 Transitive and Intransitive Verbs
13. テキスト Chapter 12 Tenses
14. テキスト Chapter 13 Sequence of Tenses
15. テキスト Chapter 14 Active and Passive Voice
16. テキスト Chapter 15 Subjunctive Mood
17. テキスト Chapter 16 Verbals
18. テキスト Chapter 17 Direct and Indirect Speech
19. テキスト Chapter 18 Prepositions
20. テキスト Chapter 19 Connectives
21. テキスト Appendix 1 Wordiness
22. テキスト Appendix 2 Punctuation and Mechanics
23. テキスト Appendix 3 Two-Word Verbs & Be/Have Combinations
24. テキスト Appendix 4 Letter-Writing

科目名	英作文11	担当者名	渡邊美代子
-----	-------	------	-------

講義の目標	<p>パラグラフ・ライティングは、思考を論理的に組み立て、アイデアを表現するための有効なコミュニケーションの手段であるが、その構成には一定の制約が課せられており、日本語の段落とは大きく様相を異にする。このコースでは、英語における基本的な文章の構成法を習得し、構造的、内容的にきちんとしたパラグラフが書けるようになることを目標とする。パラグラフ構成演習を通して、理論をうちたてる能力が培われることを期待したい。</p>		
講義概要	<p>英語の文章における情報の構成方法を習得する。パラグラフやエッセイの構成、トピックセンテンスの役割、内容整理のためのアウトライン、パラグラフの種類等について学ぶ。また、より効果的な文章を書くために、強調、簡潔、説得方法などについても学習する。テキスト(1)をテキスト(2)の更なる例文と練習問題で補う、という形で進めていく。与えられたテーマで、実際にパラグラフをいくつか書いてもらう。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(1) <i>Developing Writing Strategies</i> S. K. Kitao &amp; K. Kitao, 郁文堂</li> <li>・(2) <i>Paragraphs That Communicate</i> H. Jimbo &amp; R. B. Murto, Macmillan Language-House</li> </ul>	
	参考文献		
評価方法	<p>前・後期試験の結果、提出物、平常点を考慮して評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>予習して授業に臨むことが原則である。 提出物はなるべくワープロで作成するようお願いしたい。</p>		

1. Course Introduction and Outline.
2. (1) Ch. 6: Parts of Paragraphs and Essays
3. (1) Ch. 7: Types of Organization—Illustration, Classification, and Cause and Effect  
(2) Ch. 7: Examples
4. (1) Ch. 7: Types of Organization—Illustration, Classification, and Cause and Effect  
(2) Ch. 9: Classification
5. (1) Ch. 7: Types of Organization—Illustration, Classification, and Cause and Effect  
(2) Ch. 6: Cause and Effect
6. (1) Ch. 8: Types of Organization—Comparison/Contrast and Opinion  
(2) Ch. 10: Comparison and Contrast
7. (1) Ch. 9: Topic Sentences
8. (2) Ch. 1: The topic Sentence of the Paragraph
9. (1) Ch. 10: Irrelevant Sentences
10. (2) Ch. 2: The Specific Details of the Paragraph
11. (1) Ch. 11: Outlining
12. (1) Ch. 12: Choosing the Right Word
13. (1) Ch. 13: Readability
14. (1) Ch. 14: Parallel Constructions
15. (1) Ch. 15: Using Verb Tenses Correctly
16. (1) Ch. 16: Emphasis
17. (1) Ch. 17: Conciseness
18. (1) Ch. 18: Audience Analysis
19. (1) Ch. 19: Persuasion
20. (1) Ch. 20: Figures of Speech
21. (1) Ch. 21: Abstract and Concrete Writing
22. (1) Ch. 22: Writing about Time  
(2) Ch. 3: Time Order
23. (1) Ch. 23: Facts and Opinions
24. (1) Ch. 24: Avoiding Sexist Language

科目名	エッセイ・ライティング1 (93年度以降) 英作文(エッセイ・ライティング) (92年度以前)	担当者名	佐藤 勉
-----	--	------	------

講義の目標	トピック・センテンスの絞り方から適切な語句の選択まで、プロセス・アプローチによるエッセイ・ライティングの技法を解説する。更にまとまったエッセイが書けるよう基本的な英語の書き方を段階的に指導する。下記の教科書以外に、学生にとって興味ある最近の出来事を適宜に活用し、それによって自分の考え方、物の見方を意欲的に、十分に意味の通る英語で説明、説得できるよう指導する。そのために論旨展開の要となる構文・語句、パンクチュエーションなど「グラマー・クリニック」などの授業も併せて行う。		
講義概要	先ず、パラグラフの構造に関する基本的な事実の説明の後、パラグラフの構成の理解と認識。トピック・センテンスの理解と認識。各種のパラグラフを取り上げて紹介。最後に、文章の最小単位のパラグラフをつないで、訂正、構成、編集作業を経て、しっかりしたエッセイにまとめあげることができるように指導。英語を書くにあたり、基本的な常識——基礎文法、基本的語彙、イディオム、英語的な関連表現、syllabification, punctuation, capitalization、特に大切な一貫性、統一性、強調法などにも言及。		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①『英文パラグラフの論理』 S.N. ウィリアムズ著 (研究社)</li> <li>・②『パラグラフからエッセイへ』 北尾S. キャスリーン他著 (英潮社) の二冊を使用するので必ず購入すること。</li> </ul>	
	参考文献	教室で指示。Handouts 配布も予定。	
評価方法	①アサイメント、②前期・後期末に提出の規定のテーマに基づいたレポート、③夏期休暇の宿題、④平生の授業での貢献度、及び⑤出席状況に依って決定、⑥適宜英文法小テストも施行する予定。		
受講者に対する要望など	授業は予め十分に予習してあることを前提にして講義を進行。遅刻せぬこと。コウビルド『英英辞典・改訂新版』(桐原書店)を毎クラス持参すること。『和英辞典』の持参は自由。ワープロかパソコンが使えることが望ましい。		

科目名	エッセイ・ライティング2 (93年度以降) 英作文(エッセイ・ライティング) (92年度以前)	担当者名	飛田ルミ
-----	--	------	------

講義の目標	本講座では、エッセイを書くに当たって必要と考えられるスキルを効果的に習得することを目的とする。具体的には、与えられたタスクに対して様々な表現法で自分の考えを提示できるストラテジーを意識して、エッセイの基礎となるパラグラフの書き方を段階的に学習し、最終的に本格的なエッセイへと発展させるスキルを身に付けることが理想である。		
講義概要	学習者の基礎英語能力を工夫して、無理なくレベルアップできるように、各種のパラグラフを取り上げ、練習問題を行い、自然な英語で文章を書くためのコツを指導する。また課題レポート等についてクラスでディスカッションを行うことにより、パラグラフを書く際に多くみられる誤りを指摘していく。		
使用教材	テキスト	From Paragraphs to Essays『パラグラフからエッセイへ』英潮社	
	参考文献	授業にて指示、プリントも配布する。	
評価方法	前・後期末課題レポート、授業における課題、及び平常点（出席状況、授業中の活動状況等）を総括して評価する。		
受講者に対する要望など	予習及び発表が課されるので、授業に対する積極的な態度を必要とする。		



年  
間  
授  
業  
計  
画

1. Introduction: 授業内容、評価の解説
2. Chapter 1 : The English Paragraph
3. Chapter 2 : Main Ideas and Topic Sentences
4. Chapter 1 と 2 の復習
5. Chapter 3 : Transitions in a Paragraph
6. Chapter 4 : Description and Illustration
7. Chapter 5 : Classification and Analysis
8. Chapter 3、4、5 の復習
9. Chapter 6 : Cause and Effect
10. Chapter 7 : Comparison and Contrast
11. Chapter 8 : Personal Opinion and Problem-Solution
12. Chapter 6、7、8 の復習 前期のまとめ
13. 期末レポートのフィードバック
14. Chapter 9 : From Paragraphs to Essays
15. Chapter 10 : Comparison and Contrast
16. Chapter 9、10 の復習
17. Chapter 11 : Analysis
18. Chapter 12 : Cause and Effect ①
19. Chapter 13 : Cause and Effect ②
20. Chapter 11、12、13 の復習
21. Chapter 14 : Classification
22. Chapter 15 : Personal Opinion
23. Chapter 16 : Problem-Solution
24. Chapter 14、15、16 の復習、後期のまとめ

科目名	エッセイ・ライティング3 (93年度以降) 英作文(エッセイ・ライティング) (92年度以前)	担当者名	K. R. Bayne
-----	--	------	-------------

講義の目標	This class will focus on the basics of writing essays in English, especially the pre-writing planning stages. Students need not have a high level of spoken English, however, should have a reasonable knowledge of English grammar and vocabulary and a desire to learn to better organise their writing.	
講義概要	<p>Planning and pre-writing is vital stage of any writing, particularly essay writing. While the class will look at a variety of essay styles (narrative, comparative, academic.) the development of the concept to a concrete and usable plan will be the most important feature.</p> <p>Students will learn to organise and maximize their thoughts through the use of brainstorming techniques, strict planning techniques, the development of good topic sentences, introductions, and conclusions. Topics will be developed through some discussion and where possible, will be based on student interest.</p>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	・ Handouts will be provided by the teacher.
評価方法	Grades will be based on work produced in the class and as homework in the form of notes, formal essay plans and three completed essays. (All submitted work must be typed.) Attendance is very important and students will be expected to contribute to the best their ability. There will be no examinations as assessment will be ongoing over the year.	
受講者に対する要望など		

科目名	エッセイ・ライティング4, 5 (93年度以降) 英作文(エッセイ・ライティング) (92年度以前)	担当者名	E. Carney
-----	---	------	-----------

講義の目標	This course is aimed primarily at having the students produce good, error-free English. Also, we want to find better ways to organize ideas and to express them well. Coherence and balance are target items in all our writing work.		
講義概要	Classes will give time for the appreciation of the subjects about which the students will write; this will include some discussion. Advice will be given on simple construction and the importance of clarity in communicating ideas. Students will be asked to match their work with some set pieces. Punctuation, good expression, and awareness of the reader's needs will all be covered. There will be at least one writing task per week.		
使用教材	テキスト	・ Prints and videos.	
	参考文献	・ Creative Writing ・ Mind the Stop G. V. Carey	
評価方法	Grading will be based on a total result of all the writing tasks over the year. No "one final test".		
受講者に対する要望など			

1. Class a. introduction of methods and class practice  
     b. written piece for evaluation ('think' item selection)
2. Class 2.3 Basic errors in construction... adjective and noun control in relation to article use.
3. Class 3. Punctuation... good comma use and bad use of similar stops... the comma stressed as a communication tool.
4. Class 4. Direct and indirect speech and the necessary punctuation. A survey on individual tendencies in pieces written so far.
5. Class 5. Ambiguity. writing with awareness of meaning intended and meaning received.
6. Class 6. Paragraph effectiveness to suit all needs. Writing as a reader of one's own work.
7. Class 1. the relative pronoun and the related pitfalls  
     2. some absurdities in singular and plural use.
8. Class 8. Continuation of the 'plural' theme... difficulties with 'each' and the use of 'everyone' and 'his or hers'.
9. Class 9. Descriptive writing. Some established works compared. How to make adjectives do the work in descriptive pieces.
10. Class 10. Introduction and endings... summaries and conclusions... the open ending.
11. Class 11. Writing a short short story and including all the work we have covered so far.
12. Class 12. Balanced writing... the sweeping statement and 'narrow-minded' attitudes in producing biased writing.
13. Class 13. Comparing what you have actually said in your writing to what you really intended to say.
14. Class 14. Variations in presenting ideas in documentary and fictional pieces. Some prime examples studied.
15. Class 15. Letter writing. a) person to person, b) business, c) other letters, notes, job applications, forms, etc..
16. Class 16. Conciseness in documentary writing. A look at the range of meaning of the word, 'academic'.
17. Class 17. The short story. Bringing the ideas into line and checking on sequence in time and action.
18. Class 18. Implied nuance and ambiguity revisited. Ambiguity as a starter for the awareness of humour in writing.
19. Class 19. Economy of expression. Reducing length and avoiding verbosity and superfluous expression. A look at repetition and padding.
20. Class 20. Criticism. analysis of subject with a view to writing a criticism. The value of discussion of your topic prior to writing.
21. Class 21. The anecdote as a good short form of interesting expression. Producing some written anecdotes.
22. Class 22. E. B. White and his power of humorous understatement. Writing with a view to being taken seriously, and then not so seriously.
23. Class 23. Creative expression... ranges and limitations. Creative writing and the modern video.
24. Class 24. Recapitulation, recrimination, and pooled suggestions.

科目名	エッセイ・ライティング6 (93年度以降) 英作文(エッセイ・ライティング) (92年度以前)	担当者名	R. M. Homan
-----	--	------	-------------

講義の目標	The purpose of this course is to introduce students to the skills and methods necessary to write an academic essay. Thus, the course will focus on critical thinking, argumentation, and research skills. By the end of the course, the students will be able to write a research based essay, using citations and works cited list in the MLA style.	
講義概要		
使用教材	テキスト	The course textbook will be <i>The Little, Brown Handbook</i> by Little, Brown publishers.
	参考文献	
評価方法		
受講者に対する要望など	Students will be expected to attend class regularly, as well as fulfill weekly writing assignments and readings. Grades will be based on participation in class, attendance, and assignment scores.	

1. Topic: Introductions, class organization, Why writing is important
2. Topic: Writing critically
3. Topic: The writing process 1. Defining your purpose 2. Audience 3. Developing the topic
4. The thesis
4. Topic: Organizing ideas
5. Topic: Writing the first draft
6. Topic: Revising and editing the first draft
7. Topic: Proofreading and submitting the first draft
8. Topic: Maintaining paragraph unity
9. Topic: Paragraph coherence
10. Topic: Writing special kinds of paragraphs
11. Topic: Linking paragraphs in the essay
12. Topic: Final essay due; Peer reading and discussion
13. Topic: Planning a research project
14. Topic: Conducting electronic searches
15. Topic: Finding sources in the library
16. Topic: Inserting sources into the paper; paraphrasing
17. Topic: Student small group presentations of their work
18. Topic: Inserting sources into the paper; quotations
19. Topic: Citations
20. Topic: A look at some sample essays
21. Topic: Essay tutorials
22. Topic: The works cited list
23. Topic: Review of previous topics
24. Topic: Final paper; peer review

科目名	エッセイ・ライティングⅦ (93年度以降) 英作文(エッセイ・ライティング) (92年度以前)	担当者名	D. R. Kogge
-----	--	------	-------------

講義の目標	The general aim of this course is to guide the student toward a clear, logical, and interesting style of writing.	
講義概要	Although lesson format may vary considerably from week to week, students can expect to write in class on a regular basis. Close attention will be paid to sentence and paragraph structure, punctuation, and spelling. To further sharpen the student's perception of his or her own work, some outside assignments must be typed.	
使用教材	テキスト	Handouts
	参考文献	Students are required to have and use an English-English dictionary. A thesaurus is also recommended.
評価方法	Final grades are based on attendance, classwork, homework, a mid-term essay, and a final essay.	
受講者に対する要望など		

科目名	エッセイ・ライティング 8 (93年度以降) 英作文(エッセイ・ライティング) (92年度以前)	担当者名	C. J. Poel
-----	---	------	------------

講義の目標	The goals of this course are to learn how to write an academic essay, to research a chosen topic, to reference outside sources appropriately, to write in an organized manner (from raw ideas to final paper), to access the Internet to search for information, and to gain confidence as a writer.		
講義概要	The focus in this course will be on the appropriate use of research in writing an academic essay. We will go through the steps that are necessary in developing a solid paper: planning the research, narrowing the topics, finding sources, evaluating information, drafting the paper, revising and editing the paper, and preparing the final manuscript.		
使用教材	テキスト	The Little, Brown Handbook (Little, Brown Publishers)	
	参考文献	Students will be expected to have an English-English dictionary. I will give you my recommendation on the first day of class.  Also all students will be expected to use e-mail.	
評価方法	Students will be evaluated based on (1) attendance, (2) journal writing, (3) in-class writing and participation, and (4) homework.  There will be four final papers throughout the year, as well.		
受講者に対する要望など			



1. Introductions and course outline. Why writing is important.
2. Writing critically.
3. The writing process: (1) defining your purpose, (2) audience, (3) developing the topic, (4) the thesis.
4. Organizing ideas.
5. Writing the first draft.
6. Revising and editing the first draft.
7. Proofreading and submitting the first draft.
8. Maintaining paragraph unity.
9. Paragraph coherence.
10. Writing special kinds of paragraphs.
11. Linking paragraphs in the essay.
12. Final essay due. Peer reading and discussion.
13. Planning a research project.
14. Conducting electronic searches.
15. Finding sources in the library.
16. Inserting sources into the paper: paraphrasing.
17. Inserting sources into the paper: quotations.
18. Citations.
19. The works cited list.
20. Using and understanding abbreviations.
21. Relationship between writing and speaking.
22. Considering topic, purpose, and audience.
23. Writing in other disciplines.
24. Final essay due. Peer reading and discussion.

科目名	翻訳Ⅰ－Ⅰ（93年度以降） 英作文（翻訳Ⅰ）（92年度以前）	担当者名	北澤 滋 久
-----	-----------------------------------	------	--------

講義の目標	英米の多様な文学作品を日本語に転ずる実践作業を通じて、翻訳とはいかに労多くして報いの少ないものであるかを身をもって体得することを目的の第一とする。		
講義概要	従って、最初の2回ほどで翻訳技術の概論を講ずるが、その後は各自がワープロで予め作成してきた翻訳原稿を（なんらかの方法で）スクリーンに転写し、それを専ら添削してゆくという担当教師・受講生共にかなりハードな実習の連続となるであろう。欠席あるいは義務の不履行は許されない。この労苦の成果が、学年末にはクラス全員共訳の文集となれば面白いと思っている。		
使用教材	テキスト	現代英米の著名作家の短編を、テーマ・文体にバラエティを持たせて随時取り揃える。	
	参考文献	適宜教室で紹介する。	
評価方法	いわば毎회가「試験」であるから、特に特定日の試験は行わない。		
受講者に対する要望など	英語力にくわえて、むしろそれ以上の日本語の表現力が必須の条件である。またワープロの作業にも熟達していなければなるまい。30名以下の少人数で開講の予定であるから、開講初日の欠席は理由のいかんを問わず絶対に登録を認めない。		

科目名	翻訳 I - 2 (93年度以降) 英作文 (翻訳 I) (92年度以前)	担当者名	林 節 雄
-----	--	------	-------

講義の目標	英語の原文を日本語に、日本語の原文を英語に翻訳する仕事に興味を持つ学生を対象に、この仕事の性質について考え、同時に実習を行うことによって、言葉のセンスと技術を磨くことを目的とする。		
講義概要	参考文献が論じているいくつかのトピックにつき内容を紹介し、翻訳経験者としての私の考えをあわせて述べる。実習では主に <i>Newsweek</i> , <i>Time</i> 、英語の新聞などの興味ある記事を使って日本語を実習する。日本語原文の英訳については主として新聞・雑誌が掲載する広告文を材料に使用する。		
使用教材	テキスト	・特に使用しない。講義ノートによる。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加島祥造、志村正雄『翻訳再入門』(1992) 南雲堂</li> <li>・中村保男『翻訳の技術』(1989) 中公新書</li> <li>・中村保男『現代翻訳考』(1992) ジャパンタイムズ</li> </ul>	
評価方法	実習で提出する各自の翻訳文の添削結果を総合して評価する。		
受講者に対する要望など	日本語、英語の文章を自分で何時も読みなれていて、良い文章と悪い文章の区別がつくようになってほしい。		

1. 「翻訳という仕事をどう考えたらいいか」について話し、実習。
2. 「後戻りしない文章」について話し、実習。
3. 「後戻りしない文章」(続)と、実習。
4. 「直喩の訳し方」と実習。
5. 「直喩の訳し方」(続)と実習。
6. 「直喩の訳し方」(続)と、実習。
7. 「意味のストレス」についてと、実習。
8. 「意味のストレス」(続)と実習。
9. 「意味のストレス」(続)と実習。
10. 「辞書と翻訳」についてと、実習。
11. 「辞書と翻訳」(続)と実習。
12. 「辞書と翻訳」(続)と実習。
13. 「リズム、ひびき、そして辞書」についてと、実習。
14. 「リズム、ひびき、そして辞書」(続)と、実習。
15. 「リズム、ひびき、そして辞書」(続)と、実習。
16. 「超訳は翻訳か」についてと、実習。
17. 「超訳は翻訳か」(続)と実習。
18. 「超訳は翻訳か」(続)と実習。
19. 「誤訳だらけの本」についてと、実習。
20. 「誤訳だらけの本」(続)と実習。
21. 「誤訳だらけの本」(続)と実習。
22. 「原文修正は許されるか」についてと、実習。
23. 「原文修正は許されるか」(続)と、実習。
24. 「原文修正は許されるか」(続)と、実習。

科目名	翻訳Ⅱ（93年度以降） 英作文（翻訳Ⅱ）（92年度以前）	担当者名	藤田永祐
-----	---------------------------------	------	------

講義の目標	<p>なにごとともそうでしょうが、翻訳も奥の深い仕事です。よい翻訳には原文の十全な理解と、置きかえる方の言語を使いこなせるのと、両方が不可欠です。英語の単語、語句は英語のシステムの中で十分に機能し、日本語も同じわけですから、逐語訳はほとんどの場合、優れた訳とならぬばかりか、往々にして、意味をなさぬ文になります。文章、語句、単語のレベルでの英語と日本語の発想のちがいを深く認識すること、英語と日本語双方のセンスを磨くことが目標です。</p>	
講義概要	<p>講義の性格として、抽象的でなく、実践的・具体的な方式をとります。最初は実際に試みたものから、応用性に富むと思われるものを題材にとり、工夫した点を解説しながら、授業をすすめる予定です。その後実習の題材は、エッセイ、英字新聞、現代ものの小説から自由に採り日本語訳の練習をします。各自が希望の題材を提案するのは歓迎します。</p> <p>日本語の英訳は、参考文献にあげた本が指摘している点を考慮して、短かい文を択んで試みる予定です。</p>	
使用教材	テキスト	プリント使用
	参考文献	ジェイムズ・H・M・ウェブ『日本人に共通する英語のミス121』
評価方法	<p>休暇時のレポートと毎回行なう実習の添削を中心に評価を出す。</p>	
受講者に対する要望など	<p>積極生</p>	

1. 日本語と英語の発想のちがいについて (その1) 実習
2. 日本語と英語の発想のちがいについて (その2) 実習
3. 日本語と英語の発想のちがいについて (その3) 実習
4. 日本語と英語の発想のちがいについて (その4) 実習
5. 日本語と英語の発想のちがいについて (その5) 実習
6. 日本語と英語の発想のちがいについて (その6) 実習
7. 日本語と英語の発想のちがいについて (その7) 実習
8. 日本語と英語の発想のちがいについて (その8) 実習
9. 日本語と英語の発想のちがいについて (その9) 実習
10. 日本語と英語の発想のちがいについて (その10) 実習
11. 日本語と英語の発想のちがいについて (その11) 実習
12. 複数形について 実習
13. 冠詞について 実習
14. 動詞について 実習
15. 形容詞について 実習
16. 副詞について 実習
17. 名詞について 実習
18. 前置詞について 実習
19. 接続詞について 実習
20. 総括 実習
21. 総括 実習
22. 総括 実習
23. 総括 実習
24. 総括 実習

科目名	Conversation I - 1 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) (92年度以前)	担当者名	P. Apps
-----	--	------	---------

講義の目標	<p><i>Theme</i> : Talking is Easy if you try</p> <p><i>Aim</i> : (1) To improve students confidence in communicating in English</p> <p>(2) TO REVISE AND USE GRAMMAR STRUCTURES PREVIOUSLY STUDIED</p> <p>(3) TO STUDY PRESENTATION GIVING</p> <p>(4) TO HAVE FUN</p>		
講義概要	<p>・ <i>MATERIALS</i> : TO BE ANNOUNCED AT THE BEGINNING OF THE SECOND CLASS</p>		
使用教材	テキスト	<p>・ THE TEXT WILL BE ADVISED AFTER CLASS LEVEL TEST</p>	
	参考文献	<p>I RECOMMEND TO ALL STUDENTS TO TRY THEIR HARDEST IN COMMUNICATION IN AND OUT OF THE CLASSROOM</p>	
評価方法	<p>(1) CLASS PERFORMANCE (2) INTERVIEW</p> <p>(3) PRESENTATION</p>		
受講者に対する要望など			

1. INTRODUCTION AND LEVEL CHECK.
2. TBA
3. TBA
4. TBA
5. TBA
6. TBA
7. FORMAL PRESENTATION
8. FORMAL PRESENTATION
9. FORMAL PRESENTATION
10. SMALL WRITTEN TEST
11. REVISION
12. TBA
13. TBA
14. TBA
15. CLASS ASSIGNMENT
16. CLASS ASSIGNMENT
17. CLASS ASSIGNMENT
18. PRODUCTION OF TV COMMERCIAL
19. PRODUCTION OF TV COMMERCIAL
20. PRODUCTION OF TV COMMERCIAL
21. PRODUCTION OF TV COMMERCIAL
22. PRODUCTION OF TV COMMERCIAL
23. PRODUCTION OF TV COMMERCIAL
24. SMALL WRITTEN TEST



科目名	Conversation I—2 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) (92年度以前)	担当者名	K. R. Bayne
-----	--	------	-------------

講義の目標	<i>This class will try to get away from the use of traditional language textbooks by using short letters written by native speakers to look at real language, idioms and cultural situations.</i>	
講義概要	<i>Through the use of letters written to an advice column in the United States students will be introduced to language written for communication that also can be used for discussion of interesting cultural differences and adapted for situational role-plays. Vocabulary and idiom building will also be an important feature. Participation to the best of their abilities is the key.</i>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	<i>Materials will be provided by the teacher.</i>
評価方法	<i>Grades will be based on classroom performance and participation on a week-to-week basis, periodic tests and oral testing. Good attendance is paramount. MOST IMPORTANT is a willingness to try and contribute and learn.</i>	
受講者に対する要望など		

*Class One*

Course Introduction in the first class will outline the general aims and methodology. This will also include outline of class grading policies & setting up of on-going activities.

Each class will follow a similar pattern :

- scene setting and short general discussion of the situation
  
- reading and analysis of the short letter  
highlighting of key vocabulary and idioms
  
- concept checks through comprehension questions  
discussion of key communication points of the letter  
discussion of key culture-specific points of the letter
  
- language practice using one of more language forms found in the letter
  
- discussion of the 'reply' to the letter  
discussion of suggestions and advice from the students

The actual emphasis in each of the above steps may change lesson to lesson and also depend greatly on student interest.

科目名	Conversation I—3 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) (92年度以前)	担当者名	P. Beland
-----	--	------	-----------

講義の目標	日常英会話の上達と様々な題材 (社会問題、一般教養等) を通しての英会話又、英単語を身に付ける。		
講義概要	授業の50%は、日常会話の習得、残りの50%は、英語で様々な興味深いトピックス、幅広い知識を学ぶ。大半の生徒にとっては、初めてと思われるトピックスを紹介する為、生徒にはどんなことにでも偏見のない態度で興味をもって授業に挑むことを期待する。日常生活に必要なことを多く学ぶでしょう。		
使用教材	テキスト	; <i>English Conversation Encyclopedia</i>	
	参考文献	プリント その他	
評価方法	出席率重視		
受講者に対する要望など			

科目名	Conversation I—4 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) (92年度以前)	担当者名	W. J. Benfield
-----	--	------	----------------

講義の目標	The aim of course is to develop overall communicative skills through a combination of listening, speaking, reading and writing activities.
-------	--

講義概要	Each unit is based on a theme and contains a listening, a conversation, pair work and group work activities. There will also be opportunities for practice in reading and writing, though the main focus of the course will be on improving speaking and listening skills. Each unit will cover two classes.
------	--

使用教材	テキスト	New English Firsthand Plus—Helgesen, Brown, Mandeville (Longman/Lingual House)
	参考文献	

評価方法	Assessment will be on the basis of attendance, performance and participation in class activities. There will also be an examination at the end of each semester.
------	--

受講者に対する要望など	
-------------	--

年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the course ; student selection.</li> <li>2. Making suggestions and giving opinions</li> <li>3. Making suggestions and giving opinions (continued)</li> <li>4. Asking permission ; giving instructions</li> <li>5. Asking permission ; giving instructions (continued)</li> <li>6. Talking about habits and personality</li> <li>7. Talking about habits and personality (continued)</li> <li>8. Describing how to use things</li> <li>9. Describing how to use things (continued)</li> <li>10. Asking for and giving advice</li> <li>11. Asking for and giving advice (continued)</li> <li>12. Mid-term examination</li> <li>13. Review of first term</li> <li>14. Talking about skills and occupations</li> <li>15. Talking about skills and occupations (continued)</li> <li>16. Talking about past events</li> <li>17. Talking about past events (continued)</li> <li>18. Talking about cultures</li> <li>19. Talking about cultures (continued)</li> <li>20. Reporting what people said</li> <li>21. Reporting what people said (continued)</li> <li>22. Describing how things work</li> <li>23. Describing how things work (continued)</li> <li>24. Final examination</li> </ol>
--------	---

科目名	Conversation I - 5 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) (92年度以前)	担当者名	D. Bradley
-----	--	------	------------

講義の目標	This course aims to improve the listening and speaking abilities of intermediate students of English.		
講義概要	We will do a selection of listening exercises and fluency practice activities. The level will be similar to that of my Conversation I course of 1997-98. The listening exercises consist of short interviews, telephone exchanges, public announcements, conversations and other recordings of people speaking naturally. In the fluency activities students exchange information, describe their experiences, and participate in role plays and discussions. In the weekly topics listed below there is a range of topics commonly handled at this level. This is a proposed list and not necessarily final.		
使用教材	テキスト	There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.	
	参考文献		
評価方法	Grades will be based on attendance, class participation and short tests. In particular, good attendance is a prerequisite for a final grade.		
受講者に対する要望など	Students will work together in pairs during the speaking activities and it is important that you make an effort to speak in English and maintain English throughout the lesson. This effort will be reflected in the grading.		

1. Introduction to the course
2. Consolidation activities
3. Consolidation activities
4. Personal information-talking about yourself
5. Work-talking about jobs and careers
6. Past lives-talking about people's histories, biographies
7. Homes-location inside the house
8. Directions-giving directions and using maps
9. Travel-making travel arrangements
10. Travel-modes of transport
11. Review
12. Test
13. Consolidation
14. Giving instructions
15. Communication-reported speech and giving messages
16. Health
17. Giving advice
18. Hypothetical situations-conditional sentences-talking about the future
19. Hypothetical situations-conditional sentences-talking about the past
20. Comparisons
21. Current events-listening to the news
22. Discussions-giving opinions
23. Review
24. Test

科目名	Conversation I - 6 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) (92年度以前)	担当者名	R. J. Burrows
-----	--	------	---------------

講義の目標	To advance listening and conversation skills in context international communication. 15 units, each covering a different, topical theme will be taught with an emphasis on communicative fluency and accuracy	
講義概要	The topic of each unit will be introduced though pairwork discussion. The two main grammar points will be preceded by an appropriate listening exercise reinforced by a grammar summary and then practised in pairs or small groups, occasionally including some written work	
使用教材	テキスト	"INTERCHANGE 3" by Jack Richards
	参考文献	
評価方法	20% : Attendance + Punctuality 40% : Classroom Performance. 40% : July-Oral (Interview) January-Written Test.	
受講者に対する要望など	Be prepared to study and work hard in order to improve both oral and aural skills on this course.	

1. Introductory Lesson : an introduction of course content aims and means of evaluation.
2. UNIT 1 : Personal relationships and qualities.  
Describing childhood and school days.
3. UNIT 2 : Describing + comparing jobs
4. UNIT 2 : Jobs- (continued) Describing skills and abilities
5. UNIT 3 : Destinations : Describing cities and places.
6. UNIT 4 : The Media-News stories, Past Events and Dreams.
7. UNIT 5 : Making and declining requests. Leaving messages.
8. UNIT 6 : Schools and work-differences, similarities and stating preferences.
9. UNIT 7 : Tourism-talking about customs
10. UNIT 7 : Tourism (continued)-giving advice.
11. UNIT 8 : Shopping and services-asking where to get something done and recommendations.
12. FIRST TERM EVALUATION ORAL EXAM.  
Oral Interviews
13. UNIT 9 : History-talking about the past and the future.
14. UNIT 10 : Homes-describing a house, offering and complaining.
15. UNIT 11 : Society and Environment-describing hypothetical situations
16. UNIT 11 : Society and Environment-giving opinions.
17. UNIT 12 : Gadgets and appliances-describing how something works?
18. UNIT 12 : Gadgets and appliances-describing a process.
19. UNIT 13 : Mysteries-giving explanations
20. UNIT 13 : Mysteries-describing hypothetical events
21. UNIT 14 : Advertising-giving reasons and describing qualities.
22. UNIT 15 : Opinions-agreeing and disagreeing.
23. UNIT 15 : Opinions-tag questions.
24. FINAL EVALUATION  
Written Exam.



科目名	Conversation I - 7 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) (92年度以前)	担当者名	E. Carney
-----	--	------	-----------

講義の目標	The class aims to help students learn and practice ways of making their conversation good, clear, communication.	
講義概要	Class time will deal with various 'difficult' areas that are troublesome for Japanese students. Some work will be done to establish reflex conversational abilities. Pronunciation and intonation will be dealt with as the problems occur in class work.	
使用教材	テキスト	・ Prints
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ prints for description work, conditional, and polite dialogue.</li> <li>・ Print maps for direction practice.</li> </ul>
評価方法	Grading will be done on a class participation basis, work in class is very important. There will be a final assessment test at the end of each term.	
受講者に対する要望など	Class participation in practices will be checked weekly, so attendance is a vital factor.	

1. Class 1. Introduction of class and classroom methods. Some examples of practice routines and some general advice.
2. Class 2. Groups and pairs check. What are individual student's problems in simple communication?
3. Class 3. Reaction conversation. Short form dialogue with both known and unknown focus point. Introduction of pressure practice.
4. Class 4. Negative question and some simple ways of mastering its use and surviving its pressures.
5. Class 5. Advice on practice methods at home.
6. Class 6. Useful practices for improvement including hearing and expressing. Some vocabulary lists for idiomatic work.
7. Class 7. One-minute and two-minute speeches. A check on speeches to locate particular difficulties in expression.
8. Class 8. Fives. A practice of linked questions that focus on one subject. Time limits in practices.
9. Class 9. Pronunciation difficulties for Japanese. Exercise and advice. Some telephone practice to emphasize these problems.
10. Class 10. Hearing practices: emphasizing repeated hearings, reinforcing learned material.
11. Class 11. Anecdotes: recounting, questioning, explaining.
12. Class 12. Survey of Spring programme. Casual conversation vs specific. Outline of Autumn schedule.
13. Class 1. Established dialogues. Famous scenes from movies. Acting and mimicking. Speaking to or for an audience.
14. Class 2. Write and act out a conversation. Group and pair work.
15. Class 3. Politeness and situation, and telephoning various people of different status, talking 'up' and 'across'
16. Class 4. Interview practice. Coverage of main items. Pairs and group.
17. Class 5. Continuation of interviews using prepared resume. Handling direct questions and keeping up with your interviewer.
18. Class 6. Conditional. A guide for use in conversation that tends to avoid grammar consciousness. Abbreviated forms and a success formula.
19. Class 7. Small descriptions in conversation. How to describe simple actions. A vocabulary for describing action.
20. Class 8. Presenting a teaching piece. Teach the class your favourite thing using some prop or gimmick.
21. Class 9. Discussion. establishing a useful vocabulary and communicating contrary ideas safely.
22. Class 10. Practice in balancing ideas and stating one's opinion. Group and class practice.
23. Class 11. Four minute speeches open to questions. Handling questions and making your point.
24. Class 12. Summary of years work, reinforcements. Some advice. Testing.

科目名	Conversation I — 8 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) (92年度以前)	担当者名	R. Durham
-----	--	------	-----------

講義の目標	<p>The purpose of this course is to: a) acquaint students with friendly, everyday INTERACTIVE English conversation.; b) present a wide variety of response choices to English questions; c) improve English comprehension through use of English songs, videos, and conversation tapes; d) assist students to realise the importance of friendly, outgoing conversation styles; e) learn to think-in Foreign/English styles; and f) assist students to achieve some measure of international awareness.</p>	
講義概要	<p>Rudiments of REAL, INTERACTIVE, STIMULATING English conversation will be examined and practiced. Emphasis will be placed on encouraging students to respond (appropriately, intelligently, and at length) to common situations, questions, and conversations in everyday English. In addition, elements of listening may be encouraged via exposure to 'English conversation' cassettes &amp; videotapes. North American conversational tactics, and pronunciation, will be practiced.</p>	
使用教材	テキスト	A textbook will be selected after class level (s) and needs have been assessed.
	参考文献	Handouts; newspapers & newspaper articles; songs and song sheets; and videos (of 'English Conversation' and of current NEWS) may be presented and discussed.
評価方法	<p>Attendance &amp; Punctuality: 15%; Class Participation: 15%; Tests and Examinations: 70% These percentages may vary, depending on the nature of the students and on their needs/performance.</p>	
受講者に対する要望など	<p>Highest grade go to students who are not absent or late; and students who ACTIVELY participate in class. Absences, lates, not participating will not produce high grades.</p>	

1. Introductions (meeting people for the first time); jobs and workplace; alternate responses to "How are you?", with emphasis on elaboration, in pairs.
2. Likes and dislikes, along with explanations therefor. Listening & pronunciation practice. Review; pair conversation practice.
3. Hobbies, and elaboration thereon (emphasis on ACTIVE, creative hebbies).  
Listening/videos/pronunciation exercises; Review ; pair practice.
4. "What do you think of—?" vs. "Do you like—?", with emphasis on explaining/ discussing.  
Listening/video/pronunciation practice. Review ; pair practice.
5. "Have you ever—?", with emphasis on appropriate English responses and elaboration. Listening/  
video/pronunciation/text exercises. Review ; pair practice.
6. "How long have you—?" & "How long have you been—ing?": practice and explanations. Text/  
listening/video/pronunciation. Review ; pair conversation practice.
7. "... going to ..."/FUTURE: questions, answers, and discussion. Text/listening/video/pronunciation.  
Review & pair practice.
8. Hopes & Dreams: correct use of "would" (and "will"); along with elaboration.  
Text/listening/video/pronunciation/review/pair practice.
9. "Hey, nice shirt (etc.)!": responding appropriately to compliments, pair practice, including elaborating.  
Text/listening/video/pronunciation/review.
10. "... used to ...": questions and explanations, with pair conversation practice.  
Text/listening/video/pronunciation/review.
11. "How often ...?" & "What time do you usually ...?", with pair practice in elaborating. Text/  
listening/video/pronunciation/review.
12. \* Please note that scheduling and topics are tentative, and subject to change, depending on text,  
student needs and desires, and many other factors...

科目名	Conversation I - 9 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) (92年度以前)	担当者名	A. R. Falvo
-----	--	------	-------------

講義の目標	To capture student interest with visual information in a contemporary context. Consequently students will be able to communicate effectively after viewing TV format information.	
講義概要	Using an audio-visual approach students will generate language in response to real life information on a variety of topics taken from actual English TV programs.	
使用教材	テキスト	SUCCESS 2 & 3 VIDEO MAGAZINE
	参考文献	
評価方法	Quizzes, questions in class, participation, multiple choice exams (1st & 2nd Term Finals) attendance	
受講者に対する要望など	Constant application of ability is crucial to succeed	

1. Introduction of class material/procedure success 2 show 1
2. Interviewing activity/intonation focus
3. Show 2 presentation/interviewing activity
4. Reading and discussion
5. Show 3 presentation/interviewing activity
6. Giving and understanding directions oral reports
7. Show 4 presentation/Group interview
8. Group discussion/evaluation technique
9. Show 5 Presentation/Interviewing and reporting
10. Writing A commercial and performance
11. Review of material
12. Exam-multiple choice questions
13. Review of exam
14. Introduction to success 3 show 1 presentation/interviewing
15. Oral reports/discussion
16. Show 2 presentation/interviewing activity
17. Listening for details & reporting
18. Show 3 presentation/interviewing activity
19. Taking a survey/evaluating results
20. Show 4 presentation/interviewing activity
21. Interpretation of data, prediction making
22. Show 5 presentation/Interviewing activity
23. Panel Discussion & judgement
24. Exam

科目名	Conversation I—10 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) (92年度以前)	担当者名	F. Fearn
-----	---	------	----------

講義の目標	This course is intended for students at an upper-intermediate level wishing to improve their listening and speaking abilities. Making use of a wide range of photographs, advertisements, maps, drawings and recordings, students will be required to express their ideas on a wide range of topics. Students will engage in a variety of activities including role-plays, information-gap exercises, problem-solving, discussions, etc.		
講義概要	This course is about communication. For students to acquire communicative competence they must learn more than vocabulary and grammar. They must also learn to listen to and understand other people's ideas, communicate their own ideas and, above all, exchange ideas. The intent of this course is to provide you with plenty to talk about and an opportunity to do so. Come along and have a go.		
使用教材	テキスト	Ideas. Leo Jones. Cambridge University Press.	
	参考文献	A range of additional materials will be provided by the course tutor.	
評価方法	Assessment will be based on attendance, classroom participation and homework assignments. There will also be a monitored discussion at the end of each semester.		
受講者に対する要望など			

1. Introduction to the course. Meet the class.
2. Personal information : personal questions, moods, personality and description.
3. Shopping : likes and dislikes, making a choice, discussing your needs.
4. Role play : planning a holiday overseas.
5. Weather and climate : description, giving advice, appropriate clothing.
6. Telecommunications : taking messages, telephoning.
7. City and country life : asking for information and directions, making suggestions.
8. Strange phenomena : truth and reality, superstitions.
9. Transport : description of a journey, advice to a visitor, planning a trip.
10. Home entertainment : television, hobbies and friends.
11. Role play : the job applicants.
12. End of semester monitored discussion : do we close ?
13. The past : personal memories, the crime, world events.
14. Role play : let's play.
15. Evening entertainment : a night out, films, restaurants and cooking.
16. The future : how will it differ?
17. Role play : problems at work.
18. Houses : communities, dream houses, description and choice.
19. Technology : living with technology, description and use.
20. Current affairs : the press.
21. Britain and America : differences of language and culture.
22. Language and communication : accents, idioms, formal and informal spoken English.
23. Role play : how do we survive?
24. End of semester monitored discussion : what does the town need?



科目名	Conversation I-11 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) (92年度以前)	担当者名	T. J. Fotos
-----	---	------	-------------

講義の目標	The main objectives and aims of this upper level English elective course for non-English majors are to increase the vocabulary and understanding of general English terms that will assist students in their future careers using English. All four skills of reading, speaking, and hearing of English will be covered. The main emphasis will be on speaking and listening.	
講義概要	Several general interest newspaper and magazine articles will be studied. There will also be America movies which that will be viewed.	
使用教材	テキスト	Newspaper and magazine articles, as well as movie reviews will be handed out to students. Although there won't be any assigned course textbook, students should be prepared to use not only the usual Jappness-English, English-Japanese dictionaries, but also use of a simple, cheap, up-to-date English-English pocketbook dictionary would be good.
	参考文献	There will be hand-outs or copies of various current or topical business related newspaper and magazine articles which will be read, studied and discussed in class to increase students' vocabulary of business and economics terms. Various American movies, with short written movie explanations will watched. These movies will be "closed cpption". That is, the words that one hears will appear in English typed on the screen. The main topics of the movies will be related to business, although additional cultural aspects of the U. S. A. will be studied, thereby improving inter-cultural understanding and listening comprehension, and speaking.
評価方法	(% of course grade) Class attendance, discussion and participation (30 %); first semester test (35 %); and final examination (35 %).	
受講者に対する要望など	Active class participation and regular attendance are important in determining the final course grade, so not only must the university rule of two-thirds of the classes be attended, but closer to 80 % attendance would better assure that the students get something useful out of the course.	

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. Introduction and organization and interview evaluation
2. Topic and discussion
3. "
4. "
5. "
6. "
7. Review
8. Topic and discussion
9. "
10. "
11. "
12. Examination
13. Topic and discussion
14. "
15. "
16. "
17. "
18. "
19. Review
20. Topic and discussion
21. "
22. "
23. Summation of topic covered and final review.
24. Final examination.

科目名	Conversation I—12 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) (92年度以前)	担当者名	T. Hill
-----	---	------	---------

講義の目標	To introduce the necessary vocabulary and teach interaction skills for discussion of issues of concern to young adults.	
講義概要	The course will consist of 30 contemporary discussion topics. Introductory material (dialogs, letters, cartoons, charts, newspaper articles and photographs) and exercises to guide students from highly controlled discussion to open-ended debate will be distributed. Students will be expected to develop and express their own opinions.	
使用教材	テキスト	Handouts
	参考文献	
評価方法	Students will be graded on participation in class discussion, mid-term and final speech, and attendance. This course is for students at the <i>intermediate</i> level.	
受講者に対する要望など		

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. Introduction to the course.
2. Going for an interview : how to portray yourself in a good light.
3. Sport and its role in our modern society.
4. Crime and Punishment : how to get the balance right.
5. Water : its importance, and what should be done about pollution.
6. Famous stories of Japan—what is their moral significance ?
7. Age : how old is too old ?
8. Time : how it should be divided between study and leisure.
9. Children today have too much—at least in the Advanced Nations.
10. Electronic equipment : the problems and the benefits.
11. Success : what is it and how can it be achieved ?
12. Test—A speech (10 mins)
13. Should students take part-time jobs ?
14. Honesty : is it always desirable ?
15. Smoking : should it be prohibited in all work areas ?
16. Scientific experiments : good or bad ?
17. What should schools teach ?
18. The family : should all members have equal rights ?
19. Motor vehicles : a blessing or curse ?
20. The generation gap and how the problem should be solved.
21. The importance of work, both physically and mentally.
22. School vacations and their purpose.
23. Examinations : their role in education.
24. Final test—A speech (10 mins)

科目名	Conversation I—13, 14 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) (92年度以前)	担当者名	R. M. Homan
-----	---	------	-------------

講義の目標	The purpose of this course is to introduce students to the language necessary to be successful in their academic and business lives. Activities are designed to introduce students to expressions which will be useful to them in the future, analyze how the expressions are used through dialogs, and use the expressions interactively through the use of role plays, interviews, discussion, etc.	
講義概要		
使用教材	テキスト	The course textbook will be D.E.S.I.R.E. from MacMillan Publishers.
	参考文献	
評価方法		
受講者に対する要望など	Students will be expected to attend class regularly, as well as write a 100 word summary of the previous week's lesson. Grades will be based on participation in class, attendance, and summary scores.	

1. Introductions, class organization
2. Topic: Unit 1  
How to be a group leader
3. Topic: Unit 2 Part 1  
Vocabulary, Warm Up, Listening, Cultural Advice/Problem Solving, Cultural Listening Task
4. Topic: Unit 2 Part 2  
Review of previous week/task Warm up, Unit task, Unit wrap up
5. Topic: Unit 3 Part 1  
Vocabulary, Warm Up, Listening, Cultural Advice/Problem Solving, Cultural Listening Task
6. Topic: Unit 3 Part 2  
Review of previous week/task Warm up, Unit task, Unit wrap up
7. Topic: Unit 4 Part 1  
Vocabulary, Warm Up, Listening, Cultural Advice/Problem Solving, Cultural Listening Task
8. Topic: Unit 4 Part 2  
Review of previous week/task Warm up, Unit task, Unit wrap up
9. Topic: Unit 5 Part 1  
Vocabulary, Warm Up, Listening, Cultural Advice/Problem Solving, Cultural Listening Task
10. Topic: Unit 5 Part 2  
Review of previous week/task Warm up, Unit task, Unit wrap up
11. Topic: Unit 6 Part 1  
Vocabulary, Warm Up, Listening, Cultural Advice/Problem Solving, Cultural Listening Task
12. Topic: Unit 6 Part 2  
Review of previous week/task Warm up, Unit task, Unit wrap up
13. Topic: Unit 7 Part 1  
Vocabulary, Warm Up, Listening, Cultural Advice/Problem Solving, Cultural Listening Task
14. Topic: Unit 7 Part 2  
Review of previous week/task Warm up, Unit task, Unit wrap up
15. Topic: Unit 8 Part 1  
Vocabulary, Warm Up, Listening, Cultural Advice/Problem Solving, Cultural Listening Task
16. Topic: Unit 8 Part 2  
Review of previous week/task Warm up, Unit task, Unit wrap up
17. Topic: Unit 9 Part 1  
Vocabulary, Warm Up, Listening, Cultural Advice/Problem Solving, Cultural Listening Task
18. Topic: Unit 9 Part 2  
Review of previous week/task Warm up, Unit task, Unit wrap up
19. Topic: Unit 10 Part 1  
Vocabulary, Warm Up, Listening, Cultural Advice/Problem Solving, Cultural Listening Task
20. Topic: Unit 10 Part 2  
Review of previous week/task Warm up, Unit task, Unit wrap up
21. Topic: Unit 11 Part 1  
Vocabulary, Warm Up, Listening, Cultural Advice/Problem Solving, Cultural Listening Task
22. Topic: Unit 11 Part 2  
Review of previous week/task Warm up, Unit task, Unit wrap up
23. Topic: Unit 12 Part 1  
Vocabulary, Warm Up, Listening, Cultural Advice/Problem Solving, Cultural Listening Task
24. Topic: Unit 12 Part 2  
Review of previous week/task Warm up, Unit task, Unit wrap up

科目名	Conversation I -15 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) (92年度以前)	担当者名	C. B. 池口
-----	--	------	----------

講義の目標	This course is designed to improve the students' speaking fluency and accuracy by providing training in a lot of critical listening tasks and exposure to model conversations.	
講義概要	Topics in the class will hopefully provide students the opportunity to learn to express their feelings and ideas in a non-threatening context. Less controlled pair-work conversations, and more open-ended small group discussions provide challenge to build self-confidence as well as to improve language skills. Finally students will give a short speech presentation according to their level/s.	
使用教材	テキスト	To be announced.
	参考文献	
評価方法	Student evaluation will be based on class performance and a term-end oral examination. Class performance means participation in class work, assignment and other tasks that may be assigned.	
受講者に対する要望など		

1. Course Orientation : Course description and objective, class requirements, evaluation method, and other details.
2. Meeting New People : Language Tasks and activities  
Pair-work and presentation
3. Where's the Party? : Language Tasks and activities  
Small group discussions
4. Adventures in eating : Language Tasks and activities  
Pair-work and presentation
5. Job Hunting in Tokyo : Language tasks and activities  
Small group discussion
6. Studying English Abroad : Language tasks and activities  
Pair-work and presentation
7. A Home Away from Home : Language tasks and activities  
Small group discussions
8. Video Segment / Film 1 :  
Language Task : looking for information
9. Communication Activities : panel discussion
10. Video Segment / Film 2 :  
Language Task : analyzing for relevant issues
11. Panel discussion : an expansion activity on the movie (Graded)
12. Summary and course evaluation
13. Re-orientation to the Course : objectives, requirements and other details
14. "An Overview of Global Issue" What is my role? Brainstorming
15. Speaking of Sports : Language tasks and activities  
Pair-work and presentation
16. The Real You : language tasks and activities  
Small group discussions
17. Everybody's Got a Story : language tasks and activities  
Pair-work and presentation
18. Shopping for bargains : language tasks and activities  
Small group discussions
19. Don't the future pass you by : language and activities
20. An Introduction to Public Speaking : Fundamental guidelines  
Preparing for a speech presentation
21. Individual Graded Speech Presentation (1)  
Teacher and classmates' evaluation
22. Persuasive Speaking : Fundamental considerations  
Preparing for a speech presentation
23. Individual Graded Speech Presentation (2)
24. Course Summary and Evaluation



科目名	Conversation I-16 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) (92年度以前)	担当者名	R. Jones
-----	---	------	----------

講義の目標	<p>The main objective in this class is to enable the students to be able to talk on a wide range of contemporary English topics. During the class time it will be incumbent upon the students to maximize the amount of time that they spend on communicating in English. The ultimate aim is to achieved through pair and group work on a variety of topics. Students will also give regularly prepared speeches throughout the term which will be judged by their peers. Students coming to this class should be aware that a lot is required of them regarding preparation, review and study.</p>	
講義概要	<p>In a typical class a new topic will be introduced. The students will be expected to discuss the topic and give opinions. Vocabulary building will be undertaken in every class and students are expected to master key vocabulary items each week. Generally speaking, there will be a vocabulary test every week based on vocabulary items that come up in the calls. Students are also expected to review lessons regularly for oral review during class time. The broad topics for discussion are (after an initial lesson of introductions):</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Why learn English.</li> <li>・Changing trends in marriage.</li> <li>・Environmental problems; pollution, endangered species and population control.</li> <li>・Women's rights. Abortion issues.</li> <li>・Family issues.</li> <li>・Money, pay and happiness.</li> <li>・Changing lifestyles.</li> <li>・Free trade.</li> <li>・Assisted Suicides.</li> </ul> <p>The above list is not complete. The yearly plan will contains more information. All topics are subject to change according to interests.</p>	
使用教材	テキスト	No set text will be used. Handouts will be given every lesson.
	参考文献	Handouts and information given out to the students. Occasionally, students will have to do some research on topics by themselves.
評価方法	<p>Good attendance is vital as a lot of class work performance will be scored and this will count towards final grades. Seventy five percent of the final grade is determined through class work and twenty five percent through mid-term and final exams. Graded work consists of;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Vocabulary tests. Most weeks students have to memorize English vocabulary for tests.</li> <li>・Regular quizzes.</li> <li>・Speeches given by students and accessed by peers</li> <li>・Mid-term examination for work covered over the Spring term - the lessons in small groups.</li> <li>・Final examination for work covered in the Fall term - the students have to prepare in order to talk over topics discussed in the lessons in small groups.</li> </ul>	
受講者に対する要望など	<p>The students will be expected to work hard building their vocabulary and preparing for each of the lessons. There will be much homeeork to complete each week.</p>	

In addition the students should bring the following items to class each lesson ;

A note book, pens, pencils and eraser.

A file in which to keep handouts

An English only dictionary of their choice

Vocabulary cards on which to keep new vocabulary

It is most important for absent students to catch up on any missed work and to particularly find out what homework has been set. They should do this by contacting a student who was present at the class they missed.

1. Week 1 Introductions and class expectations
2. Week 2/3/4 Issues in lifestyles. Topics include
3.           a) Why bother studying English?
- b) Marriage
4.           c) Eating habits
- d) Issues in relationships
5. Week 5/6/7 Environmental issues. Topics include
6.           a) How lifestyles threaten the earth
- b) Pollution problems
7.           c) Endangered species
- d) Population control
8. Week 8/9/10 Issues in life and death
9.           a) Right to die?
- b) Assisted suicides
10.          c) Donor organs
11. Week 11/12 Review and mid-term testing. Students will be expected to be able to talk about the main issue discussed in the spring semester.
- 12.
13. Week 13/14/ Issues in society
- 14.
15. 15/16       a) Women's rights — equality, harassment and abortion issues.
- b) Gay issues
16.           c) Helping others
- d) Company loyalty. Concept of full time employment
17. Week 16/17/ Free trade issues
- 18.
18. Week 18/19/ Art and the movies
- 20.
- 19.
- 20.
21. Week 21/22 Personal values
- a) Honesty
- b) Values
22. Week 23/24 Review and testing. In the final exams, the students will be expected to be able to talk in small groups about all topics covered in the fall semester.
- 23.
- 24.

科目名	Conversation I —17 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) (92年度以前)	担当者名	N. H. Jost
-----	--	------	------------

講義の目標	<p>The aim of this course is to provide students with the opportunity to speak English in a friendly and supportive atmosphere. Class time will be spent doing communicative tasks—group surveys; interviews and checklists, pair work, and group projects. As this is a speaking class, students will be asked to prepare for the discussions in advance, and several lectures will be given on how to improve your English abilities, and on how to learn communicative English.</p>		
講義概要	<p>Learning a foreign language is difficult, and it is often made more difficult by the complexity of the discussion topics. This course is for those students who understand English well enough, but have a hard time speaking with ease and confidence. So the primary objective is for students to develop further their speaking abilities.</p>		
使用教材	テキスト	No text. English/English dictionary.	
	参考文献	Materials will be provided by the instructor.	
評価方法	<p>Students who try hard and practice will see significant gains in their language development.</p>		
受講者に対する要望など	<p>Grading will be based on classroom participation, listening journals, and midterm and final oral presentations.</p>		

1. Course introduction. Mini lecture on learning English.
2. Student introductions. Group presentations.
3. First day of kindergarten. Asking W questions.
4. First away from home. Describing things.
5. Telling a few stories. Finding the most interesting story. Checklist.
6. Getting lost in a big city. Asking for directions.
7. Favorite T. V. commercial. Promoting a product or idea.
8. T. V. commercial project.
9. Presenting T. V. commercials.
10. Cleaning out the refrigerator. Taking care of old business. Procrastination.
11. Your most and your least favorite food. Describing likes and dislikes. Survey.
12. Class projects : presentations.
13. Summer vacation. Stories to be told.
14. Bargain Shopping. Conducting a class survey. W questions.
15. Popular music getting the lyrics down.
16. Writing your own song.
17. Your favorite word or expression in English.
18. Learning how to speak Minnesoian : Short video on the way people speak in Minnesota.
19. Teaching someone how to do something. Classroom demonstrations.
20. Cooking class. Talking about how to make things.
21. Can washing dishes be fun ? A critical investigation into this controversy.
22. Start group projects.
23. Presentation.
24. Farewell to all : a recapping of the year's stories.

科目名	Conversation I-18 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) (92年度以前)	担当者名	D. R. Kogge
-----	---	------	-------------

講義の目標	This course is designed to give students an opportunity to increase their vocabulary, fluency and confidence in speaking English.		
講義概要	The course is organized around a small-group, student-centered discussion format. A wide range of topics is examined, including global issues, current events, and contemporary trends.		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	Final grades are based on attendance, participation, homework, and presentations or examinations.		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction. A poll of topic suggestions will be taken.</li> <li>2. Topic 1</li> <li>3. Topic 2</li> <li>4. Current news topics</li> <li>5. Topic 3</li> <li>6. Topic 4</li> <li>7. Current news topics</li> <li>8. Topic 5</li> <li>9. Topic 6</li> <li>10. Oral presentations or examinations</li> <li>11. Oral presentations or examinations</li> <li>12. Oral presentations or examinations</li> <li>13. Review</li> <li>14. Topic 7</li> <li>15. Topic 8</li> <li>16. Current news topics</li> <li>17. Topic 9</li> <li>18. Topic 10</li> <li>19. Current news topics</li> <li>20. Topic 11</li> <li>21. Topic 12</li> <li>22. Oral presentations or examinations</li> <li>23. Oral presentations or examinations</li> <li>24. Oral presentations or examinations</li> </ol>		

科目名	Conversation I —19, 20 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) (92年度以前)	担当者名	R. M. Payne
-----	--	------	-------------

講義の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. to give students practice in building conversational and communicative skills</li> <li>2. to improve students' listening skills</li> <li>3. to expose students to the culture of the language</li> </ol>	
講義概要	<p>We will cover approximately one chapter every two classes. On the first day, we will look at the vocabulary and discuss the introductory picture. On the second, we will do other expansion activities.</p>	
使用教材	テキスト	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. <i>Everyday Situations for Communicating in English</i>, (National Textbook Company) will be used as the primary source for this class.</li> </ol>
	参考文献	<ol style="list-style-type: none"> <li>2. Complementary/supplemental materials and activities will be used as appropriate. Suggestions from students are welcome.</li> </ol>
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. attendance/participation/assignments/homework : 80 % This score will be based on the student's performance in class, preparation for class, and completion of assignments. If a student is absent more than seven times, the student will receive a failing grade for the class. Two tardies will be counted as one absence. Homework will be assigned in preparation for each lesson/chapter. This work will be marked simply either pass or fail.</li> <li>2. tests and quizzes : 20 %</li> </ol>	
受講者に対する要望など		

1. Introduction to course, discussion of class rules, syllabus, and distribution of first supplementary materials
2. Unit 1, Chapter 1: Everyday Situations for Communicating in English
3. Unit 1, Chapter 1: Everyday Situations for Communicating in English
4. Unit 1, Chapter 2: Everyday Situations for Communicating in English
5. Unit 1, Chapter 2: Everyday Situations for Communicating in English
6. Unit 1, Chapter 3: Everyday Situations for Communicating in English
7. Unit 1, Chapter 3: Everyday Situations for Communicating in English
8. Unit 2, Chapter 5: Everyday Situations for Communicating in English
9. Unit 2, Chapter 5: Everyday Situations for Communicating in English
10. Unit 2, Chapter 6: Everyday Situations for Communicating in English
11. Unit 2, Chapter 6: Everyday Situations for Communicating in English
12. Unit 2, Chapter 7: Everyday Situations for Communicating in English
13. Review of first semesters work ; refresher on class rules and syllabus.
14. Unit 2, Chapter 8: Everyday Situations for Communicating in English
15. Unit 2, Chapter 8: Everyday Situations for Communicating in English
16. Unit 2, Chapter 9: Everyday Situations for Communicating in English
17. Unit 2, Chapter 9: Everyday Situations for Communicating in English
18. Unit 2, Chapter 10: Everyday Situations for Communicating in English
19. Unit 1, Chapter 10: Everyday Situations for Communicating in English
20. Unit 1, Chapter 4: Everyday Situations for Communicating in English
21. Unit 1, Chapter 4: Everyday Situations for Communicating in English
22. Unit 3, Chapter 11: Everyday Situations for Communicating in English
23. Unit 3, Chapter 11: Everyday Situations for Communicating in English and Listening Section of TOEFL
24. Final exam or project (to be announced)

科目名	Conversation I—21 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) (92年度以前)	担当者名	M. A. Schible
-----	---	------	---------------

講義の目標	The goal of the course is to help students communicate effectively with native speakers. The specific aim will be on oral comprehension and speaking skills necessary for study at English language institutions, success in the professions and business.		
講義概要	Class time will be spent in exercises to improve listening comprehension utilizing audio and video tape from a wide range of materials including news broadcasts, segments from drama, comedy and documentaries. Students are expected to actively take part in discussions based on the above programs and articles from British and American newspapers and magazines.		
使用教材	テキスト	Prints and tapes supplied by instructor. Students will be encouraged to suggest material for study.	
	参考文献	Bring to class a good paperback edition of a dictionary designed for native adults such as <i>The Merriam Webster Dictionary</i> , <i>The American Heritage College Dictionary</i> , or <i>The Random House Dictionary of the English Language</i> .	
評価方法	Grades will be based on attendance, active participation, quizzes, and presentations.		
受講者に対する要望など			



1. Orientation covering the goals, methods and standards for course evaluation. Interviews and selection of students; introduction of first topic for discussion.
2. Discussion: American life style. Text: to be announced.
3. Viewing and discussion of news broadcast. "Swing Fever," ABC. Quizz.
4. Discussion: The Environment. Text: to be announced.
5. Viewing and discussion based on U. S. documentary.
6. Viewing and discussion on documentary (continued).
7. Orientation for student presentations.
8. Student presentations.
9. Student presentations.
10. Student presentations.
11. Student presentations.
12. Discussion and evaluation of presentations.
13. Viewing and discussion. Soap: "Chicago Hope," KCOP San Francisco.
14. Viewing and discussion. Soap: "Chicago Hope," (cont.)
15. Discussion: Entertainment. Text: to be announced.
16. Discussion: The Economy. Text from *The Washington Post*. Quizz.
17. Discussion: Science and Technology. Text: to be announced.
18. Discussion: Education. Text from *Time Magazine*. Quizz.
19. Orientation for student presentations.
20. Student presentations.
21. Student presentations.
22. Student presentations.
23. Student presentations.
24. Discussion and evaluation of presentations.

科目名	Conversation I - 22 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) (92年度以前)	担当者名	G. Sweeny
-----	---	------	-----------

講義の目標	The goal of this class will be to help students raise their level of fluency, improve communicative skills and deepen their understanding of cultural differences.
-------	--

講義概要	Class time will be divided between whole class activities from the text, group discussions based on student generated topics and handouts from the teacher. The focus of the lectures will be on countries of the world.
------	--

使用教材	テキスト	The text used in this course will be Speaking Internationally, by Paul McLean.
	参考文献	

評価方法	Students will be graded on attendance, classroom participation, short tests and a final project.
------	--

受講者に対する要望など	The teacher will expect all students to participate fully in class.
-------------	---

年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Australia</li> <li>2. United Kingdom</li> <li>3. Ireland</li> <li>4. Mexico</li> <li>5. Sweden</li> <li>6. Germany</li> <li>7. China</li> <li>8. Nigeria</li> <li>9. Russia</li> <li>10. Indonesia</li> <li>11. France</li> <li>12. India</li> <li>13. Canada</li> <li>14. Thailand</li> <li>15. Greece</li> <li>16. United States</li> <li>17. Israel</li> <li>18. Brazil</li> <li>19. Egypt</li> <li>20. Philippines</li> <li>21. Iran</li> <li>22. Netherlands</li> <li>23. New Zealand</li> <li>24. Final Project</li> </ol>
--------	--

科目名	Conversation I —23, 24 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) (92年度以前)	担当者名	L. Villeneuve
-----	--	------	---------------

講義の目標	<p>Through the study of HUMANISM, this course will give the students the chance to practice their spoken English in a context of learning about a system of thought based on the nature, dignity, interests, and ideals of a person.</p>	
講義概要	<p>Each lecture will deal with a different topic. At the beginning of the class, key words will be explained. Then, a short lecture will be given followed by the students' participation in an exchange of ideas and opinions.</p> <p>There will be opportunities for the students to better understand themselves and realize that dreams are not always at the end of the rainbow.</p> <p>This is for students who believe they are able to express their ideas in English</p>	
使用教材	テキスト	No textbook ; only a note book will be required.
	参考文献	
評価方法	<p>A regular attendance and an active participation will be a heavy factor on deciding the final marks because there will be no final examination. Senior students, who think they might not attend the majority of the classes, should look for another course or be prepared to read a book approved by the teacher and write a final report at the end of the second semester. The limit number of participants will be 35.</p>	
受講者に対する要望など		

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. What Is Humanism?
2. Theory of Animal Nature
3. Theory of Human Nature I
4. Analysis of The Mind
5. Theory of Human Nature II
6. Definition of Love
7. Public Enemy # 1
8. Human Relationship I Mental Attitude
9. Human Relationship II Conditions
10. Relationship Between Students & Teachers
11. Relationship Between Different Orientations
12. International Relationship (Non-Governmental)
13. Painting A Self-Portrait
14. Happiness
15. Why We Ought To Succeed
16. Success Is Your Choice
17. Success Goes On And On
18. Dream And Succeed
19. Conditions for Success
20. Pearls of Wisdom
21. The One Not Number One
22. Not Bitterness But Nectar
23. Who And What Are You?
24. Personal Impressions

科目名	Conversation I - 25 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) (92年度以前)	担当者名	J. J. Waldman
-----	---	------	---------------

講義の目標	The aim of this course will be to help students improve their level of fluency, develop their communicative skills and deepen their level of cultural awareness.	
講義概要	Class time will be divided between class activities, group discussions, mini lectures and selected handouts from the teacher.	
使用教材	テキスト	No text will be used, but students will be expected to prepare and generate topics for class discussions.
	参考文献	
評価方法	Students will be graded on attendance, classroom participation, homework, and examinations.	
受講者に対する要望など	The teacher will expect all students to maintain a high level of enthusiasm as well as adhere to all grade requirements listed above.	

1. Introductions with an explanation of the grading system and student requirements.
2. In this session students will generate topics for discussion that will be used throughout the semester.
3. The main topic of discussion will focus on dating and marriage customs in Japan and the United States.
4. The differences in life styles between the students and their parents will be the topic of conversation in this class.
5. This session will revolve around reading patterns and student's favorite books.
6. The Confucian and Socratic methods of education will be discussed in this class.
7. This session will focus on travel experiences to broaden students' cultural understanding.
8. Health issues affecting university students will be the topic of this class.
9. High school memories and a comparison between high school life and college life will be the discussion topic in this class.
10. Storytelling techniques will be used to generate conversation among students.
11. The main topic of discussion in this class will revolve around summer travel plans.
12. Midterm examination.
13. This class will focus on leisure activities and attitudes toward work and family life.
14. The changing roles of men and women in the United States and Japan will be the topic of discussion in this class.
15. In this class students will learn to read and understand English newspapers.
16. Students will continue to work with English newspapers to further proficiency.
17. This will be the last class using English newspapers with a review for upcoming test.
18. Test on the previous three lessons using English newspapers.
19. Students will give presentations explaining Japanese culture
20. Problems of non-Japanese people living in Japan will be the focus of discussion in this class.
21. Storytelling techniques will be used to generate discussion in this class.
22. The topic of this class will be environmental problems.
23. Communication activity music will be the focus of this class.
24. Final examination.

科目名	Conversation II - 1 (93年度以降) 英会話 (Advanced) (92年度以前)	担当者名	K. R. Bayne
-----	---	------	-------------

講義の目標	This class will try to get away from the use of traditional language textbooks by using short letters written by native speakers to look at real language, idioms and cultural situations.	
講義概要	Through the use of letters written to an advice column in the United States students will be introduced to language written for communication that also can be used for discussion of interesting cultural differences and adapted for situational role-plays. Vocabulary and idiom building will also be an important feature. Participation to the best of their abilities the key.	
使用教材	テキスト	
	参考文献	Materials will be provided by the teacher.
評価方法	Grades will be based on classroom performance and participation on a week-to-week basis, periodic tests and oral testing. Good attendance is paramount. Most IMPORTANT is a willingness to try and contribute and learn.	
受講者に対する要望など		

*Class One*

Course Introduction in the first class will outline the general aims and methodology. This will also include outline of class grading policies & setting up of on-going activities.

Each lass will follow a similar pattern :

- scene setting and short general discussion of the situation
- reading and analysis of the short letter highlighting of key vocabulary and idioms
- concept checks through comprehension questions discussion of key communication points of the letter discussion of key culture-specific points of the letter
- language practice using one of more language forms found in the letter
- discussion of the 'reply' to the letter discussion of suggestions and advice from the students

The actual emphasis on each of the above steps may change lesson to lesson and also depend greatly on student interest.



科目名	Conversation II - 2 (93年度以降) 英会話 (Advanced) (92年度以前)	担当者名	W. J. Benfield
-----	---	------	----------------

講義の目標	The aim of the course is to develop general fluency through discussion and presentation of a variety of topics. We will also focus particularly on the expansion of vocabulary and range of expression.		
講義概要	Each topic will cover two classes. In the first class we will use texts and/or video to outline the main points. Students will do further research for homework and in the second class the topic will be discussed at greater length. Topics listed may change depending on the interests of the class.		
使用教材	テキスト	Print and video.	
	参考文献		
評価方法	Assessment will be on the basis of attendance, performance and participation in class activities. There will also be an examination at the end of each semester which will take the form of a monitored discussion in small groups.		
受講者に対する要望など			

1. Introduction to the course ; student selection.
2. Topic 1 : Enviromental problems
3. Topic 1 contd.
4. Topic 2 : Education in Japan
5. Topic 2 contd.
6. Topic 3 : The communications revolution——computers and the Internet
7. Topic 3 contd.
8. Topic 4 : Story telling
9. Topic 4 contd.
10. Topic 5 : The problem of AIDS
11. Topic 5 contd.
12. Mid-term examination
13. Review of first term's work
14. Topic 6 : Work-are any jobs permanent?
15. Topic 6 contd.
16. Topic 7 : Crime and punishment
17. Topic 7 contd.
18. Topic 8 : Language-comparing communication in Japanese and English
19. Topic 8 contd.
20. Topic 9 : The drug problem
21. Topic 9 contd.
22. Topic 10 : The origin of Christmas and other festivals.
23. Topic 10 contd.
24. Final examination

科目名	Conversation II - 3 (93年度以降) 英会話 (Advanced) (92年度以前)	担当者名	D. Bradley
-----	---	------	------------

講義の目標	<p>The aim of the course is to give students opportunities to take part in advanced level EFL speaking and discussion activities. We will be using a supplementary reader on intercultural communication as a text and other aims will be to, 1) use the text as a basis for discussion, 2) think about the idea of culture and 3) in the simulation games, to create feelings which are similar to those you might experience when you travel to a different culture.</p>	
講義概要	<p>This is a conversation class. Students will be expected to read a chapter of the textbook before the class so that they can join in the discussion. There will be handouts to supplement the textbook, all with the aim of encouraging speaking.</p>	
使用教材	テキスト	Nancy Sakamoto and Reiko Naotsuka ; <i>Polite Fictions, Kinseido</i>
	参考文献	
評価方法	<p>Grades will be based on attendance, class participation and short tests. In particular, good attendance is a prerequisite for a final grade.</p>	
受講者に対する要望など	<p>Students will work together in pairs during the speaking activities and it is important that you make an effort to speak in English and maintain English throughout the lesson. This effort will be reflected in the grading.</p>	

1. Introduction to the course
2. General discussion topics-giving opinions
3. General discussion topics-giving opinions
4. General discussion topics-newspaper articles
5. General discussion topics-newspaper articles
6. Simulation game on cultural clashes
7. Chapter 1-You and I are Equals : greetings and how they affect social assumptions.
8. Chapter 2-You and I are Close Friends : names and being friendly.
9. Chapter 3-You and I are Relaxed : a look at different styles of entertaining
10. Chapter 4-You and I are Independent : social structure and how it is reflected in the way people ask favors.
11. Chapter 5-People as Individuals : how cultural assumptions affect not only how you speak but what you say.
12. Test
13. Film on cross-cultural exchange
14. Film on cross-cultural exchange
15. Chapter 6-Being Original : emphasizes the content of what people say and looks at the effect on the movies they enjoy.
16. Chapter 7-Questions, Questions! : "aisatsu" questions don't need to be answered.
17. Chapter 8-Answer to the Point : straight line versus circular logic.
18. Chapter 9-Conversational Ballgames : conversation as a sport, tennis versus bowling.
19. Chapter 10-Don't Apologize! : when not to apologize.
20. Chapter 11-Nobody Told Me! : when to apologize.
21. Culture simulation-game
22. Culture simulation-discussion
23. Review
24. Test

科目名	Conversation II-4 (93年度以降) 英会話 (Advanced) (92年度以前)	担当者名	J. J. Duggan
-----	---	------	--------------

講義の目標	The purpose of this course is to give students the chance to use English discussion skills at a higher level. The secondary goal is to introduce the content-based material of American values.		
講義概要	This class will present and explain the values, attitudes, and cultural patterns underlying American behavior patterns and institutions. This will be used as the basis of class discussion.		
使用教材	テキスト	Kearny, M. A., et. al.; "The American Way", Prentice-Hall Regents	
	参考文献		
評価方法	Grades will be based on attendance, in-class participation, bi-weekly assignments, and a midyear and final exam.		
受講者に対する要望など			

1. Course description and explanation (text pp.vii-ix).
2. Chapter 1— Introduction to American Culture (pp.1-17). Vocabulary & comprehension exercises.
3. Class discussion on Chapter 1.
4. Chapter 2— Basic American Values and Beliefs (pp.18-37). Vocabulary & comprehension exercises.
5. Class discussion on Chapter 2.
6. Chapter 3— The Protestant Heritage (pp.38-57). Vocabulary & comprehension exercises.
7. Class discussion on Chapter 3.
8. Chapter 4—The Frontier Heritage (pp.58-77). Vocabulary & comprehension exercises.
9. Class discussion on Chapter 4.
10. Chapter 5—The Heritage of Abundance (pp.78-99). Vocabulary & comprehension exercises.
11. Class discussion on Chapter 5.
12. Assessment.
13. Review of first term material.
14. Chapter 6— The World of American Business (pp.100-119). Vocabulary & comprehension exercises.
15. Class discussion on Chapter 6.
16. Chapter 7— Government and Politics in the United States (pp.120-139). Vocabulary & comprehension exercises.
17. Class discussion on Chapter 7.
18. Chapter 8— Ethnic and Racial Assimilation in the United States (pp.140-159). Vocabulary & comprehension exercises.
19. Class discussion on Chapter 8.
20. Chapter 9— Education in the United States (pp.160-181). Vocabulary & comprehension exercises.
21. Class discussion on Chapter 9.
22. Chapter 10— Organized Sports and Recreation (pp.182-199). Vocabulary & comprehension exercises.
23. Class discussion on Chapter 10.
24. Assessment.

科目名	Conversation II -- 5 (93年度以降) 英会話 (Advanced) (92年度以前)	担当者名	A. R. Falvo
-----	--	------	-------------

講義の目標	To improve the ability to use non verbal clues to generate appropriate linguistic responses in the given context of an everyday situation		
講義概要	Using a movie with closed captions students will observe, comment up on and model the various scenes from the movie to build their ability communicate in English situational conversations.		
使用教材	テキスト		
	参考文献	Prints from the closed captioned script of movies.	
評価方法	Quizzes, Questions in class from scenes in the movies, term multiple choice exams and attendance.		
受講者に対する要望など	Active, serious attention and effort to succeed in this course		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course introduction and expectations</li> <li>2. Presentation of first movie</li> <li>3. Focus on non verbal clues</li> <li>4. In to national contours</li> <li>5. Tracking of dialogue</li> <li>6. Making inferences from the scene</li> <li>7. Predictions from the dialogue</li> <li>8. Context generated responses</li> <li>9. Drawing irony from the nonverbal clues</li> <li>10. Determining the tone of the speaker</li> <li>11. Review of material</li> <li>12. Exam in class--multiple choice questions</li> <li>13. Review of exam</li> <li>14. Presentation of second movie Reinforcement of concepts taught in 1st term</li> <li>15. Focus on non verbal clues</li> <li>16. intonational contours</li> <li>17. Tracking of dialogue</li> <li>18. Making inferences from the scene</li> <li>19. Predictions from the dialogue</li> <li>20. Context generated responcees</li> <li>21. Drawing irony from the nonverbal clues</li> <li>22. Determining the tone of the speaker</li> <li>23. Review of material</li> <li>24. Exam in class--multiple choice questions</li> </ol>		

科目名	Conversation II - 6 (93年度以降) 英会話 (Advanced) (92年度以前)	担当者名	F. Fearn
-----	---	------	----------

講義の目標	This course is intended for students at an advanced level wishing to develop their listening and speaking skills.		
講義概要	Through the use of small group and class discussion students will have the opportunity to express themselves on a wide variety of contemporary subjects. Students should be willing to openly engage in free discussion of topical issues and participate in role plays.		
使用教材	テキスト	To be provided.	
	参考文献	Will include print and video. Students are welcome to suggest subjects for research and discussion.	
評価方法	Assessment will be on the basis of attendance, performance and participation. There will also be a monitored discussion in Semester 1 and a research exercise in Semester 2.		
受講者に対する要望など			



年  
間  
授  
業  
計  
画

1. Current news topics
2. Current news topics
3. Current news topics
4. Current news topics
5. Role play
6. Current news topics
7. Current news topics
8. Role play
9. Current news topics
10. Current news topics
11. Current news topics
12. Monitored discussion
13. Current news topics
14. Current news topics
15. Role play
16. Current news topics
17. Current news topics
18. Current news topics
19. Role play
20. Current news topics
21. Current news topics
22. Current news topics
23. Student research presentations
24. Student research presentations

科目名	Conversation II-7 (93年度以降) 英会話 (Advanced) (92年度以前)	担当者名	T. Hill
-----	---	------	---------

講義の目標	To help students develop the ability to formulate ideas and express their opinions on issues of international significance.		
講義概要	Each week students will read an article on a designated topic. In class they will present their article and give their own opinions. This will lead to a general discussion on the designated topic and all students will be expected to actively participate.		
使用教材	テキスト	Articles from Newspapers and Magazines	
	参考文献		
評価方法	Students will be graded on participation in class discussion, mid-term and final speech, and attendance.  This course is for students of the <i>advanced</i> level.		
受講者に対する要望など			

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. Euthanasia : should it be legalized in our modern society?
2. Article 9 : should Japan create a modern army?
3. The International Community : what should Japan's role be?
4. University Education : its role in Japan's modern society.
5. Homosexuality : a sickness or an alternative life-style?
6. Aids : what can be done about the problem?
7. Mass Media : the good points and the bad points.
8. The Northern Territories : do we need them?
9. Japan : what can we be proud of and ashamed of, in our culture?
10. The Death Penalty : should it be abolished?
11. Test—a speech (15 mins)
12. Test—a speech (15 mins)
13. The Courts : do we need a Jury system?
14. America : What should Japan's relationship be?
15. Japanese education : its strengths and weaknesses.
16. Music : its role in our lives.
17. The Monarchy : do we need them?
18. Smoking : should it be banned in all public places?
19. English education in Japan : its strengths and weaknesses.
20. Abortion : who has the right?
21. A multicultural society : what is it? do we want it?
22. University : what is its role in modern society?
23. Test—a speech (15 mins)
24. Test—a speech (15 mins)

科目名	Conversation II - 8 (93年度以降) 英会話 (Advanced) (92年度以前)	担当者名	C. B. 池口
-----	---	------	----------

講義の目標	The goals of this course are two-fold: to develop students' critical listening and thinking, and polish their ability to express personal ideas in a coherent and logical manner.	
講義概要	Issues of international appeal, particularly to EFL students, will be presented to encourage target language use and generate active discussion. Small group discussions in the first term will prepare class members for more organized forms of public speaking in the second term.	
使用教材	テキスト	To be announced
	参考文献	Speech Communication for International Students
評価方法	Student evaluation will be based on class performance and a mid-year and a final oral test. Class performance includes participation in class discussions and individual speech presentations. Attendance is obligatory.	
受講者に対する要望など		

1. Brainstorming/Course Orientation :  
Course description and objectives, class requirements, evaluation method, etc..
2. Text : "Give My Place to Smoke"  
Focus on Language Tasks
3. Expansion Activities geared towards interactive communication.  
The Importance of outlining
4. Text : "Drive-in Shopping"  
Focus on Language Tasks
5. Expansion Activities for creative communication.  
The Importance of Outlining
6. Text : "The Mail-Order Bride"  
Focus on Language Tasks
7. Expansion Activities geared towards interactive communication.  
Outlining Ideas
8. Text : "The Wrong End of a Pistol"  
Focus on Language Tasks
9. Expansion Activities for creative communication.  
Outlining Ideas
10. Text : "Informed Consent"  
Focus on Language Tasks
11. Summary and course evaluation
12. Term Test
13. Course Re-orientation/Brainstorming on Public Speaking
14. Informative Speech : Principles and guidelines  
Preparing for Informative Speeches : Outlining
15. Informative Speech : Presentation (Graded : First Half of the Class)  
Topic : "The Growing Japanese Women"
16. Small group discussion  
The Issue : "English Education in Japan"
17. Persuasive Speech : Principles and guidelines  
Preparing for Persuasive Speech : Outlining
18. Persuasive Speech Presentation (Graded : Second Half of the Class)  
Topic : "Where is the gentleman in Japan"
19. A mini talk show on the previous discussion topic
20. Debating : Guidelines/Format and Procedures  
Watching sample debate/s on video
21. Practice Debate 1 : Intra-year level  
Proposition to be chosen by debaters
22. Practice Debate 2 : Inter-year level  
Proposition to be chosen by debaters
23. Final debate : Winners from each of the previous debating teams
24. Summary & Course Evaluation

科目名	Conversation II - 9 (93年度以降) 英会話 (Advanced) (92年度以前)	担当者名	N. H. Jost
-----	---	------	------------

講義の目標	<p>The primary aim of this course is to have enjoyable and rewarding conversations—to improve our listening and speaking abilities. Thus, the general theme for this class will be lighthearted in nature. The general theme is music and its influences on the human condition. Students will be asked to prepare in advance the assigned topics, and to have ready all materials needed for their presentations and group projects. Students will also be asked to keep a listening journal for this class.</p>		
講義概要	<p>The approach to our discussions will in many instances follow a literary paradigm. We will look at meaning in lyrics, and try to find the musicians intent. Analysis, interpretation, and appreciation will each play an important role in the success of this class.</p>		
使用教材	テキスト	No text is required for this class.	
	参考文献	Materials will be provided by instructor. Students will need several blank cassettes.	
評価方法	<p>Grading will be based on classroom participation, listening journals, and on midterm and final oral presentations.</p>		
受講者に対する要望など			

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. Course introductions. Selection of students.
2. Students introduction and musical likes. Class survey.
3. The Beatles : The greatest band ever? Analysis and discussion.
4. Discussion : Simplicity and purity : 'I wanna hold your hand' and 'A hard days night'
5. Elton John's 'England Rose': Transcribing, analyzing, and discussing.
6. Johnny Cash sings the blues. Sad songs we love to hear, but Why?
7. Student selections. Transcribing ; presenting and discussing.
8. Student selections. Transcribing ; presenting and discussing.
9. Peter Garbrial and South Africa.....Steven Biko.
10. Music you love and music you love to hate.
11. Graded discussion : Ethnic music vs..high techno pop.
12. Graded discussion : Music in Japan. Check listening journals.
13. Welcome back! Second semester starts. Japanese artists : Who are they and Why?
14. Seiji Ozawa : What to do?
15. Classical music and its influences in the West. Discussion and investigation.
16. Student explanations of Japanese traditional music with mini-examples.
17. Music that fills the soul. Great music and the emotions that are provoked. Why?
18. Elvis Presely : Discussion : On his fame and why he'll never die.
19. 'Hallelujah' 'Gloria in excelsis Deo' The influence of the church on music : Discussion.
20. Music is poetry discussion.
21. Student selections and presentations.
22. Student selections and presentations.
23. Student selections and presentations.
24. Student selections and presentations.

科目名	Conversation II —10 (93年度以降) 英会話 (Advanced) (92年度以前)	担当者名	D. R. Kogge
-----	---	------	-------------

講義の目標	This course is designed to give students an opportunity to increase their vocabulary, fluency, and confidence in speaking English.		
講義概要	The course is organized around a small group, student-centered format. Discussions will focus on topics of international significance. As such, students are expected to keep themselves well-informed of current global events.		
使用教材	テキスト	Printed materials	
	参考文献		
評価方法	Final grades are based on attendance, participation, homework assignments, and oral presentations. or examinations. Fourth-year students should not expect special treatment.		
受講者に対する要望など	Only students with a keen interest in international events should enroll in this course.		



年  
間  
授  
業  
計  
画

1. Introduction. A survey of student's areas of interest in international topics will be conducted.
2. Topic 1
3. Topic 2
4. Current news topics
5. Topic 3
6. Topic 4
7. Current news topics
8. Topic 5
9. Topic 6
10. Oral presentations or examinations
11. Oral presentations or examinations
12. Oral presentations or examinations
13. Review
14. Topic 7
15. Topic 8
16. Current news topics
17. Topic 9
18. Topic 10
19. Current news topics
20. Topic 11
21. Topic 12
22. Oral presentations or examinations
23. Oral presentations or examinations
24. Oral presentations or examinations

科目名	Conversation II -11 (93年度以降) 英会話 (Advanced) (92年度以前)	担当者名	P. McEvilly
-----	---	------	-------------

講義の目標	The purpose of this course is to give students the chance to use English discussion skills at a higher level. The secondary goal is to develop students critical listening and thinking abilities.
-------	--

講義概要	Contemporary topics selected from National Public Radio broadcasts will be presented. These will form the basis for class discussion.
------	---

使用教材	テキスト	Numrich, Carol, Consider the Issues, Longman
	参考文献	

評価方法	Grades will be based on attendance, in class participation, vocabulary quizzes, and a midyear and final exam
------	--

受講者に対する要望など	
-------------	--

年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course discription and explanation (text pp. iv-vi)</li> <li>2. Unit 1-If it Smells Like Fish, Forget it (pp. 1-14)</li> <li>3. Class Discussion on Unit 1</li> <li>4. Unit 2-Living Through Divorce (pp. 15-26)</li> <li>5. Class Discussion on Unit 2</li> <li>6. Unit 3-A Couch Potato (pp. 27-37)</li> <li>7. Class Discussion on Unit 3</li> <li>8. Unit 4-The Bible Hospital (pp. 38-50)</li> <li>9. Class Discussion on Unit 4</li> <li>10. Unit 5-A Boy's Shelter For Street People (pp. 51-65)</li> <li>11. Class Discussion on Unit 5</li> <li>12. Midyear Examination</li> <li>13. Unit 6-The Four New Food Groups (pp. 66-80)</li> <li>14. Class Discussion on Unit 6</li> <li>15. Unit 7-The Dirty Dozen (pp. 81-92)</li> <li>16. Class Discussion on Unit 7</li> <li>17. Unit 8-Attached to Crime (pp. 93-105)</li> <li>18. Class Discussion on Unit 8</li> <li>19. Unit 9-From One World to Another (pp. 106-122)</li> <li>20. Class Discussion on Unit 9</li> <li>21. Unit 10-Meet you on the Air (pp. 123-134)</li> <li>22. Class Discussion on Unit 10</li> <li>23. Review of second term material</li> <li>24. Final Examination</li> </ol>
--------	--

科目名	Conversation II-12 (93年度以降) 英会話 (Advanced) (92年度以前)	担当者名	C. J. Poel
-----	--	------	------------

講義の目標	The goals of this course are to learn about socially appropriate language use, to become comfortable in interacting in small groups, to work and study cooperatively on various speaking projects,... and to have a good time.	
講義概要	This course will focus on what language is appropriate in different social situations, both business and casual. We will study a variety of information about greetings, overseas homestay, barbeques and home parties, and finding a job. Students will compare their own experiences with "typical" situations in the West. This course is basically a listening and discussion format, with a reading component as well.	
使用教材	テキスト	D. E. S. I. R. E. (Homan & Poel) Macmillan Languagehouse
	参考文献	Students should also have an English-English dictionary. I will make a recommendation on the first day of class. In addition, all students must have an e-mail account.
評価方法	Students will be evaluated based on (1) attendance, (2) participation in class, (3) writing assignments, and (4) homework.	
受講者に対する要望など		

1. Introductions and course outline
2. 1 : Welcome to Our Group-groupwork training and practice.
3. 2 : New Friends, Old Faces-introducing oneself in a natural manner.
4. 2 : New Friends, Old Faces-discussion and review.
5. 3 : I Say Goodbye-recognizing when a conversation is coming to a close.
6. 3 : I Say Goodbye-discussion and review.
7. 4 : Welcome to Our Country-travelling overseas for business or homestay.
8. 4 : Welcome to Our Country-discussion and review.
9. 5 : A Day Far Away-responsibilities and expectations of travelling to another country.
10. 5 : A Day Far Away-discussion and review.
11. 6 : Whistling in the Dark-appropriate and inappropriate use of gestures and other non-verbal communication.
12. 6 : Whistling in the Dark-discussion and review.
13. 7 : How about a Cookout-planning and preparing for a casual social event.
14. 7 : How about a Cookout-discussion and review.
15. 8 : You're Invited-Differences between three types of invitations: formal, casual, and "false".
16. 8 : You're Invited-discussion and review.
17. 9 : What Can I Get You-obligations and social manners when visiting a Westerner's home.
18. 9 : What Can I Get You-discussion and review.
19. 10 : Pounding the Pavement-preparing for a job interview.
20. 10 : Pounding the Pavement-discussion and review.
21. 11 : Do I Get the Job-making a good impression at the job interview.
22. 11 : Do I Get the Job-discussion and review.
23. 12 : On the Job-expectations for first day at a new company.
24. 12 : On the Job-discussion and review.

科目名	Discussion 1 (93年度以降) 英会話(Highly Advanced: Discussion)(92年度以前)	担当者名	W. J. Benfield
-----	---	------	----------------

講義の目標	<p>The course will be essentially content-based with a focus on the theme of cultural comparison. The main aim will be to increase awareness of a variety of cultural factors that determine people's view of themselves and others, and hence have a crucial bearing on communication. On a linguistic level the aim of the course is to develop fluency in discussing such topics and provide the opportunity for a considerable expansion in vocabulary and range of expression.</p>	
講義概要	<p>We will explore a number of thematic areas linked to the subject of culture. The word 'culture' here does not refer only to high culture such as literature and painting etc. but to the broader meaning of culture, i.e. the traditions, beliefs and practices which characterize different groups of people. Some of the themes covered in the course will be language, the family, social relationships, different attitudes toward space and time, and popular culture. There will be no set text and material will be drawn from a variety of publications. Video clips may also be used where appropriate. Students will undertake research projects in groups and present their results orally to the class.</p>	
使用教材	テキスト	<p>We will use mainly material photocopied from books and articles and occasionally video. Some material will be based on the work of American anthropologist Edward T. Hall. Topics may be modified depending on the interests of the group.</p>
	参考文献	
評価方法	<p>Assessment will be on the basis of attendance, performance and participation in class activities. There will also be an examination at the end of each semester which will take the form of a monitored discussion in small groups.</p>	
受講者に対する要望など		

1. Course outline ; student selection.
2. Discussion : What do we mean by culture?
3. Students present what they think are some distinguishing features of Japanese culture and explain how these might differ from those of other countries with which they are familiar.
4. Western views of Japan.
5. Japanese views of the West.
6. Group presentations.
7. How different cultures deal with space.
8. Continuation of week 7 theme.
9. How different cultures deal with time.
10. Continuation of week 9 theme.
11. Review of areas covered so far.
12. Mid-term examination.
13. Language and culture : how social structures are reflected in language.
14. Continuation of week 13 theme.
15. Continuation of week 13 theme.
16. Group presentations.
17. Nature or nurture : are we influenced more by environment or heredity?
18. Continuation of week 17 theme.
19. Group presentations.
20. The melting pot : what does multiculturalism mean for a society?
21. Continuation of week 20 theme.
22. The origins and meanings of Christmas and other festivals.
23. Continuation of week 22 theme.
24. Final examination

科目名	Discussion 2 (93年度以降) 英会話(Highly Advanced: Discussion) (92年度以前)	担当者名	T. Hill
-----	--	------	---------

講義の目標	To help advanced students develop the ability to formulate ideas and express their opinions on issues of international significance.		
講義概要	<p>Students will be expected to do in-depth reading on the designated topic, and to come to class with some knowledge of the pros and cons of each issue.</p> <p>The class will be a general discussion, and students will be expected to enthusiastically join in and to express and back-up their own opinions.</p>		
使用教材	テキスト	Articles from Newspapers and Magazines	
	参考文献		
評価方法	<p>Students will be graded on participation in class discussion, mid-term and final speech, and attendance.</p> <p>This course is for students at the <i>highly advanced</i> level of English proficiency.</p>		
受講者に対する要望など			

1. Euthanasia : should it be legalized in our modern society?
2. Article 9 : should Japan create a modern army?
3. The International Community : what should Japan's role be?
4. University Education : its role in Japan's modern society.
5. Homosexuality : a sickness or an alternative life-style?
6. Aids : what can be done about the problem?
7. Mass Media : the good points and the bad points.
8. The Northern Territories : do we need them?
9. Japan : what can we be proud of and ashamed of in our culture?
10. The Death Penalty : should it be abolished?
11. Test—a speech (15 mins)
12. Test—a speech (15 mins)
13. The Courts : do we need a Jury system?
14. America : what should Japan's relationship be?
15. Japanese education : its strengths and weaknesses.
16. Music : its role in our lives.
17. The Monarchy : do we need them?
18. Smoking : should it be banned in all public places?
19. English education in Japan : its strengths and weaknesses.
20. Abortion : who has the right?
21. A multicultural society : what is it? do we want it?
22. University : what is it for?
23. Test—a speech (15 mins)
24. Test—a speech (15 mins)



科目名	Discussion 3 (93年度以降) 英会話(Highly Advanced : Discussion) (92年度以前)	担当者名	N. H. Jost
-----	---	------	------------

講義の目標	<p>This course is for students whose English is at a highly advanced level. The main objective is to look into some of the challenges that face us as we enter into the 21st century. It will call on students to develop their own ideas, and to present those ideas effectively during class. The topics will be challenging and interesting. In terms of language development, there are three primary goals 1) to gain fluency in discussing more advanced topics; 2) to be more articulate in the presentation of opinions and ideas; and 3) to consider the area of metacognitive knowledge in language learning.</p>		
講義概要	<p>This class will define and address some of issues that face us as we enter into the 21st century. Society, culture, religion, politics, and the environment—these are the main areas which our discussions will focus on. Students will be asked to have a semiformal roundtable discussion in the first semester like those broadcasted on television. In the second semester, students will be asked to organize a class symposium like those common to academic conferences. E-mail will be used for communication outside of class, and the internet will be used for finding information. A home page or link will be set up for this class.</p>		
使用教材	テキスト	No textbook for this class. An English/English dictionary is required.	
	参考文献	Television news clips; newspaper articles, radio broadcasts. All materials will be provide by teacher.	
評価方法	Grading will be based on classroom participation, and on midterm and final oral presentations.		
受講者に対する要望など			

1. Course Description : topics ; grading policy ; selection of students. etc.
2. Getting to know each : student introductions. Lecture on language and learner independence.
3. The issues that face us : a overview of the issues. What are the most....issues for us.
4. Focus on society : Topic area one : Women in society.
5. Women in society.
6. Topic area two : Education.
7. Education. Topic area three : Culture and religion : Defining ourselves.
8. Culture and religion in today's society and youth.
9. Topic area four : Human relations : Video on stocking in America..
10. Human relations : Marriage and divorce.
11. First roundtable discussion.
12. Second roundtable discussion.
13. Topic area five : Conflicts resulting from culture and religion.
14. America's pop culture and Middle Eastern Fundamentalism
15. Topic area six : Video segment on the race for the last great oil fields in Russia.
16. Environment : Why America uses most of the worlds oil reserves.
17. Environment : A look at Japan's domestic policy on the environment.
18. Topic area seven : What matters to you : A discussion on values and moral issues.
19. Topic area eight : A look at Japan and the world : How Japan is perceived in the world.
20. What do yuo see for the future?
21. Preparation for symposium.
22. Preparation for symposium.
23. In-class symposium.
24. In-class symposium.

科目名	スピーチ1 (93年度以降) 英会話 (Highly Advanced: スピーチ) (92年度以前)	担当者名	J. J. Duggan
-----	--	------	--------------

講義の目標	This is a course that introduces the student step-by-step to speech communication in an informal yet practical way, while at the same time helping the student to develop self-confidence.		
講義概要	In this course students will not only learn the mechanics of speech communication, but also be given ample chances to put these mechanics into use. The styles of speech communication will include impromptu, informative and persuasive.		
使用教材	テキスト	P. Dale & J. C. Wolf ; "Speech Communication for International Students" Prentice-Hall Regents	
	参考文献		
評価方法	Grades will be based on in-class participation (especially speech presentations), a paper midyear exam, and a final exam oral presentation.		
受講者に対する要望など			

1. Course description and explanation (text pp.v-viii).
2. Speaking to develop self-confidence (pp.1-5). Presentation of Confidence Building Speech #1 (Speech to Introduce Yourself).
3. Brainstorming, Suggestions for delivering your speeches (pp.5-4).
4. Preparing the personal experience speech (pp.11-14). Presentation of Confidence Buidings Speech #2 (Speech Describing a Per. Exper.).
5. Presentation of Confidence Building Speech #3 (Speech About Something Meaningful, pp.15-16).
6. Presentation of Confidence Building Speech #4 (Speech to Present a Personal Opinion, pp.17-18).
7. Impromptu speaking (Talking On Your Feet, pp.23-36).
8. Impromptu Speech Presentation #1.
9. Impromptu Speech Presentation #2.
10. Impromptu Speech Presentation #3.
11. How to be a good listener (Listening, pp.39-53).
12. Assessment.
13. Review of first term material.
14. Organizing your speech (Putting your Speech Together, pp.55-63).
15. Putting your Speech Together, Exercises pp.63-68.
16. Informative speaking (Speaking to Inform, pp.71-82).
17. Organizing your Informative speech, pp.83-91).
18. Informative Speech Presentation #1 (pp.91-95).
19. Informative Speech Presentation #2.
20. Persuasive speaking (Speaking to Persuade, pp.117-132).
21. Organizing your Persuasive Speech (pp.113-144).
22. Persuasive Speech Presentation #1 (pp.145-149).
23. Persuasive Speech Presentation #2.
24. Oral Assessment.

科目名	スピーチ2 (93年度以降) 英会話 (Highly Advanced : スピーチ) (92年度以前)	担当者名	A. R. Falvo
-----	---	------	-------------

講義の目標	To develop, polish and refine the ability of the more advanced students who want to express their opinions through the use of reading materials, internet & video materials on a variety of current topics in the world today.		
講義概要	Using Edward De Bono's series on thinking and analysis techniques we will make speeches using the above mentioned various techniques to generate 3 minute speeches every week.		
使用教材	テキスト	Prints distributed on a weekly basis	
	参考文献		
評価方法	Weekly presentations of 3 minute speeches, attendance and class participation.		
受講者に対する要望など	Attendance & outside preparation are crucial to succeed in the class.		

1. Class presentation
2. Plus/minus/interesting
3. Speeches using week 2 technique consider all factors
4. Speeches using week 3 technique aims, goals, objectives
5. Speeches using week 4 technique planning
6. Speeches using week 5 techniques first important priorities
7. Speeches using week 6 techniques directions
8. Speeches using week 7 techniques reflections
9. Speeches using week 8 techniques appraisals
10. Speeches using week 9 techniques review for final exams
11. Final exam speech presentations part one
12. Final exams speech presentations part two
13. Review of first term analytic techniques
14. Critiquing
15. Speeches from week 14 techniques evaluation
16. Speeches from week 15 techniques closure
17. Speeches from week 16 techniques sensitivity
18. Speeches from week 17 techniques control
19. Speeches from week 18 techniques predetermination
20. Speeches from week 19 techniques dissemination
21. Speeches from week 20 techniques understatement
22. Speeches from week 21 techniques review for term exam speeches
23. Speeches using 2nd term techniques for final exam part one
24. Final exam part two

科目名	ディベート (93年度以降) 英会話(Highly Advanced: ディベート) (92年度以前)	担当者名	T. Hill
-----	--	------	---------

講義の目標	To help advanced level students develop the skills they need to participate in debate and in a modern democratic society.		
講義概要	<p>1. Students will study the definitions of basic debate terms and concepts and come to an understanding of how debate works.</p> <p>2. Students will do research for, and take part in class debate on topics of national and international significance.</p>		
使用教材	テキスト	Getting Started in Debate (1993) Lynn Goodnight NTC	
	参考文献		
評価方法	<p>The course will be assessed on attendance, participation, and the writing of a number of papers.</p> <p>The course is for students at the <i>highly advanced</i> level who are eager to improve their critical thinking and constructive argumentative skills.</p>		
受講者に対する要望など			

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. What debate can do for you : critical thinking skills, open-mindedness, thinking on your feet
2. What exactly is debate : the basics, the players, the propositions
3. Actual debate : Part 1
4. Actual debate : Part 2
5. Video debate evaluation
6. Speaker strategies : affirmative and negative constructive, negative and affirmative rebuttal
7. Propositions : what is a proposition? types of propositions.
8. Actual debate : Part 1
9. Actual debate : Part 2
10. Developing research skills
11. Video debate evaluation
12. Mid-term test
13. Research sources, writing briefs, taking notes in debate
14. Actual debate : Part 1
15. Actual debate : Part 2
16. Actual debate : Part 3
17. Video debate evaluation
18. The Affirmative position : burden of proof, presumption, the prima facie case
19. The Negative position : The negative strategy, refutation of stock issues, denying the problem
20. Actual debate : Part 1
21. Actual debate : Part 2
22. Actual debate : Part 3
23. Course review
24. Final test



科目名	通訳 I (93年度以降) 英会話 (Highly Advanced : 通訳) (92年度以前)	担当者名	阿部 一
-----	--	------	------

講義の目標	この授業は中級レベルの英語力 (目安 TOEFL 520 以上) を持つ受講者に徹底的な訓練を施すことによって上級レベルの英語力 (目安 TOEFL 600 以上) を身に付けさせることともに、将来通訳者として働けるような基礎訓練を広範に行なうものである。したがって、受講対象はそれ相応の英語力を持つ人で意欲のある人に限る。		
講義概要	前期は主として英語の総合力 (特に語彙力とリスニング力) をレベルアップする。それとともに、通訳理論の概説と基礎訓練 (リピーティング、シャドーイングなど) を徹底的に行なう。なお、語彙力は約 2 万語、リスニング力は CNN、CBS 及び ABC の音声・映像データとする。後期は各種の会議、学会及び案内の音声・映像データに基づいたケース訓練を行なうとともに、実際に学内外で OJT を行なってみる。		
使用教材	テキスト	未定 (最初の授業で発表、指示)	
	参考文献	未定 (最初の授業で発表、指示)	
評価方法	クラス内での実技テスト (前・後期各々 40%)、クラス内語彙力・リスニング力小テスト (10%)、出席及び発表 (10%)		
受講者に対する要望など	受講条件として英語力は目安が最低 TOEFL 520、TOEIC 730、英検準一級以上とする。なお、最初の授業で英語力テストを行ない合格者のみ受講を許可する。また、授業以外の OJT などに必ず参加できることも条件とする。		

1. オリエンテーション及び英語力テスト
2. 英語総合力養成講座——語彙力を増やす／リスニング力を高める (1)基礎篇
3. 英語総合力養成講座——語彙力を増やす／リスニング力を高める (2)基礎篇
4. 英語総合力養成講座——語彙力を増やす／リスニング力を高める (3)基礎篇
5. 英語総合力養成講座——語彙力を増やす／リスニング力を高める (1)応用篇——政治・経済など \*通訳理論(1)
6. 英語総合力養成講座——語彙力を増やす／リスニング力を高める (2)応用篇——法律・金融など \*通訳理論(2)
7. 英語総合力養成講座——語彙力を増やす／リスニング力を高める (3)応用篇——医療・航空など \*通訳理論(3)
8. 通訳基礎訓練——やさしい商談やプレゼンテーションなどを材料とする(1) \*語彙力上級レベル (1万語～) (1)
9. 通訳基礎訓練——やさしい会議や案内などを材料とする(2) \*語彙力上級レベル (一万語～) (2)
10. 通訳基礎訓練——やさしいトラブル処理・危機管理などを材料とする(3) \*語彙力上級レベル (1万5000語～) (3)
11. 通訳基礎訓練——やさしい医療や警察資料などを材料とする(4) \*語彙力上級レベル (1万5000語～) (4)
12. \*学内・外で実際に通訳現場を見学してみる。経験者に英語力向上のコツや通訳者になるポイントなどを聞いてみる。\*実力テスト
13. 通訳基礎実践訓練——会議篇  
\*英語圏文化背景知識講座(1)インターネットによる情望収集(1)
14. 通訳基礎実践訓練——学会篇  
\*英語圏文化背景知識講座(2)インターネットによる情報収集(2)
15. 通訳基礎実践訓練——商談篇 (情報・通信)  
\*英語圏文化背景知識講座(3)インターネットによる情報収集(3)
16. 通訳基礎実践訓練——商談篇 (政治・経済・金融)  
\*英語圏文化背景知識講座(4)
17. 通訳基礎実践訓練——商談篇 (製造業)  
\*英語圏文化背景知識講座(5)
18. 通訳基礎実践訓練——商談篇 (農業・水産)  
\*英語圏文化背景知識講座(6)
19. 通訳基礎実践訓練——商談篇 (建築・土木)  
\*英語圏文化背景知識講座(7)
20. 通訳基礎実践訓練——特殊分野篇 (医療)  
\*英語圏文化背景知識講座(8)
21. 通訳基礎実践訓練——特殊分野篇 (軍事・宇宙)  
\*英語圏文化背景知識講座(9)
22. 通訳基礎実践訓練——特殊分野篇 (警察・犯罪)  
\*英語圏文化背景知識講座(10)
23. OJT 反省会・発表会  
\*実際のビデオ分析及び評価 \*実技テスト
24. まとめ及び今後の学習法のアドバイス \*実技テスト

科目名	通訳Ⅱ（93年度以降） 英会話（Highly Advanced：通訳）（92年度以前）	担当者名	鍋倉健悦
-----	--	------	------

講義の目標	通訳の基礎的なスキルを身に付けること。ただし観光ガイド通訳ではなく、通訳の種類は会議、講演、インタビュー等。		
講義概要	サイト・トランスレーション、ノート・テイキング、イクスプレッション等の仕方を学んで行く。		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鍋倉健悦『英語メディアを使いこなす』（講談社現代新書）</li> <li>・鍋倉健悦『コミュニケーションの英語』（丸善ライブラリー）</li> </ul>	
	参考文献	鍋倉健悦『英語の聴き方・話し方』（雄山閣・竹内書店新社）	
評価方法	平常の授業で決定する。		
受講者に対する要望など	予習と復習のできる学生でない限り、当授業にはついていけない。遅刻は決してしないこと。		

1. 通訳についての概要
2. プリントを使つてのサイトラの練習
3. プリントを使つてのサイトラの練習
4. プリントを使つてのサイトラの練習
5. テープとプリントを使つてのシャドウイング練習
6. テープとプリントを使つてのシャドウイング練習
7. テープとプリントを使つてのシャドウイング練習
8. テープとプリントを使つてのサイトラの練習
9. テープとプリントを使つてのサイトラの練習
10. テープとプリントを使つてのサイトラの練習
11. テープとプリントを使つてのノート・テイキングの練習
12. テープとプリントを使つてのノート・テイキングの練習
13. テープとプリントを使つてのノート・テイキングの練習
14. テープとプリントを使つてのノート・テイキングの練習
15. テープとプリントを使つてのノート・テイキングの練習
16. プリントを使つての音読サイトラとノート・テイキングの練習
17. プリントを使つての音読サイトラとノート・テイキングの練習
18. プリントを使つての音読サイトラとノート・テイキングの練習
19. テープを使つての逐次通訳と同時通訳の練習
20. テープを使つての逐次通訳と同時通訳の練習
21. テープを使つての逐次通訳と同時通訳の練習
22. テープを使つての逐次通訳と同時通訳の練習
23. テープを使つての逐次通訳と同時通訳の練習
24. テープを使つての逐次通訳と同時通訳の練習

科目名	英文法1	担当者名	児玉仁士
-----	------	------	------

講義の目標	英語の表現力を涵養するために、英語の基礎的な文法事項を網羅的に解説し、更に文体的側面にも随時触れたいと思う。	
講義概要	テキストの内容は、Section 1では、主に英語の基礎的な文法事項が網羅的に解説されており、またSection 2では、前節の既習事項を踏まえて、文章表現上の誤りと文体上の技巧が具体的に述べられている。特に後者の文体的側面に比重が置かれているので、英語の表現力を更にブラッシュ・アップするのに有益であろう。テキストの問題の他に、色々の文例を補充しつつ授業を進めて行くつもりである。	
使用教材	テキスト	A. Waldhorn, A. Zeiger: <i>A Practical English Grammar for College Students</i> , 金星堂
	参考文献	
評価方法	前期・後期の定期試験の成績、夏休みのレポート、出席により総合評価する。	
受講者に対する要望など		

1. 英文法の子備知識としての概要を説明する。
2. 文の構成 (Section I—第1章) : 品詞およびその分類について (第2章)
3. 名詞の形態 (数・性・格) について (第3章)
4. 代名詞およびその用法について (第4章)
5. 動詞および文中におけるその機能について (第5章)
6. 時制・法・態について (第5章)
7. 形容詞とその機能について (第6章)
8. 副詞およびその位置について (第7章)
9. 接続詞 (等位接続詞・従位接続詞) について (第8章)
10. 前置詞およびその機能について (第9章)
11. 準動詞 (動名詞・分詞・不定詞) について (第10章)
12. 句 (名詞句・形容詞句・副詞句) と (名詞節・形容詞節・副詞節) について
13. 一致 (agreement) (Section II—第1章) : 主語と動詞 (数)、代名詞と先行詞 (数・人称・性) について
14. 代名詞の格 (主格・目的格・所有格; 同格) について (第2章)
15. 代名詞の照応について (第3章)
16. 時制の一致について (第4章)
17. 助動詞の用法 (特に法助動詞) について (第4章)
18. 形容詞・副詞の機能上の相違について (第5章)
19. 副詞の配列について (第5章)
20. 修飾語・句の問題点 (1: 懸垂分詞・懸垂不定詞) について (第6章)
21. 修飾語・句の問題点 (2: 懸垂動名詞) について (第6章)
22. 語・句・節の配列の一貫性について (第7章)
23. 並列に関する問題点について (第8章)
24. 文における省略 (特に文体上) の問題について (第9章)

科目名	英文法2	担当者名	近藤 ヒカル
-----	------	------	--------

講義の目標	この授業の目的は現代英語の文章（特に文学作品）を読む上での、および中学・高校の英語教師になった場合の、英語の文法的な素養を養うことにあるので、現代英語で書かれた実際の作品を読みながら、年間スケジュールに従って文法事項を履修するものとする。		
講義概要	本学に入学するほどの学生は受験勉強の過程で英文法の教科書や参考書に詳述されている文法知識は周知しているのだが、実際のすぐれた英文に接してその知識が活用できない。したがってこの授業では学生諸君が辞書を引き文法書を調べ、その事項を更に深く習熟すべき応用例にまで目を通すような習慣を身につけるような指導するのである。しかも文学作品の文章であるから無味乾燥とちがった興味と感動をあわせて味わえると確信している。		
使用教材	テキスト	・現代英語で書かれた短編をプリントする。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小川芳男、上野伊栄太『高等英文法』（有精堂）</li> <li>・大塚高信『新英文法辞典』（三省堂）</li> <li>・<i>Collins Cobuild English Language Dictionary</i></li> <li>・<i>Longman Dictionary of Contemporary English</i></li> </ul>	
評価方法	各文法事項につき受講生に分担を決めてレポート形式で発表してもらう。 成績評価は前・後期の定期試験とレポートによる。出席は絶対条件とする。		
受講者に対する要望など			

1. 文の種類（平叙—疑問、肯定—否定、叙実—叙想、命令—感嘆、5文型、単文—複文—重文）
2. 名詞の種類（可算—不可算、集合—群衆、物質名詞の個別化、抽象名詞の語形成と助数詞、固有名詞の普通名詞化）
3. 名詞の数（規則—不規則複数、複合名詞の複数、動詞との呼応、複数名詞の形容詞用法）
4. 名詞の性と格（性の表し方、通性、副詞的属格・与格・性状の対格、所有格の作り方、群属格、所有格の意味、二重所有格）
5. 人称代名詞と不定代名詞（特殊用法の we、総称複数、特殊用法の it、/any, one, none, each, every, all, both）
6. 疑問代名詞と関係代名詞（従属節中での役割と文中での役割、関係代名詞の諸用法：限定—継続、反復、二重限定、省略、as, than, but、複合関係代名詞）
7. 前週の続き
8. 形容詞の種類と用法（限定用法—前位修飾と後位修飾、叙述用法）
9. 形容詞の比較変化（語としての規則・不規則変化の諸形式、文としての比較の諸形式）
10. 数詞（基数・序数・倍数によるさまざまな単位の表し方）
11. 冠詞（定冠詞と固有名詞、冠詞の省略と語順、冠詞と2個以上の名詞）
12. 副詞（単純・疑問・関係副詞、副詞の機能と他品詞との関係、動詞修飾副詞の文中での位置—様態・程度・期間・時・場所・助動詞修飾・動詞副詞結合・文修飾）
13. 動詞の種類と5文型（完全・不完全動詞、完全・授与・不完全他動詞）
14. 動詞の活用と主語・述語の一致
15. 能動態と受動態
16. 動詞の時制（現在・過去・未来時制の意義、完了時制の諸形式）
17. 法（仮定法の諸時制と諸形式、および条件節の省略）
18. 助動詞（種類、will, shall の用法）
19. 準動詞（不定詞）
20. 準動詞（分詞）
21. 準動詞（動名詞）
22. 接続詞（等位接続詞、従位接続詞と従節の機能）
23. 話法（話法の種類、話法の転換）
24. 間投詞、句と節



科目名	英文法3	担当者名	須賀川 誠 三
-----	------	------	---------

講義の目標	<p>本講義では、伝統文法を基調としながらも、学校文法の域を出て、新しい言語理論を取り入れた、高度な文法を学ぶことを主眼とする。同時に、従来の学校文法では、盲点となっていた事項を実践的に会得することもねらいとしたい。</p>		
講義概要	<p>授業では、用例と解説、および練習問題を中心に英文法の各項目について習熟するようにする。文法の枠組みは、伝統文法のそれを用いているので、基本的問題が主となるが、かなり高度な内容も含まれる。また、この講義で扱うのは、統語論が中心であり、形態論は特に扱うことはない。</p> <p>なお、毎時間の初め10分位、小テストによるグラマー・チェックを行い、盲点となっている表現文法の事項について理解の徹底を図る。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・荒木一雄監修／有村・天野著『英語の文法』英潮社新社。</li> <li>・《副教材》藤枝宏寿・R. Mann 共著『英語表現文法の要点チェック』金星堂。</li> </ul>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ディヴィッド・クリスタル／山崎真稔・高橋貞雄訳『クリスタルと英文法再発見』英潮社</li> <li>・安井稔編『コンサイス英文法辞典』三省堂</li> </ul>	
評価方法	<p>前期レポート・後期試験、および平常点により総合的に判定。出席が一定回数以上に達しない場合は、レポート試験の評価に拘わらず不可となるので注意。</p>		
受講者に対する要望など	<p>受講希望者は、第1回目の授業に出席し、必ず受講の承認を得ること。無断登録は、無効となるので注意。平常の授業を重視するので極力出席する。</p>		

1. 授業の方針、方法などのガイダンス。
  2. 第1章 助動詞 1. 時制
  3. 第1章 助動詞 2. 進行形
  4. 第1章 助動詞 3. 完了形
  5. 第1章 助動詞 4. 法助動詞
  6. 5. do 6. to 練習問題
  7. 第2章 動詞句 1. 動詞句 2. 複合動詞
  8. 第2章 動詞句 3. 補助部をとらない動詞 4. 補語をとる動詞
  9. 第2章 動詞句 5. 目的語をとる動詞
  10. 第2章 動詞句 6. 目的補語をとる動詞
  11. 第2章 動詞句 7. 二重目的語 練習問題
  12. 第3章 修飾 1. 形容詞
  13. 第3章 修飾 1. 形容詞 (形容詞の区分など)
  14. 第3章 修飾 2. 副詞
  15. 第3章 修飾 2. 副詞 (副詞の位置)
  16. 第3章 修飾 3. 副詞節
  17. 第3章 修飾 4. 関係代名詞節 5. 関係副詞節 6. 同格節 練習問題
  18. 第4章 準動詞 1. 不定詞 (不定詞をとる動詞など)
  19. 第4章 準動詞 1. 不定詞 (「目的格名詞句+to 不定詞」をとる動詞②ほか)
  20. 第4章 準動詞 1. 不定詞 (名詞を修飾する to 不定詞ほか)
  21. 第4章 準動詞 2. 動名詞 (動名詞の名詞性ほか)
  22. 第4章 準動詞 2. 動名詞 (動名詞をとる形容詞ほか)
  23. 第4章 準動詞 3. 分詞 (現在分詞)
  24. 第4章 準動詞 3. 分詞 (過去分詞) 練習問題
- ◇1年間の総まとめ

科目名	英文法4	担当者名	府川 謹也
-----	------	------	-------

講義の目標	英語を教える立場に立っても恥ずかしくない文法知識を身につけることを目的とする。		
講義概要	塾や学校で英語を教えたり、テキストをきっちり読解しようとする際に役立つような英文法のエッセンシャルズを解説。		
使用教材	テキスト	安藤貞雄『続・英語教師の文法研究』大修館書店	
	参考文献		
評価方法	2回の試験ならびに平常点（出席・質問回数を含む）による。		
受講者に対する要望など	ただ規則を覚えるのではなく、「なぜそう言えるのか？」と原理的説明を求めようとする姿勢が要求される。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英文法研究の実際（プリント）</li> <li>2. 名詞</li> <li>3. 名詞</li> <li>4. 代名詞</li> <li>5. 代名詞</li> <li>6. 代名詞</li> <li>7. 形容詞</li> <li>8. 副詞</li> <li>9. 副詞</li> <li>10. 副詞</li> <li>11. 比較構文</li> <li>12. 前置詞</li> <li>13. 前置詞</li> <li>14. 否定</li> <li>15. 否定</li> <li>16. 等位構造・名詞節</li> <li>17. 名詞節</li> <li>18. 関係詞節</li> <li>19. 関係詞節</li> <li>20. 副詞節</li> <li>21. 文の種類と機能</li> <li>22. 文の種類と機能</li> <li>23. 音声と綴字</li> <li>24. 英文法の諸問題</li> </ol>		

科目名	英文法5	担当者名	三好 健
-----	------	------	------

講義の目標	<p>テキストは、平易な英文で書かれた英文法の教科書で、ややクセはあるが、小冊子ながら、現代英語の文法が全般にわたって簡潔にまとめられている。これを読みながら、理論に走りすぎることのない実用文法を研究し、英語を読んだり書いたり話したりする場合の、実地への応用や、教職のための実力養成を目指したい。</p>		
講義概要	<p>受講者の実力養成を目標としているため、毎回の授業は英語・英文法の充実した訓練の場となる。毎回受講生全員に発言を求めるので、下調べが必須であることは言うまでもない。意欲のない者には適さないかも知れないが、マジメにやれば力がつくことは受けあいである。</p>		
使用教材	テキスト	M. M. Bryant & C. Momozawa : <i>Modern English Syntax</i> (成美堂)	
	参考文献		
評価方法	<p>平常の成績と年2回の試験による。</p>		
受講者に対する要望など	<p>遅刻・欠席が好きで下調べの嫌いな学生は来ないで頂きたい。 受講希望者は第1回目の授業に必ず出席して名前を届けること。</p>		

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. イントロダクション。テキストの紹介と、一年間の授業計画及び勉強の仕方の説明。
2. 品詞について。(テキスト第1章)
3. 文の構造について。(テキスト第2章)
4. 文の機能について。(テキスト第3章)
5. 節について。(その1. 名詞節)(テキスト第4章)
6. 節について。(その2. 形容詞節)(テキスト第5章)
7. 節について。(その3. 副詞節)(テキスト第6章)
8. 主語について。(テキスト第8章)
9. 代名詞の照合について。(テキスト第9章)
10. 動詞について。(テキスト第11章)
11. 目的語について。(テキスト第12章)
12. 補語について。(テキスト第13章)
13. 動詞句について。(テキスト第14章)
14. 助動詞について。(その1. shall と will)(テキスト第15章)
15. 助動詞について。(その2. shall, will 以外と擬似助動詞)(テキスト第16章)
16. 形容詞的修飾語句。(テキスト第17章)
17. 副詞的修飾語句。(テキスト第18章)
18. 否定について。(テキスト第19章)
19. 比較について。(テキスト第20章)
20. 態について。(テキスト第21章)
21. 仮定法について。(テキスト第24章)
22. 不定詞について。(テキスト第25章)
23. 分詞について。(テキスト第26章)
24. 話法について。(テキスト第27章)

科目名	ビジネス英語Ⅰ－Ⅰ（93年度以降） 商業英語Ⅰ（92年度以前）	担当者名	海老沢 達 郎
-----	------------------------------------	------	---------

講義の目標	<p>大学を卒業しても簡単な英文レターも書けないのが現状であるので、本講義では英文貿易通信の基本をテキストを使用して、取引関係の樹立から売買契約の成立、履行、求償、解決までを講義し、基本的なビジネスレターの書き方を指導する。</p>		
講義概要	<p>貿易立国日本にとっては異文化諸国とのビジネス・コミュニケーションを円滑にし、国際ビジネスを成功させ、誤解から生ずる摩擦を起こさせないための手段として、国際語としての英語の重要性は極めて高い。本講義では英文貿易通信の基本をテキストを使用して、取引関係の樹立から売買契約の成立、履行、求償、解決までを講義し、<u>基本的なビジネスレターの書き方を指導する。</u>英語学科の学生として Business English の基本ぐらいは学んで卒業してもらいたい。受験希望者には、商業検定試験Cクラス、Bクラスの受験指導を行う。1年間の授業計画等については、最初の授業で詳しく説明する。</p>		
使用教材	テキスト	Tatsuo Ebisawa ; <i>An Introduction to Business Writing</i>	
	参考文献	<p>William C. Himstreet 他 “Business Communication”  Richard C. Huseman 他 “Business Communication”  石田貞夫『セミナー貿易実務』他。</p>	
評価方法	<p>評価は前後期の試験と授業への参加度によって決定する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>授業はあらかじめ予習してあることを前提とする。</p>		

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 第1回目の授業では1年間の講義概要の説明を行う。
2. 第2回目の授業では「Business Englishを学ぶにあたっての諸注意とビジネスレターの必要構成要素」について講義する
3. 第3回目の授業では「ビジネスレターの特殊構成要素、スタイルと句読点、封筒とその書き方」について講義する。
4. 第4回目の授業では練習問題1を第1回レポートとし、「効果的なビジネスレターの書き方」を講義する。
5. 第5回目の授業では練習問題1の解答をし、「効果的なビジネスレターの書き方（後半）と取引の申し込み」について講義する。
6. 第6回目の授業では「取引の申し込み（後半）と取引の申し込みに対する応答」について講義する。
7. 第7回目の授業では「取引の申し込みに対する応答（後半）」について講義する。
8. 第8回目の授業では「引合い」について講義する。
9. 第9回目の授業では「引合い（後半）」について講義する。
10. 第10回目の授業では練習問題2を第2回レポートとし、「引合いに対する応答」について講義する。
11. 第11回目の授業では「オファー」について講義する。
12. 第12回目の授業では前期授業のまとめを行う。
13. 第13回目の授業では前期試験問題の返却・解答と練習問題2の解答と諸注意などを行う。
14. 第14回目の授業では「オファー（後半）とオファーに対する応答」について講義する。
15. 第15回目の授業では「オファーに対する応答（後半）と海上保険証券」について講義する。
16. 第16回目の授業では「信用状」について講義し、練習問題3を第3回レポートとする。
17. 第17回目の授業では「信用状（後半）」について講義する。
18. 第18回目の授業では練習問題3の解答と諸注意などをを行う。更に「積出しに関する通信」について講義する。
19. 第19回目の授業では「積出しに関する通信（後半）」について講義する。
20. 第20回目の授業では「クレームと問題の解決」について講義する。
21. 第21回目の授業では「クレームと問題の解決（後半）」について講義する。
22. 第22回目の授業では「英語を使用しての商談」について、ビデオを使用して講義する。
23. 第23回目の授業では「英文契約書」について講義する。
24. 第24回目の授業では後期授業のまとめを行う。

科目名	ビジネス英語Ⅰ－Ⅱ（93年度以降） 商業英語Ⅰ（92年度以前）	担当者名	海老沢 達 郎
-----	------------------------------------	------	---------

講義の目標	Business Englishとは何も貿易通信文のみを指すものではない。売買契約書、保険証券、船荷証券等の関連文書の書類や貿易実務に現われる英語、さらには法律や経済等も含まれてくる。従って、Business Englishを、国際語である英語を使用してビジネスを促進遂行するためのビジネス・コミュニケーションとしてとらえ、本講義では国際ビジネスに必要な基本的な事柄である「経済英語」と「やさしい国際経済学」を講義し、指導する。		
講義概要	通信技術が発達し、経済がボーダレス化している今日において、英字新聞のビジネス欄を読み、国際経済情勢を理解するという能力も Business English にとって大変重要なものとなってきている。従って、本講義では「英字新聞のビジネス欄の読み方」をテーマにして一年間授業を進めていきたい。英文経済記事の読み方を指導すると同時に、「経済用語の解説」と「国際経済学」を講義する。なお、積極的な学生諸君の受講を希望するが、経済についての予備知識は必要としない。また、ビジネス英語Ⅰ－Ⅰをあわせて履修すれば、ビジネス・コミュニケーションを体系的に学習することになる。		
使用教材	テキスト	海老沢達郎『英字新聞の読み方ハンドブック』他。	
	参考文献	教室で指示する。	
評価方法	評価は前後期の試験と授業への参加度によって決定する。		
受講者に対する要望など	授業はあらかじめ予習してあることを前提とする。		



年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第1回目の授業では1年間の講義概要の説明を行う。</li> <li>2. 第2回目の授業では「景気の上昇と景気の後退」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。</li> <li>3. 第3回目の授業では「物価と経済指標」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。</li> <li>4. 第4回目の授業では「消費と市場」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。</li> <li>5. 第5回目の授業では「株」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。</li> <li>6. 第6回目の授業では「貿易と関税」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。</li> <li>7. 第7回目の授業では「取引・交渉と貿易・禁止」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。</li> <li>8. 第8回目の授業では「貿易・報復と貿易摩擦」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。</li> <li>9. 第9回目の授業では「銀行と通貨」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。</li> <li>10. 第10回目の授業では「金利」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。</li> <li>11. 第11回目の授業では「外国為替」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。</li> <li>12. 第12回目の授業では前期のまとめを行う。</li> <li>13. 第13回目の授業では前期試験問題の返却・解答と諸注意などを行う。</li> <li>14. 第14回目の授業では「投資と海外資金援助」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。</li> <li>15. 第15回目の授業では「EU通貨統合」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。</li> <li>16. 第16回目の授業では「累積債務」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。</li> <li>17. 第17回目の授業では「インサイダー取引」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。</li> <li>18. 第18回目の授業では「雇用と人事」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。</li> <li>19. 第19回目の授業では「M&amp;A 1」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。</li> <li>20. 第20回目の授業では「M&amp;A 2」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。</li> <li>21. 第21回目の授業では、英文ビジネスレターの作成をレポート提出とし、これについて詳しく説明する。</li> <li>22. 第22回目の授業ではビデオ使用（内容については第1回の授業で説明）。</li> <li>23. 第23回目の授業ではビデオ使用（内容については第1回の授業で説明）。</li> <li>24. 第24回目の授業では後期授業のまとめを行う。</li> </ol>
----------------------------	--

科目名	ビジネス英語Ⅰ－3（93年度以降） 商業英語Ⅰ（92年度以前）	担当者名	杉山晴信
-----	------------------------------------	------	------

講義の目標	<p>時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階におけるビジネス通信文（Business Correspondence）を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を修得することがねらいです。日本商工会議所主催の商業英語検定試験Bクラスに合格できるレベルの実力（読解力・作文力・語彙力・実務知識）を養成することを具体的な目標とします。なお、私の担当する「ビジネス英語Ⅰ－4」とは内容がまったく異なりますので、注意して下さい。</p>		
講義概要	<p>下記テキスト①の单元ごとに、当該单元で扱う貿易取引段階の実務遂行手順および通信文の“Skeleton Plan”について平易に講義します。次いで、履修者を適宜指名し、各单元のモデルレターを商用文としてふさわしい日本語に翻訳させるとともに、練習問題を黒板に書かせて添削するという形で毎回の授業を行います。また、1年を通じて、毎月の初回授業時に、下記テキスト②を出題範囲とする Vocabulary Check（語彙力診断テスト）を実施しますので、履修者は教室外で自主的に語彙力増強に努めなければなりません。</p>		
使用教材	テキスト	<p>①小池直己・杉山晴信「ビジネス英語の基本」（北星堂、1988） ②小池直己・杉山晴信「商業英語検定試験にでる英単語」（南雲堂、1987）</p>	
	参考文献	<p>①藤田仁太郎編、羽田三郎改訂「英和貿易産業辞典」（研究社、1955） ②日本商工会議所「商業英語検定試験問題集A・B編」（日本商工出版、各年） ③長野・秋山・岡本「商業英語検定試験」（南雲堂、1984） ④石田貞夫「貿易の実務」（日経文庫、1965） ⑤石田貞夫監修「ビジネス英語で学ぶ貿易取引」（学文社、1997）</p>	
評価方法	<p>出席状況、授業貢献度、Vocabulary Checkの累計得点といった平常点を第一の尺度とし、前期と後期の定期試験の結果を加味して決定します。</p>		
受講者に対する要望など	<p>コンスタントに出席すること、十分な予習と復習をすること、つねに語彙力増強に努めることを履修の条件とします。</p>		

1. 1年間の授業計画を説明し、ビジネス英語の意義と概念について講義します。(テキスト：第1部 p. p. 2~3、配布プリント)
2. ビジネス通信文の構成要素、句読法、書式、上書き等の外形的な側面について講義します。(テキスト：第1部 p. p. 4~15)
3. ビジネス通信文の文体の特徴について講義します。(テキスト：第1部 p. p. 16~18)
4. 第1回 Vocabulary Checkを実施するとともに、「取引先の発見」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit1、p. p. 20~22)
5. 「取引の申込み」(その1)をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit2、p. p. 23~25)
6. 「取引の申込み」(その2)をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit3、p. p. 26~28)
7. 「信用照会」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit4、p. p. 29~31)
8. 第2回 Vocabulary Checkを実施するとともに、「引合い」(その1)をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit5、p. p. 32~34)
9. 「引合い」(その2)をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit6、p. p. 35~37)
10. 「引合いに対する返事」(その1)をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit7、p. p. 38~40)
11. 「引合いに対する返事」(その2)をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit8、p. p. 41~43)
12. 第3回 Vocabulary Checkを実施するとともに、「オファー」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit9、p. p. 44~46)
13. 「カウンター・オファー」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit10、p. p. 47~49)
14. 第4回 Vocabulary Checkを実施するとともに、「注文」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit11、p. p. 50~52)
15. 「注文の受諾」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit12、p. p. 53~55)
16. 「注文のこわり」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit13、p. p. 56~58)
17. 「成約」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit14、p. p. 59~61)
18. 第5回 Vocabulary Checkを実施するとともに、「信用状督促」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit15、p. p. 62~64)
19. 「船積通知」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit16、p. p. 65~67)
20. 「船積遅延と信用状訂正」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit17、p. p. 68~70)
21. 「クレーム」(その1)をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit18、p. p. 71~73)
22. 第6回 Vocabulary Checkを実施するとともに、「クレーム」(その2)をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit19、p. p. 74~76)
23. 「クレーム調整」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit20、p. p. 77~79)
24. テキストで直接取り上げていない Courtesy Letters の代表例として、「人物照会状」と「人物推薦状」の読解と作成の訓練を行います。(配布プリント)

科目名	ビジネス英語Ⅰ－４（93年度以降） 商業英語Ⅰ（92年度以前）	担当者名	杉山晴信
-----	------------------------------------	------	------

講義の目標	<p>ビジネス英語の中核であるビジネス通信文（Business Correspondence）の役割は、伝達の機能（function to inform）と説得の機能（function to persuade）に大別できます。本講義では、2つの機能において通信文を最大限に効果あらしめるための文章戦略（writing strategies）について、英語学・言語学・心理学・統計学等の関連領域から学際的な調査・研究を行います。なお、私の担当する「ビジネス英語Ⅰ－３」とは内容がまったく異なりますので、注意して下さい。</p>		
講義概要	<p>当方の用意するプリント教材に基づいて講義を行った後、履修者をいくつかの班に分け、グループワークによって共通の課題を解決していくという形をとります。原則として、1つのテーマ（セッション）につき、講義1回とグループワーク1回の計2時間分で完結し、学習の成果を各自が下記のテキスト②でテストし確認するものとします。全員参加の原理によって授業が行われますので、履修者は積極的に自分の意見を開示するとともに他人の発言を傾聴することが求められます。</p> <p>初回の授業でより詳しく説明しますので、履修希望者は必ず出席して下さい。</p>		
使用教材	テキスト	<p>①配布プリント ②杉山晴信「ビジネス英語21アプローチ」（北星堂、1993）</p>	
	参考文献	<p>①則定隆男「ビジネス英語を学ぶ・考える」（英宝社、1990） ②中村巳喜人「ビジネス・コミュニケーション論」（同文館、1978） ③安本美典「文章心理学入門」（誠信書房、1965） ④安本美典「説得の文章技術」（講談社、1983） ⑤北尾 S. キャスリーン・北尾謙治「ライティング・ストラテジー」（郁文堂、1996）</p>	
評価方法	<p>出席状況、授業およびグループワークへの貢献度、課題提出状況といった平常点を第一の尺度とします。</p>		
受講者に対する要望など	<p>直接的な参加が最もウェイトの大きな評価対象となりますので、コンスタントな出席と積極的な意見の開示を強く要望します。</p>		

1. 1年間の授業計画を説明し、ビジネス英語の概念について講義します。次いで、ビジネス通信文を伝達の機能と説得の機能の両面から効果あらしめるための方法を鳥瞰します。
2. ビジネス通信文をめぐる意味論的な問題として、“ambiguity”（曖昧さ）と“vagueness”（不確かさ）の危険性を摘示し、それらの原因を究明するとともに対処法を検討します。
3. 上記のテーマについてグループワークを行います。
4. ビジネス通信文をめぐる意味論的な問題として、日英両言語の意味の構造を比較検討しながら、“hyponym”（包摂関係）と“overlapping”（重複関係）について学習します。
5. 上記のテーマについてグループワークを行います。
6. ビジネス通信文をめぐる意味論的な問題として、類義語（synonyms）の使用に伴う危険性を法制度、商慣習、文化的事情などと関連づけて考察します。
7. 上記のテーマについてグループワークを行います。
8. ビジネス通信文を成り立たせているスケルトン・プラン（skeleton plan）を各貿易取引段階ごとに分析し、そこから範例構文（sentence pattern）を抽出する方法を考えます。
9. 上記のテーマについてグループワークを行います。
10. ビジネス通信文に使用できる範例構文を用いて、各貿易取引段階において頻繁に登場する語彙のカテゴリーを分析・検討します。
11. 上記のテーマについてグループワークを行います。
12. 前期の授業を総括し、ビジネス通信文を伝達の機能の面からレベルアップし、正確な情報伝達を実現するための文章戦略を導出します。
13. ビジネス通信文の説得効果を高める文体の問題として、“Readability”の尺度を文の長さ、音節数、人格語と人格文の数などから統計学的に分析します。
14. 上記のテーマについてグループワークを行います。
15. ビジネス通信文の説得効果を高める文体の問題として、“You-Attitude”を実現するための種々のライティング技法を検討します。
16. 上記のテーマについてグループワークを行います。
17. ビジネス通信文の説得効果を高める文体の問題として、文の構造とパラグラフ構成法の関係について、各ケースの長所と短所を検討します。
18. 上記のテーマについてグループワークを行います。
19. クレームレターや各種の督促状など、相手の非を指摘しなければならない通信文において用いるべき緩和表現（mitigation）を検討します。
20. 上記のテーマについてグループワークを行います。
21. 初頭効果（primacy effect）と新近効果（recency effect）の考え方に立脚して、文とパラグラフの「強調のための配列（sequence）」を検討します。
22. 上記のテーマについてグループワークを行います。
23. 後期の授業を総括し、ビジネス通信文を説得の機能の面からレベルアップし、所期の目的を達成するための文章戦略を導出します。
24. 終講にあたり、授業内容全体を対象とした質疑応答と討議を行います。

科目名	ビジネス英語Ⅰ－5,6(93年度以降) 商業英語Ⅰ(92年度以前)	担当者名	信 達 郎
-----	--------------------------------------	------	-------

講義の目標	<p>ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力をのばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力つけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取りあげる科目である。ビジネスと言っても、いろいろな業種があり、また、オフィス環境も経理から営業、それに秘書業務まで様々であるが、とにかくビジネス環境に即した実際的な授業にしていきたい。</p>		
講義概要	<p>基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の3部構成で、参加型の授業である。また、発表や黒板を使っての演習が多くなる。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでのMBA課程で学んだ経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEICの700点、英検の準1級、日本商工会議所主催の商業英語検定のBクラス受験可能程度を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。</p>		
使用教材	テキスト	<p>『マルチトピックのビジネス英語』信、井著、南雲堂フェニックス 『ビジネスレターが書ける英単語・例文辞典』信達郎編著、南雲堂フェニックス</p>	
	参考文献	<p>授業を通じ、適宜指示する。</p>	
評価方法	<p>受講姿勢50%、ペーパーテスト50%</p>		
受講者に対する要望など	<p>成績にこだわるのではなく、実力を少しでも上げることに興味を持つ学生に参加してもらいたい。受講態度が悪い者は、退場を命ずる。当然のことながら、私語厳禁。</p>		

年 間 授 業 計 画	1. ビジネス英語の特徴
	2. プリント① (英文ビジネスコラム)
	3. 取引概略 I
	4. プリント②
	5. 取引概略 II
	6. プリント③
	7. 引合 (inquiry)
	8. プリント④
	9. オファー I (offer)
	10. プリント⑤
	11. オファー II
	12. プリント⑥
	13. 契約 I (contract)
	14. プリント⑦
	15. 契約 II
	16. プリント⑧
	17. クレーム I (claim)
	18. プリント⑨
	19. クレーム II
	20. プリント⑩
	21. コンピュータ英語 I
	22. プリント⑪
	23. コンピュータ英語 II
	24. プリント⑫

科目名	ビジネス英語 I-7 (93年度以降) 商業英語 I (92年度以前)	担当者名	山本孝夫
-----	--	------	------

講義の目標	<p>ボーダーレスの現代では、英語はビジネスの標準語です。国際的な舞台や現代のビジネスの世界で活躍をめざす人々は「標準語」と「ビジネス・契約知識」をマスターするのがその資格と考えてみてはどうでしょうか。国際ビジネスの分野は、貿易取引に加えて、知的財産取引、ライセンス、合併事業、エンターテインメント、情報・通信・放送、金融取引の国際化が進展しています。国内でも、コンピュータソフト、インターネット、フランチャイズ、旅行、就職など成長分野で国際化が進んでいます。クラスでは具体的なケースを取り上げて、ビジネス英語、契約英語と国際取引の実際と法を学びます。</p>		
講義概要	<p>[木4、6-101教室]</p> <p>CIF・FOBなど「国際売買条件」「国際取引の特色とリスク」「国際的取引の紛争と解決(訴訟と仲裁)」「音楽・ミュージカル・映画の制作・配給・ビデオグラム化・放送」「ベルサーチ・カルヴァンクラインなどブランドビジネス」「海外進出・合併事業」「ヴァージンなどベンチャービジネス」を具体的なビジネスやケースを通じて取り上げて行きます。ミンガン大学 Law School、ロンドン、サンフランシスコ、東京(三井物産)で国際取引、プロジェクト、訴訟、知的財産取引に携わってきた経験をもとに仮想ケースメソッドにより講義します。プリント、英文教材も使います。本学学生を思い浮かべて執筆した「英文契約書の書き方」(日経文庫)、「梁山泊 (IBL)」、「ライセンス契約」(三省堂)を使います。</p>		
使用教材	テキスト	<p>1. プリント、2. 「英文契約書の書き方」(山本孝夫、日本経済新聞社)、3. 「国際取引法」(山田・佐野、有斐閣)、4. 「ライセンス契約」(山本孝夫、三省堂)</p>	
	参考文献	<p>1. "International Business Transactions" (West Publishing、コースブックとNutshell版)、2. 「国際取引・知的財産法の学び方～梁山泊としてのゼミナール、(山本孝夫、『国際商事法務 (IBL)』に94年1月より毎月連載中、98年1月で49回)、3. 「貿易取引入門」(新堀聡、日本経済新聞社) 4. 「知的財産権Ⅲ 研究開発・ライセンス」(辰巳・青山・松居・山本、三省堂) より『商標・トレードシークレット・著作権ライセンス』(山本孝夫)、5. 「ビジネス英文手紙の書き方」(大田原、日経)</p>	
評価方法	<p>前後期2回のレポートとクラスへの参加を重視します。これまで5年間は竹田ゼミ、梶山ゼミ、ダゲンゼミ、独語学科、仏語学科はじめ、受講生が意欲的だったので、レポートとしてきました。レポートテーマは原則自由(3000字以上)とし、テーマのヒント20(プリント10頁位)を6月に配布します。[前期レポート・期限9月末]</p>		
受講者に対する要望など	<p>私は授業は受講生と教官が1対1で意見交換し、協力して作り上げるものだと考えています。毎回、B5版の「質問メッセージメモ」で自由に意見を聞かせて下さい。夢を追う仲間のゼミナールとしたい。毎回のテーマにつき、自分で考えてほしい。</p>		



年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 開講にあたり、①1年間の目標と進め方、②基本参考書、サブリーディング(リスト)、③レポートと評価、④英文ビジネス・レター(実例)、⑤商談とレター・契約の実際を紹介します。〔「英文契約書の書き方」PP. 1-20〕
2. 具体的なケースで国際取引の特色とリスクを取りあげます。セリーヌ・ディオン、マライヤ・キャリー、エンヤをキャンパスに呼ぶとしたらどんな契約書を作りますか。Speed、ザードならどうですか。
3. 具体的なケースをもとに「国際取引の種類」を学びます。94年は名古屋空港エアバス事故。95年はロックミュージカル上演、96年はVirgin(R.ブランソン)。97年はベルサーチ・カルバンクラインのブランドビジネスとタマゴッチ、DHLをとりあげました。98年春に目立つビジネスは何でしょうか。
4. AthenのAlpha CompanyがNew YorkのSanta ClausにToyを注文します。Alpha社のLetter, Purchase Orderを読み価格のきめ方、運送、船荷証券、代金決済を学びます。〔国際取引法PP. 69-113〕
5. Santa Claus(2回)。国際売上の仕組み、FOB, CIF条件を学びます。Free on Boardとはどういう意味でしょうか? CIFとは何でしょうか。〔「英文契約書の書き方」PP. 16-137〕、「貿易取引入門」PP. 98-173〕Letter of creditの役割は何でしょう。発行者は?
6. 米Georgia州のSam Silverが英Bill Bonesから「Desire under Thornbush」(本)をFOB Savannah(Georgia)条件で100冊、HuntからCIF Bath条件で100冊注文を受けます。一緒に送れますか。
7. Sam Silverケース(2回)。売主がGeorgia, 買主が2人ともBath、船積港がサバンナ、仕向先がBathという点で同じです。「FOBサバンナ」と「CIFバス」が同金額なら、どちらの条件で買いますか。
8. イタリー・ジェノバのヨットの見本市で出展されていた美しいヨットを日本の企業が購入。無事、引渡を受け、日本で所有権登録も完了しました。ところが、先に買ったというアメリカ企業が現れます。どうなりますか。ペンシベニア州のユニバーサル社で、ヨットをカロライン号と呼んでいます。
9. 第8~9回は、バジリボ社(伊)から、パスポートショッピング社(日)が購入したヨットが、3ヶ月前に、アメリカのユニバーサル社(PA州)にバシフル社(英)経由転売されていたというケースです。〔梁山泊36.96.12〕カロライン号は誰のものでしょうか? 決め手は何ですか?
10. 国際ビジネスの世界では、Business Writing、契約、紛争処理いずれをとってもアメリカの法制度とプラクティスの影響が大きいのです。UCCのWarranties(保証)、裁判、損害賠償の特色は何ですか。
11. これまでの授業をふり返り、いただいた質問に答えます。ケースの内容のこと、前期レポートのこと、クラスで取り上げる希望の多いテーマ(95, 97年は「英文履歴書」96年は「マクドナルド・フランチャイズ」など)など自由です。雇用契約と英文履歴書の書き方を楽しみませんか?
12. 国際取引に登場する「Actors」「事業展開のForms(売買、ライセンス、投資)」をふり返ります。前期レポートは、英文ビジネス・ライティング、国際取引、国際エンターテイメント、映画字幕制作等自由(期限:9月末)です。
13. 後期の重点テーマと指針を紹介します。あなたの夏休みの成果・感想を聞いたり、私のすごし方をお話します。レポートの提出を教室で受けます。〔96年夏は、書籍(三省堂)の編集・出版。97年夏は札幌大集中講義。94年はコペンハーゲン国際会議と北大の集中講義でした。〕
14. ビジネス英語、契約英語の基本を紹介します。「英文契約書の書き方」(V. 契約英語のポイントPP. 191-209)の基礎的表現(May, Shall, Will, 時間、数字、期間)を紹介します。〔「five tenths percent」とは? Per annumとは? subject toとは?…〕
15. 「国際技術移転・知的財産取引(1)」の基本を紹介します。Copyright, Patent, Trademark, Tradeseccretとは何でしょう。〔「知的財産権Ⅲ」PP. 285-413; 「国際取引法」PP. 189-209〕
16. 「国際技術移転・知的財産取引(2)」として、具体的なライセンスや契約条件を学びます。〔「英文契約書の書き方」PP. 146-171; 「コースブック」PP. 612-621; 「ライセンス契約」〕
17. 「映画・ミュージカル・音楽」(1)…国際的なエンターテイメント・ビジネスの実際を3回にわたりとりあげます。映画・ミュージカルはどのように制作されますか。配給は?
18. 「映画・ミュージカル・音楽」(2)…映画・ミュージカルの制作・上演には著作権や約款がからんできます。輸入・上演・放送・ビデオ化の実際や契約を学びませんか。ブロードウェイから呼ぶには?
19. 「映画・ミュージカル・音楽」(3)…音楽は著作権ライセンスと侵害がからんできます。Jesus Christ Superstar, Bee Gees, Feelings事件を知っていますか?
20. スーパーマン、バットマン、セーラームーン、キューティーハニー、もののけ姫、ミッキーマウス、綾波レイ…キャラクター・マーチャンダイジングのヒーロー・ヒロインはCounterfeiterとも戦わなければなりません。〔「スーパーマン事件」〕
21. 「海外への進出と合弁事業」(1)…販売代理店と支店・現地法人、合弁会社(Joint Venture会社)はどちらがうのでしょうか。〔「国際取引法」PP. 211-220; 「英文契約書の書き方」PP. 181-190〕
22. 「海外への進出と合弁事業」(2)…合弁事業、合弁契約のポイントは何でしょうか。国際間のM&Aを成功させるポイントは何でしょうか。紛争の解決方法はいかがですか。
23. 「国際取引紛争と解決」…P/L, Anti-Trust, WTO, Tax問題、環境、契約紛争と解決方法〔仲裁と裁判〕を取り上げます。国際詐欺の実際(ナイジェリアからのレター)を紹介します。
24. 就職活動・留学について、先輩(4年)から後輩への贈る言葉を紹介し(97年は、11月頃3回にわたり、レジュメ〔7枚〕で紹介)。後期レポートのテーマとヒント(10頁)を配布予定です。

科目名	ビジネス英語Ⅱ（93年度以降） 商業英語Ⅱ（92年度以前）	担当者名	杉山晴信
-----	----------------------------------	------	------

講義の目標	日本商工会議所主催の商業英語検定試験A・Bクラスの実務部門に合格できるレベルに目標を設定して、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を学びます。貿易取引の全体にわたって満遍なく講義するつもりですので、貿易や国際物流に興味のある人、貿易商社への就職を希望する人、通関士国家試験を目指す人などに極めて有益な情報を提供できるものと自負しています。		
講義概要	前期は貿易取引の流れを、主に輸出者の視点から、時系列的に6つのステージに区分してマクロ的に鳥瞰します。後期はミクロ的に、貿易形態、信用調査、オファー、一般取引条件、インボイス、船荷証券、信用状、海上保険といった専門事項(technicalities)について講義します。本講義で使用する下記のテキスト①は英文ですが、履修者はあらかじめ所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、講義はテキストの内容を補助プリントを用いて敷衍する形で進めます。また、教師側からの一方的な情報伝達に偏することのないよう配慮し、履修者にも頻繁に発言や説明を求めるつもりですので、積極的な授業参加を強く要望いたします。		
使用教材	テキスト	①伊東克己・太田正孝・稲津一芳・W. O' Connor『現代商業英語読本』（英潮社、1988） ②配布プリント	
	参考文献	①浜谷源蔵『最新貿易実務（増補二版）』（同文館、1995） ②田中・中川・仲谷『国際売買契約ハンドブック』（有斐閣、1986） ③粕谷慶治・山田晃久『国際貿易論』（学文社、1990） ④桐谷芳和『貿易取引と信用状』（経済法令研究会、1987） ⑤杉若雄次『貿易取引と貿易金融』（経済法令研究会、1986）	
評価方法	出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、前期と後期の定期試験の結果を加味して決定します。		
受講者に対する要望など	コンスタントな出席と十分な予習・復習を強く要望します。特に、就職活動に時間をとられる4年生は注意して下さい。		

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 1年間の講義計画を説明するとともに、貿易という営みが国際社会に果たす役割について考えます。  
(テキスト：p. p. 2～3)
2. 貿易実務の遂行手順を輸出者の視点から時系列的に6つのステージに区分し、その各々について概説します。  
(テキスト：p. p. 14～22)
3. 貿易マーケティングの段階について、市場調査 (Market Research) を中心に講義します。  
(テキスト：配布プリント)
4. 取引関係創設の段階のうち、取引先の選定、取引の申込み、引合いまでを取り上げて講義します。  
(テキスト：p. p. 42～53、配布プリント)
5. 取引関係創設の段階のうち、信用照会 (Credit Inquiry) について詳細に講義します。  
(テキスト：p. p. 54～60、配布プリント)
6. 貿易取引の成約段階のうち、一般取引条件 (General Terms & Conditions) で取り決めるべき諸条項を詳細に検討します。(テキスト：p. p. 77～80、配布プリント)
7. 貿易取引の成約段階のうち、オファーから受注にいたるまでの過程を講義します。  
(テキスト：p. p. 61～76、配布プリント)
8. 貿易取引の履行段階のうち、約定品の調達から船積 (Shipment) の手配までの過程を講義します。  
(テキスト：p. p. 81～88、配布プリント)
9. 貿易取引の履行段階のうち、為替予約 (Forward Exchange Contract)、海上保険 (Marine Insurance) の付保、輸出通関までを取り上げて講義します。(テキスト：p. p. 94～97、配布プリント)
10. 貿易決済の段階のうち、船積み書類 (Shipping Documents) の整備から荷為替手形 (Documentary Bill) の取組までの過程を講義します。(テキスト：p. p. 89～93、配布プリント)
11. 貿易決済の段階における各種の決済方法の特色を考察し、さらに為替リスクの回避を検討します。  
(テキスト：配布プリント)
12. 貿易クレームおよびクレーム調整の段階につき、特に国際商事紛争の解決手段としての仲裁 (Arbitration) をテーマに講義します。(テキスト：p. p. 98～105、配布プリント)
13. 貿易の主体、取引の損益性、契約の自主性などの観点から種々の貿易形態について講義し、各々の特色や長所・短所を比較検討します。(テキスト：p. p. 4～6、配布プリント)
14. 信用調査の目的・方法、調査項目などについて講義し、調査依頼状の書き方や調査報告書の読み方を実例を用いて学びます。(テキスト：配布プリント)
15. 各種オファーの特色を講義し、オファーと承諾をめぐる法的な諸問題について学習します。  
(テキスト：配布プリント)
16. いわゆるインコタームズ (Incoterms) に規定された定型貿易条件について講義し、実例に基づき輸出価格の積算訓練を行います。(テキスト：配布プリント)
17. 輸出通関および船積の手続一般について、在来船の場合とコンテナ船の場合とに区分して、各々詳細に講義します。(テキスト：配布プリント)
18. インボイス (Invoice) について講義し、各種インボイスの内容と目的、記載事項などを学習します。  
(テキスト：巻末付録、配布プリント)
19. 船荷証券 (Bill of Lading) について講義し、各種船荷証券の定義、法的性質、記載事項などを学習します。  
(テキスト：巻末付録、配布プリント)
20. インボイスと船荷証券以外の船積み書類 (Shipping Documents) について講義し、各々の内容と目的を学習します。(テキスト：巻末付録、配布プリント)
21. 海上保険について講義し、各保険条件の填補範囲と免責事項を学習するとともに、実例に基づいて保険料の算出訓練を行います。(テキスト：巻末付録、配布プリント)
22. 荷為替信用状 (Documentary L/C) について講義し、信用状の意義、種類、当事者、信用状決済の長所・短所などを学習します。(テキスト：巻末付録、配布プリント)
23. 貿易実務の遂行手順を輸入者の視点からとらえ直して前期の授業を総復習します。  
(テキスト：p. p. 19～22)
24. 後期の授業を総復習するとともに、疑問点や不明な点につき質疑応答を行う予定です。

科目名	時事英語 I-1, 2	担当者名	新井 妥門
-----	-------------	------	-------

講義の目標	クラスの数日前に録音した放送英語（主に CNN）のニュースを教材として、そのキャスターの部分のディクテーションをすることにより音声面のみならず文法的なポイントにもふれ時事英語力の向上を目的とする。
-------	--

講義概要	学生中心のディクテーションをする。聞き取りづらい部分を取り上げ、音のみならず語法や文の構造にも注意してその内容を把握していくことにポイントを置く。
------	---

使用教材	テキスト	テキストは使用せず、受講生は60分カセットテープを持参すること。そのテープに教材を随時録音していく。
	参考文献	例文の多い辞書をすること。できれば英英辞書がよい。 必ず小さなカセットテープレコーダーを毎回持参すること。

評価方法	定期試験、出席状況を含む平常点
------	-----------------

受講者に対する要望など	予習により聞き取りづらい部分を確認しておくこと。
-------------	--------------------------

年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業形式についての説明</li> <li>2. 教材（CNN）の録音とクラス全体でのディクテーション</li> <li>3. 学生によるディクテーション発表とそのチェック</li> <li>4. 学生によるディクテーション発表とそのチェック</li> <li>5. 学生によるディクテーション発表とそのチェック、教材の録音</li> <li>6. 聞き取りにくい語のまとめ</li> <li>7. 学生によるディクテーション発表とそのチェック</li> <li>8. 学生によるディクテーション発表とそのチェック</li> <li>9. 学生によるディクテーション発表とそのチェック、教材の録音</li> <li>10. 学生によるディクテーション発表とそのチェック</li> <li>11. 学生によるディクテーション発表とそのチェック</li> <li>12. 聞き取りにくい語のまとめ</li> <li>13. 教材の録音とクラス全体でのディクテーション</li> <li>14. 学生によるディクテーション発表とそのチェック</li> <li>15. 学生によるディクテーション発表とそのチェック</li> <li>16. 学生によるディクテーション発表とそのチェック、教材の録音</li> <li>17. 学生によるディクテーション発表とそのチェック</li> <li>18. 問題となる語句のまとめ</li> <li>19. 学生によるディクテーション発表とそのチェック、教材の録音</li> <li>20. 学生によるディクテーション発表とそのチェック</li> <li>21. 学生によるディクテーション発表とそのチェック</li> <li>22. 学生によるディクテーション発表とそのチェック、教材の録音</li> <li>23. 学生によるディクテーション発表とそのチェック</li> <li>24. 問題点のまとめ</li> </ol>
--------	---

科目名	時事英語 I-3	担当者名	金子節也
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>日米関係、ハイテク、日欧関係、アジア問題等の専門家への英語インタビューを読み、かつ聞きながら、日本の今後の進路、他国との協調を考える。英字新聞などの最新記事は言うに及ばず、CNNをはじめ、テレビ放送のVTR、インターネットをおおいに活用したい。</p>		
講義概要	<p>主テキストのインタビュー集（音声あり）を中心に、日本をとりまく諸情勢を聞きかつ読みながら理解し考察する。必須語い・表現に関しては、自ら運用できるよう努力する。</p> <p>その後の情勢の展開については、最新の新聞記事、雑誌、TV、インターネットなどにより補足してゆく。</p>		
使用教材	テキスト	<p>金子節也著；<i>I Too, Am a Bit of a Workaholic, but...</i>, こびあん書房、1988ほか （ほかに TV 放送などからのサブ教材使用予定）</p>	
	参考文献	<p>金子節也著『ニッポン・ウォッチング』朝日出版社、1991、他。</p>	
評価方法	<p>出席状況、ふだんの授業へのコミットメント、テスト成績の3つを主な評価基準とする。</p>		
受講者に対する要望など			

1. キーワードによるオリエンテーション。政治、経済、文化…幅広くキーワードを使って、いまの日本と世界の関係を浮きぼりにする。
  2. 日米関係——その1. テキストの2, “The Media Plays Up American Pressure”の最初の3分の1。テキスト pp. 11-14
  3. 日米関係——その2, テキスト pp. 15-18 その他最新英字紙等による補足。アメリカ口語表現の特徴などにもふれる。
  4. 日米関係——その3, “A Caution to the U. S. -Japan Relationship” (pp. 19-22) その他英字紙。
  5. 日米関係——その4, テキスト pp. 23-27 アメリカ人の日本観を最新資料にて補足。
  6. 日本関係——その5, テキストの4 “How to Influence Big Business and Go Win-Win” (pp. 29-33)
  7. 日米関係——その6, テキスト pp. 34-36 アメリカン・ドリームについて、成功者の信念について学ぶ。最新ビジネス用語にもふれる。
  8. 日英関係——その1, テキスト “I Too, Am a Bit of a Workaholic, but…” (pp. 37-41) 現代イギリス事情にもふれる。
  9. 日英関係——その2, テキスト pp. 38-46 日本がまだ多くのことを英国から学ぶべきこと、等を認識する。英米語のちがいにふれる。
  10. ハイテク技術と雇用——その1, テキスト pp. 55-59 産業ロボットの導入と労使関係。
  11. ハイテク技術と雇用——その2, テキスト pp. 60-64
  12. イギリス事情——その1, テキスト “The Unions Were Just Too Greedy” (pp. 47-51) 日英生産性比較。
  13. イギリス事情——その2, テキスト pp. 52-55
  14. ジャーナリズム研究——その1, テキスト “I Must Have a Little Japanese Blood” (pp. 1-5)。アメリカのジャーナリズムについて。
  15. ジャーナリズム研究——その2, テキスト pp. 6-8 検閲制度について。言論・出版の自由について。
  16. ジャーナリズム研究——その3, テキスト pp. 8-18 編集者の心がけについて。話者の英語の特色にふれる。
  17. アジア——その1, テキスト “Japan as a Big Brother”の ‘Help Us Stand on Our Own Two Feet’ (p. 65-67)
  18. アジア——その2, テキスト ‘The Japanese Rather Look West’ (pp. 68-70)
  19. アジア——その3, テキスト ‘Do More for Our Spiritual Enrichment’ (pp. 71-73)
  20. ジャパン・バッシング——その1, テキスト *Japan Unveiled*. “Japan, Not Russia, Main Threat” (pp. 2-4)
  21. ジャパン・バッシング——その2, テキスト “Bashing Japan Isn't the Answer” (pp. 6-8)
  22. キャリア・ウーマン——その1, テキスト “OL-She's Indispensable” (pp. 33-34)
  23. キャリア・ウーマン——その2, テキスト “Japan's New Breed of Office Ladies” (pp. 36-41)
  24. 高齢化社会の到来。テキスト Japan's Aging Population-A Guinea Pig” (pp. 72-76)
- 備考 テキスト *Japan Unveiled* は購入の必要はない。ほとんど毎時間、新聞等からの補足教材プリント配布・使用。

科目名	時事英語Ⅰ-4, 5	担当者名	工藤政司
-----	------------	------	------

講義の目標	世界の情勢をリアルタイムで把握することは国際人の必須条件である。時事英語Ⅰでは英語を通して海外事情、海外から見た国内事情に通暁し、国際人としての教育を身につけることを目指す。受講者は外国の新聞雑誌に取り上げられた記事を通して視野が広がったことを実感するだろう。		
講義概要	英文を正しく理解することに重点を置いた授業を行なう。		
使用教材	テキスト	プリント使用。	
	参考文献	Time, Newsweek, New York Times Weekly Review, The Economistその他内外の英字新聞および雑誌。使用するのとは主として上記新聞雑誌の記事である。	
評価方法	前後期の試験各一回の成績、及び出席を含む平常点をもって評価する		
受講者に対する要望など	予習が必要である。なお、時事英語は時々刻々と変化する内外事情を扱うので講義予定の順序や項目には変更が生じることがある。		

1. 授業のすすめ方についてのオリエンテーション
2. 外から見た日本の政治
3. 外から見た日本の政治
4. アメリカの政治
5. アメリカの政治
6. アメリカの社会問題
7. アメリカの社会問題
8. イギリスの政治と経済
9. イギリスの政治と経済
10. 科学の現況
11. 中国問題、その発展と問題点
12. 中国問題、その発展と問題点
13. 環太平洋地域の問題
14. 工業の発展と世界の環境問題
15. 工業の発展と世界の環境問題
16. ドイツの政治と経済
17. EU 問題
18. フランスの問題を読む
19. ロシアの現況と北方領土問題
20. New York Times Op. Ed
21. New York Times Op. Ed、継続講義
22. Time の Cover Story を読む
23. Time の Cover Story を読む
24. Time の Cover Story を読む



科目名	時事英語 I-6	担当者名	佐藤 真千子
-----	----------	------	--------

講義の目標	<p>本講義では、英語を介して時事的な国際問題に対する視野を広げることを目指します。現在の国際社会には、新たな秩序形成への動きと混沌とが混在しており、それは軍事、経済、社会それぞれの分野で観察できます。世界の雑誌や新聞のニュースに触れることは、こうした現代国際社会の特色を学ぶこととなるでしょう。本講義では、英文記事で頻用される時事用語や英語表現の習得と、記事内容についての理解を深めることの2点に重点をおいていきます。</p>	
講義概要	<p>本講義では <i>Far Eastern Economic Review</i> の “Regional Briefing”、<i>The Economist</i> の “Politics This Week”、<i>Current History</i> の “The Month in Review” などを教材として使用し、世界各地の国際問題の現状とその動向に注目していきます。こうした流動的な国際社会についての基礎的情報をもとに、気になる問題に関しては、適宜、様々な新聞や雑誌の特集記事、社説、論説などを取り上げていきます。</p> <p>記事の内容や語彙を正しく理解するためには、日頃のニュースに関心をもち、日本語の新聞や雑誌等で内容を確認することが必要となります。教材の記事内容に関する補足説明については、受講生による発表を取り入れていきます。</p>	
使用教材	テキスト	プリント配布
	参考文献	
評価方法	<p>平常点、試験およびレポートにより総合的に評価します。詳細については初回授業にて説明します。</p>	
受講者に対する要望など		

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 適宜、時事問題を取り上げます。
2. 同上
3. 同上
4. 同上
5. 同上
6. 同上
7. 同上
8. 同上
9. 同上
10. 同上
11. 同上
12. 同上
13. 同上
14. 同上
15. 同上
16. 同上
17. 同上
18. 同上
19. 同上
20. 同上
21. 同上
22. 同上
23. 同上
24. 同上

科目名	時事英語Ⅰ－Ⅶ	担当者名	信 達 郎
-----	---------	------	-------

講義の目標	<p>新聞や、英文のニュースは時事英語と知られているものですが、その特徴は、報道内容の把握と現代英語の理解にあります。また、時事英語は、そのニュースの内容に応じてやや専門用語や慣用語が異なるのもその特徴であります。そのため、実際に現代英語がどのように使われているかを、教材とプリントを通じて演習形式で理解することが目的となります。</p>		
講義概要	<p>1 教室での教材を使った演習。  2 適宜、現代のニュースを理解するための課題の指示。  3 録画ビデオ、映画による授業。  4 ニュース内容に関して英語での要約とコメント。</p>		
使用教材	テキスト	<p>『最新「タイム英語」攻略辞典』（講談社）  World News Today '98（金星堂）</p>	
	参考文献	<p>適宜指示する。</p>	
評価方法	<p>受講態度50%、定期考査50%</p>		
受講者に対する要望など	<p>成績にこだわることでなく、熱意があり、英語力をつけることに関心がある学生を歓迎する。</p>		

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 総論。次の年間スケジュールはあくまでも内容の概略であり、ニュースの進行により順序は異なる。
2. Education
3. Environment
4. -do-
5. Business matters (finance)
6. Business matters (industry)
7. Economic matters (general)
8. Economic matters (international)
9. Political matters (domestic)
10. Political matters (international)
11. Defense matters
12. Culture
13. -do-
14. Science
15. Technology
16. Social issues
17. -do-
18. World Climate
19. Weather report
20. Traveling
21. -do-
22. Crimes
23. Trials
24. Nature

科目名	時事英語Ⅰ－8	担当者名	野村 展子
-----	---------	------	-------

講義の目標	インターネットで時事英語にアクセス出来るようになること。多面的なものの見方が出来るようになること。基本英語で自分の意見を発表出来るようになること。この3つを講義の目標とする。具体的には、様々なメディアを通じて発信される環境・人権・経済・政治等の時事ニュースを読み、その背後にある、歴史、民族、宗教、経済、文化等に通時的、多面的にアプローチし、基本英語で簡潔にプレゼンテーションが出来るようになることを講義の目標とする。	
講義概要	(1)プリントを用いて、文字ニュースと放送ニュースに用いられる英語ニュースの特徴を学習する。(2)プリントとビデオを用いて、実際の英語ニュースを文字で読み、耳で聴き、映像を見て、情報発信に用いられる英語に慣れる作業を重層的に積み上げていく。(3)時事ニュースをより深く理解出来るようになるために、ニュースの背後にある政治、経済、歴史、民族、宗教等についての簡単なレポート提出を随時おこなう。(4)パワーポイントを用いて基本英語で自分の考えを簡潔に分かり易く伝達する。	
使用教材	テキスト	プリント
	参考文献	随時指示
評価方法	①前期・後期試験②レジメ・レポート(3)プレゼンテーション(4)クラス・パーティシペーションの総合評価による。総合評価の割合は①30%②30%③20%④20%	
受講者に対する要望など	人間と社会に興味があること。情報を収集・整理・伝達するツールとしてのコンピュータ使用に興味があること。後期の授業が始まる迄にマイクロソフト・オフィスが使えるようになることが望ましい。	

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 記述テストを行う。授業展開の概略を解説する。質問を受ける。人権・環境・経済・政治の4つのキーワードを提示し作業の詳細を説明する。
2. 文字ニュースの特徴をプリントとスクリプトを用いて学習する。T-1：各自提示された4つのキーワードの中から2つのキーワードを選択し提出する。
3. インターネットからダウンロードした文字ニュースを用い、実際のニュースの中から、典型的な文字ニュースの特徴を取り出し、文字ニュース独特の表現を習得する。
4. 放送ニュースの特徴をプリントとビデオ・スクリプトを用いて学習する。T-2：各自2つのトピックスを各々2行にまとめて提出する。
5. BBC放送を聞く。スクリプトを用い、実際のニュースの中に、典型的な映像ニュースの特徴を取り出し、放送ニュース独特の表現を習得し、内容理解を図る。
6. ABCニュースを見る。スクリプトを用い、実際のニュースの中に、典型的な映像ニュースの特徴を取り出し、映像ニュース独特の表現を習得し、内容理解を図る。
7. CNNニュースを見る。スクリプトを用い、実際のニュースの中に、典型的な映像ニュースの特徴を取り出し、映像ニュース独特の表現を習得し、内容理解を図る。
8. 1) ABCニュースを英語で聞く、2) キーワードやジャーゴンをメモする、3) スピーチ用のカードを使用し、各グループから1人発表する。
9. 1) USA TODAYのOUR VIEW/OPPOSING VIEWをダウンロードする、2) グループ・ディスカッションを行う、3) スピーチ用のカードを使用し各グループから1人発表する。
10. 1) キーワードでアクセスし記事をダウンロードする、2) 英文を読みグループ・ディスカッションをする、3) スピーチ用のカードを使用し各グループから1人発表する。
11. 前年度に実際に行われたプレゼンテーションの様子をビデオで見る。コンピュータを操作して、パワーポイントを用いた発表の仕方を体験する。
12. 各自のアウトラインに従って、国連や外務省他のホームページにアクセスしてみる。T-3：各自2つのトピックスのアウトラインを提出する。
13. 人権問題に関連するトピックの中間発表
14. 環境問題に関連するトピックの中間発表
15. 経済問題に関連するトピックの中間発表
16. 政治問題に関連するトピックの中間発表
17. 人権問題に関連するリサーチ・プレゼンテーション
18. 人権問題に関連するリサーチ・プレゼンテーション
19. 環境問題に関連するリサーチ・プレゼンテーション
20. 環境問題に関連するリサーチ・プレゼンテーション
21. 経済問題に関連するリサーチ・プレゼンテーション
22. 経済問題に関連するリサーチ・プレゼンテーション
23. 政治問題に関連するリサーチ・プレゼンテーション
24. 政治問題に関連するリサーチ・プレゼンテーション

科目名	時事英語 I-9	担当者名	森 永 京 一
-----	----------	------	---------

講義の目標	英字新聞・雑誌やテレビ・ラジオの報道・解説などを自由に理解・活用できるようにするのが目的。あわせて国際問題や外国事情などに対する理解を深めることを目指します。		
講義概要	テキストのほか、最新の新聞・雑誌、ビデオなども使用、時事英語独特の用法などを身に付けるようにします。		
使用教材	テキスト	浅野雅巳／岡部朗一 編注『World News Today '98』 金星堂刊	
	参考文献		
評価方法	前後期のテスト		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. ジャーナリズム英語の特異性</li> <li>3. 見出しの用法、略語</li> <li>4. 新聞の英語と放送英語</li> <li>5. 政治の英語（国内）</li> <li>6. 政治の英語（外国）</li> <li>7. 経済の英語</li> <li>8. 経済の英語（続）</li> <li>9. 金融の英語</li> <li>10. 外交の英語</li> <li>11. 国際機構の英語</li> <li>12. 国際問題の英語</li> <li>13. 国際問題の英語（続）</li> <li>14. 軍事の英語</li> <li>15. 天気予報などの英語</li> <li>16. 災害・事故の英語</li> <li>17. 犯罪・司法の英語</li> <li>18. 労働関係の英語</li> <li>19. 環境問題の英語</li> <li>20. 科学の英語</li> <li>21. スポーツの英語</li> <li>22. 芸術の英語</li> <li>23. 映画の英語</li> <li>24. まとめ</li> </ol>		

科目名	時事英語 I—10	担当者名	W. J. Benfield
-----	-----------	------	----------------

講義の目標	To develop the necessary receptive and productive skills to analyze and discuss current events and trends in world affairs.	
講義概要	We will look at seven major topics over the course of the year, devoting three classes to each one. Initially we will analyze each topic through the medium of articles drawn from a range of English-language publications or video clips. It will also be necessary sometimes to look into the historical background underlying the events to get a clearer picture of what is happening today. Further research into the topics will be done for homework leading to group presentations done in class. We will also look at political cartoons, analyze the language of news reporting and there will be regular quizzes on current events.	
使用教材	テキスト	Print and video.
	参考文献	
評価方法	Assessment will be on the basis of attendance, performance and participation in class activities. There will also be an examination at the end of each semester which will take the form of a monitored discussion in small groups.	
受講者に対する要望など		



年  
間  
授  
業  
計  
画

1. Course outline ; student selection.
2. Review of main news stories of previous year.
3. Topic 1 : reading / viewing, discussion.
4. Topic 1 : continued.
5. Topic 1 : group presentations.
6. Topic 2 : reading / viewing, discussion.
7. Topic 2 : continued.
8. Topic 2 : group presentations.
9. Topic 3 : reading / viewing, discussion.
10. Topic 3 : continued.
11. Topic 3 : group presentations.
12. Mid-term examination.
13. Review of first semester's work.
14. Topic 4 : reading / viewing, discussion.
15. Topic 4 : continued.
16. Topic 4 : group presentations.
17. Topic 5 : reading / viewing, discussion.
18. Topic 5 : continued.
19. Topic 5 : group presentations.
20. Topic 7 : reading / viewing, discussion.
21. Topic 5 : continued.
22. Topic 7 : group presentations.
23. Review of second semester's work.
24. Final examination.

科目名	時事英語Ⅱ-1	担当者名	新井 妥門
-----	---------	------	-------

講義の目標	<p>クラスの数日前に録音した放送英語（主に CNN）のニュースを教材として、そのキャスターの部分のディクテーションをすることにより音声のみならず文法的なポイントにもふれ時事英語力の向上を目的とする。</p>		
講義概要	<p>学生中心のディクテーションをする。聞き取りづらい部分を取り上げ、音のみならず語法や文の構造にも注意してその内容を把握していくことにポイントを置く。</p>		
使用教材	テキスト	<p>テキストは使用せず、受講生は60分カセットテープを持参すること。そのテープに教材を随時録音していく。</p>	
	参考文献	<p>例文の多い辞書を持参すること。できれば英英辞書がよい。 必ず小さなカセットテープレコーダーを毎回持参すること。</p>	
評価方法	<p>定期試験、出席状況を含む平常点</p>		
受講者に対する要望など	<p>予習により聞きづらい部分を確認しておくこと。</p>		

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 授業形式についての説明
2. 教材（CNN）の録音とクラス全体でのディクテーション
3. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
4. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
5. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 教材の録音
6. 聞き取りにくい語のまとめ
7. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
8. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
9. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 教材の録音
10. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
11. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
12. 聞き取りにくい語のまとめ
13. 教材（CNN）の録音とクラス全体でのディクテーション
14. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
15. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
16. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 教材の録音
17. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
18. 問題となる語句のまとめ
19. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 教材の録音
20. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
21. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
22. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 教材の録音
23. 学生によるディクテーション発表とそのチェック
24. 問題点のまとめ

科目名	時事英語Ⅱ-2	担当者名	佐藤真千子
-----	---------	------	-------

講義の目標	<p>本講義では、主にアメリカから世界に発信されているメディアを通して世界の動向を把握することを目指します。近年、テレビニュースに映し出された世界の映像が世論を動かし、各国の外交政策にまで影響を与えることや、各国の指導者や政策担当者がテレビインタビューや会見を利用し、国民の理解を求めるといった状況は、いまや日常的になっています。本講義では特に、外交問題に関するニュースやインタビューを取り上げ、口語の英語表現に慣れ親しむと同時に、ニュース内容を正しく理解し、分析することを目標とします。</p>		
講義概要	<p>本講義では、CNN放送のニュース番組（2～3分）やPBS放送のインタビューやディスカッション番組（15～20分）とその英語原稿を教材として使用します。短いニュースのために、インパクトの強い映像を背景に要点を明確にまとめたニュース原稿と、外交問題担当者や研究者などの生の声を利用しながら、国際社会の現状についての基礎的情報を得ることに努めます。本講義では時事問題を単に一過性のものとして捉えるのではなく、その歴史的背景にも注目し、問題に対する理解を深めるよう、ニュース内容や人物に関連する他の英語文献も、適宜、活用していきます。</p> <p>受講生による発表を随時、取り入れていきます。</p>		
使用教材	テキスト	プリント配布	
	参考文献		
評価方法	<p>平常点、試験およびレポートにより総合的に評価します。詳細については初回授業にて説明します。</p>		
受講者に対する要望など			

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 適宜、時事問題を取り上げます。
2. 同上
3. 同上
4. 同上
5. 同上
6. 同上
7. 同上
8. 同上
9. 同上
10. 同上
11. 同上
12. 同上
13. 同上
14. 同上
15. 同上
16. 同上
17. 同上
18. 同上
19. 同上
20. 同上
21. 同上
22. 同上
23. 同上
24. 同上

科目名	ドイツ語Ⅲ	担当者名	山本 淳
-----	-------	------	------

講義の目標	「ドイツ文化・社会との対話」というコンセプトのもとに、言語の4技能（聴く・話す・読む・書く）の実践的な習得を図ります。		
講義概要	<p>まず、現代ドイツの日常生活や社会をテーマとしたアクチュアルなドイツ語テキストを聴き、あるいは読み、さらにそのテキストに対するさまざまな質問に答えながら、ドイツ文化・社会の現実的な側面に触れ、日本文化・社会との共通点や相違点などについて考えてみます。</p> <p>その後で、自分の考えを述べるための表現や、そういうテーマのもとで交わされる会話表現を学びながら、ドイツ語によるコミュニケーション能力の養成を図ります。</p> <p>できれば、グループ作業や簡単なディスカッションも試みたいと思っています。</p>		
使用教材	テキスト	Michael Höhn／中川慎二：『もっと知りたいランデスクンデ／中級のためのコミュニケーション読本 [Landeskunde im Dialog]』（第三書房）1998年	
	参考文献	必要に応じて、その都度指示します。	
評価方法	前・後期末に、授業に関連したドイツ語のテキストを渡し、それに関するレポートを提出してもらいます。詳細は、授業中に指示します。		
受講者に対する要望など			

科目名	フランス語Ⅲ	担当者名	井上スズ
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>これまでのフランス語学習をもとに、更に読解力をつけることを目指します。文法知識の確認、単語力の拡充は当然ですが、テキストのテーマに関する知識も必要です。この授業は、国際政治、ヨーロッパ諸国の歴史、ヨーロッパ統合等に関心のある人に、将来自分の研究分野で、フランス語の原書が読めるように準備することを目標としています。</p>	
講義概要	<p>テキストは、ヨーロッパ12カ国の歴史家が共同執筆したヨーロッパ史の教科書で、古代から現代までを一冊にまとめた概説です。ここでは下記テキストにあるように、最後の部分1945年—1990年を扱います。きわめて平易な文で、ややこしい表現はなく、難しい文法知識を要するものではありません。また、人数にもよりますができるだけ関連する写真、図表等を用意して、具体的に理解できるよう努めたいと思います。なお、1990年以降の部分の最新版により補足します（この部分はプリント配布）。</p>	
使用教材	テキスト	12カ国の歴史家によるヨーロッパの歴史1945～1990〈仏語版〉第三書房
	参考文献	授業中受講者の要望があれば、その都度示します。
評価方法	<p>平常点（授業への貢献度）を重視し、人数によっては後期に試験をして、その結果を加味します。</p>	
受講者に対する要望など	<p>なるべく政治、社会、歴史等に関心のある人が受講して下さい。</p>	

科目名	スペイン語Ⅲ-1	担当者名	假名垣 宏
-----	----------	------	-------

講義の目標	<p>スペイン文化の多様性を知るには、スペイン史を学ぶことが第一の条件であろうと考える。スペイン語がロマンス語の一つであることをとりあげても、スペインがいかにローマ帝国とかかわったかを知っておく必要があるし、800年に及ぶイスラムとの共存で、スペインがどのような影響を受けたかを知る必要もあろう。本講義では、スペイン史とスペイン文化を相関させながら、スペインの本質なるものにすこしでも迫ることができればと願っている。</p>	
講義概要	<p>下記の年間授業計画に従って授業を進める。まず、スペインの地勢から説き起こし、コロンブスによる新大陸発見とそれに続く大航海時代に至る歴史を概観する。次に、フェリーペ二世の命により建造された壮大なエル・エスコリアル宮殿の建築家、画家エル・グレコ、セルバンテスとドン・キホーテといった、スペイン文化の偉大な担い手が残した遺産について読み進める。時間が許せば、画家ゴヤの生涯にも触れたい。</p>	
使用教材	テキスト	VISION DE ESPAÑA—historia cultura carácter— (朋友出版株式会社)
	参考文献	『スペイン—歴史的省察—』J. ビセンス・ビーベス著、小林一宏訳(岩波書店) 『スペイン—歴史と文化—』ヘンリー・カメン著、丹羽光男訳(東海大学出版会) 『レパントの海戦』塩野七生著(新潮社)
評価方法	<p>前期と後期にそれぞれ定期試験を行なう。テキストから2題、応用問題を1題、計3題の西文和訳を、辞書を用いて90分で行なう。</p>	
受講者に対する要望など	<p>スペイン語中級のテキストを使用する。当然わかりにくい部分もあるが、十分に説明するので、途中で放棄しないこと。各自に割り当てられた箇所は、責任をもって学習してくること。</p>	



年  
間  
授  
業  
計  
画

1. LA GEOGRAFIA DE ESPAÑA
2. LA GEOGRAFIA DE ESPAÑA
3. ESPAÑA PRIMITIVA
4. ESPAÑA PRIMITIVA—España romana
5. ESPAÑA PRIMITIVA—España cristiana Los visigodos
6. ESPAÑA EDAD MEDIA—Los árabes, El Califato de C'ordoba
7. ESPAÑA EDAD MEDIA—La Reconquista
8. ESPAÑA EDAD MEDIA—La Reconquista
9. ESPAÑA EDAD MEDIA—Los orígenes del español
10. ARTE Y CULTURA (Epoca Primitiva y Edad Media)—Período prehistórico, Período ibérico, Período romano, Período visigodo
11. ARTE Y CULTURA—Edad Media
12. ARTE Y CULTURA—Edad Media
13. LOS REYES CATOLICOS—La conquista de Granada
14. LOS REYES CATOLICOS—El descubrimiento de América
15. EL PACIFICO—Vasco N'ñez de Balboa
16. EL PACIFICO—Magallanes y Elcano
17. EL ESCORIAL
18. EL ESCORIAL
19. EL GRECO
20. EL GRECO
21. CERVANTES Y EL QUIJOTE
22. CERVANTES Y EL QUIJOTE
23. CERVANTES Y EL QUIJOTE
24. CERVANTES Y EL QUIJOTE

科目名	スペイン語Ⅲ-2	担当者名	野々山 ミチコ
-----	----------	------	---------

講義の目標	文法を復習しながら、スペイン・ラテンアメリカの近代文学について学ぶ。 短篇小説を用いる。		
講義概要	最初は教科書用にやさしく書き直したものをを用いるが徐々にレベル・アップし、最後は少々むづかしい原文に挑戦する。		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中にそのつどコピーを配布。</li> <li>・野々山真輝帆著「スペイン語のトレーニング」(白水社)</li> </ul>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とくになし</li> </ul>	
評価方法	授業への参加・貢献度を重視する。		
受講者に対する要望など	毎回授業に出席し、宿題とされた箇所を予習してくること。		

年 間 授 業 計 画	1.	スペイン短篇	ベッケル
	2.	"	"
	3.	"	"
	4.	"	クラリン
	5.	"	"
	6.	"	ウィムーノ
	7.	"	"
	8.	"	バロッパ
	9.	"	"
	10.	"	アソリン
	11.	"	"
	12.	"	"
	13.	"	"
	14.	ラテンアメリカ短篇	キログ
	15.	"	"
	16.	"	"
	17.	"	ルベン・ダリオ
	18.	"	"
	19.	"	"
	20.	"	コルタサル
	21.	"	"
	22.	"	"
	23.	"	"
	24.	"	"

科目名	ドイツ語会話 I-1	担当者名	U. J. 川村
-----	------------	------	----------

講義の目標	<p>Entwicklung der Hörverstehens- und Sprechfähigkeit mit einfachen Dialogen zur Kommunikation im Alltagsdeutsch.</p> <p><i>Methode</i>: Hörverstehensübungen durch Zuhören, Nachsprechen, Lesen und Nachspielen der Dialoge</p>		
講義概要	<p>14 <i>Lerneinheiten</i>: Vorstellen, Informationen erfragen (Berufe, Wohnung, Arbeit, Studium), eine Bitte aussprechen, Wünsche äussern, etwas planen, Telefongespräche führen, Einkaufen, nach dem Weg fragen, über Zeit sprechen, u. s. w.</p>		
使用教材	テキスト	<p><i>Deutsch einfach 1 + Kasette</i></p>	
	参考文献	<p>INTERNATIONES Werner und Alice Beile Textbücher und Kassetten werden vom Lehrer direkt in der BRD, Bonn, bestellt</p>	
評価方法	<p>Nach aktiver Unterrichtsbeteiligung, kleinen Zwischentests, Hausaufgaben, 2 Semesterabschlusstests.</p>		
受講者に対する要望など	<p>Grammatische Grundkenntnisse, Interesse an aktiver Mitarbeit, <i>regelmässige Teilnahme</i> am Unterricht</p>		

科目名	フランス語会話Ⅰ-1	担当者名	R. Floirac
-----	------------	------	------------

講義の目標	フランス語でコミュニケーションする能力を身につける、それも「聞く・話す読む・書く」のすべての面にわたる力を養う——これが『フランス語21』の目標です。次のことを念頭において少し努力すれば、1年のうちに、大学生が実生活で必要とする最も基本的なことが、フランス語を使ってできるようになります。	
講義概要		
使用教材	テキスト	石野好一・ほか著『フランス語21』白水社
	参考文献	
評価方法		
受講者に対する要望など		

科目名	フランス語会話Ⅰ-2	担当者名	L. Lattanzio
-----	------------	------	--------------

講義の目標	<p>本講義の目的は次の三点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) みなさんがすでに学んだフランス語の基礎的な知識を発展させる。</li> <li>2) 具体的な場面での会話の表現を学び、実際に聴き、話せるようになることを目指す。</li> <li>3) フランスの文化に接することによって、フランス的思考を理解する。</li> </ol>	
講義概要	<p>会話練習では、教科書をベースに、基本的な文法事項を確認しながら、実践で使えるフランス語会話の反復練習を行います。</p> <p>文明では、ビデオなども交え、フランス文化の様々なテーマに接し、それに関して意見交換します。</p>	
使用教材	テキスト	澤田・ラタンジオ・黒川著『アミカルマン』（駿河台出版）
	参考文献	
評価方法	出席を重視し、授業への参加の度合、課題の提出などによって評価する。	
受講者に対する要望など	受け身の態度ではなく、積極的に授業に参加してください。第一回目の授業時に全般的な説明を行いますので必ず出席してください。	

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 授業の紹介
2. 第1課 会話練習 (あいさつ)
3. 文明1 フランスという国
4. 第2課 会話練習 (自己紹介)
5. 文明2 パリの街について
6. 第3課 会話練習 (買い物をする)
7. 文明3 カフェという場所
8. 第4課 会話練習 (場所や時間を尋ねる)
9. 文明4 フランスの学生生活
10. 第5課 会話練習 (レストランで注文をする)
11. 文明5 フランス料理とワインについて
12. 前期のまとめ
13. 前期の見直し、後期の授業についての説明など
14. 第6課 会話練習 (人を誘う)
15. 文明6 プロヴァンス地方
16. 第7課 会話練習 (昨日したことを話す)
17. 文明7 ブルターニュ地方
18. 第8課 会話練習 (理由をのべる)
19. 文明8 アルザス地方
20. 第9課 会話練習 (将来について語る)
21. 文明9 政治について
22. 第10課 会話練習 (感情表現)
23. 文明10 フランス語の歴史
24. まとめ

科目名	スペイン語会話Ⅰ（総合）－Ⅰ（94年度以降） スペイン語会話Ⅰ（93年度以前）	担当者名	野々山 ミチコ
-----	--	------	---------

講義の目標	<p>映画を通じてどのような situation でどのような表現が用いられるかを具体的に学ばせる。 同時に日常会話が平易な単語・構文によって可能であることを理解させる。 (NATIVE Speaker のベラスコ先生は同じ教材を使って会話能力の育成をめざす。)</p>	
講義概要	<p>授業の三分の二は映画のスク립トを訳した上で、映画を見せ、その内容についてスペイン語で質問を行なう。 三分の一は、文法の復習にあてる。 「El Sur」は内戦の心の傷を負った父親の肖像を少女の眼を通して描いたもの。 「カルメン」は世界的フラメンコ・ダンサー、アントニオ・ガディス主演。メリメのカルメンと同様の状況がそれを演じるフラメンコ・バレエ団内で起こる。</p>	
使用教材	テキスト	<p>野々山真輝帆著「スペイン語のトレーニング」白水社。 映画 El Sur と CARMEN のスク립トのコピー（授業中に配付する）</p>
	参考文献	
評価方法	<p>主として授業への参加、貢献度とレポートによる。 テストは行なわない。</p>	
受講者に対する要望など	<p>毎回授業に出席し、あてられた箇所は責任をもって調べてくること。</p>	



年 間 授 業 計 画	1.	El Sur	スペイン語のトレーニング	完了過去
	2.	"	"	
	3.	"	"	不完了過去
	4.	"	"	未来
	5.	"	"	未来完了、過去未来
	6.	"	"	現在分詞
	7.	"	"	否定語
	8.	"	"	再帰動詞
	9.	"	"	受動態
	10.	"	"	比較
	11.	"	"	関係詞
	12.	"	"	命令
	13.	"	"	接続法現在 (意志感情・危惧)
	14.	カルメン	"	(無人称表現・疑惑・否定)
	15.	"	"	(目的・譲歩、否定、不定)
	16.	"	"	接続法過去・大過去
	17.	"	"	時制の一致
	18.	"	"	全体のレビュー
	19.	"	"	"
	20.	"	"	"
	21.	"	"	"
	22.	"	"	"
	23.	"	"	"
	24.	"	"	"

科目名	スペイン語会話Ⅰ（総合）－2（94年度以降） スペイン語会話Ⅰ（93年度以前）	担当者名	J. L. Velasco
-----	--	------	---------------

講義の目標	The objective of this course is to enable the students to communicate in Spanish by acquiring a deeper knowledge of the Spanish language and its culture.	
講義概要	<p>Completion of the unfinished grammar, so that the students could understand with a dictionary any regular Spanish written text.</p> <p>Oral practices of the Spanish conversation through short dialogues about the daily life and conversational themes.</p> <p>Wider knowledge of the Spanish Culture and Spanish speaking world.</p>	
使用教材	テキスト	Prints.
	参考文献	Audiovisuals materials (tapes, videos, etc.)
評価方法	Oral and written quizzes, exams.	
受講者に対する要望など	Attendance Participation Effort	

1. Repaso general gramatical      Las Personas (Presentación)
2. Subjuntivo o indicativo      Cine-Carmen (I)
3. Condicional      Restaurante (Pequeño teatro)
4. Subjuntivo Pretérito      Cine-Carmen (II)
5. Si (doble condicion)      Clínica (Pequeño Teatro)
6. Pluscuamperfecto-Futuro perfecto      Cine-Carmen (III)
7. Pronombres relativos      Telefono (Pequeño teatro)
8. Subjuntivo : Pretérito Perfecto      Cine-Carmen (IV)
9. Subjuntivo : Pluscuamperfecto      Una compra (Pequeño teatro)
10. Ser vs. estar-Voz pasiva      Cine-Carmen (V)
11. Verboides (Formas verbales)      Hotel-(Pequeño teatro)
12. Acentos      Cine-Carmen (VI)
13. El Mundo Hispano      Video-En el club hispano
14. El dinero en el mundo hispano      Cine-El Sur (I)
15. La comida-Sobremesa      Video-La paella  
Siesta-Fiesta
16. El clima en el mundo hispano      Video
17. El piropo      Cine-El Sur (II)
18. El idioma castellano      Video-San Antonio (Texas)
19. Leyenda de Ecuador (I)      Cine-El Sur (II)
20. Leyenda de Ecuador (II)      Cine-El Sur (III)
21. La moda y el mundo hispano      Video-Comprando ropa
22. Viaje a México      Video
23. Los deportes en el mundo hispano      Video
24. Viaje a Perú      Cine-El Sur (IV)

科目名	スペイン語会話Ⅰ（LL）－3（94年度以降） スペイン語会話Ⅱ（LL）（93年度以前）	担当者名	佐藤勘治
-----	--	------	------

講義の目標	<p>これまで学んだ文法項目について、スペイン語会話の運用力を身につける。場面設定に従った基本的会話文を学び、語彙力を高めるとともに構文の復習をおこなっていく。このことで、依頼の会話、許可を求める会話、道を尋ねる会話など場面ごとに最低限必要な基本構文をはなせ、また聞き取れることができるようにしたい。また、接続法前置詞、関係代名詞などまだ十分に練習がおこなえていない文法事項についても練習する。</p>	
講義概要	<p>ビデオ教材の Viaje al español を主に14課以降進めていきたい。 単に見てなにかが言われているか理解できるだけではなく、能動的な発話ができるよう、練習をおこなう。詳しくは、授業の最初に指示する。</p>	
使用教材	テキスト	・担当者が用意する。
	参考文献	
評価方法	授業への積極的参加、およびテスト	
受講者に対する要望など		

科目名	スペイン語会話Ⅱ（94年度以降） スペイン語会話Ⅱ（会話）（93年度以前）	担当者名	霞 洋子
-----	--	------	------

講義の目標	二外の四年目の授業で、スペイン語会話Ⅰの継続である。教科書「Modern Spanish」の三年終了時の文法の進度にあわせて、おおよそ18課からはじまる。接続法の活用と使い方の練習が中心となる。より高度なスペイン語の総合的運用能力（話す、聞く、書く、読む）の獲得をめざす。		
講義概要	教科書「Modern Spanish」の18課から（おおよその目安である）。接続法を中心とした会話練習とともに、全課にわたる総合的練習もおこなう。四年次用の授業は、この授業だけなので、教科書以外のプリント・ビデオなどを使用する場合もある。詳しくは、開講時に説明する。		
使用教材	テキスト	「Modern Spanish」	
	参考文献		
評価方法	出席、年二度の定期試験、課題の提出、担当者によっては小テストなどの結果を総合的に判断する。		
受講者に対する要望など			

科目名	言語情報処理 Ia-1・Ib-1, Ia-2・Ib-2 (94年度以降) 言語情報処理 (93年度)	担当者名	高柳敏子
-----	---	------	------

講義の目標	<p>本講義は、初めてコンピュータに接する英語科の学生を対象に、まずキーボードトレーニングから始め、コンピューターリテラシの習得としてコンピュータ・コミュニケーション、ワードプロセッサ、および表計算ソフトとそのデータベースの取り扱い等を学習しながら、コンピュータの文章解析への応用を目指しその基礎を実習する。</p>		
講義概要	<p>前期は、まずタイピングから始め、近年盛んに使われるようになったネットワークについて、パソコン通信を含めて Internet によるメールの送受信等を実習する。次に、MS-Windows のもとでワープロソフト MS-Word による日本語ワープロを中心に表やグラフ等を含めた総合的な文書編集の基礎と、英文ワープロの扱いを学習する。</p> <p>後期は、MS-Excel による表計算の基礎とその応用としてデータベースの取扱いを習得しながら、MS-Excel による文章解析の基礎を学習する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>未定：第1回目の授業で指定する。</p> <p>タイプ練習用ソフト (TypeQuick)</p>	
	参考文献	<p>随時紹介する。</p>	
評価方法	<p>評価は、定期試験に替わる前・後期各1回の実習試験と同じく前・後期各2～3程度のレポートおよび、出席を加味して行う。</p>		
受講者に対する要望など	<p>実習が中心の授業なので欠席しないこと。年間を通して実習用にフロッピーディスク (3.5インチ2HD) を使用するので、講義開始時までに3枚程度各自用意すること。</p> <p>第1回目の授業時に受講生を決定するので必ず出席すること。</p>		

年 間 授 業 計 画	(前期)
	1. 受講生の決定と講義のガイダンス
	2. コンピュータ入門 (1): MS-Windows とマウスの操作 Windows パソコンに触れる。
	3. コンピュータ入門 (2): キボートとタイピング タイピングソフトの解説とタイプ練習をする。
	4. Internet (1): mail の送受信を学ぶ。
	5. Internet (2): mail に添付ファイルを付けて送受信する。
	6. ワードプロセッサ (1): キーボードと日本語入力 MS-Word の起動と日本語入力システムを学ぶ。
	7. ワードプロセッサ (2): ディスク、ファイル、文書 ディスクの初期設定および、文書の保存と呼び出しを学ぶ。
	8. ワードプロセッサ (3): カット&ペースト 文書内および文書間の文書の移動や複写を学ぶ。
	9. ワードプロセッサ (4): 表組み 文書の一部や数値部分の表組を学ぶ。
	10. ワードプロセッサ (5): 段組み 文書の段組を学ぶ。
	11. ワードプロセッサ (6): 英文入力処理 半角入力、ハイフネーション、スペルチェック等を学ぶ。
12. ワードプロセッサ (7): 総合問題 ワードプロセッサの機能を使った総合的なレポートを作成する。	
(後期)	
1. 文章解析 (1): 文章解析の準備 Internet を利用して英文を選択・取得し、編集・整理し、テキストファイルとする。	
2. 文章解析 (2): 英文テキストファイルの入力と表計算の基礎 英文テキストファイルを使用し、MS-Excel の基礎を学ぶ。	
3. 文章解析 (3): 英文テキストファイルの編集 英文テキストファイルを MS-Excel 上で編集・整理する。	
4. 文章解析 (4): 単語の使用頻度の集計 データベース集計機能を利用し、列毎に単語の使用頻度を集計する。	
5. 文章解析 (5): テキスト全体の単語の使用頻度 列毎の単語の使用頻度をまとめ、テキスト全体の集計をする。	
6. 文章解析 (6): 単語の使用度数分布 単語の使用頻度数による分布を求める。	
7. 文章解析 (7): 単語の文字数分布 LEN 関数により各単語の文字数を計算し、文字数分布を求める。	
8. 文章解析 (8): グラフの利用 単語の頻度分布や長さの分布をグラフにする。	
9. 文章解析 (9): 文字の使用頻度 データベース関数 DSUM を利用し、文字毎の使用頻度を求め集計する。	
10. 文章解析 (10): 1 文内の単語数の分布 列毎の文の終了記号 (. ! ? 等) の頻度から、1 文内の単語数を求める。	
11. 文章解析 (11): KWIC インデックスの作成	
12. 文章解析 (12): 文章解析のまとめ 文章解析の結果を整理し、レポートを作成する。	

科目名	言語情報処理Ⅱ a・b (94年度以降) 言語情報処理 (93年度)	担当者名	前田 功雄
-----	---------------------------------------	------	-------

講義の目標	<p>この講義では、言語情報処理Ⅰやコンピュータ概論で学んだワープロ、表計算の技術をもとにこれらのソフトを連携させながら、もっと高度な使いみちを学ぶ。特に、ワード (MS WORD) とエクセル (MS EXCEL) のデータ連携やワードのレイアウト枠機能 (文書内に貼り付ける図形やグラフを任意の位置に好きな大きさに貼り付ける機能) に熟達されたい。また EXCEL は数ある表計算ソフトの中で統計分析に定評がある。この統計分析ツールをマスターすることがこの講義の目標の一つでもある。</p>		
講義概要	<p>一言でいえば、ウィンドウズを活用した情報処理の実践的な授業である。言語研究や語学教育に適用範囲を合わせたことにより、英語学科の学生に馴染みやすい例題を多く取り入れた。とかく面倒な成績の統計処理もアプリケーション・ソフト (MS EXCEL) を使うことにより、誰でも簡単に必要な統計量 (例えば、平均とかばらつきの度合を示す標準偏差や馴染みのある偏差値等) や説得力のあるグラフが作れるよう指導する。このような実例を通して解り難い統計概念の教育における意味を明らかにする。</p>		
使用教材	テキスト	最初の授業時に述べる。	
	参考文献	講義中随時紹介する。	
評価方法	前期、後期のレポート提出と出席回数その他レポート。		
受講者に対する要望など	履修条件があるので「履修の手引」を参照のこと。		



(前期)

1. コンピュータの仕組みと言語処理
2. ワープロとマルチメディア
3. ワープロとDTP (Desk Top Publishing)
4. ワープロ実習
5. 表計算ソフトとは
6. 英語教育と表計算ソフト (MS EXCEL)
7. MS EXCEL と文書解析
8. 文書解析実習 I
9. 文書解析実習 II
10. 成績処理と MS EXCEL
11. 種々の関数を使った統計値の算出
12. 前期総合レポートの作成

(後期)

1. 成績データのグラフ表示
2. 成績データと基本統計量
3. 成績データをヒストグラムに画く
4. 2つの項目の統計的関連—相関係数および独立性—
5. 3つ以上の項目間の統計的関連—相関行列—
6. 2つのクラスの成績から見た統計的比較
7. 教授法を変えたことによる成績変化の統計的意味
8. 成績データ処理に関するレポート作成
9. 英語教育とインターネット
10. インターネットとCAI (Computer Assisted Instruction)
11. インターネット実習
12. 総合レポートの作成

科目名	統語論 a・b (94年度以降) 統語論 (93年度) 英語文法論 (92年度以前)	担当者名	安井美代子
-----	--	------	-------

講義の目標	この講義では、統語論の基本を学び、英語のデータを使って具体的な分析を行っていく。英語の統語構造に関して私たちが知っていることを明確にかつできるだけ一般的に述べることができるようになることを目指す。		
講義概要	1980年代の生成文法統語論の枠組み (Government and Binding Theory または Principles-and-Parameters Approach と呼ばれているもの) を講義する。扱うデータは英語が中心となるが、私たちが母国語話者としての直感を持っている日本語のデータも一部分取り入れ、英語との比較分析を行う。毎回受講者には具体的な分析をしてもらい、それをふまえて生成文法統語論の全体像を段階的に講義していくので、欠席が重なると理解が困難になる。		
使用教材	テキスト	プリント	
	参考文献	A. Radford "Transformational Syntax." Cambridge University Press. L. Haegeman "Introduction to Government and Binding Theory." Blackwell.	
評価方法	平常点及び前後期末の定期試験による。		
受講者に対する要望など			

(前期)

1. What is syntax?
2. Regularities in syntactic structure
3. Phrase structure
4. X-bar theory
5. Lexical information and phrase structure
6. Wh-questions
7. Wh-movement and subadjacency
8. Functional category and Japanese phrase structure (1)
9. Japanese phrase structure (2)
10. Ellipsis and subject-auxiliary inversion (1)
11. Ellipsis and subject-auxiliary inversion (2)
12. Review

(後期)

1. Passive and raising
2. NP-movement and the Case Theory (1)
3. NP-movement and the Case Theory (2)
4. Anaphors (*himself* and *each other*)
5. The Binding Theory (A)
6. Pronouns and the Binding Theory (B)
7. Ordinary NPs and the Binding Theory (C)
8. Japanese anaphors (*zibun*, *zibun-zisin*, and *kare-zisin*) (1)
9. Japanese anaphors (*zibun*, *zibun-zisin*, and *kare-zisin*) (2)
10. Understood subject of non-finite clauses
11. PRO and the Case Theory
12. Review

科目名	意味論 a・b (94年度以降) 意味論 (93年度) 英語学特殊講義 (意味論) (92年度以前)	担当者名	神尾昭雄
-----	--	------	------

講義の目標	意味の分析に興味を抱く学生諸君が多いが、それらの学生の関心に応え、さらに関心を深めてもらうよう、現代の意味論の最新の研究をできるだけ分かりやすく解説する。		
講義概要	現代の意味論の新しい動向を理解してもらうため、基本となる概念の理解をまず徹底させ、特に意味の表示の方法について十分に説明する。そのうち、個々の英語の文や単語の具体的分析を解説してゆく。意味論 b においては、認知意味論という最近の理論による意味の分析について講義する。		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	教室で指示する	
評価方法	意味論 a, b ともに中間試験および期末試験の 2 度の成績によって評価する。(中間試験は授業の進度に応じて行うので、時期は未定、教室で指示する。)		
受講者に対する要望など	授業に出席していないとついて行くことができないような内容である。		

年  
間  
授  
業  
計  
画

(前期)

1. 授業の進め方、評価の方法、意味の分析とはどのようなものか、などについて
2. 意味論の基礎概念(1)
3. 意味論の基礎概念(2)
4. 意味論の基礎概念(3)
5. 事例研究(1) 視覚に関わる動詞について
6. 意味論の基礎概念(4)
7. 事例研究(2) R. Jackendoff の Parts and Boundaries の分析(i)
8. 事例研究(3)                    同上    (ii)
9. 事例研究(4)                    同上    (iii)
10. 事例研究(5)                    同上    (iv)
11. Jackendoff の分析の意義について
12. 意味論 a のまとめ

(後期)

1. 認知意味論について、その概要、および基本的な考えの説明
2. 認知意味論の基礎概念 (1)
3. 認知意味論の基礎概念 (2)
4. 事例研究 (1)
5. 事例研究 (2)
6. 事例研究 (3)
7. 認知、意味、言語の関わりについて
8. 事例研究 (4)
9. 事例研究 (5)
10. 意味論 b のまとめ
11. 意味論 a 中間試験 (時期未定、前期の中頃の予定)
12. 意味論 b 中間試験 (時期未定、後期中頃の予定)

科目名	音声・音韻論 a・b (94年度以降) 音声・音韻論 (93年度) 英語学特殊講義 (音声・音韻論) (92年度以前)	担当者名	大竹孝司
-----	---	------	------

講義の目標	<p>国際社会やインターネット社会の到来により、英語の重要性がますます高まっています。従来の読み書きを中心とした文字言語に加えてリスニング、スピーキングなど音声媒体とした音声言語の理解が強く求められるようになってきました。2003年より我国の初等教育で初めて導入される英語教育では、音声言語が中心的な役割を担うことになっているのは周知の通りです。本講義では、音声言語を理解する上で最も基本となる音声学と音韻論の基礎知識と考え方について実験を交えながら総合的に学ぶと共に英語学習や教育への応用も考えます。</p>		
講義概要	<p>本講義は、主として次の三つを取り上げます。第一は、英語音声の調音法や物理的な特徴を理解したり、音声の記述の方法を学ぶ音声学です。第二は、「音声の文法」を扱う音韻論です。「音声の文法」というと理解し難いと思われかもしれませんが、実際に英語の音声は様々な音の組み合わせの制約や規則によって支配されています。私達が発音する英語は何故英語らしく聞こえないのかが理解できるようになるでしょう。最後は、音声言語と教育に関する関連領域を考えます。母語や外国語を聞いている時の音声知覚の仕組みなどを扱います。この講義では随時実験に参加することで音声言語の特性をより深く理解するようしてもらいます。</p>		
使用教材	テキスト	<p>“Language Files” (Sixth ed.) Ohio State University Press</p>	
	参考文献	<p>授業で随時紹介します。</p>	
評価方法	<p>試験またはレポート 前期・後期各 1 回 (60%)、授業時に指示する課題 (20%)、実験 (20%) の総合点で評価します。</p>		
受講者に対する要望など	<p>米国の大学で広く用いられている言語学の教科書により授業を行います。授業は教科書を事前に読んであることを前提に、討論を中心とした形式で行いますので準備を十分にした上で参加して下さい。</p>		

年 間 授 業 計 画	(前期)	
	1. 授業の全体について説明を行う。	
	2. 音声学の基礎知識	1 (音声学の成り立ち)
	3. 音声学の基礎知識	2 (音声と音声記号 I)
	4. 音声学の基礎知識	3 (音声と音声記号 II)
	5. 音声学の基礎知識	4 (発音器官と調音の分類 I)
	6. 音声学の基礎知識	5 (発音器官と調音の分類 II)
	7. 音声学の基礎知識	6 (子音の特性とその表記 I)
	8. 音声学の基礎知識	7 (子音の特性とその表記 II)
	9. 音声学の基礎知識	8 (母音の特性とその表記 I)
	10. 音声学の基礎知識	9 (母音の特性とその表記 II)
	11. 音声学の基礎知識	10 (音響音声学とは)
	12. 音声学の基礎知識	11 (母音と子音の音響特性)
	(後期)	
	1. 後期の授業の説明	
	2. 音韻論の基礎知識	1 (音声学と音韻論の違い)
	3. 音韻論の基礎知識	2 (音の体系)
	4. 音韻論の基礎知識	3 (音、音素、異音、相補分布などの概念 I)
	5. 音韻論の基礎知識	4 (音、音素、異音、相補分布などの概念 II)
	6. 音韻論の基礎知識	5 (音韻規則について)
	7. 音韻論の基礎知識	6 (音韻分析の手法について)
	8. 音韻論の基礎知識	7 (音韻分析の実際 I)
	9. 音韻論の基礎知識	8 (音韻分析の実際 II)
	10. 音韻論の基礎知識	9 (音韻分析の実際 III)
11. 音声学と音韻論の関連領域	(音声言語の理解の仕組みについて)	
12. 音声学と音韻論の関連領域	(音声学と音韻論とその教育について)	

科目名	英語史 a・b (94年度以降) 英語史 (93年度) 英語史概説 (92年度以前)	担当者名	近藤 ヒカル
-----	--	------	--------

講義の目標	英語の歴史を扱うこの講義では、英語学・英文学概論による重複を避ける観点から、徹底して諸文献を渉猟し、その範囲を文字の起源から初期近代英語までに限定した。目標は OED の引用例が読めて Shakespeare や聖書が抵抗なく読めるようになることである。	
講義概要	年間講義予定を見れば分かる通り、アルファベットの発生から英語で書かれた最初の文学作品のベオウルフ、14世紀の「カンタベリー物語」、そしてシェイクスピアと聖書に至るまでの英語の歴史を、手書き写本の解読によって丸で英語の絵本を見るような楽しさで身につけてもらう。教材は辞書に至るまでプリントし配布し、ビデオ上映も多用する。要は英語という文字の面白さを分かってもらいたいのである。また現代英語の問題として黒人英語やクリオール語はやはり英語史でしか扱えないものとして触れてみるつもりである。	
使用教材	テキスト	プリント
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Eduard Sievers: <i>An Old English Grammar</i> (AMS Press)</li> <li>・ Fernand Mosse: <i>Handbook of Middle English</i> (Johns Hopkins Press)</li> <li>・ John Holm: <i>Pidgins and Creoles</i> (Cambridge Univ. Press)</li> <li>・ 小野捷『英語史概説』(成美堂)</li> <li>・ 桜庭一郎『英語史概要』(篠崎書林)</li> </ul>
評価方法	成績評価は前・後期の定期試験とレポートによる。出席は絶対条件とする。	
受講者に対する要望など		



年 間 授 業 計 画	(前期)
	1. アルファベットの起源 (文字の起こり、アルファベットの歴史)
	2. 英語の家系図 (世界の言語とその歴史、日本語との比較)
	3. 文献学の重要性、英語諸方言、クリオール語、現代アメリカのかかえる言語問題
	4. Old English の音韻・語形・統語
	5. Cynewulf's <i>Elene</i> , Caedmon's <i>Hymn</i>
	6. <i>Beowulf</i> (1)
	7. <i>Beowulf</i> (2)
	8. <i>Beowulf</i> (3)
	9. <i>Beowulf</i> (4)
	10. <i>The Battle of Maldon</i> (1)
	11. <i>The Battle of Maldon</i> (2)
	12. <i>The Battle of Maldon</i> (3)、King Alfred, Wulfstan 等
	(後期)
	1. Middle English の音韻・語形・統語
	2. <i>TheOrmulum</i> , <i>Ancrene Wisse</i>
	3. <i>The Canterbury Tales</i> (1)
	4. <i>The Canterbury Tales</i> (2)
	5. <i>The Canterbury Tales</i> (3)
	6. <i>The Canterbury Tales</i> (4)
	7. <i>Troilus and Criseyde</i> , <i>The Pearl</i> , <i>Piers Plowman</i> 等
	8. Early Modern English の音韻・語形・統語
	9. Shakespeare 研究方法論
	10. Shakespeare の喜劇・史劇
11. Shakespeare の悲劇・ロマンス劇	
12. 英訳聖書	

科目名	英語学特殊講義 a・b (94年度以降) 英語学特殊講義 (93年度) 英語学特殊講義 (統語論) (92年度以前)	担当者名	川崎 潔
-----	--	------	------

講義の目標	<p>英語英文学を学ぶ者にとって、英訳聖書、殊に The Authorized Version (1611年出版) は、W. Shakespeare の戯曲と共に必読の書と言えよう。AV は先行する英訳聖書の粹を集大成したものであり、それ以後信仰の書として読み続けられ、英米の文化と文学にも広く深い影響を与え、英語史家たちから、「英語散文の金字塔」と言われるに至ったからである。この講義では、その The Authorized Version の文法・語法と文体への手引きを少しばかり試みたい。それはまた Shakespeare の英語への手引きともなるであろう。</p>		
講義概要	<p>The Authorized Version の文法・語法については、現代英語との相違点をマタイ伝の中から取り上げ、必要に応じて Tyndale 訳聖書 (1525-26年出版)、Revised Standard Version (1946-52年出版) とも比較検討してみたい。文体については、簡潔性、具象性・比喩、反復、並行体を取り上げる。なお山上の説教については、参考文献にあげたすぐれた講解があり、これを熟読すれば得るところ多大であろう。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ “The Authorized Version” (The King James Version) (現行版)</li> <li>・ 市河三喜『聖書の英語』研究社、1937</li> </ul>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ The Authorized Version (A Reprint of The Edition of 1611, OUP, Kenkyusha, 1985)</li> <li>・ 寺澤芳雄ほか『英語の聖書』富山房、1969</li> <li>・ 荒木一雄・宇賀治正朋『英語史Ⅲ A』、英語学大系第10巻、1984</li> <li>・ 齋藤勇『文学としての聖書』研究社、1944</li> <li>・ 井上良雄『山上の説教』新教出版社、1994</li> </ul>	
評価方法	<p>前期末と後期末にレポートを提出してもらう。</p>		
受講者に対する要望など	<p>授業に出席し、そこで取り上げられた事項を自分で調べてもらいたい。それによって確かな知識が習得出来るであろう。</p>		

年  
間  
授  
業  
計  
画

(前期)

1. 1. begat; brethren 2. on this wise 3. when as 4. exceeding
2. 5. be warned of God 6. They ... which 7. did reign; in the room of~ 8. meat
3. 9. Jordan 10. have Abraham to our father 11 throughly 12. an hungred
4. 13. Get thee hence 14. the palsy 15. ye, you 16. If the salt have lost his savour
5. 17. an hill 18. the same 19. except your righteousness shall exceed... 20. ought
6. 21. thine adversary; whiles 22. offend 23. neither by Jerusalem 24. yea; nay
7. 25. twain 26. maketh his sun to rise 27. They have their reward 28. like unto...
8. 29. in earth 30. thine is the kingdom, and the power, and the glory, for ever 31. single 32. Consider the lilies of the field, how they grow
9. 33. again (= brack, in return) 34. ... whom if his son ask bread, will he give him a stone? 35. be (=are) 36. was come down
10. 37. the even 38. Himself took our infirmities, and bare our sicknesses. 39. where to lay his head 40. what manner of...
11. 41. the possessed of the devils 42. Whether is easier, to say, ...; or to say,... 43. even now 44. Jesus turned him about
12. 予備日

(後期)

1. 45. the dumb spake 46. for to come 47. before thy face 48. a greater than...
2. 49. how that... 50. like as... 51. some...other 52. Whosoever hath, to him shll be given
3. 53. is waxed 54. anon 55. the which 56. for Herodias' sake, his brother Philip's wife
4. 57. baskets full 58. of a truth 59. die the death 60. of none effect
5. 61. unwashen hands 62. saw the dumb to speak 63. Whom do men say that I the Son of man am? 64. what (=to what extent, in what way)
6. 65. sore afraid 66. if so be that... 67. as touching 68. if ye from your hearts forgive not every one his brother their trespasses
7. 69. hardly (=with difficulty) 70. therefore 71. in like wise 72. go work
8. 73. heavy burdens and grievous 74. be (=take place) 75. and if (=if) 76. partitive 'of'
9. 77. life eternal 78. Cognate Object 79. at the last 80. And he answered him to never a word
10. 簡樸性、具象性・比喻
11. 反復、併行体
12. 予備日

科目名	英語学文献研究 a・b (94年度以降)	担当者名	四 宮 満
-----	----------------------	------	-------

講義の目標	英語の表現について言語学的な視点（語用論、文体論を含めて）から理解を深めることを目的とする。		
講義概要	テキストを中心に進めながら、いろいろなジャンルの英文を読み、その文析をする。		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	テストとレポートによる		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. テキストの読みとそれについての講義</li> <li>2. テキストの読みとそれについての講義</li> <li>3. テキストの読みとそれについての講義</li> <li>4. テキストの読みと講義並び英文の分析</li> <li>5. テキストの読みと講義並び英文の分析</li> <li>6. テキストの読みと講義並び英文の分析</li> <li>7. テキストの読みと講義並び英文の分析</li> <li>8. テキストの読みと講義並び英文の分析</li> <li>9. テキストの読みと講義並び英文の分析</li> <li>10. テキストの読みと講義並び英文の分析</li> <li>11. テキストの読みと講義並び英文の分析</li> <li>12. テキストの読みと講義並び英文の分析</li> </ol> <p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. テキストの読みと講義並び英文の分析</li> <li>2. テキストの読みと講義並び英文の分析</li> <li>3. テキストの読みと講義並び英文の分析</li> <li>4. テキストの読みと講義並び英文の分析</li> <li>5. テキストの読みと講義並び英文の分析</li> <li>6. テキストの読みと講義並び英文の分析</li> <li>7. テキストの読みと講義並び英文の分析</li> <li>8. テキストの読みと講義並び英文の分析</li> <li>9. テキストの読みと講義並び英文の分析</li> <li>10. 全体的なまとめ</li> <li>11. 全体的なまとめ</li> <li>12. 全体的なまとめ</li> </ol>		

科目名	英米文学史 a (英) - 1 ・ b (英) - 1 (94年度以降) 英米文学史(93年度) イギリス文学概論 (92年度以前)	担当者名	(前期)佐藤 勉 (後期)富士川和男
-----	--	------	-----------------------

前期

講義の目標	この授業ではイギリス文学の歴史を Anglo-Saxon 時代から Shakespeare の時代までを概観するものである。そのために3つの目標を定める。イギリス文学の主たる作品の Reading Lists を作成する。秀れた文学作品がどんな風に作者の人生と思想を反映し、その時代精神とその国の歴史の理想を指し示しているかを学ぶ。イギリス文学がどのような形態を持ち、どのような思潮的發展を遂げてきているかなど批評的な解釈を試みる。		
講義概要	1) 時代ごとに簡潔な歴史的社会的状況を梗概しながらその時代の文学の特質との関連を述べる。2) 必須の文学用語 lists を参考に文学の読み方を学ぶ。3) 授業は指定したテキストにそって読み進める。4) 読み進めるページをあらかじめ指示するので、その予習をして授業に出席することが必要である。		
使用教材	テキスト	Ifor Evans : <i>A Short History of English Literature</i> (Penguin Bks., 1990)。¥1760。	
	参考文献	日本語による参考文献は各自見付けること。したがって英文のものを挙げる。William J. Long : <i>English Literature</i> (Ginn & Co., 1945). Stephen Coote : <i>The Penguin Short History of English Literature</i> (Penguin Bks., 1993). Andrew Sanders : <i>The Short Oxford History of English Literature</i> (O. U. P., 1994). Pat Rogers (ed) : <i>An Outline of English Literature</i> (O. U. P., 1992). Robert Bernars : <i>A Short History of English Literature</i> (Blackwell, 1994).	
評価方法	授業への出席と前期の筆記試験によるが、レポートの提出を求めることがある。		
受講者に対する要望など	文学に興味があり、作品を読むことに時間を惜しまない学生、および大学院に進学を希望する学生は是非受講して戴きたい。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第一章 Before the Conquest についての通読と講義。アングロサクソンから中世までを一気に終える予定である。第二章 English Poetry from Chaucer to Donne まで進む予定。Chaucer, Gower, Gawain-Poet, Romance などについて通読と講義。</li> <li>2. 前の授業の継続</li> <li>3. 第二章の続き。New Way in English Poetry : Wyatt, Surrey, Sidney, Spenser, Shakespeare を含む Elizabethan Poets までを扱う。第三章 English Poetry from Milton to Blake についての通読と講義。John Milton, Dryden, Alexander Pope まで。</li> <li>4. 前の授業の継続</li> <li>5. 第四章 The Romantic Poets についての詳細な内容を通読し講義する。主要な詩人たちの時代的思想や背景をその詩人たちとともに概観する。第四章の続き。Wordsworth, Coleridge, Lord Byron, P. B. Shelley、そしてロマン派のきら星、John Keats までを扱う。</li> <li>6. 第五章 English Poetry from Tennyson を通読し、そのポイントを講義する。Robert Browning, Matthew Arnold, Edward Fitzgerald など。第五章の続き。T. E. Eliot, Gerard Manley Hopkins, W. B. Yeats、まで。</li> <li>7. 前の授業の継続。</li> <li>8. 第六章 English Drama to Shakespeare を通読し、演劇の土台としての University Wits について講義する。第六章の続き。演劇の形態、Comedy, Tragedy の伝統——ギリシャにおけるドラマの本質、その主な作品の紹介をする。</li> <li>9. 前の授業の継続。</li> <li>10. 第七章 Shakespeare に入る。イギリスのルネッサンス時代的背景とその特質を説明する。Shakespeare の伝記を知る。第七章の続き。Shakespeare の作品に関する部分を通読するとともに、彼の歴史劇について主要なポイントを講義する。</li> <li>11. Shakespeare の作品の解題を続けて行う。特に彼の四大悲劇について、その主題を中心に解釈を試みる。</li> <li>12. 講義の補足と定期試験の準備、授業のまとめを行うと同時にノート整理の指導、その他今後の必要な研究指導を行う。</li> </ol>		

後 期

講義の目標	文学史とは何かを考えながら、「英米文学概論」で話した内容とは少し角度を変え、特に「作家と人生」の問題に焦点を置いて考えていく。	
講義概要	指定されたテキストに解説を加えながら講読する。後期は18世紀から始める。	
使用教材	テキスト	前期使用のテキストを継続
	参考文献	特に指定しない。相談があれば応じる。
評価方法	定期試験 1 回	
受講者に対する要望など	イギリス文学作品を、少なくとも 1 冊期間中に読むこと。	
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. テキスト56ページ～62ページ (ドライデン、ボウブ) 理性の時代</li> <li>2. テキスト62ページ～70ページ (ブレイクほか) 瞑想と幻想</li> <li>3. テキスト第10章 (デフォ、スイフト) リアリズム</li> <li>4. テキスト第11章 (リチャードソン、フィールディングほか) 内と外</li> <li>5. テキスト71ページ～83ページ (ワーズワース、コウルリッジ、スコット) 自然と超自然</li> <li>6. テキスト83ページ～95ページ (バイロン、シェリー、キーツ) 理想と現実</li> <li>7. テキスト235～8ページ (オースティン) 群像型小説</li> <li>8. テキスト第12章 I (ディケンズ、サッカレー、ブロンテ姉妹) 社会と個人</li> <li>9. テキスト第12章 II (ジョージ・エリオット、ハーディほか) 思想と時代</li> <li>10. テキスト第5章 I (テニソン、ブラウニング) 時代を生きる詩人</li> <li>11. テキスト第5章 II (ハーディ、イエイツ、T.S. エリオット) 叙情の冷却</li> <li>12. テキスト第12章 III (コンラッド、ウルフ、ジョイスほか) 不安の時代の小説</li> </ol>	

科目名	英米文学史 a(米)－2・b(米)－2(94年度以降) 英米文学史(93年度) アメリカ文学概論(92年度以前)	担当者名	秋山武夫
-----	--	------	------

講義の目標	植民地時代から現代にいたるまでの主要作家の代表作を概説し、その問題点を時代背景をふまえて講義し、アメリカ文学への展望を得てもらう。		
講義概要	アメリカ文学がヨーロッパ、イギリスの文学から独立して、アメリカ独自の文学を形成していく過程を作品に即して論じていく。西へ西へと進んだ開拓時代、フロンティアの消滅、資本主義の形成、奴隷制、南北戦争、自然主義、「失われた世代」などを背景として登場する作家について講義する。		
使用教材	テキスト	ジャック・カポー、寺門他訳『失われた大草原』(太陽社)	
	参考文献	『アメリカ文学を読む 30回』(太陽社)	
評価方法	試験、提出物		
受講者に対する要望など	講義した作品を数多く読んでほしい。		

年  
間  
授  
業  
計  
画

- (前期)
1. イントロダクションとしてアメリカ文学の特質を語る。作家は孤独で、社会の Outsider であった。
  2. アメリカ文学の中に厳然と存在している Puritanism (清教主義) を歴史的に語り、現代文学、文化との関係を概説する。D. H. Lawrence はアメリカ文学には「狂気」の血が流れていると言っている。
  3. Puritanism を体現している Anne Bradstreet と Edward Taylor の文学、及び Jonathan Edwards を語る。敬虔で素朴で、いかめしいアメリカの源泉を探りたい。現在のアメリカでは「神への回帰」が叫ばれている。
  4. 典型的なアメリカ人の原型と言われる Benjamin Franklin の *Autobiography* の特徴を考える。
  5. 心やさしいクェーカー教徒ジョン・ウールマンの日記と「アメリカ文学の父」と言われる Charles Brockden Brown について述べる。
  6. James Fenimore Cooper の「革脚絆物語」を概説し、アメリカ文化の原点となっている問題点を指摘する。
  7. Unitarianism の開祖となった W. E. Channing とその延長として生まれた Transcendentalism (超絶主義) の作家達 (R. W. Emerson, H. D. Thoreau) について講義する。
  8. アメリカ作家としてヨーロッパで高い評価を受け、アメリカ文学の問題点を提出していた Washington Irving の短編小説について語る。リップ・ヴァン・ウインクルってどんな人でしょう？
  9. 不幸な生涯を送ったにもかかわらず、不滅の天才と受容されている E. A. Poe の短編小説、詩論、詩について述べる。平均的なアメリカ人がどうして Poe を「病的な人」と言うのか考える。
  10. 大作家 Nathaniel Hawthorne の代表作『緋文字』と短編小説について述べて、彼の特質を語る。彼の言う「罪」とは？
  11. アメリカ最大の作家と言われる Herman Melville と「世界10大小説」の一つとされる『白鯨』について考える。
  12. リズムと活気に溢れた詩人 Walt Whitman の *Leaves of Grass* (『草の葉』) の特異性をさぐる。
- (後期)
1. マーク・トゥーンはアメリカを代表する国民作家であり、ユーモア作家と言われているが、そのユーモアとはいかなるものであったか。『ハックル・ベリイフィンの冒険』、『不思議な少年』等を中心に論じる。
  2. ヘンリー・ジェイムズは「師」と呼ばれ、小説技法を練りに練った巨匠であるが、その技法、テーマを語りたい。『ある婦の肖像』を中心に、中短篇をいくつかとりあげたい。
  3. エミリー・ディキンソンは生涯独身、後半生25年は家から出ず、自然と瞑想の生活を送り、1775の詩を残していた。「私の人生は二度閉じた、その終りが来る前に」などと歌う詩人です。
  4. 「大いなる貴婦人」と呼ばれたエディス・ウォートンを語ります。『無垢の時代』など最近ではよく論じられている。哀切をきわめる『イーサン・フロム』、『敏楽の家』のリリース・バートの可憐な姿を伝えたい。
  5. 現実主義文学を提唱したハウエルズズの『サイラス・ラバムの向上』を紹介し、彼の弟子でありながら反発したクレインとノリスの文学を比較する。若い作家が主張した自然主義とはどんな文学だったのかを考える。
  6. 1945年に死去した時、あまりに大きな穴が空いたと追悼されたドライサーの自然主義を述べる。世間知らずの少女が大女優となる『シスター・キャリイ』、深刻な問題作『アメリカの悲劇』をとりあげる。
  7. 手工業から大工業へ移り変る時期にとり残されていく人々を意識の流れと性を通して描いたアンダーソンの『ワインズバーグ・オハオ』とネブラスカの雄々しい開拓民や華麗な人々の変容を描くキャザーの小説を論述。
  8. 第一次大戦後の「ジャズ時代」を時代の化身のように生きたフィッツェラルドの『偉大なるギャッピー』を中心に、戦争で深い心の傷を受けた若者たちの幻滅を語る「失われた世代」の作家像を紹介する。
  9. 「歴史の建築家」と自称したドス・パソスの実験小説『USA』を詳説し彼が捕らえた20世紀前半のアメリカを調べてみたい。『三人の兵士』、『マンハッタン乗換駅』にもふれる。
  10. 『陽はまた昇る』、『武器よさらば』、『誰がために鐘は鳴る』、『老人と海』、『キリマンジャロの雪』など周知の作品を通してヘミングウェイの文学を味わってみたい。
  11. 徹底して南部を描いたフォークナーを『響きと怒り』、『八月の光』等の長編小説、『黒衣の道化師』、『ウォッシュ』、『くまつづらの香り』等にふれつつ、論じる。
  12. 『怒りのぶどう』によってスタインベックの本質を探ったのち、1960年のはじめに愛犬のブードル「チャーリー」と共にトラック「ロジナンテ」でアメリカ一周をした旅行記『チャーリーとの旅』の特異性を述べたい。



科目名	英米の小説 a-1・b-1 (94年度以降) 英米の小説 (93年度) イギリス文学各論 (小説) (92年度以前)	担当者名	北澤 滋久
-----	--	------	-------

講義の目標	<p>—モダニズム小説論—</p> <p>破綻の目に見えてきた現代物質文明下に生きることの意義を、時代を先駆けた仕事をなして新時代の風土を築いた作家たちの作品と思想のなかに観てゆきたい。20世紀末のいま、今世紀の主潮は那邊に在ったのか、その片鱗を文学に窺うことによって、受講者の人生の指標にいくばくか役立つところがあればと願っている。</p>	
講義概要	<p>モダニズムとはもともと曖昧広義の呼称であるが、ここでは、栄華を誇った西欧の近代文明によりやく亀裂が生じ、そこより新たなものが生まれ出でようとする過渡期の風潮、と一応定義する。また時期としては1910年代をピークとして、絵画、演劇、文学はいうに及ばず、風俗を含めた文化全域にわたる事柄でもあろうが、本講義では英語圏の文学、主としてイギリスの小説のなかのモダニズムを、その先駆的作家たちより始めて、後期においてはそれを J. ジョイス、D. H. ロレンスに収斂させてやや詳細に分析してゆこうと考えている。</p>	
使用教材	テキスト	<p>テキストは特に定めない。諸家の参考文献はその都度紹介するが、担当者執筆の Lawrence と Joyce に関する主要文献のみを、本講義選択の参考までに列記しておく。</p>
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『D・H. ロレンス：その文学と人生』（墨水書房）</li> <li>・「ロレンス、雪月花」（『獨協大学創立二十周年記念論文集』）</li> <li>・「ロレンス、再生の構図」（『獨協大学英语研究 創立三十周年記念号』）</li> <li>・『ジョイスからジョイスへ』（東京堂出版、共著）</li> <li>・『ジャコモ・ジョイス』（下井草書房、翻訳・註）</li> <li>・「話法から意識の流れへ」（『獨協大学外国語教育研究 創刊号』）他</li> </ul>
評価方法	<p>夏休み直後と1月提出の小論文において評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>講義科目であるから講師の論述が主体となるが、受講者の積極的な質問を歓迎して、理解しやすいように極力努めるつもりでいる。</p>	

(前期)

1. はじめに

I モダニズム前夜

2. William Blake のまなざし

3. Edgar Allan Poe の芸術観

4. Edgar Allan Poe の小説

II モダニズムの曙1：イギリスにおける芸術至上主義

5. Walter Pater のまなざし

6. Oscar Wilde の耽美主義

7. Oscar Wilde の小説

III モダニズムの土壌

8. Darwin, Nietzsche, Frazer, Freud の仕事

IV モダニズムの曙2：モダニズムを導いた作家たち

9. Henry James, THE TURN OF THE SCREW をめぐって

10. Joseph Conrad, HEART OF DARKNESS をめぐって

11. Virginia Woolf のまなざし

12. 前期の総括、質疑応答

V James Joyce の文学

(後期)

1. DUBLINERS をめぐって

2. A PORTRAIT OF THE ARTIST AS A YOUNG MAN をめぐって

3. GIACOMO JOYCE をめぐって

4. ULYSSES をめぐって

5. FINNEGANS WAKE をめぐって

VI D. H. Lawrence の文学

6. SONS AND LOVERS をめぐって

7. THE RAINBOW をめぐって

8. WOMEN IN LOVE をめぐって

9. THE LADYBIRD をめぐって

10. THE MAN WHO DIED をめぐって

11. LADY CHATTERLEY'S LOVETR をめぐって

12. 後期の総括、質疑応答

科 目 名	英米の小説 a-2・b-2 (94年度以降) 英米の小説 (93年度) イギリス文学各論 (小説) (92年度以前)	担当者名	吉 元 清 彦
-------	--	------	---------

講 義 の 目 標	われわれは今日、文学をどう捉え（考え）ているのか、もしくはどう捉えようとしているのか？ 現代アメリカの作家たちはその作品を通して、つまり「言葉」による表現芸術としての「作品」によって、いかなる「世界（時代・人間）像」を提示しようとしているのか、いかなる問題を提起しようとしているのか、について考える。	
講 義 概 要	第二次世界大戦後以降のアメリカ文学の状況を、主として「小説」を中心に重要な作家たちの思想風土にも言及しながら概観し、作品が語りかけてくるものについて考えてゆきたい。 後半は J. D. Salinger の作品を取りあげ、考察・検討を加えてゆく予定。（尚、毎授業の冒頭に著名な作家たちの作品のテープを聴いて楽しむことにしよう。）	
使 用 教 材	テキスト	授業開始日に、参考文献等と一緒に紹介する予定。
	参 考 文 献	同上。
評 価 方 法	前期はレポート提出、後期は筆記試験を実施し、この両者の成績を総合して評価を出す予定。	
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	とにかく、いろいろ、たくさん、読んでもらうしかない、のでは。	

(前期)

1. 授業内容・方針の案内・説明。
2. 序 文学をどう捉える(考える)か  
テープ: Washington Irving: Rip Van Winkle)
3. 同上  
(テープ: Nathaniel Hawthorne: Young Good Man Brown)
4. 同上  
(テープ: Edgar Allan Poe: The Tell-Tale Heart)
5. 本論 1. 2、30年代の作家たち  
(テープ: Frank Stockton: The Lady of The Tiger ?)
6. 2. Survival という強迫観念——現代アメリカ作家の思想風土  
(テープ: M. Twain: The Notorious Jumping Frog of Calaveras County)
7. 同上  
(テープ: Mark Twain: What Stumped the Blue Jays ?)
8. 同上  
(テープ: Bret Hart: The Outcasts of Poker Flat)
9. 3. 4、50年代以降のアメリカの作家たち  
(テープ: Ambrose Bierce: An Occurrence at Owl Creek Bridge)
10. 4. ニダヤ系アメリカの作家たち  
(テープ: Hamlin Garland: The Return of a Private)
11. 5. 黒人作家たち  
(テープ: O. Henry: The Gift of the Magi: The Furnished Room)
12. 6. 文学批評について  
(テープ: Stephen Crane: An Episode of War)

(後期)

1. 5. J. D. Salinger の作品 (*Nine Stories* より)  
(テープ: Jack London: To Build a Fire [beginning])
2. 5の1. "A Perfect Day for Bananafish" を読む  
(テープ: Jack London: To Build a Fire [concluded])
3. 同上  
(テープ: Sherwood Anderson: Unlighted Lamps)
4. 5の2. "Uncle Wiggily in Connecticut" を読む  
(テープ: Ring Lardner: Haircut)
5. 同上  
(テープ: Robert Benchley: The Treasurer's Report)
6. 5の3. "Just Before the War with the Eskimos" を読む  
(テープ: James Thurber: Interview with a Lemnig)
7. 同上  
(テープ: Ernest Hemingway: Indian Camp)
8. 5の4. "For Esm(-with Love and Squalor)" を読む  
(テープ: Ernest Hemingway: The End of Something)
9. 同上  
(テープ: Ernest Hemingway: The Killers)
10. 同上  
(テープ: William Faulkner: A Rose for Emily)
11. 6. まとめ(次への一歩のために)  
(テープ: John Updike: A & P)
12. 同上  
(テープ: Request のあったもの)

科目名	英米の詩 a・b (94年度以降) 英米の詩 (93年度) 英米文学特殊講義 (英米の詩) (92年度以前)	担当者名	(前期)白鳥正孝 (後期)原 成吉
-----	--	------	----------------------

前期

講義の目標	ワーズワス (W. Wordsworth 1770-1850) の「水仙」などの易しい英詩を導入にして、基本的な英詩を分析し、味わう力を養うと共に、やゝ古い英詩についても鑑賞し得る能力を身につけることを目的とする。扱う題材はすべてイギリス詩である。		
講義概要	初めは、導入として、詩形や易しい詩、特にマザーグースについて講ずる。ついで現代詩を垣間見た後、ロマン派に焦点を当てる。そして最後にグレイ、ミルトン、シェイクスピアの代表的な詩について管見する。なるべくカセットテープ、video などの視聴覚教材を利用する。		
使用教材	テキスト	プリント	
	参考文献	教室でそのつど指示する。	
評価方法	テストを課す (詳細は教室にて指示する)。他に数回の video はリスニング・テストを兼ね、平常点として組入れる。		
受講者に対する要望など	受身でなく、自ら参加する気持で臨んでほしい。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 〈詩形について〉 英詩を学ぶ場合には、ある程度詩形について学んでおいた方が理解しやすい。但し (外国人には最も難しい分野であって)、それ自体脇役でもあり、深入りは禁物。</li> <li>2. 〈マザーグース〉 I. いわゆる伝承童謡について学ぶ。英国の人々が幼児の頃から親しみ、肌に染み込み、聖書やギリシャ神話同様バックボーンの一つとなっていると言われる。</li> <li>3. 〈マザーグース〉 II. 続きを読んだ後、video 鑑賞、メロディーやジェスチャーがこれによって一目瞭然となり、且つ、ビデオ自体夢のある美しい映像である。</li> <li>4. 〈現代英詩アラカルト〉 S. Sassoon (1886-1967)、P. Larkin (1922-1985)、E. Jennings (1926-)、T. Hughes (1930-)、Seamus Heaney (1939-) 等の小品を各一篇づつ読む。</li> <li>5. 〈ロマン派の曙〉 W. Blake (1757-1827) の小品を読んだ後、小伝と朗読を video で学ぶ (字幕なし、以下同じ)。</li> <li>6. 〈ロマン派の詩〉 I. ワーズワスの代表的な小品を幾つか読み、小伝と朗読を video で学ぶ。</li> <li>7. 〈ロマン派の詩〉 II. S. T. Coleridge (1772-1834) と G. G. Byron (1788-1824) の小品を読む。</li> <li>8. 〈ロマン派の詩〉 III. P. B. Shelley (1792-1822)、J. Keats (1795-1821) の小品を読む。</li> <li>9. 〈ロマン派の詩〉 総括. ロマン派の詩人群像を 2 本の video (各30分) で学ぶ。 (それぞれ先立って簡潔な解説をする)</li> <li>10. 〈古典詩〉 I. Thomas Gray (1716-1771) の代表的な詩、"Elegy Written in a Country Churchyard" (1751) を中心に講ずる。</li> <li>11. 〈古典詩〉 II. J. Milton (1608-1674) の『失樂園』(Paradise Lost 1667) のさわり、ソネット 23 番について講じた後、video 鑑賞</li> <li>12. 〈古典詩〉 III. W. Shakespeare (1564-1616) の詩を主に劇中に挿入された歌やソネットなどを中心に若干読んだ後、video 鑑賞</li> </ol>		

後 期

講義の目標	まず第一に詩を楽しむこと。言葉の世界を通して、アメリカの文化とその時代精神を理解し、異文化という鏡をとおして「いまのわたしたち」を考える。	
講義概要	アメリカ先住民の口承詩、ロック・ミュージックのリリックス、モダニストの作品、そして同時代の詩人たちの作品を紹介する。文学史的なアプローチではなく、“here and now”の視点から論じる。	
使用教材	テキスト	Geoffrey Moore ed., <i>The Penguin Book of American Verse</i> (Penguin Books, 1989)
	参考文献	Jay Parini (ed.), <i>The Columbia History of American Poetry</i> (New York: Columbia University Press, 1993) 亀井俊介・川本嗣 編『アメリカ名詩選』(岩波文庫)
評価方法	授業への参加度とレポート（ワープロで4,000字程度の作品論、または詩人論）で決める。	
受講者に対する要望など	前期イギリス詩と比較しながらアメリカ詩の特徴を探ってほしい。その週に取り上げる作品と「対話」してから、授業に参加してほしい。	
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アメリカの大地の歌—— Native American のうたをきく。</li> <li>2. Rock Music の Lyrics を読む—— Bob Dylan と Paul Simon のアメリカ</li> <li>3. デモクラシーを歌う『草の葉』の詩人—— Walt Whitman がみたアメリカのヴィジョン</li> <li>4. ミクロコスモスのなかのマクロコスモス——女性詩人 Emily Dickinson の世界</li> <li>5. モダニズムの起源を探る——(1) Ezra Pound がみた東洋</li> <li>6. 詩に描かれた現代人の苦悩—— T. S. Eliot の “The Love Song of J. Alfred Prufrok” を読む</li> <li>7. “Here &amp; Now” の詩の世界—— William Carlos Williams のみたアメリカ美学</li> <li>8. 小文字の「私」がつくる “typography” の詩—— e. e. cummings の詩の「意味」</li> <li>9. Postmodern の詩 (1)—— Allen Ginsberg の作品</li> <li>10. Postmodern の詩 (2)—— Gary Snyder の作品</li> <li>11. Postmodern の詩 (3)—— Sylvia Plath の作品</li> <li>12. Postmodern の詩 (4)—— Robert Creeley の作品</li> </ol>	

科目名	英米の演劇 a・b (94年度以降) 英米の戯曲 (93年度) イギリス文学各論 (戯曲) (92年度以前)	担当者名	(前期)長谷部加寿子 (後期)児嶋 一男
-----	--	------	-------------------------

前期

講義の目標	シェイクスピア劇作品を中心に、イギリス・ルネッサンスの演劇風土と思想を考える。更に各時代がシェイクスピアを如何に受容してきたかを考察する。役者、舞台、演出の変容等を探求した後、現代のシェイクスピア劇を研究する。		
講義概要	イギリス・ルネッサンスの時代精神と演劇風土を概観した後、シェイクスピアの劇作品に焦点を合わせる。歴史劇、喜劇、悲劇、問題劇、ロマンス劇の中の代表的な作品を取り上げる。役者や舞台、演出の変遷等を含めた演劇史や批評史、現代のシェイクスピア劇、特に東京での舞台などにも言及する。		
使用教材	テキスト	長谷部加寿子『シェイクスピアに於る人間群像』高文堂出版社	
	参考文献	授業中に話す。	
評価方法	年一回の筆記試験と観劇レポートが課せられる。		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. エリザベス朝時代の宇宙観と人間観との関係、及び劇の発生から中世劇（神秘劇、奇蹟劇、道徳劇、仮面劇）について述べる。テキストの中の別表でシェイクスピアと同時代劇作家達の作品を概観する。</li> <li>2. この時代の劇作品の一覧（プリント）、シェイクスピア劇作品を4期に分け各時期の演劇的展開及び特徴を具体的に考察する。歴史劇全体の概観とテーマの解説・特徴などについて述べる。</li> <li>3. 歴史劇の第1の4部作、「ヘンリー6世」1部・2部・3部、及び「リチャード3世」を具体的なせりふを通じて見ていく。「リチャード3世」の上演、批評の変遷、及び現代の名優達の演技等についても言及する。</li> <li>4. 第2の4部作「リチャード2世」「ヘンリー4世」1部2部及び「ヘンリー5世」について述べる。喜劇全体の概観とテーマの解説、特徴などについて述べる。</li> <li>5. 「間違いの喜劇」「じゃじゃ馬ならし」「真夏の夜の夢」「ヴェニス商人」について述べる。見間違いや思い違いによる喜劇的要素、劇構造のテクニク、演出の変遷等について述べる。</li> <li>6. 「お気に召すまま」「十二夜」について述べる。変装を伴ってダイナミックな劇展開をするなかで、円熟した喜劇の様相を見せている事を考察する。</li> <li>7. 悲劇全体の概観とテーマの解説、特徴などについて述べる。「ロミオとジュリエット」「ハムレット」について述べる。「ハムレット」解釈の歴史、演出の変遷、実際の舞台や映画などについても言及する。</li> <li>8. 「オセロー」について述べる。イアゴの解釈の変化や名優達の演技についても触れる。</li> <li>9. 「マクベス」について述べる。舞台や映画の「マクベス」や、精神分析的症候の好例として研究されるマクベス夫人の夢遊病についても考察する。</li> <li>10. 「リヤ王」について述べる。リヤの苦悩は、当時の自然観、人間観を表現すると同時に、時代を超えた人間の深い悲しみを映し出している。</li> <li>11. ローマ史劇、問題劇、暗い喜劇と呼ばれる作品群について述べ、次にロマンス劇全体の概観とテーマの解説、特徴などについて述べる。「冬物語」「嵐」について述べる。</li> <li>12. シェイクスピア劇全体を展望し、各時代がどのような受容と変遷を経て来たかを考察する。現代にとってシェイクスピアとは何かという問題を、私の立場から考察する。</li> </ol>		

後 期

講義の目標	現代を代表する英米の劇作家の作品を読みながら、芝居は楽しいライブ・パフォーマンスであることをまず認識する。続いて、現代英米文化について、特に英米の時代風潮がどういうふうにより現代演劇に示されているかについて考える。	
講義概要	現代のロンドンとニューヨークの演劇事情を概観した後、現代英米の劇作家を取り上げ、主な劇作品を読んでいく。そのほかに、東京で上演される現代演劇について随時考える。本読みもしくは立ち稽古の有志を受講生から募り、舞台の雰囲気鑑賞できるようにする。	
使用教材	テキスト	プリント
	参考文献	児嶋一男ほか：『現代英米の劇作家たち』英潮社。 その他は授業中に言及する。
評価方法	定期試験期間中の筆記試験と観劇レポート。	
受講者に対する要望など	プリントの英文を全部読むこと。実際の作品を読むこと。なるべく舞台公演を見ること。	
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 切符の入手から観劇までを概説した後、ロンドンとニューヨークの現代演劇事情を概観。 ミュージカル作品 <i>Cats</i> と <i>Les Miserables</i> の一部を読む。</li> <li>2. Samuel Beckett (1906—1989) : <i>Waiting for Godot</i> 『ゴドーを待ちながら』(1952)</li> <li>3. John Osborne (1929—95) : <i>Look Back in Anger</i> 『怒りをこめてふり返れ』(1956)</li> <li>4. Tom Stoppard (1937— ) : <i>Rosencrantz and Guildenstern are Dead</i> 『ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ』(1966)</li> <li>5. Michael Frayn (1938— ) : <i>Noises Off</i> 『舞台裏の騒ぎ』(1982)</li> <li>6. Brian Friel (1929— ) : <i>Dancing at Lughnasa</i> 『ルーナサの踊り』(1990)</li> <li>7. Thornton Wilder (1898—1975) : <i>Our Town</i> (1938) 『わが町』</li> <li>8. Tennessee Williams (1911—83) : <i>The Glass Menagerie</i> 『ガラスの動物園』(1945)</li> <li>9. Arthur Miller (1915— ) : <i>Death of a Salesman</i> 『セールスマンの死』(1949)</li> <li>10. Eugene O'Neill (1864—1953) : <i>Long Day's Journey into Night</i> 『夜への長い旅路』(1956)</li> <li>11. Sam Shepard (1943— ) : <i>Buried Child</i> 『埋められた子供』(1978)</li> <li>12. Neil Simon (1927— ) : <i>Brighton Beach Memoirs</i> 『ブライトン・ビーチの思い出』(1984)</li> </ol>	



科目名	英米文学文献研究 a・b (94年度以降)	担当者名	富士川 和 男
-----	-----------------------	------	---------

講義の目標	キャサリン・マンズフィールドの短篇小説を精読し、小説の読み方について考える。		
講義概要	テキストを読みながら、文章の解釈をはじめすべての点で、わからないことに出会った場合、どのように解決すべきか、さらにどのようにして作品批評の手がかりを見つけるかについて考える。		
使用教材	テキスト	Katherine Mansfield: <i>Her First Ball and Other Stories</i> (英宝社)	
	参考文献	テキストに収録されている以外の彼女の小説	
評価方法	前後期各1回の試験		
受講者に対する要望など	文学鑑賞の楽しさを知りたいと思うこと。		
年間授業計画	<p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. (テキストの進み方に応じて、各授業で問題を提起していく。)</li> <li>2.</li> <li>3.</li> <li>4.</li> <li>5.</li> <li>6.</li> <li>7.</li> <li>8.</li> <li>9.</li> <li>10.</li> <li>11.</li> <li>12.</li> </ol> <p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. (テキストの進み方に応じて、各授業で問題を提起していく。)</li> <li>2.</li> <li>3.</li> <li>4.</li> <li>5.</li> <li>6.</li> <li>7.</li> <li>8.</li> <li>9.</li> <li>10.</li> <li>11.</li> <li>12.</li> </ol>		

科目名	英米の社会と思想 a・b (94年度以降) 英米の社会と思想 (93年度) 英米の哲学 (92年度以前)	担当者名	萩 間 寅 男
講義の目標	ジェントルマンとアマチュア主義により代表される宗教改革・科学革命・市民革命・産業革命・消費革命と近代西欧を精神・物質世界の両面において先導してきたアングロ・サクソン思想の特質を、その起源から歴史的に展望することにより、英米における分ち難く結びついた社会と思想との一層の理解をはかるとともに、そこに潜む古典への憧憬の根底を検討したい。		
講義概要			
使用教材	テキスト	使用せず。ただし、資料をプリントし配布する。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウイリー『十八世紀の自然思想』みすず書房</li> <li>・マッキンタイア『美徳なき時代』みすず書房</li> <li>・マッキンタイア『西洋倫理思想史』上・下 九大出版会</li> <li>・ブルーム『アメリカン・マインドの終焉』みすず書房</li> <li>・マクファーレン『イギリス個人主義主義の起源』リポポート</li> <li>・吉田健一『英国に就て』ちくま文庫</li> <li>・吉田健一『英国の文学』岩波文庫</li> </ul>	
評価方法	<p>学期末の指定した文献についてのレポートを基本とするが、学期中に数点の小レポートを課し、読解・論理、構成力の増進をはかる。</p> <p>自分の考えを論理的かつ説得的に示すレポート、すなわち、よくアーギュメントされたレポートを優とする。</p>		
受講者に対する要望など	毎回英文資料を配布するゆえ、積極的に、問題意識をもって参加して欲しい。		

年 間 授 業 計 画	(前期)
	1. 英米思想と西欧精神
	2. 先住民とローマ人
	3. アングロ・サクソン人の来島
	4. キリスト教の渡来と普及
	5. ノルマン人の王朝
	6. ルネッサンスと宗教改革
	7. イギリス宗教改革——中道の教会へ
	8. エリザベス朝文化
	9. フランシス・ベーコンと科学革命
	10. トマス・ホッブス
	11. ジョン・ロック
	12. まとめ
	(後期)
	1. ニュートンと王立協会
	2. ヒュームとスミス
	3. 産業革命と功利主義
	4. 18-9世紀の宗教運動
	5. 初期社会主義・進化論・パブリック・スクール
	6. 唯美主義とブルームズベリ・グループ
	7. 世紀末——アイルランドと南アフリカ
	8. 大衆社会と分析哲学
	9. トクヴィルとデモクラシーの逆説
	10. プラグマティズムと工業文明の勃興
11. 亡命知識人	
12. まとめ	

科目名	英米の政治と経済 a・b (94年度以降) 英米の政治と経済 (93年度) 英米の経済 (92年度以前)	担当者名	宮川 淑
-----	--	------	------

講義の目標	講義のタイトルは「英米の政治と経済」、ないし「英米の経済」であるが、本講では、近代化の始まる「16世紀から現代までのイギリスの政治と経済」を扱う。	
講義概要	1、近代化の始期（中央集権国家体制へ、市場経済の時代へ）、2、市民革命の時代（国家主権をめぐる内乱、資本主義経済へ）、3、市民社会（ホッブズ・ロックの市民社会論、スミス経済学、アメリカ植民地の独立）、4、産業革命当時の政治と経済（民衆の生活状態、政治改革）、5、労働党政権の時代（産業国有化と福祉国家の展開、イギリス病へ）、6、サッチャー政権以後の順に講義する。	
使用教材	テキスト	特定のテキストは使用せず、授業のつど資料を配布する。
	参考文献	世界歴史体系『イギリス史』2、3、(山川出版社) 中村英勝『イギリス議会史』(有斐閣) 宮川淑『西洋経済史』(法学書院) 宮川淑『レヴェラーズ』(エ・デュース) 小笠原欣幸『衰退国家の政治経済学』(勁草書房)
評価方法	前・後期の2度の定期試験に平常の出席状況を加味して評価する。	
受講者に対する要望など		

(前期)

1. 今日までのイギリスは、数度の転換期を経ている。最初にその全過程の概略を説明する。
2. 第1章 近代化の始期、ジェントルマンの台頭、英国国教会の成立、チューダー朝までの議会などを扱い、中央集権国家体制の成立について。
3. 第2週の後半部分を扱う。
4. 重商主義について、16、17、18世紀の貿易中心の重金主義、貿易差額主義、産業保護主義の3段階の説明。
5. エンクロウジャーについて、その意義、進展状況、世論の反応等。次週へ継続する。
6. 先週からの継続で、エンクロウジャーに対する農民の対応、政府のエンクロウジャー対策について。
7. 近代化過程のうち工業部門の説明に入る。具体的にはイギリスの国民産業となる毛織物工業の成立過程と政府の統制政策について説明する。
8. マニユファクチャー（工場制手工業）の特徴と16～17世紀当時のイギリス経済全般について。
9. 第2章 市民革命の時代。国家主権をめぐる内乱、前期スチュアート朝と議会。
10. 政体論争—混合王制か議会主権かの論争、インディペンデントとレヴェラーズの選挙権論争について。
11. 市民革命期の経済問題を扱う。私有財産制の成立、営業の自由の原則成立等。
12. 先週からの継続。

(後期)

1. 第3章 市民社会。トマス・ホッブズ、ジョン・ロックの市民社会論について説明する。
2. アダム・スミスの経済学の解説。
3. イギリス領アメリカ植民地の独立が、本国イギリスにとってもつ政治的・経済的意味を考える。
4. イギリス議会の改革とエドモンド・バークの政治思想について。
5. 第4章 産業革命当時の経済と政治。民衆の生活状態、労働者階級の対応等。
6. 労働組合の成立、工場法による労働者保護等の説明。
7. 政治改革としてのチャーティスト運動、女性参政権要求運動、小選挙区制と政治腐敗防止法の成立等。
8. 先週からの継続。
9. 第5章 労働党政権の時代。産業国有化と福祉国家政策の展開、イギリス病の分析。
10. 第6章 サッチャー政権以後。第一期（1979～83）の説明。サッチャー政権第二期（1983～87）の説明。
11. サッチャー政権第三期（1987～90）および現在のメイジャー政権について。
12. 1997年総選挙による労働党政権の成立。

科目名	英米の歴史 a・b (94年度以降) 英米の歴史 (93年度以前)	担当者名	佐藤唯行
-----	--------------------------------------	------	------

講義の目標	<p>(前期) ユダヤ人と英国社会との最初の出会いから現代に至る英国史の文脈の中で、英国人との共生を目指し続けたユダヤ人の歩みを迎える。彼等ユダヤ人の足跡に光を照射する事により、これまでの英国史研究(多数派英国人側に視点を置いた英国史研究)の中では、見落とされてきた英国社会の新たな特質を解明する。(後期) 植民地時代から現代にいたるアメリカ合衆国史を通史的に展望する。政治史・経済史のみならず、女性史、社会史の研究成果をもとり入れて講義を行なう。</p>		
講義概要	<p>前期のテーマは、「ユダヤ人問題の視点からイギリス史を見なおす。」 前期は下記「テキスト」にそって授業を行なう。後期は毎回、完全に文章化されたレジメを配付予定。</p>		
使用教材	テキスト	『英国ユダヤ人』 佐藤唯行 (1995年4月刊行) 講談社選書 1500円	
	参考文献		
評価方法	<p>評価は前後期各1回の筆記試験によって決定する。出席はとりません。試験は自筆ノート、テキストのみ持ち込み可。 試験は全てのものを持ち込むことが可能です。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 授 業 計 画	<p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. (儀式殺人告発の神話) キリスト教ヨーロッパ世界最古の儀式殺人告発である1144年のノーリッジで発生した「聖ウイリアムの殉教」を検証し、中世英国ユダヤ人史を研究する意味を確認する。</li> <li>2. (中世英国のユダヤ人社会) ノルマン征服後、英国に成立したユダヤ人社会の特質を同時代の大陸との比較の中で明らかにする。当時の反ユダヤ主義的筆致の絵画史料も解説する。</li> <li>3. (ユダヤ人と非ユダヤ人の関係史) 中世英国の主要な社会集団である諸侯・騎士、教会、都市とユダヤ人との個別の関係を探る。</li> <li>4. (ユダヤ人金融の潜在的機能) 中世英国ユダヤ人の最大の経済活動である金融業が英国封建王政の基盤を切り崩す機能を果たしてきた事を史料的に解明し、1290年に行なわれたユダヤ人追放の歴史的意義を探る。</li> <li>5. (英国ユダヤ人史の中間時代) 1290年の全面的ユダヤ人追放から1656年に再入国が許される迄の366年間、法的に入国を許されていなかったはずのユダヤ人の足跡を追い、「隠れユダヤ教徒」という特異な存在の姿を解明する。</li> <li>6. (千年王国思想とユダヤ人再入国) ピューリタン内部のセクト、独立派、第五王国派の中心的思想であった千年王国思想が Cromwell 政権下の1656年に「ユダヤ人再入国」を実現する上で果たした役割を検証する。</li> <li>7. (17世紀英国のユダヤ人社会) 17世紀後半から始まる経済史上の所謂「商業革命」の展開過程の中で、ユダヤ人商業資本が英国の外国貿易全体の中で如何なる位置を占めたのか、また彼等の法的地位の国際比較も行なう。</li> <li>8. (18世紀英国のユダヤ人社会) 上層、中流上層のユダヤ人の中で18世紀後半に顕著に進展した英国人地主貴族社会への同化現象を検討し、当時のヨーロッパで比類の無い開放性を示した近代英国地主貴族社会の特質を解明。</li> <li>9. (19世紀英国のユダヤ人社会) ドイツ系ユダヤ人移民の大量流入によって18世紀末から19世紀初めにかけて首都ロンドンで深刻化した貧民問題の打開をめざした移民独自の主体的とりくみについて明らかにする。</li> <li>10. (世紀転換期のユダヤ人社会) 1880年代から始まる推定30万人もの貧しい東欧系ユダヤ人移民の英国流入という未曾有の危機の中で発生した移民排斥論、反ユダヤ暴動のメカニズムを解明。</li> <li>11. (20世紀前半のユダヤ人社会) 両大戦間期の英国で反ユダヤ主義を標榜した黒シャツ団などの英国ファシスト勢力との緊張関係、ナチス政権下からの亡命ユダヤ人の受け入れ政策(特にキンダー・トランスポート)を解明。</li> <li>12. (現代英国のユダヤ人社会) ヨーロッパで三番目に大きなユダヤ人社会に成長した現代英国ユダヤ人社会が抱える今日的諸問題について検討する。</li> </ol> <p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. アメリカ史の特質として、封建制の欠如、広大な自由地の存在、セクションの多様性、移民が果たした役割について概説する。</li> <li>2. イギリス領北米植民地の建設から、本国イギリスに対する植民地勢力の反抗の背景、黒人奴隷制度の確立について考える。</li> <li>3. アメリカ独立革命の経過、世界史的意義、奴隷制とのかかわりについて考える。</li> <li>4. ジェファソン政権の内政と外交、1812年戦争の歴史的意義、コモンマンの台頭と政治の民主化に象徴される「ジャクソニアン・デモクラシー」について考える。</li> <li>5. 1840年代から始まる合衆国の領土的膨張と南部セクションナリズムの台頭について考える。工場制度の出現、労働者階級の成立、労働運動の始まりについても学ぶ。</li> <li>6. 奴隷制廃止運動と南北戦争について学ぶ。</li> <li>7. 南北戦争終了後から19世紀末にいたる、アメリカ社会史上、「金ピカ時代」とよばれる物質主義と金権政治が横行した時代の特徴を学ぶ。</li> <li>8. フロンティアの消滅、メガロポリスの形成、革新主義運動の特徴、第一次大戦へのアメリカ参戦について考える。</li> <li>9. 1920年代の「繁栄」の中で展開した農村的アメリカと都会的アメリカのせめぎあいについて考える。大恐慌の到来とニューディール政策の成果と遺産について学ぶ。</li> <li>10. 第二次大戦の勃発とアメリカの参戦、大戦下の国内状況、戦時外交の展開について考える。朝鮮戦争と国内の冷戦である「赤狩り」についても検討する。</li> <li>11. 1950年代の経済成長の結果出現した「豊かな社会」とベビーブームについて考える。ベトナム戦争と公民権闘争についても学ぶ。</li> <li>12. 石油危機とアメリカ製造業の衰退、ウォーターゲート事件による「帝王的大統領制」の終末、マイノリティ・グループの地位向上を求める動向について述べる。</li> </ol>
----------------------------	--

科目名	英米事情 a-1・b-1 (94年度以降) 英米事情 (93年度以前)	担当者名	(前期)E. Carney (後期)M. A. Schible
-----	--	------	------------------------------------

前期

講義の目標	These lectures aim to provide as much cultural background reference material as possible. Part of the aim will be to link post and present and to define the relative connections.		
講義概要	History, religion, geographical and climatic factors are some of the subjects that will begin this course. We will then go on to look at education, language, the legacy of Empire, sport, humour, and the world of modern youth ; drugs and unemployment.		
使用教材	テキスト	Some prints and Reading Lists.	
	参考文献	Dependent upon class size, we may use some very "good-quality" cartoons to illustrate the material. As most of these cartoons are "difficult," students should realize that they are required work for testing.	
評価方法	This is an 'open' lecture course Final test in official exam period.		

受講者に対する要望など

年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introductory lecture to explain procedures and scheduling. A list of books and recommended reading will be given.</li> <li>2. Geographical coverage of the British Isles. Weather and its related effects on life and character. Plant and animal life... comparisons with Japan.</li> <li>3. Historical outlines from early Britain to Norman Conquest. Racial mixings and the movements of ethnic groups. Romans, Vikings, Saxons, and the French.</li> <li>4. The Middle Ages and the beginnings of religious change. The knight, the gentleman, and the highwayman. Empire and the legacies ; fame and notoriety.</li> <li>5. Education and the legacy of a class culture. The new system and the old in conflict. Success and failure of the comprehensive schools. Snobbery.</li> <li>6. Language and dialect. The power of Cockney dialect in song and humour. The sustaining of dialect in spite of the mass media influence. Standard English?</li> <li>7. Humour and the British character. Making all life's problems a focus for laughter and how this is done. The media's use of humour as a counterbalance.</li> <li>8. The law and its workings. British law courts and the summons. The use of the jury system. Some comparison with the American system.</li> <li>9. Religion today. The failure of churches to survive. The success of some religious groups using "Billy Graham" methods. Superstition and modern thought.</li> <li>10. Daily life, leisure, sport and entertainment. The British on holiday at home and abroad. The hotel and the take-over power of the syndicates.</li> <li>11. Youth and the trends in music and the drug culture. The ghettos and the problems of police control. Options for work and school.</li> <li>12. Final coverage of the modern scene ; property, decline. Final testing preparation and execution.</li> </ol>
--------	--



後 期

講義の目標	The focus of the course is to survey the cultural, political and artistic heritage of the United States. The lectures are designed to give the students a deeper insight into the culture and an opportunity to improve their listening and note-taking skills in English.	
講義概要	Lectures will cover the social, political and intellectual history of the United States, including their roots in Europe, the Middle East, the Africa and Asia. We will also look at the contributions of the many ethnic groups to the language, fine arts and the popular culture of not only America but the world.	
使用教材	テキスト	Prints and a reading list supplied by instructor.
	参考文献	Students should have and bring to class a good paperback edition of a dictionary designed for native adults such as <i>The Merriam Webster Dictionary</i> , <i>The American Heritage College Dictionary</i> , or <i>The Random House Dictionary of the English Language</i> .
評価方法	Grades will be based on attendance, active participation, quizzes, and an extended report.	
受講者に対する要望など		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation and introduction to the geography of the new world. The culture, religions and arts of the native American.</li> <li>2. Social, religious and intellectual life in the colonies.</li> <li>3. The American revolution and expansion to the west.</li> <li>4. "A Fire Bell in the Night" -The first modern war.</li> <li>5. Art and music in the Americas.</li> <li>6. Art and music in the Americas (continued).</li> <li>7. The flowering of American literature: Hawthorn, Melville and Whitman.</li> <li>8. The flowering of American literature (continued).</li> <li>9. A changing people: 1880-1922 : immigration from Europe and migration from the South. Industrialisation: Contributions of Ford, Steinmetz and the Wright brothers to modern life.</li> <li>10. The lively arts: drama, dance and the musical ; the magazine in America. "The Empire of the Air" : radio and television and the mass media in America.</li> <li>11. The Second World War and the Cold War; post-war literature: John Updike, Arthur Miller, Saul Bellow, Ellison and Carver.</li> <li>12. Challenges for next century: the new American family—the single parent and the inner city.</li> </ol>	

科目名	英米事情 a-2・b-2 (94年度以降) 英米事情 (93年度以前)	担当者名	(前期)M. A. Schible (後期)E. Carney
-----	--	------	------------------------------------

前期

講義の目標	The focus of the course is to survey the cultural, political and artistic heritage of the United States. The lectures are designed to give the students a deeper insight into the culture and an opportunity to improve their listening and note-taking skills in English.		
講義概要	Lectures will cover the social, political and intellectual history of the United States, including their roots in Europe, the Middle East, the Africa and Asia. We will also look at the contributions of the many ethnic groups to the language, fine arts and the popular culture of not only America but the world.		
使用教材	テキスト	Prints and a reading list supplied by instructor.	
	参考文献	Students should have and bring to class a good paperback edition of a dictionary designed for native adults such as <i>The Merriam Webster Dictionary</i> , <i>The American Heritage College Dictionary</i> , or <i>The Random House Dictionary of the English Language</i> .	
評価方法	Grades will be based on attendance, active participation, quizzes, and an extended report.		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation and introduction to the geography of the new world. The culture, religions and arts of the native American.</li> <li>2. Social, religious and intellectual life in the colonies.</li> <li>3. The American revolution and expansion to the west.</li> <li>4. "A Fire Bell in the Night" -The first modern war.</li> <li>5. Art and music in the Americas.</li> <li>6. Art and music in the Americas (continued).</li> <li>7. The flowering of American literature: Hawthorn, Melville and Whitman.</li> <li>8. The flowering of American literature (continued).</li> <li>9. A changing people: 1880-1922 : immigration from Europe and migration from the South. Industrialisation: Contributions of Ford, Steinmetz and the Wright brothers to modern life.</li> <li>10. The lively arts: drama, dance and the musical ; the magazine in America. "The Empire of the Air" : radio and television and the mass media in America.</li> <li>11. The Second World War and the Cold War; post-war literature: John Updike, Arthur Miller, Saul Bellow, Ellison and Carver.</li> <li>12. Challenges for next century: the new American family—the single parent and the inner city.</li> </ol>		

後 期

講義の目標	These lectures aim to provide as much background cultural reference material as possible. Part of the aim will be to define the links between past and present.	
講義概要	History, religion, geographical and climatic factors are some of the things that will introduce this course. We will then go on to look at education, the legacy of Empire, sport, humour, and the world of the modern youth ; drugs and unemployment.	
使用教材	テキスト	Some prints and Reading Lists.
	参考文献	Depending on the size of the class, we may use a few "high-quality" cartoons to illustrate the material. As most of these are "difficult," students taking the course must realize that they will be required work for testing.
評価方法	This is an 'open' lecture course Final test in official exam period.	
受講者に対する要望など		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introductory lecture to explain procedures and scheduling. A list of books and recommended reading will be given.</li> <li>2. Geographical coverage of the British Isles. Weather and its related effects on life and character. Plant and animal life... comparisons with Japan.</li> <li>3. Historical outlines from early Britain to Norman Conquest. Racial mixings and the movements of ethnic groups. Romans, Vikings, Saxons, and the French.</li> <li>4. The Middle Ages and the beginnings of religious change. The knight, the gentleman, and the highwayman. Empire and the legacies; fame and notoriety.</li> <li>5. Education and the legacy of a class culture. The new system and the old in conflict. Success and failure of the comprehensive schools. Snobbery.</li> <li>6. Language and dialect. The power of Cockney dialect in song and humour. The sustaining of dialect in spite of the mass media influence. Standard English?</li> <li>7. Humour and the British character. Making all life's problems a focus for laughter and how this is done. The media's use of humour as a counterbalance.</li> <li>8. The law and its workings. British law courts and the summons. The use of the jury system. Some comparison with the American system.</li> <li>9. Religion today. The failure of churches to survive. The success of some religious groups using "Billy Graham" methods. Superstition and modern thought.</li> <li>10. Daily life, leisure, sport and entertainment. The British on holiday at home and abroad. The hotel and the take-over power of the syndicates.</li> <li>11. Youth and the trends in music and the drug culture. The ghettos and the problems of police control. Options for work and school.</li> <li>12. Final coverage of the modern scene; property, decline. Final testing preparation and execution.</li> </ol>	

科目名	英語圏文化特殊講義 a・b (94年度以降) 英語圏特殊講義 (93年度) 英米文化特殊講義 (92年度以前)	担当者名	福井嘉彦
-----	---	------	------

講義の目標	キリスト教との出会いによって形成された欧米文化の基本を理解する	
講義概要	キリスト教化されることによって生じた欧米文化の様相を、時代に即して語る。	
使用教材	テキスト	殊になし
	参考文献	講義の際取り上げる
評価方法	授業への積極的参加による出席。身体だけ教室に在る場合は評価しない。レポート等の提出物の内容評価。2回の筆記試験による評価等。	
受講者に対する要望など	第一回目の授業は必ず出席し、その際要求された課題を修めて履修許可を受けること。ただしその場合も二回目以後の授業を欠席した時は許可は取り消す。	

(前期)

1. 概要説明。日本人に取っての宗教と一神教とについて。
2. パルテノン神殿とエルサレムの神殿
3. コンスタンチヌスとケルト
4. アルフレッドの時代
5. カロリング・ルネッサンス
6. ハインリッヒ四世とグレゴリウス七世
7. ウィリアム一世からヘンリー二世まで
8. ドナティスト論争とグレゴリウス改革
9. 異端者たちの群
10. 百年戦争と異端者ジャンヌ
11. レコンキスタとリチャード王
12. 聖地を求める巡礼達

(後期)

1. 教皇の栄光と下降
2. インターメッツォ
3. インターミッション
4. 人文主義者たち
5. ここに立つルター
6. ジュネーヴの人
7. ヘンリー父子
8. チューダー王家の三君主
9. 国王の処刑
10. 国王の交替からオーガスタン時代へ
11. 友愛の森を求めて
12. エピローグ

科目名	英米文化文献研究 a・b (94年度以降)	担当者名	町田喜義
-----	-----------------------	------	------

講義の目標	異文化の相互理解を考察する。と同時に1冊を読了する。		
講義概要	日本語・日本文化(社会)と英語・英米文化(社会)がコミュニケーション行動にどのように作用しているかを学ぶ。		
使用教材	テキスト	Naotsuka, Reiko & Nancy Sakamoto "Mutual Understanding of Different Cultures" Taishukan, 1981	
	参考文献	開講時に関連文献リストを配布する。	
評価方法	出席点、クラスでの貢献、レポートなど。		
受講者に対する要望など			

年間授業計画	(前期)		
	1.	プロローグ、テキスト紹介	
	2.	第1章～5章を読み、討論する	
	3.	"	
	4.	"	
	5.	"	
	6.	"	
	7.	"	
	8.	"	
	9.	"	
	10.	"	
	11.	"	
12.	"		
	(後期)		
	1.	第1章～5章を読み、討論する	
	2.	"	
	3.	"	
	4.	"	
	5.	"	
	6.	"	
	7.	"	
	8.	"	
	9.	"	
	10.	"	
	11.	"	
	12.	エピローグ、全体のまとめ	

科 目 名	国際政治論 a-1, b-2 (94年度以降) 国際政治論 (93年度) 国際関係論特殊講義 (国際政治論) (92年度以前)	担当者名	有 賀 貞
-------	---	------	-------

講 義 の 目 標	国際政治論の有賀担当の分 (a-1 b-2) は現代国際政治を歴史的に考察することで、それを理論的に考察する竹田担当の分 (a-2 b-1) と合わせて、現代国際政治の特徴とそれから生じる諸問題の理解を助けることを目指す。		
講 義 概 要	有賀担当分はまず国際政治の歴史的発展を国際政治論の授業にふさわしく整理して講義し、いくつかの現代国際政治の問題について歴史的視野の中で考察する。その間に幾つかの国際政治論にも言及する。年間計画の諸項目には若干の可能性あり。		
使 用 教 材	テキスト	テキストは使用しない。毎回配布する講義概要をもってテキストに代える。	
	参 考 文 献	山本吉宣ほか (編)『国際政治の理論』(講座国際政治1) 東京大学出版会、高坂正堯・公文俊平 (編)『国際政治経済の基礎知識』有斐閣、入江昭『新・日本の外交』中央公論社 (新書)、梶田孝道『統合と分裂のヨーロッパ』、田中明彦『新しい「中世」』日本経済新聞社など。	
評 価 方 法	学期末の試験のほか、授業期間中にレポートの提出を求める。成績表価は双方を総合して行う。レポートへの配点は40%程度にするので、レポートの提出なしに合格の評価を得ることは事実上不可能である。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヨーロッパにおける主権国家国際システムの成立</li> <li>2. 帝国主義の時代と帝国主義論</li> <li>3. ナショナリズムと国際主義</li> <li>4. 自由主義的民主主義と対抗思想</li> <li>5. 冷戦期の国際政治</li> <li>6. 「第三世界」の政治と経済</li> <li>7. 現代における外交</li> <li>8. 現代における戦争</li> <li>9. 現代における民族と国家</li> <li>10. 資本主義の世界化と情報化</li> <li>11. 人権をめぐる合意と対立</li> <li>12. 現代の主権国家と国際機構</li> </ol>
----------------------------	--

注意) ここに表記されている科目は通年で履修する科目です。  
今年度は2コマ開設されており、半年ごとに担当教員が入れかわります。

ここでは、半年分の内容を掲載しています。履修の検討にあたっては、組み合わせるもう一方の教員のシラバスも参照してください。

履修登録の際は、授業時間割表を参照し、下記の科目名で登録してください。

記

対象学生	科目名	担当教員名	備考
94年度以降 入学者	国際政治論 a-1	有賀 貞	履修するときは必ず組み合わせ せて登録して下さい
	国際政治論 b-1	竹田 いさみ	
	国際政治論 a-2	竹田 いさみ	履修するときは必ず組み合わせ せて登録して下さい
	国際政治論 b-2	有賀 貞	
93年度 入学者	国際政治論	(前期) 有賀 貞 (後期) 竹田 いさみ	
	国際政治論	(前期) 竹田 いさみ (後期) 有賀 貞	
92年度以前 入学者	国際関係論特殊講義	(前期) 有賀 貞 (後期) 竹田 いさみ	
	国際関係論特殊講義	(前期) 竹田 いさみ (後期) 有賀 貞	



科 目 名	国際政治論 a-2, b-1 (94年度以降) 国際政治論 (93年度) 国際関係論特殊講義 (国際政治論) (92年度以前)	担当者名	竹 田 いさみ
-------	---	------	---------

講 義 の 目 標	<p>本講義では、「冷戦後」の新しい国際関係に注目し、現代の国際関係を分析する道具として、理論・モデル・基本用語の解説が行われます。国際関係を料理にたとえれば、材料（国際問題）をどうやって料理（分析）するかを学ぶことになります。本講義における第1の目標は、国際関係を具体的に見る眼を養うことです。第2の目標は、現実主義、多元主義、グローバリズムと呼ばれる国際政治学の代表的な理論・モデル・アプローチを理解することで、これが料理の方法（分析枠組み）に相当します。</p>		
講 義 概 要	<p>本講義では参考文献、指定資料集、ビデオなどを適宜使用しながら、現代国際関係の特色を国際政治学の分野から理解していきます。「国際関係」の「変化」に着目し、歴史を現代に引き寄せて国際関係を分析することになります。「情報」のフローよりストックを重視し、単に表面的な現象に目をとらわれているのではなく、その下に潜む「構造的要因」に関心を払うことになります。その際、とりわけ重要とされる視点は政治的発想や政治的利害調整で、政治の役割が強調されます。近代ヨーロッパ社会に原点をもつ国際関係の基本的性格や原則を理解することによって、現代の国際関係を分析する道具を身につけることになります。</p> <p>講義の順番は部分的に変更することがあります。</p>		
使 用 教 材	テキスト	講義用資料集	
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有賀貞他編著『講座国際政治』全5巻（東京大学出版会、1989）</li> <li>・岡部達味『国際政治の分析枠組』（東京大学出版会、1992）</li> <li>・高坂正堯『国際政治：恐怖と希望』（中央公論社、1966）</li> <li>・田中明彦『新しい「中世」』（日本経済新聞社、1996）</li> <li>・P・ビオティ、M・カピ『国際関係論』（彩流社、1993）</li> <li>・蠟山道雄編『激動期の国際政治を読み解く本』（学陽書房、1992）</li> </ul>	
評 価 方 法	<p>評価は定期試験の成績を基本としますが、レポートもしくは中間試験を実施して、最終的な評価をします。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

1. ①冷戦後の世界（資料集：1、4頁）／国際関係を見る眼：木・林・森  
②国際関係の世界：戦争と平和（伝統的問題）／繁栄と貧困（南北問題）／世界経済ネットワーク、開発・環境・生存
2. ①国際関係の理論・モデルとは何か：物理学・経済学・政治学・文学（ハレー・慧星・ケインズ・キッシンジャー）  
②国際関係論：世界大戦の落とし子（資料集：7頁）
3. ①利害の調整：有限の世界、無限の欲望（資料集：21-27頁）  
②政治過程：権力+正統性=権威（資料集：47-48頁）
4. 人間・政治・権力：ホッブス、グロティウス、カント（資料集：52-54頁）
5. 国際関係：3つのイメージ：現実主義・多元主義・グローバリズム  
意味・単位・構造・過程（資料集：59頁）
6. ①リアリズム（現実主義）：トッキュディデス～E.H. カー（資料集：67-71頁）  
②E.H. カー：ユートピアニズム vs リアリズム（資料集：7～11）  
③勢力均衡論（資料集：91-94頁）
7. リアリズム（現実主義）：ヨーロッパ古典外交の特色  
ウィーン会議：「会議は踊る」「会議はなぜ踊ったのか」  
メッテルニヒ、タレーラン、カースルリー
8. リアリズム（現実主義）：ビデオ教材「会議は踊る」
9. ①多元主義・相互依存論（資料集：58,118-142頁）  
②トランスナショナルリズム：EUの出現・パワー論の補完
10. ①グローバリズム・従属論（資料集：59,143-171頁）  
②反欧米思想・南の主張・世界システム
11. 国際政治と利害調整メカニズム
12. 冷戦後米国の世界観：キッシンジャー／ラセット／ハンチントン

注意) ここに表記されている科目は通年で履修する科目です。  
今年度は2コマ開設されており、半年ごとに担当教員が入れかわります。

ここでは、半年分の内容を掲載しています。履修の検討にあたっては、組み合わせるもう一方の教員のシラバスも参照してください。

履修登録の際は、授業時間割表を参照し、下記の科目名で登録してください。

記

対象学生	科目名	担当教員名	備考
94年度以降 入学者	国際政治論 a-1	有賀 貞	履修するときは必ず組み合わせ せて登録して下さい
	国際政治論 b-1	竹田 いさみ	
	国際政治論 a-2	竹田 いさみ	
	国際政治論 b-2	有賀 貞	
93年度 入学者	国際政治論	(前期) 有賀 貞 (後期) 竹田 いさみ	
	国際政治論	(前期) 竹田 いさみ (後期) 有賀 貞	
92年度以前 入学者	国際関係論特殊講義	(前期) 有賀 貞 (後期) 竹田 いさみ	
	国際関係論特殊講義	(前期) 竹田 いさみ (後期) 有賀 貞	

科目名	国際関係史 a・b (94年度以降) 国際関係史 (93年度) 国際関係論特殊講義 (国際関係史) (92年度以前)	担当者名	有賀 貞
-----	--	------	------

講義の目標	<p>1 20世紀国際関係史全般に関する基本的知識を提供し、国際関係の歴史の変遷の理解に役立てる。</p> <p>2 履修者が日本語の講義内容が英語ではどう表現ではどう表現されるかを知り、国際関係史に関連する英語の基本的語彙を習得できるようにする。</p> <p>3 いくつかの英文外交文書を読み、その意味を検討する。</p>				
講義概要	<p>前期には19世紀国際関係の概観から太平洋戦争の始まりまで、後期にはそれ以後近年代に到るまでを扱う。講義は日本語で行うが、英文教材に沿って講義を進める。年間計画の中の諸項目の題には若干の変更があるかもしれない。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td> <p>担当者がこの授業用に作成する英文テキストの印刷製本を依頼し、教科書販売に頒布を委託する予定であるが、担当者の準備が間に合わない場合は授業の際に配布する。</p> </td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <p>参考文献は最初の授業の際に紹介するが、ジョル『第1次大戦の起原』(みすず書房)、カー『两大戦間における国際関係史』(弘文堂)、入江昭『太平洋戦争の起源』(東京大学出版会)、ハレ『歴史としての冷戦』(サイマル出版)、細谷千博『日本外交の軌跡』(NHK ブックス) など。</p> </td> </tr> </table>	テキスト	<p>担当者がこの授業用に作成する英文テキストの印刷製本を依頼し、教科書販売に頒布を委託する予定であるが、担当者の準備が間に合わない場合は授業の際に配布する。</p>	参考文献	<p>参考文献は最初の授業の際に紹介するが、ジョル『第1次大戦の起原』(みすず書房)、カー『两大戦間における国際関係史』(弘文堂)、入江昭『太平洋戦争の起源』(東京大学出版会)、ハレ『歴史としての冷戦』(サイマル出版)、細谷千博『日本外交の軌跡』(NHK ブックス) など。</p>
テキスト	<p>担当者がこの授業用に作成する英文テキストの印刷製本を依頼し、教科書販売に頒布を委託する予定であるが、担当者の準備が間に合わない場合は授業の際に配布する。</p>				
参考文献	<p>参考文献は最初の授業の際に紹介するが、ジョル『第1次大戦の起原』(みすず書房)、カー『两大戦間における国際関係史』(弘文堂)、入江昭『太平洋戦争の起源』(東京大学出版会)、ハレ『歴史としての冷戦』(サイマル出版)、細谷千博『日本外交の軌跡』(NHK ブックス) など。</p>				
評価方法	<p>前期後期とも、期末に試験を行うほか、レポートを1回提出する。評価は試験とレポートとを総合して行う。レポートへの配点は40%程度であるから、レポートを提出しないで合格の評価を得ることは事実上不可能である。</p>				
受講者に対する要望など					

(前期)

1. The Modern European International System and the Expansion of Europe
2. The Characteristics of 19th-Century International Relations
3. Politics of Imperialism around the Turn of the Century
4. The Outbreak of the First World War
5. The Entry of the United States and the Bolshevik Revolution
6. The Versailles Treaty and Postwar Confusion in Europe and the Middle East
7. The Washington Conference and the Asia-Pacific International Order
8. The Return of Relative Stability in Europe
9. The Great Depression and the Collapse of International Political Stability
10. The Berlin-Rome Axis and the Failure of the Appeasement Policy
11. The Outbreaks of the Sino-Japanese War and the Second World War
12. The Road to Pearl Harbor

(後期)

1. The Grand Alliance: Wartime Diplomacy of the Three Major Allied Powers
2. The End of the War and the Development of the Cold War
3. Stabilized Europe and Turbulent East Asia
4. Post-WWII Southeast Asia
5. The Foreign Policy of the Post-Stalin Soviet Union
6. The Retreat of European Imperialism from the Middle East and Africa
7. Progress in Economic Integration in Western Europe
8. The Vietnam War and the Reorientation of US Foreign Policy
9. The Fourth Middle Eastern War and Petroleum Politics
10. The "New Cold War" and the Prosperity of the Capitalist World
11. The Collapse of the Old Order in Eastern Europe and the Soviet Union
12. International Relations in the post-Cold War Era

科 目 名	国際開発協力論 a・b (94年度以降) 国際開発協力論 (93年度) 国際関係論特殊講義 (国際開発協力論) (92年度以前)	担当者名	加賀爪 優
-------	--	------	-------

講 義 の 目 標	<p>経済発展論の歴史的系譜を二重構造モデル (古典派、新古典派etc) の枠組みで理論的にレビューし、旧計画経済圏諸国および途上国の開発問題の現状を把握したうえ、理論と現実との整合性と限界について考察する。また、資源環境論の立場から、持続可能な発展との関連において、途上国の自助努力と先進国の協力・援助のあり方について論じる</p>	
講 義 概 要	<p>前期は、経済発展論の理論的系譜、経済成長論と経済発展論の関係、国際貿易論、国際関係論等の学問的位置づけを中心に講義する。後期には、先進国の歴史的経済発展過程と現在の途上国の開発戦略、国際機関を通じる協力・援助の実態と問題点について実証的に講義する。</p>	
使 用 教 材	テキスト	特に指定しない。
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高木保興「経済開発論」創文社、</li> <li>・渡辺太郎「国際経済」春秋社</li> <li>・伊藤元重「ゼミナール国際経済入門」</li> <li>・須田美矢子「国際マクロ経済学」日経新聞社</li> </ul>
評 価 方 法	<p>授業への出席を重視し、レポート提出により評価する。</p>	
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど		

年 間 授 業 計 画	(前期)
	1. 講義の進め方についての説明
	2. 講義内容の全体フレームワークの説明と受講に当たっての注意事項
	3. 経済発展論の系譜 (1)
	4.     "           (2)
	5.     "           (3)
	6.     "           (4)
	7. 欧米の経済発展過程 (1)
	8.     "           (2)
	9.     "           (3)
	10. 日本の経済発展過程と貿易 (1)
	11.     "           (2)
	12. オセアニアの経済発展過程と貿易
	(後期)
	1. 多国籍企業と国際直接投資
	2. 貿易自由化と経済発展 (1)
	3.     "           (2)
	4.     "           (3)
	5. 経済発展と資源環境問題 (1)
	6.     "           (2)
	7.     "           (3)
	8. 持続的開発と地球環境問題 (1)
	9.     "           (2)
	10. 国際援助・開発協力と国際機関 (1)
11.     "           (2)	
12.     "           (3)	

科目名	国際関係論特殊講義 a・b (94年度以降) 国際関係論特殊講義 (93年度) 国際関係論特殊講義 (国際貿易論) (92年度以前)	担当者名	加賀爪 優
-----	--	------	-------

講義の目標	現代世界の国際関係をバランスよく把握し、長期的な視野に立って、多岐にわたる複雑な国際関係の基礎的潮流を冷静に見極め、その将来展望について議論できる能力を養うことを目的とする。		
講義概要	<p>現代の世界各国の国際関係を、貿易・通商政策の視点から考察する一方、また、今日の世界を、先進資本主義国、旧計画経済国、第3世界その他に分類して、各々の主要国について、その現状と史的展開過程について講義する。</p> <p>さらに、旧ソ連および東欧の崩壊後、生じつつある急激な情勢変化の中で、国際関係の機能や各種国際協定の貢献とその限界、および問題点について論じていく。</p>		
使用教材	テキスト	テキストについては、講義中に適宜、教材をコピー配布する。	
	参考文献		
評価方法	授業への出席を重視し、レポート提出により評価する。		
受講者に対する要望など			

(前期)

1. 講義の進め方についての説明
2. 講義内容の全体フレームワークの説明と受講に当たっての注意事項
3. 先進資本主義国の通商政策とその史的展開過程 (1) アメリカ
4. 先進資本主義国の通商政策とその史的展開過程 (2) アメリカ
5. 先進資本主義国の通商政策とその史的展開過程 (3) アメリカ
6. 先進資本主義国の通商政策とその史的展開過程 (4) アメリカ
7. 先進資本主義国の通商政策とその史的展開過程 (5) カナダ
8. 先進資本主義国の通商政策とその史的展開過程 (6) カナダ
9. 先進資本主義国の通商政策とその史的展開過程 (7) オーストラリア
10. 先進資本主義国の通商政策とその史的展開過程 (8) オーストラリア
11. 先進資本主義国の通商政策とその史的展開過程 (9) アジア太平洋地域
12. 先進資本主義国の通商政策とその史的展開過程 (10) まとめ

(後期)

1. 先進資本主義国の通商政策とその史的展開過程 (1) EU
2. 先進資本主義国の通商政策とその史的展開過程 (2) EU
3. 先進資本主義国の通商政策とその史的展開過程 (3) EU
4. 先進資本主義国の通商政策とその史的展開過程 (4) 日本
5. 先進資本主義国の通商政策とその史的展開過程 (5) 日本
6. 旧計画経済国の通商政策とその史的展開過程 (1) 旧ソ連
7. 旧計画経済国の通商政策とその史的展開過程 (2) 中国
8. 旧計画経済国の通商政策とその史的展開過程 (3) 旧東欧
9. 第3世界の通商政策とその史的展開過程 (1) アセアン・南アジア・アフリカ
10. 第3世界の通商政策とその史的展開過程 (2) 中南米諸国
11. 国際機関の機能と各種国際協定の貢献とその限界
12. 予備日 (レポート課題についての説明)



科目名	国際関係論文献研究 a・b (94年度以降)	担当者名	阿部純一
-----	------------------------	------	------

講義の目標	英語文献を通して、冷戦期からポスト冷戦の現在にかけて生じてきている国際関係の構造的変化を検討する。		
講義概要	米ソ冷戦が終焉し8年を経た現在においても、冷戦構造に代わる国際秩序はまだ形成途上にある。換言すれば、21世紀を間近にひかえ、われわれはまさに新しい国際秩序が形成される現代史の極めて重要な局面に立ち会っているのである。秩序は未形成であるとはいえ、その動向のカギを握っているのは、いわゆる「大国」間の関係である。そうした意味で、アメリカ、日本、中国、そしてロシアやインドも関与する東アジアは、地球大の国際関係のいわば縮図ともいえる。国際関係の動態をマクロに分析する文献、さらには東アジアの国際関係を論じる文献を取り上げ、現状分析ならびに政策分析を行っていく。		
使用教材	テキスト	プリント配付。	
	参考文献		
評価方法	成績は授業時の学生の発表（詳細なレジュメを必ず用意すること）と討議参加すなわち「授業への貢献」が評価の基準となる。そのためには授業への出席が最低条件。		
受講者に対する要望など	国際関係論および国際政治学の用語や現代国際関係史について十分な知識を持っていることが望ましい。		

年  
間  
授  
業  
計  
画

(前期)

1. テキストとして使用する文献が未定のため、開講時に通知する。

2.

3.

4.

5.

6.

7.

8.

9.

10.

11.

12.

(後期)

1. テキストとして使用する文献が未定のため、開講時に通知する。

2.

3.

4.

5.

6.

7.

8.

9.

10.

11.

12.

科目名	異文化間コミュニケーション論a-1・b-1(94年度以降) 異文化間コミュニケーション論(93年度) コミュニケーション論特殊講義(異文化間コミュニケーション論)(92年度以前)	担当者名	石井 敏
-----	---	------	------

講義の目標	<p>本講義は、異文化間コミュニケーションに関する諸問題を多面的に認識し、解決策を学際的に講ずることを目標とする。異文化間コミュニケーション活動においては、当該の外国語の発音・語彙・文法に関する言語的知識と技能に加えて、異文化間の平等性に基づいて自分と相手の文化の特性を相互に理解し、相互に適したコミュニケーション行動をすることが不可欠である。そこで、人間・文化・コミュニケーションの相関関係を理論と実際の両面から体系的に明らかにすることを目指す。</p>		
講義概要	<p>講義は、入門、基礎、そして応用の3部より成る。入門の部では、異文化間コミュニケーションの基礎概念と研究目的を明らかにする。基礎の部では、異文化間コミュニケーションの研究手法、言語及び非言語メッセージとコミュニケーションのレベル区分、そして日本社会と異文化間コミュニケーションについて解説する。応用の部では、教育と異文化間コミュニケーション、企業・組織と異文化間コミュニケーション、そして国際場面での異文化間コミュニケーションの諸問題について述べる。</p>		
使用教材	テキスト	石井敏他編著『異文化コミュニケーション・ハンドブック』(有斐閣)	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石井敏他『異文化コミュニケーション』(有斐閣)</li> <li>・石井敏他『異文化コミュニケーション・キーワード』(有斐閣)</li> </ul>	
評価方法	<p>多数の受講者が予想されるので、前期末と後期末の試験の成績による。</p>		
受講者に対する要望など	<p>教科書の指定の箇所を十分に読み、テーマについて予備知識を得てから授業に出席すること。万一欠席する場合には、友人の協力を得て、欠けた部分を早目に補っておくこと。</p>		

年 間 授 業 計 画	(前期)
	1. 受講上の一般的注意。文化とコミュニケーションの相関関係について。教科書Ⅰ-1 文化とコミュニケーション。
	2. 異文化間コミュニケーションの定義と概念について。教科書Ⅰ-2 異文化コミュニケーション。
	3. 異文化間の相互理解の重要性と異文化間コミュニケーション能力について。教科書Ⅰ-3 異文化相互理解、Ⅰ-4 異文化コミュニケーション能力の向上。
	4. 異文化共生の概念と実情について。教科書Ⅰ-5 異文化が共生できる社会。
	5. 異文化間コミュニケーション研究の理論と方法について。教科書Ⅱ-1 異文化コミュニケーション研究の歩み、Ⅱ-2 異文化コミュニケーションの理論と研究方法。
	6. 異文化間コミュニケーションの研究領域と関連諸問題について。教科書Ⅱ-3 異文化コミュニケーションの領域、Ⅱ-4 異文化コミュニケーションの諸問題。
	7. 異文化間コミュニケーションにおける言語メッセージと非言語メッセージについて。教科書Ⅱ-5 言語メッセージと記号、Ⅱ-6 非言語メッセージ。
	8. 異文化間コミュニケーションと対人関係について。教科書Ⅱ-7 対人コミュニケーション。
	9. 異文化間レトリカル・コミュニケーションについて。教科書Ⅱ-8 公的な場でのコミュニケーション。
	10. 集団・組織における異文化間コミュニケーションについて。教科書Ⅱ-9 集団・組織とコミュニケーション。
	11. 文化とマス・コミュニケーションについて。教科書Ⅱ-10 マス・コミュニケーション。
	12. 文化の概念と特性について。教科書Ⅱ-11文化の独自性と普遍性、Ⅱ-12文化変化と創造性。
	(後期)
	1. 個人レベルの異文化接触と異文化適応について。教科書Ⅱ-13個人レベルの異文化接触。
2. 国家レベルの異文化接触と異文化交流について。教科書Ⅱ-14国家レベルの異文化接触、Ⅱ-15日本の異文化交流史。	
3. 日本人のコミュニケーションと日本社会における異文化間コミュニケーションについて。教科書Ⅱ-16日本人のコミュニケーション特性、Ⅱ-17日本社会の特徴と異文化間コミュニケーション。	
4. 多文化社会と異文化間摩擦について。教科書Ⅱ-18多文化社会としての日本、Ⅱ-19文化摩擦の諸側面。	
5. コミュニケーション教育と言語教育について。教科書Ⅲ-1スピーチ・コミュニケーション教育、Ⅲ-2語学教育（外国語教育と日本語教育）	
6. 日本における国際理解教育の目的・内容・方法について。教科書Ⅲ-3国際理解教育。	
7. 日本人の海外留学と在日外国人留学生の諸問題について。教科書Ⅲ-4海外留学とカウンセリング、Ⅲ-5外国人留学生の受入れ。	
8. 海外子女の異文化適応と帰国子女の帰国ショックについて。教科書Ⅲ-6海外子女と帰国子女。	
9. 企業と組織における異文化間コミュニケーションの問題について。教科書Ⅲ-7異文化経営、Ⅲ-8異文化交流（経済・ビジネス）	
10. 異文化間コミュニケーション教育・訓練について。教科書Ⅲ-9異文化コミュニケーション研修。	
11. 国際文化交流活動と国際協力における異文化間コミュニケーション。教科書Ⅲ-10国際文化交流、Ⅲ-11国際協力。	
12. 会議通訳における異文化間コミュニケーションと先端メディアによる国際コミュニケーションについて。教科書Ⅲ-12国際会議におけるコミュニケーション、Ⅲ-13先端通信メディアと国際コミュニケーション。	

科目名	異文化コミュニケーション論 a-2・b-2 (94年度以降) 異文化コミュニケーション論 (93年度) コミュニケーション論特殊講義 (異文化間コミュニケーション論) (92年度以前)	担当者名	町田喜義
-----	--	------	------

講義の目標	異文化間コミュニケーション・プロセスに関わる複雑な要因の連鎖を理解し、自文化（あるいは自己）と異文化（あるいは他者）を客観的・相対的に分析し、説明できる能力を養い、各自のコミュニケーション行動の客観的指標の確立を図る。		
講義概要	前期は『異文化間コミュニケーション論入門』とし、1960年代以降の異文化間コミュニケーション研究の成果をマクロに考察する。主として、文化とコミュニケーション—そこから派生する様々な概念とその連鎖を日本の文化を中心に取り上げ、後期は『異文化間コミュニケーション論特殊講義』とし、比較文化論的内容にする。		
使用教材	テキスト	印刷物、ビデオ、その他を使用する。	
	参考文献	開講時に別紙配布する。	
評価方法	論述試験（前期）：50％ グループ・リサーチ・プレゼンテーション（後期）：25％ グループ・リサーチ・ペーパー（後期）：25％		
受講者に対する要望など	グループ活動には各自の「責任」と「義務」が要求される。		

年 間 授 業 計 画	(前期)
	1. プロローグ：担当者自己紹介、講義概要の説明、「異文化間コミュニケーション」とは何かを考える＝受講生の「異文化」体験の発表など。
	2. 「文化」、「異文化」、「コミュニケーション」の概念
	3. グループ討議の為に班編成、および討議（トピックはヒ・ミ・ツ?）
	4. ビデオ映画： ‘Gung Ho’
	5. 討議：日・米文化のコミュニケーション・ギャップについて
	6. 異文化間コミュニケーションの基礎概念 (1)
	7. 異文化間コミュニケーションの基礎概念 (2)
	8. コミュニケーション能力とは？ (1)
	9. コミュニケーション能力とは？ (2)
	10. 対人コミュニケーション
	11. 対人コミュニケーション
12. 前期まとめ：比較文化論への誘い	
(後期)	
1. 社会事象を読み説く：日本とカナダ (1)	
2. 社会事象を読み説く：日本とカナダ (2)	
3. 社会事象を読み説く：日本とカナダ (3)	
4. 社会事象を読み説く：日本とカナダ (4)	
5. 社会事象を読み説く：日本とカナダ (5)	
6. 社会事象を読み説く：日本とカナダ (6)	
7. 社会事象を読み説く：日本とカナダ (7)	
8. グループ・リサーチ・プレゼンテーション (1)	
9. グループ・リサーチ・プレゼンテーション (2)	
10. グループ・リサーチ・プレゼンテーション (3)	
11. グループ・リサーチ・プレゼンテーション (4)	
12. エピローグ：今後のコミュニケーション行動について	

科目名	マス・コミュニケーション論a・b (94年度以降) マスコミュニケーション論 (93年度) コミュニケーション論特殊講義(マス・コミュニケーション論) (92年度以前)	担当者名	佐々木 輝 美
-----	--	------	---------

講義の目標	マス・コミュニケーションに関する基本用語、概念などを説明することができ、且つ、それらの用語を使って具体的なマス・コミュニケーション現象を分析できるようになることを目標とする。		
講義概要	本講義への導入として、先ずコミュニケーションの基礎について説明する。次の教週間で、マス・コミュニケーションのモデル及び効果について解説し、マス・コミュニケーションの全体像を捉えてもらう。その後、前期の後半はマスコミと教育の問題を、そして後期は、マス・コミュニケーションの「影響研究」を中心に講義を行う予定。影響研究については、特に「メディア暴力の視聴者への影響」を中心テーマとして扱う。		
使用教材	テキスト	(前期) プリント (後期) 佐々木輝美『メディアと暴力』勁草書房、1996	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岡崎篤郎他編著『マス・コミュニケーション効果研究の展開』北樹出版、1992</li> <li>・H.J.アイゼンク他著 岩脇三良訳 『性・暴力・メディア』新曜社、1982</li> </ul>	
評価方法	定期試験、レポート、平常点の総合評価を行う。		
受講者に対する要望など			

年 間 授 業 計 画	(前期)	
	1. マス・コミュニケーションとは	
	2. コミュニケーションについての基礎知識 (1) —プロセスの概念について—	
	3. コミュニケーションについての基礎知識 (2) —意味はどこに存在するか?—	
	4. コミュニケーションについての基礎知識 (3) —メディア接触について—	
	5. マス・コミュニケーションのモデルについて (1) —モデルの長所と短所—	
	6. マス・コミュニケーションのモデルについて (2) —マス・コミュニケーションの要素—	
	7. ビデオ視聴&解説 (レポートは1000字程度にまとめる。)	(レポート課題発表)
	8. マスコミ効果の概念について (1) —効果とは—	
	9. マスコミ効果の概念について (2) —順機能と逆機能—	(レポート提出締切り)
	10. マス・コミュニケーションと教育 (1)	
	11. マス・コミュニケーションと教育 (2)	
	12. 前期のまとめ	
	(後期)	
	1. マスコミの影響研究について (1) —弾丸理論—	
	2. マスコミの影響研究について (2) —限定効果モデル—	
	3. マスコミの影響研究について (3) —適度効果モデルから強力効果モデルへ—	
	4. メディア暴力研究について (1) —研究の背景—	
	5. メディア暴力研究について (2) —カタルシス理論—	
	6. メディア暴力研究について (3) —観察学習理論—	
	7. メディア暴力研究について (4) —脱感作理論—	
	8. メディア暴力研究について (5) —カルティベーション理論—	
	9. ビデオ視聴&解説 (レポートは1000字程度にまとめる。)	(レポート課題発表)
	10. メディア暴力研究について (6) —4理論のまとめ(暴力番組の類型化)—	
11. メディア暴力研究について (7) —メディア暴力への対応—	(レポート提出締切り)	
12. 後期のまとめ		



科目名	スピーチ・コミュニケーション論 a・b (94年度以降) スピーチ・コミュニケーション論 (93年度) コミュニケーション論特殊講義(スピーチ・コミュニケーション論) (92年度以前)	担当者名	石井 敏
-----	--	------	------

講義の目標	<p>本講義は、異文化の人達との英語によるコミュニケーションを効果的なものにすることを目標とする。目標を達成するためには、英語の発音・語彙・文法という言語的要素の特徴を理解し、英語会話を学習するだけでは、極めて不十分である。日本人の立場に立ち、欧米型レトリック理論に基づいた英語スピーチ・コミュニケーションの理論を理解し、実践的訓練をすることが不可欠である。本講義は、英語スピーチ・コミュニケーション活動を理論と実際の両面で展開することのできる人材の育成を目指す。</p>		
講義概要	<p>英語による効果的なコミュニケーション活動を実際に展開するためには、長い伝統を持つ欧米のレトリック理論に基づくスピーチ・コミュニケーションの理論と実践的スキルを学習することが大切である。そこで本講義では、最初にスピーチ・コミュニケーション研究の意義、主な研究領域、レトリック理論の歴史的背景等を解説する。次に、英語スピーチ・コミュニケーションのレベル、目的と形式による分類等について説明する。続いて、スピーチ・コミュニケーションの代表的な形式であるオーラル・インタープリテーション、ディスカッション、スピーチ、そしてダイアログの理論と実践を扱う。講義の多くは英語で行なわれる。</p>		
使用教材	テキスト	Klopf, D. & Ishii, S. <i>Effective Oral Communication</i> , (英宝社)。その他コピー。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石井敏『スピーチの英語』(荒竹出版)</li> <li>・橋本満弘、石井敏編『英語コミュニケーションの理論と実際』(桐原書店)。</li> </ul>	
評価方法	<p>評価は、出席状況及び授業活動への参加状況、発表活動と提出物、前期末と後期末の筆記試験の成績等による。授業回数の3分の1以上欠席した者は不合格となる。</p>		
受講者に対する要望など	<p>英語による講義が多いので、受講者は、必ず予習及び準備をしてから出席をし、授業活動や発表活動に積極的に参加すること。課題提出や発表活動が遅れた場合には、担当教員に至急連絡すること。4年生は特に注意を要する。</p>		

年  
間  
授  
業  
計  
画

(前期)

1. 受講上の諸注意、スピーチ・コミュニケーションの主要研究領域の紹介(コピー配布)、現代日本社会における研究の意義についての解説(教科書3~12頁)。
2. 欧米のスピーチ・コミュニケーションの研究と教育を理論的に体系化した古代ギリシャと古代ローマのレトリック理論の解説(コピー配布)。
3. 欧米のレトリック理論を広く普及させ、研究領域を科学的コミュニケーション論にまで発展させた研究の歴史(コピー配布)。
4. スピーチ・コミュニケーションの一般概念、展開過程及び主要構成要素の機能上の特徴、構成要素間の相関関係等についての考察(教科書12~22頁)。
5. スピーチ・コミュニケーションのレベルと形式上の分類、各形式の概念と主な目的及び特徴についての解説(教科書22~35頁)。
6. オーラル・インタープリテーションの概念と展開過程の主な特徴、発表用作品の分類と選択に関する解説(教科書104~111頁)。
7. オーラル・インタープリテーションにおける作品の分析と解釈、発表のためのリハーサルに関する注意(教科書111~117頁)。
8. オーラル・インタープリテーションにおける作品解釈と感情移入、音声及び身体表現の機能と活用についての説明(教科書117~128頁)。
9. オーラル・インタープリテーションにおける作品の分析と発表に関するまとめと模範発表例(コピー配布)。
10. ディスカッションの概念と形式上の分類、リーダーの役割、問題の主な特徴と設定上の留意点に関する解説(教科書40~46頁)。
11. ディスカッションにおける問題の種類と設定方法、ディベートの論題との区別、問題解決に関する考察(教科書46~54頁)。
12. ディスカッションの展開練習、展開記録の作成及び提出(コピー配布)。

(後期)

1. スピーチ(public speaking)の概念とコミュニケーション上の特徴(教科書55~56頁)、題材の選択と分析、参考文献の活用法等に関する解説(教科書63~68頁)。
2. スピーチの構成方法、序論・本論・結論の各目的と主な特徴、論旨の展開法の分類に関する考察(教科書68~76頁)。
3. スピーチのアウトラインの作成方法、発表形式の分類と主な特徴に関する説明(教科書76~82頁)。アウトラインの作成及び提出。
4. スピーチの批評(speech criticism)の目的、方法、特徴等に関する紹介と概説(コピー配布)。
5. キング牧師のスピーチ“I Have a Dream”の背景、内容構成、レトリック上の主な特徴等に関する解説(テープ使用)。
6. デイベートの概念と主なコミュニケーション上の特徴、形式上の分類、ディスカッションとの相違等に関する説明(教科書83~86頁)。
7. デイベートの論題の種類と特徴、論題の設定方法(教科書86~87頁)、参考文献の調べ方と記録方法等に関する解説(教科書92~93頁)。
8. デイベートの三段論証(Toulmin's model)の構造と構成要素、各構成要素の目的と機能等に関する説明(教科書93~95頁)。
9. デイベートにおける反論方法、スピーチの主な種類と特徴、デイベートの展開方法等に関する解説(教科書97~103頁)。
10. クラス全体を小グループに分けて非公式デイベートの実践と記録(指定の論題と配布資料を使用)。
11. スピーチ・コミュニケーション論研究の現状と今後の課題。
12. 全講義の総復習。

科 目 名	コミュニケーション論特殊講義 a・b (94年度以降) コミュニケーション論特殊講義 (93年度) コミュニケーション論特殊講義(異文化コミュニケーション) (92年度以前)	担当者名	鍋 倉 健 悦
-------	---	------	---------

講 義 の 目 標	<p>——インターカルチュラル・コミュニケーション——</p> <p>文化とコミュニケーションのかかわりについて学ぶことで、文化背景を異にする人々と相互理解を深めていくためにはどうしたらよいかを学習しながら、自分化についての知識も高めていく。</p>		
講 義 概 要	<p>異文化間コミュニケーションの背景と領域、言語と認識の関係、言語と行動のつながり、非言語コミュニケーション、カルチャー・ショック、そしてより効果的なコミュニケーションの仕方。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鍋倉健悦『異文化間コミュニケーション入門』（丸善ライブラリー）</li> <li>・鍋倉健悦（編著）『日本人の異文化コミュニケーション』（北樹出版）</li> </ul>	
	参 考 文 献	<p>上のテキスト以外は使用しない。</p>	
評 価 方 法	<p>試験の結果による。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>常識のある学生。</p>		

年 間 授 業 計 画	(前期)
	1. 当講座の概要説明
	2. 異文化間コミュニケーションの歴史
	3. 異文化間コミュニケーションが学問として成立した背景
	4. 文化人類学と異文化間コミュニケーション
	5. 言語学と異文化間コミュニケーション
	6. 国際関係論と異文化間コミュニケーション
	7. インター・レイシャル・コミュニケーション
	8. インター・エスニック・コミュニケーション
	9. 文化の意味 1
	10. 文化の意味 2
	11. 非言語コミュニケーションの概要
	12. 対物学
	(後期)
	1. 動作学
	2. 接触学
	3. 近接学
	4. 時間額
	5. 音調学
	6. 言語コミュニケーションの概要
	7. 言語行動と文化
	8. 言語相対論の内容
	9. 翻訳について
	10. カルチャー・ショック
11. カルチャー・ショックの緩和対策	
12. より効果的な異文化間コミュニケーションに向けての提言	

科目名	コミュニケーション論文献研究 a・b (94年度以降)	担当者名	佐々木 輝 美
-----	-----------------------------	------	---------

講義の目標	<p>以下を講義の目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) プレゼンテーションを効果的に行うことができる。</li> <li>2) コミュニケーションの領域の専門雑誌を自分で検索できる。</li> <li>3) 異文化コミュニケーションの文献をよみこなすことができる。</li> <li>4) 実証的な調査研究の計画、実施および分析ができる。</li> </ol>	
講義概要	<p>およそ次の順序で講義を進めて行く。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 効果的なプレゼンテーションを身につけるために、スピーチ・コミュニケーションの文献を読み、実際にスピーチの練習を行う。</li> <li>2) コミュニケーションの領域にはどのような英文専門雑誌があるのかを学習し、それぞれの専門雑誌の特徴を理解する。</li> <li>3) よいコミュニケーターになるためにはどうしたらよいのかをテーマに異文化コミュニケーションの文献を読んで行く。</li> <li>4) 学術論文の構成、調査票の作り方、統計分析の方法について学び、模擬的な実証研究を行う。</li> </ol>	
使用教材	テキスト	Samovar, L. A. & Porter, R. E., <i>Communication between cultures</i> , (3rd ed.) Wadsworth Publishing Company, 1998.
	参考文献	古田暁 監修、石井敏 他著『異文化コミュニケーション (改訂版)』(有斐閣選書、1996)
評価方法	定期試験、レポート、グループ発表、平常点の総合評価を行う。	
受講者に対する要望など	毎回2時間程度の準備が必要なので余裕を持って時間割を組むように。	

年 間 授 業 計 画	(前期)
	1. オリエンテーション
	2. プレゼンテーションとしてのスピーチ (1) ——構成方法——
	3. プレゼンテーションとしてのスピーチ (2) ——各自プレゼンテーションを行う——
	4. コミュニケーション関係の英文専門雑誌について (1)
	5. コミュニケーション関係の英文専門雑誌について (2)
	6. コミュニケーション関係の英文専門雑誌について (3) (グループ発表)
	7. 異文化コミュニケーション (1) ——文化について (a)——
	8. 異文化コミュニケーション (2) ——文化について (b)——
	9. 異文化コミュニケーション (3) ——モデルと要素について (a)——
	10. 異文化コミュニケーション (4) ——モデルと要素について (b)——
	11. 異文化コミュニケーション (5) ——モデルと要素について (c)——
12. 前期のまとめ	
(後期)	
1. 異文化コミュニケーション (6) ——非言語コミュニケーション (a)——	
2. 異文化コミュニケーション (7) ——非言語コミュニケーション (b)——	
3. 異文化コミュニケーション (8) ——非言語コミュニケーション (c)——	
4. 異文化コミュニケーション (9) ——良いコミュニケーターとは (a)——	
5. 異文化コミュニケーション (10) ——良いコミュニケーターとは (b)——	
6. 異文化コミュニケーション (11) ——良いコミュニケーターとは (c)——	
7. 研究方法について (1) ——学術論文の構成、仮説の立て方、調査票の作り方—— (グループ分け)	
8. 研究方法について (2) ——統計分析の方法 (a)——	
9. 研究方法について (3) ——統計分析の方法 (b)——	
10. 研究方法について (4) ——コンピュータによる分析——	
11. 研究方法について (5) ——調査の実施——	
12. グループ別実証研究の発表	